

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部・学科の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホクシツン ヒロシマジョウクイン 学校法人 広島女学院							
フリガナ大学の名称	ヒロシマジョウクインガク 広島女学院大学 (Hiroshima Jogakuin University)							
大学本部の位置	広島市東区牛田東四丁目13番1号							
大学の目的	<p>本学は、基督教主義に基づいて教育を施し、女子の霊性、知性、徳性の円満な発達をはかり、専門的な学術の修得を努めさせると共に、広い教養と高い人格を育成することを目的とする。</p>							
新設学部等の目的	<p>人間生活学部は、多様な問題が存在する現代社会において、人々が健康で豊かな生活を創造し、次の世代へ普遍的な価値を継承していくことで、生活の質を向上させ真の人間性を確立することができるよう支援し、家庭および地域社会において高度に貢献できる人材を育成する。自己と隣人の生活の質を高めるために、豊かな衣生活および住生活の実現に向けて創意工夫し社会で応用する力、科学的な視点で食や健康の諸問題を発見し改善策を見出し実践できる力、子どもの内面を深く洞察し子どもの主体的な人間形成を支援する力を身につけ、生活デザインと住居・建築、健康と食・栄養、幼児・児童教育と心理学の領域において女性としての感性と創造性を発揮し、強い倫理観と実践力、コミュニケーション力を備え自立した専門家を養成することを目的とする。</p> <p>1. 生活デザイン・建築学科 ファッション・インテリア・住居・建築・環境緑化デザインについてのデザイン力・美的感覚・感性を磨くことにより、生命維持目的としての被服・住居・建築の機能だけでなく、人びとが精神的・肉体的に健康で豊かな文化的な生活を送ることができるようにサポート・指導できる能力、および社会・家庭等の中で、互いに円滑で人間的なコミュニケーションをとるための能力を身につけた人材を養成する。</p> <p>2. 管理栄養学科 管理栄養学科では、管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する知識、技能、態度、考え方の基本的能力を養い、対象に合わせた栄養・健康管理法を身につけた人材を育成する。さらに、科学的根拠に基づいた栄養の科学と生活を結びつけながら実際の食事や食行動に対する改善策を具現化でき、倫理観と実践力をもって、社会の変化や、国民、地域住民、傷病者等の要請に的確に対応し、健康や生活の質（QOL）の向上を考えられる食と健康の専門家として、社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>3. 幼児教育心理学科 幼児教育心理学科は、心理学の基礎理論およびその応用的側面について学修するとともに、心理学的視点から子どもの発達特性を総合的にとらえ、そこに内在する教育上の問題点を分析することで、子どもが生涯にわたって自己の可能性を伸ばし真の人間性を確立していけるよう支援することのできる人材を育成する。また、幼児期にとどまらず、乳幼児期から児童期・青年期へ至る発達の連続性および非連続性を見通すことのできる資質、および豊富な幼児教育体験を通して家庭における子育てのあり方や地域社会における子育て環境を計画的に創造していくことのできる資質を育成し、家庭・地域社会において幼児教育のリーダーとなる人材の育成をめざす。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地 広島市東区牛田東四丁目13番1号
	人間生活学部 (Faculty of Human Life Studies)	4年	70人	-	280人	学士 (家政学)	平成24年4月 第1年次	
	生活デザイン・建築学科 (Department of Fashion and Management)	4	70	-	280	学士 (家政学)	平成24年4月 第1年次	
	管理栄養学科 (Department of Nutrition and Health Promotion)	4	90	-	360	学士 (幼児教育心理学)	平成24年4月 第1年次	
計			230		920			

同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		1. 学生募集の停止 (※平成24年4月学生募集停止) 文学部 (廃止) 日本語日本文学科 (△ 70) 英米言語文化学科 (△100) 幼児教育心理学科 (△ 90) 生活科学部 (廃止) 生活デザイン・情報学科 (△140) 管理栄養学科 (△ 70)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	生活デザイン・建築学科	198科目	67科目	34科目	299科目	124単位			
	管理栄養学科	157科目	59科目	41科目	257科目	124単位			
	幼児教育心理学科	168科目	100科目	22科目	290科目	124単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	人間生活学部 生活デザイン・建築学科	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	104 (104)
		人間生活学部 管理栄養学科	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	87 (87)
		人間生活学部 幼児教育心理学科	6 (6)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	98 (98)
		計	16 (16)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	289 (289)
	既設	該当なし	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
			- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
		計	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	合計		0	0	0	0	0	0	0
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		33人 (36)		12人 (11)		45人 (47)		
	技術職員		2 (2)		2 (2)		4 (4)		
	図書館専門職員		4 (2)		3 (5)		7 (7)		
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計		39 (40)		17 (18)		56 (58)			
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計			
	校舎敷地	21,539㎡	㎡	㎡		21,539㎡			
	運動場用地	47,958㎡	㎡	㎡		47,958㎡			
	小計	69,497㎡	㎡	㎡		69,497㎡			
	その他	132,197㎡	㎡	㎡		132,197㎡			
合計		201,694㎡	㎡	㎡		201,694㎡			
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用		計			
		40,220㎡ ( 40,220㎡)	㎡ ( ㎡)	㎡ ( ㎡)		40,220㎡ ( 40,220㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	27室	24室	23室	7室 (補助職員 人)	1室 (補助職員 人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数					
		人間生活学部 生活デザイン・建築学科		8室					
		人間生活学部 管理栄養学科		10室					
		人間生活学部 幼児教育心理学科		15室					

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	国際教養学部	186,098 [39,081] (163,138 [38,745])	2,209 [247] (2,110 [244])	[ ] ( [ ] )	1,503 ( 839 )	( )	( )		
	人間生活学部	101,120 [21,235] (85,308 [12,418])	3,604 [403] (3,443 [398])	[ ] ( [ ] )	37 ( 21 )	( )	( )		
	計	287,218 [60,316] (248,446 [51,163])	5,813 [650] (5,553 [642])	8,524 [8,524] (8,500 [8,500])	1,540 ( 860 )	98 ( 88 )	( )		
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数					
	5,905㎡								
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	908㎡		テニスコート3面、弓道場						
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	教員1人当り研究費等		462千円	462千円	462千円	462千円	-千円	-千円	
	共同研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円	-千円	-千円	
	図書購入費	35,000千円	35,000千円	30,000千円	30,000千円	30,000千円	-千円	-千円	
	設備購入費	208,000千円	60,000千円	40,000千円	40,000千円	40,000千円	-千円	-千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	人間生活学部 生活デザイン・建築学科 幼児教育心理学科	1,310千円	1,060千円	1,060千円	1,060千円	-千円	-千円		
人間生活学部 管理栄養学科	1,340千円	1,090千円	1,090千円	1,090千円	-千円	-千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、利息収入、雑収入							
既設大学等の状況	大学の名称	広島女学院大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	文学部 日本語日本文学科	4年	70人	-人	280人	学士(文学)	1.06倍	平成12年	広島市東区牛田東四丁目13番1号
	文学部 英米言語文化学科	4	100	-	400	学士(文学)	0.83	平成12年	
	文学部 幼児教育心理学科	4	90	-	360	学士(文学) 幼児教育心理学	1.04	平成19年	
	生活科学部 生活デザイン・情報学科	4	140	-	560	学士(家政学)	0.95	平成16年	
生活科学部 管理栄養学科	4	70	-	280	学士(家政学)	1.03	平成16年		
附属施設の概要									

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行う場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行う場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
（人間生活学部 生活デザイン・建築学科）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教 手			
共通基礎科目（C1）	キリスト教学入門Ⅰ	1前	2			○							兼3		
	キリスト教学入門Ⅱ	1後	2			○							兼3		
	キャリアプランニング（人間生活）	1前	2			○			1				兼3		
	初年次セミナー	1前	2			○			2	1	1		兼20		
	日本語表現技法	1前	2			○							兼6		
	情報リテラシⅠ	1前	2			○							兼5		
	情報リテラシⅡ	1後	2			○							兼5		
	基礎英語Ⅰ	1前	1				○						兼3		
	基礎英語Ⅱ	1後	1				○						兼3		
	基礎英語Ⅲ	2前	1				○						兼3		
	基礎英語Ⅳ	2後	1				○						兼3		
小計（11科目）		—	18	0	0	—			3	1	1	0	0	兼41	—
総合知	環境と人間	2後		2		○				1				兼1	
	現代女性と身体	2後		2		○								兼1	隔年
	現代ジェンダー考	2後		2		○								兼1	隔年
	ヒロシマ	2前		2		○								兼1	
	ボランティア論Ⅰ	2前		2		○								兼1	
	ボランティア論Ⅱ	2後		2		○								兼1	
	キリスト教の時間Ⅰ	2前		1		○								兼1	
	キリスト教の時間Ⅱ	2後		1		○								兼1	
	特別講義Ⅰ	2前・後		2		○								兼1	集中
	特別講義Ⅱ	2前・後		2		○								兼1	集中
	特別セミナーⅠ	2前・後		2		○								兼1	集中
	特別セミナーⅡ	2前・後		2		○								兼1	集中
	共通教養科目（C2）	教育学入門	1前		2		○								兼1
心理学入門		1前		2		○								兼1	
哲学入門		1後		2		○								兼1	
キリスト教学Ⅰ		2前		2		○								兼1	
キリスト教学Ⅱ		2後		2		○								兼1	
生命倫理		1後		2		○								兼1	
アメリカの文化と歴史		2後		2		○								兼1	
イギリスの文化と歴史		2前		2		○								兼1	
ヨーロッパと文化		1前		2		○								兼1	
歴史学のみかたⅠ		1前		2		○								兼1	
歴史学のみかたⅡ		1後		2		○								兼1	
歴史学のみかたⅢ		2前		2		○								兼1	
色彩情報論		1後		2		○								兼1	
音楽の世界		1後		2		○								兼1	
日本美術史		1前		2		○								兼1	
西洋美術史		1後		2		○								兼1	
American Culture and History		1前		2			○							兼1	
British Culture and History		1前		2			○							兼1	
European Culture and History		1前		2			○							兼1	
American Literature and Thought		2前		2			○							兼1	
Asian and African Literature and Thought		2前		2			○							兼1	
European Literature and Thought		2後		2			○							兼1	
日本文学入門		1前		2		○								兼1	
アメリカ文学史	2前		2		○								兼1		
イギリス文学史	2後		2		○								兼1		
日本語学の視点	1前		2		○								兼1		
英語学の視点	1前		2		○								兼1		
比較言語	1後		2		○								兼1		
社会科学知	女性学入門	1後		2		○								兼1	
	平和学入門	1前		2		○								兼1	
	社会学入門	1前		2		○								兼1	
	現代社会と人権	1前		2		○								兼1	
	地理学概論	1前		2		○								兼1	
	開発と文化	2前		2		○								兼1	隔年
	民俗学	1後		2		○								兼1	
	経済学入門	1前		2		○								兼1	
	経営学総論	1前		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
社会科学知	Area Studies 1 (America)	1後		2			○									兼2		
	Area Studies 2 (Asia and Africa)	1後		2			○									兼2		
	Area Studies 3 (Europe)	1後		2			○									兼2		
	金融論	3前		2			○									兼1		
	国際金融論	3後		2			○									兼1		
	経理実務	3前		2			○									兼1		
	ビジネス実務演習 I	2前		2				○								兼1		
	プレゼンテーション概論	1後		2				○								兼1		
	インターンシップ I	2前		2				○								兼2		
	Social Anthropology	2後		2				○								兼1		
	Social Psychology	2後		2				○								兼1		
	World Economy	2前		2				○								兼1		
	日本国憲法	1後		2				○								兼1		
	ビジネス法務	3後		2				○								兼1		
	公共性と権力	1後		2				○								兼1		
	政治学 I	2前		2				○								兼1	隔年	
	政治学 II (含国際政治学)	2後		2				○								兼1	隔年	
	国際関係論	2前		2				○								兼1	隔年	
	ポストコロニアリズム/ナショナリズム	2後		2				○								兼1	隔年	
	グローバル化と地域	2後		2				○								兼1	隔年	
	自然科学知	数学入門	1後		2			○									兼1	
		生活の中の数学	1前		2			○									兼1	
		物理学入門	1後		2			○									兼1	
		情報科学入門	1前		2			○									兼1	
		統計学入門	1後		2			○									兼1	
		情報管理論 (含情報処理)	2前		2			○									兼1	
		家庭電気・機械	2前		2			○									兼1	
バイオサイエンス入門		1後		2			○									兼1		
自然と環境		1前		2			○									兼1		
生物学入門		1前		2			○									兼1		
健康科学 (含栄養学概論)		1後		2			○									兼1		
衛生と安全		1後		2			○									兼2		
Computer Science		1前		2				○								兼1		
Nature and Environment		1前		2				○								兼1		
Health Science		1後		2				○								兼1		
化学		1前		2				○								兼1		
科学と技術		2後		2				○								兼2		
都市と環境		2前		2				○								兼1		
生活空間デザイン論		1前		2				○								兼1		
感性デザイン論 I (ポップカルチャー)		1・2前		2				○				1					隔年	
感性デザイン論 II (ファッション文化史)	1・2後		2				○				1					隔年		
生活とファッション	1・2後		2				○					1				隔年		
食品加工・商品学	2前		2				○								兼1			
調理学概論 (含厨房機器・設備)	2後		2				○								兼1			
言語知	外国語 (初級英語 I)	1前		1				○								兼5		
	外国語 (初級英語 II)	1後		1				○								兼5		
	外国語 (初級独語 I)	1前		1				○								兼1		
	外国語 (初級独語 II)	1後		1				○								兼1		
	外国語 (初級仏語 I)	1前		1				○								兼1		
	外国語 (初級仏語 II)	1後		1				○								兼1		
	外国語 (初級中国語 I)	1前		1				○								兼1		
	外国語 (初級中国語 II)	1後		1				○								兼1		
	外国語 (初級韓国語 I)	1前		1				○								兼1		
	外国語 (初級韓国語 II)	1後		1				○								兼1		
	外国語 (中級英語 I)	2前		1				○								兼5		
	外国語 (中級英語 II)	2後		1				○								兼5		
	外国語 (中級中国語 I)	2前		1				○								兼1		
	外国語 (中級中国語 II)	2後		1				○								兼1		
	外国語 (中級韓国語 I)	2前		1				○								兼1		
	外国語 (中級韓国語 II)	2後		1				○								兼1		
	外国語 (初級日本語 I)	1前		1				○								兼1		
	外国語 (初級日本語 II)	1後		1				○								兼1		
	外国語 (中級日本語 I)	2前		1				○								兼1		
	外国語 (中級日本語 II)	2後		1				○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教養科目 (C2)	スポーツ科学 I	1前		1		○									兼3	
	スポーツ科学 II	1後		1				○							兼3	
	スポーツ科学 III (課外活動等)	2前		1											兼1	
	スポーツ科学 IV (スキー・スケート等)	2後		1											兼1	
	スポーツ科学 V (水泳等)	2前		1											兼1	
	スポーツ科学 VI (フィットネス)	2後		1											兼1	
	小計 (119科目)	—	0	210	0	—			1	1	0	0	0	兼73	—	
専門科目 (C3)	住居・建築設計実習 I (含製図)	1後		2				○	1						兼1	
	日本建築史 (含住居史)	2前		2		○									兼1	
	西洋建築史	2後		2		○									兼1	
	住居・建築設計実習 II	2前		2				○	2							
	住居・建築設計実習 III	2後		2				○		1	1					
	建築材料学	3前		2		○			1							
	住環境工学	2後		2		○									兼1	
	建築CAD I (実習)	2前		2				○							兼1	
	建築意匠論 I	2後		2		○				1						
	住居・建築計画学 IV (複合建築デザイン他)	3前		2		○				1						
	構造力学 I (静定構造)	3前		2		○			1							
	建築構造 I (構造計画、木造・RC造・鉄骨造他)	2前		2		○			1							
	建築構造 II (建築構法、耐震構造)	2後		2		○			1							
	建築CAD II (実習)	2後		2				○							兼1	
	建築設備	3前		2		○									兼1	
	建築積算	3前		2		○									兼1	
	住居・建築設計実習 IV	3前		2				○	1	1						
	建築意匠論 II	3前		2		○				1						
	住居・建築計画学 V (建築・都市デザイン)	3後		2		○			1							
	住居・建築設計実習 V (含測量)	3後		2				○	1	1						
	構造力学 II (不静定構造、断面設計)	3後		2		○			1							
	建築材料実験	3後		2				○							兼1	
	建築施工	3前		2		○									兼1	
	建築法規	3前		2		○									兼1	
	建築倫理 (含建築職能論)	3後		2		○			1	1					兼1	
	建築プレゼンテーション実習	3後		2				○							兼1	
	被服・ファッション系	西洋服装史	1前		2		○					1				
日本服装史		1後		2		○					1					
被服材料学		1後		2		○									兼1	
被服管理学		2前		2		○									兼1	
ファッションデザイン論		1・2前		2		○			1							隔年
被服構成学 (含実習)		2前		2		○			1							
ファッション・デザイン実習 I		2前		2				○							兼1	
ファッション・ビジネス		2・3前		2		○			1							隔年
アパレル企画演習		2・3後		2			○		1							隔年
アパレル・コーディネート演習		2・3後		2			○		1							隔年
ファッション・デザイン実習 II		2後		2				○			1					
ファッションデザイン演習 (カラーコーディネート)		2後		2				○			1					隔年
服飾美学		2・3後		2		○					1					
被服心理学		2後		2		○			1							
服装社会学		2前		2		○			1							
ファッション・デザイン実習 III	3前		2				○	1								
テキスタイルデザイン実習 (手工芸)	3前		2				○			1						
ファッション・プレゼンテーション演習	3前		2				○	1		1				兼1		
ファッション・プレゼンテーション実習	3後		2				○	1		1				兼1		
生活デザイン系	女性と生活	1・2後		2		○			2	3	1				兼1	隔年
	衣生活論 (含被服学概論)	1前		2		○					1					
	住生活論 (含住居学概論)	1後		2		○					1					
	生活デザイン論 (和の心)	2・3前		2		○					1					隔年
	生活造形論 (工芸とデザイン)	1後		2		○					1					
	造形実習	3前		2				○			1					
	画像デザイン演習	2・3前		2				○	1							
	インテリアデザイン論	1後		2		○									兼1	
	住居・建築計画学 I (独立住宅デザイン)	2前		2		○			1							
	福祉環境計画学	3前		2		○					1					
造園表現 (ガーデニング) 技術論	2前		2		○					1						
造園表現 (ガーデニング) 設計実習	2後		2				○							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門科目 (C3)	生活デザイン系 住居・建築計画学Ⅱ (生活デザイン他) 住居・建築計画学Ⅲ (集合住宅デザイン他) 住居設計実習 (含製図) 調理科学実習	2前		2		○				1								
		2後		2		○				1							兼1	
		3後		2													兼1	
		3後		2					○									
	セミナー	オープンセミナー	1前		2				○		3	3	1					集中
		被服心理学演習Ⅰ	3前		2				○		1							
		被服心理学演習Ⅱ	3後		2				○		1							
		服飾史学・美学演習Ⅰ	3前		2				○				1					
		服飾史学・美学演習Ⅱ	3後		2				○				1					
		アパレル・デザイン演習Ⅰ	3前		2				○		1							
		アパレル・デザイン演習Ⅱ	3後		2				○		1							
		生活デザイン・建築セミナーⅠ	3前		2				○		2	3						
		生活デザイン・建築セミナーⅡ	3後		2				○		2	3						
		卒業研究セミナーⅠ	4前	2					○		3	3	1					
卒業研究セミナーⅡ	4後	2					○		3	3	1							
卒業論文等	4後	4					○		3	3	1							
小計 (73科目)	—	8	140	0	—	—	—	—	4	3	1	0	0	兼16	—			
関連科目Ⅰ (C4)	文化・歴史	アート・ワークショップ実習	2後		1				○								兼1	
		アート・マネジメント実習	2後		1				○								兼2	
		世界遺産学	2前		2		○										兼3	
		現代美術論	2後		2		○										兼1	
		日本文化史Ⅰ	2前		2		○										兼1	
		日本文化史Ⅱ	2後		2		○										兼1	
		文化プロデュース論	2前		2		○										兼1	
		芸術史研究	2前		2			○									兼1	
		古典日本語基礎文法	2前		2			○									兼1	
		女流文学の世界Ⅰ (古典編)	2前		2			○									兼1	
		日本王朝文化の世界	2前		2			○									兼1	
		日本史	2前		2			○									兼1	
		外国史Ⅲ	2前		2			○									兼1	
		外国史Ⅳ	2後		2			○									兼1	
		映画史	2後		2			○									兼1	
		宗教学Ⅱ (仏教・神道・ユダヤ教・イスラム教・新宗教)	2後		2			○									兼1	
		世界の舞台	2前		2			○									兼1	
		舞台衣装	2後		2			○									兼1	
		陶芸論	2前		2			○									兼1	
	マンガ・アニメーション研究	2前		2			○									兼1		
	都市と文化財	2後		2			○									兼1		
	ビジネス	広島地域ビジネス論	2後		2		○										兼1	
		女性労働論	3後		2		○										兼1	
		市民社会とNGO・NPO	3前		2		○										兼1	
		コミュニティとまちづくり	2前		2		○										兼1	
		ビジネス実務総論Ⅰ	1後		2		○										兼1	
		ビジネス実務総論Ⅱ	2前		2		○										兼1	
		ビジネス実務演習Ⅱ	2後		2			○									兼1	
		プレゼンテーション演習Ⅰ (アサーティブ・コミュニケーション論演習)	2前		2			○									兼1	
		プレゼンテーション演習Ⅱ	2後		2			○									兼1	
		情報総合プレゼンテーション演習	3前		2			○									兼1	
		ビジネスデザインⅠ	2後		2		○										兼1	
	ビジネスデザインⅡ	3前		2			○									兼1		
マーケティング論	2前		2			○									兼1			
ビジネス英語	2後		2			○									兼1			
インターンシップⅡ	3前		2					○							兼2			
教職	教育原理	2後		2			○									兼1		
	教育心理学	2前		2			○									兼1		
	教育社会学	3前		2			○									兼2		
	家庭科教育法Ⅰ	3前		2			○									兼1		
	家庭科教育法Ⅱ	3後		2			○									兼1		
	家庭科教育法Ⅲ	3前		2			○									兼1		
	家庭科教育法Ⅳ	3後		2			○									兼1		
	教職実践演習 (家庭)	4後		2				○								兼3		
	教育史	3後		2			○									兼1		
学習心理学	3前		2			○									兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
関連科目Ⅰ (C4)	教職	教育と法	3後	2		○									兼1	—	
		人間関係論Ⅰ (含家族関係学)	3前	2		○									兼1		
		人間関係論Ⅱ	3後	2		○									兼1		
		生活経営学 (含家庭経営学・家庭経済学)	1前	2		○									兼1		
		食品学概論	2前	2		○									兼1		
	保育学(含実習・家庭看護)	2後	2		○									兼1			
	司書・司書教諭	情報メディアの活用	2前	2		○									兼1		
		言語とコミュニケーション	2後	2		○									兼1		
		図書館情報技術論	2後	2		○									兼1		
		情報検索演習	3前	1			○								兼1		
情報サービス概論		3前	2		○									兼1			
	小計 (57科目)	—	0	111	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼40		
関連科目Ⅱ (C5)	教職	教職論	1後			2	○								兼1	—	
		教育課程論	2前			2	○								兼1		
		教育方法の研究 (情報機器及び教材の活用を含む)	2前			2	○								兼1		
		生徒指導の研究 (進路指導の理論及び方法を含む)	3前			2	○								兼1		
		特別活動の研究	3後			2	○								兼1		
		学校カウンセリング	3前			2	○								兼1		
		道徳教育の研究	3後			2	○								兼1		
		介護等体験Ⅰ	3通			1			○						兼3		オムニバス
		介護等体験Ⅱ (事前・事後指導)	3通			1			○						兼3		オムニバス
		教育実習Ⅰ	4前			2			○						兼3		
	教育実習Ⅱ	4前			2			○						兼3			
	教育実習Ⅲ (事前・事後指導)	4前			1			○						兼3			
	学芸員	教育学概論 (含博物館教育論)	1後			2	○								兼1		集中
		生涯学習論Ⅰ	2前			2	○								兼1		
		博物館概論	2前			2	○								兼1		
		博物館経営論	2後			2	○								兼1		
		博物館資料論	2前			2	○								兼1		
		博物館情報・メディア論	2前			2	○								兼1		
		博物館資料保存論	2後			2	○								兼1		
		博物館展示論	2後			2	○								兼1		
		博物館実習Ⅰ	4前			1			○						兼1		
		博物館実習Ⅱ	4後			2			○						兼1		
	博物館実習Ⅲ	4後			1			○						兼1			
	司書	生涯学習概論 (司書)	2前			2	○								兼2		オムニバス
		図書館概論	1後			2	○								兼1		
		図書館経営論	3前			2	○								兼1		
		図書館サービス論	2前			2	○								兼1		
		レファレンスサービス演習	3後			1			○						兼1		
		図書館資料論	2後			2	○								兼1		
		専門資料論	3前			2	○								兼1		
資料組織概説		2前			2	○								兼1			
資料組織演習		2後			2			○						兼1			
児童サービス論		2前			2	○								兼1			
司書教諭	読書と豊かな人間性	2～4後			2	○								兼1			
	学校経営と学校図書館	2～4前			2	○								兼1			
	学校図書館メディアの構成	2～4前			2	○								兼1			
	学習指導と学校図書館	2～4後			2	○								兼1			
	小計 (39科目)	—	0	0	70	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼19		
合計 (299科目)			—	26	461	70	—	—	4	3	1	0	0	0	兼145		
学位又は称号			学士 (家政学)			学位又は学科の分野			家政関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
共通基礎科目 (C1) (18単位) を必修科目、共通教養科目 (C2) (30単位) を選択必修科目として計48単位を履修し、学科の専門科目 (C3) (40単位) を選択必修科目、3年次の演習・セミナー、4年次の卒業研究セミナーおよび卒業論文等 (計12単位) を必修科目として履修し、残り24単位をC3、関連科目Ⅰ (C4) から選択科目として履修し、合計124単位以上を修得すること。(履修科目の登録上の上限:原則として22単位 (半期))							1学年の学期区分		2学期								
							1学期の授業期間		15週								
							1時限の授業時間		90分								

教育課程等の概要															
(人間生活学部 管理栄養学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通基礎科目 (C1)	キリスト教学入門Ⅰ	1前	2			○									兼3
	キリスト教学入門Ⅱ	1後	2			○									兼3
	キャリアプランニング (人間生活)	1前	2			○			1						兼3
	初年次セミナー	1前	2			○			2	2					兼20
	日本語表現技法	1前	2			○									兼6
	情報リテラシⅠ	1前	2			○									兼5
	情報リテラシⅡ	1後	2			○									兼5
	基礎英語Ⅰ	1前	1				○								兼3
	基礎英語Ⅱ	1後	1				○								兼3
	基礎英語Ⅲ	2前	1				○								兼3
	基礎英語Ⅳ	2後	1				○								兼3
小計 (11科目)		—	18	0	0	—			3	2	0	0	0	兼35	—
総合知	環境と人間	2後		2		○									兼2
	現代女性と身体	2後		2		○									兼1
	現代ジェンダー考	2後		2		○									兼1
	ヒロシマ	2前		2		○									兼1
	ボランティア論Ⅰ	2前		2		○									兼1
	ボランティア論Ⅱ	2後		2		○									兼1
	キリスト教の時間Ⅰ	2前		1		○									兼1
	キリスト教の時間Ⅱ	2後		1		○									兼1
	特別講義Ⅰ	2前・後		2		○									兼1
	特別講義Ⅱ	2前・後		2		○									兼1
	特別セミナーⅠ	2前・後		2		○									兼1
特別セミナーⅡ	2前・後		2		○									兼1	
共通教養科目 (C2)	人文科学知	教育学入門	1前		2		○								兼1
		心理学入門	1前		2		○								兼1
		哲学入門	1後		2		○								兼1
		キリスト教学Ⅰ	2前		2		○								兼1
		キリスト教学Ⅱ	2後		2		○								兼1
		生命倫理	1後		2		○								兼1
		アメリカの文化と歴史	2後		2		○								兼1
		イギリスの文化と歴史	2前		2		○								兼1
		ヨーロッパと文化	1前		2		○								兼1
		歴史学のみかたⅠ	1前		2		○								兼1
		歴史学のみかたⅡ	1後		2		○								兼1
		歴史学のみかたⅢ	2前		2		○								兼1
		色彩情報論	1後		2		○								兼1
	音楽の世界	1後		2		○								兼1	
	日本美術史	1前		2		○								兼1	
	西洋美術史	1後		2		○								兼1	
	American Culture and History	1前		2			○								兼1
	British Culture and History	1前		2			○								兼1
	European Culture and History	1前		2			○								兼1
	American Literature and Thought	2前		2			○								兼1
	Asian and African Literature and Thought	2前		2			○								兼1
	European Literature and Thought	2後		2			○								兼1
	日本文学入門	1前		2			○								兼1
	アメリカ文学史	2前		2			○								兼1
	イギリス文学史	2後		2			○								兼1
	日本語学の視点	1前		2			○								兼1
	英語学の視点	1前		2			○								兼1
比較言語	1後		2			○								兼1	
社会科学知	女性学入門	1後		2		○									兼1
	平和学入門	1前		2		○									兼1
	社会学入門	1前		2		○									兼1
	現代社会と人権	1前		2		○									兼1
地理学概論	1前		2		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教養科目(C2)	開発と文化	2前		2		○									兼1	隔年
	民俗学	1後		2		○									兼1	
	経済学入門	1前		2		○									兼1	
	経営学総論	1前		2		○									兼1	
	Area Studies 1 (America)	1後		2			○								兼1	
	Area Studies 2 (Asia and Africa)	1後		2			○	○							兼1	
	Area Studies 3 (Europe)	1後		2			○	○							兼1	
	金融論	3前		2		○									兼1	
	国際金融論	3後		2		○									兼1	
	経理実務	3前		2		○									兼1	
	社会科学知	ビジネス実務演習 I	2前		2			○							兼1	
		プレゼンテーション概論	1後		2		○								兼1	
		インターンシップ I	2前		2		○								兼2	
		Social Anthropology	2後		2			○	○						兼1	
		Social Psychology	2後		2			○	○						兼1	
		World Economy	2前		2			○	○						兼1	
		日本国憲法	1後		2		○								兼1	
		ビジネス法務	3後		2		○								兼1	
		公共性と権力	1後		2		○								兼1	
		政治学 I	2前		2		○								兼1	隔年
		政治学 II (含国際政治学)	2後		2		○								兼1	隔年
		国際関係論	2前		2		○								兼1	隔年
		ポストコロニアリズム/ナショナリズム	2後		2		○								兼1	隔年
		グローバル化と地域	2後		2		○								兼1	隔年
	自然科学知	数学入門	1後		2		○								兼1	
		生活の中の数学	1前		2		○								兼1	
		物理学入門	1後		2		○								兼1	
		情報科学入門	1前		2		○								兼1	
		統計学入門	1後		2		○								兼1	
		情報管理論 (含情報処理)	2前		2		○								兼1	
		家庭電気・機械	2前		2		○								兼1	
		バイオサイエンス入門	1後		2		○								兼1	
		自然と環境	1前		2		○								兼1	
		生物学入門	1前		2		○								兼1	
		健康科学 (含栄養学概論)	1後		2		○								兼1	
		衛生と安全	1後		2		○				1				兼1	
		Computer Science	1前		2			○	○						兼1	
		Nature and Environment	1前		2			○	○						兼1	
		Health Science	1後		2			○	○						兼1	
		化学	1前		2		○								兼1	
		科学と技術	2後		2		○								兼2	
		都市と環境	2前		2		○								兼1	
		生活空間デザイン論	1前		2		○								兼1	
感性デザイン論 I (ポップカルチャー)		1・2前		2		○								兼1	隔年	
感性デザイン論 II (ファッション文化史)		1・2後		2		○								兼1	隔年	
生活とファッション		1・2後		2		○								兼1	隔年	
食品加工・商品学		2前		2		○								兼1		
調理学概論 (含厨房機器・設備)	2後		2		○								兼1			
食品学 I	1前		2		○				1							
食品学 II (含食品加工学)	1後		2		○				1				兼1			
調理科学 I	1後		2		○											
基礎栄養学	1後		2		○				1							
ライフステージ別栄養学 I	2前		2		○					1						
健康管理概論	2前		2		○					1						
社会福祉概論	2後		2		○									兼1		
言語知	外国語 (初級英語 I)	1前		1			○							兼5		
	外国語 (初級英語 II)	1後		1			○							兼5		
	外国語 (初級独語 I)	1前		1			○							兼1		
	外国語 (初級独語 II)	1後		1			○							兼1		
	外国語 (初級仏語 I)	1前		1			○							兼1		
	外国語 (初級仏語 II)	1後		1			○							兼1		
外国語 (初級中国語 I)	1前		1			○							兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手		
共通教養科目 (C2)	外国語 (初級中国語Ⅱ)	1後		1			○								兼1	
	外国語 (初級韓国語Ⅰ)	1前		1			○								兼1	
	外国語 (初級韓国語Ⅱ)	1後		1			○								兼1	
	外国語 (中級英語Ⅰ)	2前		1			○								兼5	
	外国語 (中級英語Ⅱ)	2後		1			○								兼5	
	外国語 (中級中国語Ⅰ)	2前		1			○								兼1	
	外国語 (中級中国語Ⅱ)	2後		1			○								兼1	
	外国語 (中級韓国語Ⅰ)	2前		1			○								兼1	
	外国語 (中級韓国語Ⅱ)	2後		1			○								兼1	
	外国語 (初級日本語Ⅰ)	1前		1			○								兼1	
	外国語 (初級日本語Ⅱ)	1後		1			○								兼1	
	外国語 (中級日本語Ⅰ)	2前		1			○								兼1	
	外国語 (中級日本語Ⅱ)	2後		1			○								兼1	
	スポーツ科学知	スポーツ科学Ⅰ	1前		1		○									兼3
	スポーツ科学Ⅱ	1後		1				○								兼3
スポーツ科学Ⅲ (課外活動等)	2前		1				○								兼1	
スポーツ科学Ⅳ (スキー・スケート等)	2後		1				○								兼1	
スポーツ科学Ⅴ (水泳等)	2前		1				○								兼1	
スポーツ科学Ⅵ (フィットネス)	2後		1				○								兼1	
小計 (126科目)		-	0	224	0		-		3	0	1	0	0		兼75	
専門科目 (C3)	微生物学	1前		2			○			1						
	食品衛生学	1後		2			○			1						
	調理科学実験	1後		1							1					
	食品衛生学実験	2前		1						1						
	食品学実験Ⅰ	2前		1						1						
	調理科学Ⅱ	2前		2			○								兼1	
	調理科学実習Ⅰ	2前		1							1					
	公衆衛生学	2後		2			○			1						
	食品学実験Ⅱ (含食品加工学実験)	2後		1						1						
	調理科学実習Ⅱ	2後		1							1				兼3 オムニバス	
	生化学Ⅰ	1前		2			○			1						
	解剖生理学Ⅰ	1前		2			○			1						
	解剖生理学Ⅱ	1後		2			○			1						
	生化学Ⅱ	1後		2			○			1						
	生化学実験	1後		1						1						
	解剖生理学実験Ⅰ	2前		1						1						
	基礎栄養学実験	2前		1						1						
	解剖生理学実験Ⅱ	2後		1						1						
	スポーツ栄養学	2後		2			○			1	1				オムニバス	
	病態生理学Ⅰ	3前		2			○								兼2	
	病態生理学Ⅱ	3後		2			○								兼2	
	栄養教育論Ⅰ	2前		2			○				1					
	給食経営管理論Ⅰ	2前		2			○			1						
	ライフステージ別栄養学Ⅱ	2後		2			○					1				
	ライフステージ別栄養学実習	2後		1								1				
	栄養教育論Ⅱ	2後		2			○				1					
	栄養指導実習	2後		1							2					
公衆栄養学Ⅰ	2後		2			○				1						
給食経営管理論Ⅱ	2後		2			○			1							
栄養マネジメント実習	3前		1											兼1		
栄養統計演習	3前		1							1						
臨床栄養学Ⅰ	3前		2			○			1							
臨床栄養学実習Ⅰ	3前		1								1			兼1		
公衆栄養学Ⅱ	3前		2			○				1						
公衆栄養学実習	3前		1							1						
給食経営管理実習Ⅰ	3前		1						1	1				オムニバス		
カウンセリング演習	3後		1							1						
臨床栄養学Ⅱ	3後		2			○			1							
臨床栄養管理学	3後		2			○			1							
臨床栄養活動論	3後		2			○								兼1		
臨床栄養学実習Ⅱ	3後		1						1							
給食経営管理実習Ⅱ	3後		1						1	1				オムニバス		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 (C3)	総合演習Ⅰ	3後		1			○			2	1				オムニバス	
	総合演習Ⅱ	4前		1			○		2	1					オムニバス	
	セミナー	実践栄養学演習Ⅰ	4前		1			○		6	3	1				オムニバス
		実践栄養学演習Ⅱ	4後		1			○		6	3	1				オムニバス
		卒業研究セミナーⅠ	4前	2				○		6	3	1				
		卒業研究セミナーⅡ	4後	2				○		6	3	1				
		卒業論文	4後	4				○		6	3	1				
小計(49科目)	—	8	68	0	—	—	—	6	3	1	0	0	兼7	—		
関連科目Ⅰ (C4)	教職	教育原理	2後		2		○									兼1
		教育心理学	2前		2		○									兼1
		教育社会学	3前		2		○									兼2
		家庭科教育法Ⅰ	3前		2		○									兼1
		家庭科教育法Ⅱ	3後		2		○									兼1
		教職実践演習(家庭)	4後		2			○								兼3
		教育史	3後		2		○									兼1
		学習心理学	3前		2		○									兼1
		教育と法	3後		2		○									兼1
		衣生活論(含被服学概論)	1前		2		○									兼1
		住生活論(含住居学概論)	1後		2		○									兼1
		被服材料学	1後		2		○									兼1
		被服管理学	2前		2		○									兼1
		人間関係論Ⅰ(含家族関係学)	3前		2		○									兼1
		人間関係論Ⅱ	3後		2		○									兼1
		生活経営学(含家庭経営学・家庭経済学)	1前		2		○									兼1
		家庭科教育法Ⅲ	3前		2		○									兼1
		家庭科教育法Ⅳ	3後		2		○									兼1
		ファッション・デザイン実習Ⅰ	2前		2				○							兼1
		ファッション・デザイン実習Ⅱ	2後		2				○							兼1
	住居設計実習(含製図)	2後		2				○							兼1	
	保育学(含実習・家庭看護)	3後		2		○									兼1	
	教職実践演習(栄養教諭)	4後		2			○								兼3	
	ビジネス	医療秘書概論	1後		2		○									兼1
		医療秘書演習	3前		2			○								兼1
		医療事務論	2前		2		○									兼1
		医療事務演習Ⅰ	2前		2			○								兼1
		医療事務演習Ⅱ	2後		2			○								兼1
		医療関係法規	2前		2		○									兼1
		医療情報処理Ⅰ	2前		2				○							兼1
		医療情報処理Ⅱ	2後		2				○							兼1
		ビジネス実務総論Ⅰ	1後		2		○									兼1
		ビジネス実務総論Ⅱ	2前		2		○									兼1
ビジネス実務演習Ⅱ		2後		2			○								兼1	
プレゼンテーション演習Ⅰ(アサーティブ・コミュニケーション論演習)		2前		2			○								兼1	
プレゼンテーション演習Ⅱ		2後		2			○								兼1	
情報総合プレゼンテーション演習		3前		2			○								兼1	
ビジネスデザインⅠ		2後		2		○									兼1	
ビジネスデザインⅡ		3前		2			○								兼1	
マーケティング論		2前		2		○									兼1	
ビジネス英語		2後		2		○									兼1	
広島地域ビジネス論	2後		2		○									兼1		
インターンシップⅡ	3前		2				○							兼2		
生活	女性と生活	1・2後		2		○									兼6 隔年	
	被服心理学	2後		2		○									兼1	
	コミュニティとまちづくり	2前		2		○									兼1	
	食品学概論	2前		2		○									兼1	
小計(47科目)	—	0	94	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼31	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
関連科目Ⅱ(C5)	管理栄養	調理科学実習Ⅲ	3前			1			○	1						兼1	オムニバス	
		給食経営管理臨地実習Ⅰ	3前			1			○	1	1						オムニバス	
		給食経営管理臨地実習Ⅱ	3前			1			○	1								
		公衆栄養学臨地実習	3前			1			○		1							
		臨床栄養学臨地実習	4前			2			○	1								
	教職	教職論	1後			2		○									兼1	
		教育課程論	2前			2		○									兼1	
		教育方法の研究(情報機器及び教材の活用を含む)	2前			2		○									兼1	
		生徒指導の研究(進路指導の理論及び方法を含む)	3前			2		○									兼1	
		特別活動の研究	3後			2		○									兼1	
		学校カウンセリング	3前			2		○									兼1	
		道德教育の研究	3後			2		○									兼1	
		介護等体験Ⅰ	3通			1			○								兼3	オムニバス
		介護等体験Ⅱ(事前・事後指導)	3通			1			○								兼3	オムニバス
		教育実習Ⅰ	4通			2			○								兼3	
		教育実習Ⅱ	4通			2			○								兼3	
		教育実習Ⅲ(事前・事後指導)	4通			1			○								兼3	
		栄養教諭概論	3前			2		○			1						兼1	
		栄養教諭活動論	3後			2		○			1							
		教育課程及び方法論(含情報機器・教材活用)	3前			2		○									兼1	
		道德及び特別活動の研究	3後			2		○									兼1	
		生徒指導論	3前			2		○									兼1	
		栄養教育実習Ⅰ	4前			1			○		1							
		栄養教育実習Ⅱ(事前・事後指導)	4通			1			○		1							
小計(24科目)		—	0	0	39			—	2	2	0	0	0	0	兼10	—		
合計(257科目)		—	26	386	39			—	6	3	1	0	0	0	兼128	—		
学位又は称号		学士(家政学)			学位又は学科の分野			家政関係										
卒業要件及び履修方法								授業期間等										
共通基礎科目(C1)(18単位)を必修科目、共通教養科目(C2)(30単位)を選択必修科目として計48単位を履修し、専門科目(C3)、関連科目Ⅰ(C4)から76単位(うち卒業研究セミナーおよび卒業論文(計8単位)を必修とする)以上を履修し、合計124単位以上を修得すること。(履修科目の登録上の上限:原則として22単位(半期))								1学年の学期区分		2学期								
								1学期の授業期間		15週								
								1時限の授業時間		90分								

教育課程等の概要																
（人間生活学部 幼児教育心理学科）																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手		
共通基礎科目（C1）	キリスト教学入門Ⅰ	1前	2			○									兼3	
	キリスト教学入門Ⅱ	1後	2			○									兼3	
	キャリアプランニング（人間生活）	1前	2			○			2						兼2	
	初年次セミナー	1前	2			○			3	1	1				兼20	
	日本語表現技法	1前	2			○									兼6	
	情報リテラシⅠ	1前	2			○									兼5	
	情報リテラシⅡ	1後	2			○									兼5	
	基礎英語Ⅰ	1前	1				○								兼3	
	基礎英語Ⅱ	1後	1				○								兼3	
	基礎英語Ⅲ	2前	1				○								兼3	
	基礎英語Ⅳ	2後	1				○								兼3	
小計（11科目）	—	—	18	0	0	—	—	—	4	1	1	0	0	兼36	—	
共通教養科目（C2）	総合知	環境と人間	2後	2			○								兼2	
		現代女性と身体	2後	2			○								兼1	
		現代ジェンダー考	2後	2			○								兼1	
		ヒロシマ	2前	2			○								兼1	
		ボランティア論Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		ボランティア論Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		キリスト教の時間Ⅰ	2前	1			○								兼1	
		キリスト教の時間Ⅱ	2後	1			○								兼1	
		特別講義Ⅰ	2前・後	2			○								兼1	
		特別講義Ⅱ	2前・後	2			○			1					兼1	
		特別セミナーⅠ	2前・後	2			○								兼1	
	特別セミナーⅡ	2前・後	2			○			1					兼1		
	人文学知	教育学入門	1前	2			○			1						
		心理学入門	1前	2			○			1						
		哲学入門	1後	2			○									兼1
		キリスト教学Ⅰ	2前	2			○									兼1
		キリスト教学Ⅱ	2後	2			○									兼1
		生命倫理	1後	2			○									兼1
		アメリカの文化と歴史	2後	2			○									兼1
		イギリスの文化と歴史	2前	2			○									兼1
		ヨーロッパと文化	1前	2			○									兼1
		歴史学のみかたⅠ	1前	2			○									兼1
		歴史学のみかたⅡ	1後	2			○									兼1
		歴史学のみかたⅢ	2前	2			○									兼1
		色彩情報論	1後	2			○									兼1
音楽の世界		1後	2			○									兼1	
日本美術史	1前	2			○									兼1		
西洋美術史	1後	2			○									兼1		
American Culture and History	1前	2				○								兼1		
British Culture and History	1前	2				○								兼1		
European Culture and History	1前	2				○								兼1		
American Literature and Thought	2前	2				○								兼1		
Asian and African Literature and Thought	2前	2				○								兼1		
European Literature and Thought	2後	2				○								兼1		
日本文学入門	1前	2			○			1								
アメリカ文学史	2前	2			○									兼1		
イギリス文学史	2後	2			○									兼1		
日本語学の視点	1前	2			○									兼1		
英語学の視点	1前	2			○									兼1		
比較言語	1後	2			○									兼1		
心理学基礎論	1前	2			○			1								
教育原理Ⅰ	1後	2			○									兼1		
音楽Ⅰ	1前	2				○			1							
心理学概論	1後	2				○		1								
図画工作Ⅰ	1後	2				○			1							
体育Ⅰ	2前	2				○					1					
社会科学知	女性学入門	1後	2			○									兼1	
	平和学入門	1前	2			○									兼1	
	社会学入門	1前	2			○									兼1	
	現代社会と人権	1前	2			○									兼1	
地理学概論	1前	2				○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教養科目 (C2)	開発と文化	2前		2		○									兼1	隔年	
	民俗学	1後		2		○									兼1		
	経済学入門	1前		2		○									兼1		
	経営学総論	1前		2		○									兼1		
	Area Studies 1 (America)	1後		2			○								兼1		
	Area Studies 2 (Asia and Africa)	1後		2			○	○							兼1		
	Area Studies 3 (Europe)	1後		2			○	○							兼1		
	金融論	3前		2			○								兼1		
	国際金融論	3後		2			○								兼1		
	経理実務	3前		2			○								兼1		
	ビジネス実務演習 I	2前		2				○							兼1		
	プレゼンテーション概論	1後		2			○								兼1		
	インターンシップ I	2前		2			○								兼2		
	Social Anthropology	2後		2				○							兼1		
	Social Psychology	2後		2				○	○						兼1		
	World Economy	2前		2				○	○						兼1		
	日本国憲法	1後		2			○								兼1		
	ビジネス法務	3後		2			○								兼1		
	公共性と権力	1後		2			○								兼1		
	政治学 I	2前		2			○								兼1	隔年	
	政治学 II (含国際政治学)	2後		2			○								兼1	隔年	
	国際関係論	2前		2			○								兼1	隔年	
	ポストコロニアリズム/ナショナリズム	2後		2			○								兼1	隔年	
	グローバル化と地域	2後		2			○								兼1	隔年	
	子どもと遊び I	1後	2					○		2	1	1					
	子どもと遊び II	2前	2					○		1	3						
	子どもと遊び III	2後	2					○		1	3						
	保育原理	1前		2			○			1							
	保育内容総論	1前		2			○			1							
	自然科学知	数学入門	1後		2		○									兼1	
		生活の中の数学	1前		2		○									兼1	
		物理学入門	1後		2		○									兼1	
		情報科学入門	1前		2		○									兼1	
		統計学入門	1後		2		○									兼1	
		情報管理論 (含情報処理)	2前		2		○									兼1	
		家庭電気・機械	2前		2		○									兼1	
		バイオサイエンス入門	1後		2		○				1						
		自然と環境	1前		2		○				1						
		生物学入門	1前		2		○									兼1	
		健康科学 (含栄養学概論)	1後		2		○									兼1	
		衛生と安全	1後		2		○									兼2	
		Computer Science	1前		2			○								兼1	
		Nature and Environment	1前		2			○	○							兼1	
		Health Science	1後		2			○	○							兼1	
		化学	1前		2			○								兼1	
		科学と技術	2後		2			○								兼2	
		都市と環境	2前		2			○								兼1	
生活空間デザイン論		1前		2			○								兼1		
感性デザイン論 I (ポップカルチャー)		1・2前		2			○								兼1	隔年	
感性デザイン論 II (ファッション文化史)		1・2後		2			○								兼1	隔年	
生活とファッション		1・2後		2			○								兼1	隔年	
食品加工・商品学	2前		2			○								兼1			
調理学概論 (含厨房機器・設備)	2後		2			○								兼1			
言語知	外国語 (初級英語 I)	1前		1			○								兼5		
	外国語 (初級英語 II)	1後		1			○								兼5		
	外国語 (初級独語 I)	1前		1			○								兼1		
	外国語 (初級独語 II)	1後		1			○								兼1		
	外国語 (初級仏語 I)	1前		1			○								兼1		
	外国語 (初級仏語 II)	1後		1			○								兼1		
	外国語 (初級中国語 I)	1前		1			○								兼1		
	外国語 (初級中国語 II)	1後		1			○								兼1		
	外国語 (初級韓国語 I)	1前		1			○								兼1		
	外国語 (初級韓国語 II)	1後		1			○								兼1		
	外国語 (中級英語 I)	2前		1			○								兼5		
	外国語 (中級英語 II)	2後		1			○								兼5		
	外国語 (中級中国語 I)	2前		1			○								兼1		
外国語 (中級中国語 II)	2後		1			○								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教養科目 (C2)	外国語 (中級韓国語 I)	2前		1			○								兼1
	外国語 (中級韓国語 II)	2後		1			○								兼1
	外国語 (初級日本語 I)	1前		1			○								兼1
	外国語 (初級日本語 II)	1後		1			○								兼1
	外国語 (中級日本語 I)	2前		1			○								兼1
	外国語 (中級日本語 II)	2後		1			○								兼1
	スポーツ科学 I	1前		1			○				1				兼2
	スポーツ科学 II	1後		1					○		1				兼2
	スポーツ科学 III (課外活動等)	2前		1					○		1				
	スポーツ科学 IV (スキー・スケート等)	2後		1					○		1				
スポーツ科学 V (水泳等)	2前		1					○		1					
スポーツ科学 VI (フィットネス)	2後		1					○		1					
小計 (130科目)	—	—	6	226	0	—	—	—	5	4	2	0	0	兼71	—
専門科目 (C3)	教育社会学	3前		2			○								兼2
	初等国語科教育法	3前		2			○								兼1
	初等社会科教育法	3後		2			○								兼1
	初等算数科教育法	3後		2			○			1					
	初等理科教育法	3前		2			○								兼1
	初等生活科教育法	3後		2			○								兼1
	初等音楽科教育法	3後		2			○			1					
	初等家庭科教育法	3前		2			○								兼1
	初等図画工作科教育法	3前		2			○			1					
	初等体育科教育法	3後		2			○				1				
	初等英語科教育法	4前		2			○								兼1
	音楽 II	1後		2			○			1					
	保育内容演習 (環境)	1後		2			○			1					
	保育内容演習 (人間関係)	1後		2			○								兼1
	保育内容演習 (健康)	3前		2			○				1				
	保育内容演習 (言葉)	3後		2			○			1					
	図画工作 II	2前		2			○			1					
	体育 II	2後		2			○				1				
	保育内容演習 (表現 I)	2前		2			○			1					
	保育内容演習 (表現 II)	2後		2			○			1					
	保育内容演習 (表現 III)	3前		2			○			2					
	社会的養護	2前		2			○			1					
	社会福祉	2前		2			○			1					
	相談援助	3前		2			○			1					
	児童家庭福祉	2後		2			○			1					
	子どもの食と栄養	2前		2			○								兼1
	保育相談支援	3後		1			○			1					
	教育原理 II	2前		2			○			1					
	家庭支援論	4前		2			○			1					
	社会的養護内容	2後		1			○			1					
	国語	2前		2			○			1					
	算数	3前		2			○			1					
	理科	2前		2			○			1					兼1
	社会	2前		2			○			1					
	生活	2後		2			○			1					
	家庭	2後		2			○								兼4
	初等英語	4前		2			○								兼1
	幼児教育相談	2後		2			○			1					
	子どもの保健 I	2後		4			○								兼1
	子どもの保健 II	3前		1			○								兼1
	比較子育て文化論	3後		2			○			1					
	教育と共生	3前		2			○								兼1
	子育て創造設計	3後		2			○				1				兼1
幼児と環境	3前		2			○			1						
児童文化	3後		2			○				2					
保育・教職実践演習 (小学校・幼稚園)	4後		2			○			2	1					
乳児保育	3前		2			○								兼1	
障害児保育	3後		2			○			1						
カウンセリング概論 I	2前		2			○								兼1	
保育の心理学 I	1前		2			○			1						
保育の心理学 II	3前		2			○			1						
教育心理学	2後		2			○			1						
心理学実験演習	3前		2			○			1						
心理学研究法	2前		2			○			1						



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
関連科目Ⅱ (C5)	心理学 学校カウンセリング カウンセリング演習Ⅰ カウンセリング演習Ⅱ カウンセリング実習	3前 3前 3後 4前			2 2 2 2	○ ○ ○ ○			1 1 1 1						兼1	
	司書 生涯学習概論(司書) 図書館概論 図書館経営論 図書館サービス論 レファレンスサービス演習 図書館資料論 専門資料論 資料組織概説 資料組織演習 児童サービス論 図書及び図書館史 図書館特論	2前 1後 3前 2前 3後 2後 3前 2前 2後 2前 3後 3後			2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 1 1	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			1						兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	オムニバス
	司書教諭 読書と豊かな人間性 学校経営と学校図書館 学校図書館メディアの構成 学習指導と学校図書館	2~4後 2~4前 2~4前 2~4後			2 2 2 2	○ ○ ○ ○									兼1 兼1 兼1 兼1	
	学芸員 教育学概論(含博物館教育論) 生涯学習論Ⅰ 博物館概論 博物館経営論 博物館資料論 博物館情報・メディア論 博物館資料保存論 博物館展示論 博物館実習Ⅰ 博物館実習Ⅱ 博物館実習Ⅲ	1後 2前 2前 2後 2前 2前 2後 2後 4前 4後 4後			2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 1	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○									兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	集中
	小計(52科目)	—	0	0	98	—	—	5	3	0	0	0	0	0	兼15	—
	合計(290科目)		—	36	404	98	—	—	6	7	1	0	0	0	兼135	—
	学位又は称号		学士(幼児教育心理学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係								
	卒業要件及び履修方法							授業期間等								
	共通基礎科目(C1)(18単位)を必修科目、共通教養科目(C2)(30単位)を選択必修科目(うち子どもと遊びⅠ~Ⅲ(計6単位)を必修)として計48単位を履修し、専門科目(C3)および関連科目Ⅰ(C4)から6.4単位を選択科目、卒業研究プレセミナーⅠⅡ、卒業研究セミナーⅠⅡおよび卒業論文(計12単位)を必修科目として履修し、合計12.4単位以上を修得すること。(履修科目の登録上の上限:原則として22単位(半期))							1学年の学期区分		2学期						
								1学期の授業期間		15週						
								1時限の授業時間		90分						

授 業 科 目 の 概 要				
(人間生活学部 生活デザイン・建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通基礎科目 (C1)	キリスト教学入門Ⅰ	(1) 本学の土台であり柱であるキリスト教について、理解を深める。 (2) その「正典」である聖書について、理解を深める。 (3) 古代の文書である聖書が、なぜ、どのようにして、現代の私たちの生活に関わりを持つのか、さまざまな読み方を通じて、理解を深める。 (4) イエス・キリストの教えと行いから、「クリティカル・シンキング」を学ぶ。 (5) 一方で、人の「いのち」を活かし、尊厳・自由・平等をもたらす宗教が、他方ではなぜ人の「いのち」を奪い、尊厳・自由・平等を脅かすのかを、ともに考える。		
	キリスト教学入門Ⅱ	(1) 本学の土台であり柱であるキリスト教について、理解を深める。 (2) 前期「キリスト教学入門Ⅰ」に続いて、古代の文書である聖書が、なぜ、どのようにして、現代の私たちの生活に関わりを持つのか、さまざまな読み方を通じて、理解を深める。 (3) 人間の根本にある「宗教性」（霊性・スピリチュアリティ・帰依心）に気づき、「祈り」について学ぶことで、心と感性の豊かさを育てるきっかけとする。 (4) キリスト教的歴史観・世界観における「創造」と「終末」について学び、「いま・ここ」に生きる「意味」を各々が喜びをもって見出すきっかけとする。		
	キャリアプランニング (人間生活)	この授業は、広島女学院大学の一員として大学の建学の精神・歴史・教育理念についての認識を深め、また人間生活学部の教育目標やカリキュラムを十分に理解したうえで、大学においていかに学ぶかを考え、将来のキャリアプランを形成することを目的とする。特に、人間生活学部の教育理念である、「(衣・食・住・育)における人間生活の質向上を支援する専門職をめざすために何が必要かを知り、自立した職業人となるための責任感、倫理観、創造性、コミュニケーション力、社会貢献への意思等を形成する基礎を身につける。		
	初年次セミナー	新入生が大学での学びを進めていく上で必要とされる学びの技法、すなわち聴くこと、読むこと、書くこと、整理すること、まとめること、表現すること等を修得することを目的とする。とくに、授業の聴き方・書き方・書くことをはじめとする技法、情報の整理の仕方、まとめ方について学ぶ。その前提としての情報を得る場としての図書館の利用・活用の仕方について実地体験する。		
	日本語表現技法	日本語で教育を受けてきた人々でさえ、日本語の使い方を誤っている場合も多い。漢字を正しく書くことだけでなく、その意味を理解し、熟語や四字熟語、慣用表現などを日常的に使用することに慣れるため、もう一度自分の日本語をみつめなおす。敬語などの基本的な表現を身に付け、手紙やビジネス文書など社会で必要とされている文書の意味を理解し、書く作業を通して、相手の理解を促すことを意識した表現方法を学ぶことを目的とする。		
	情報リテラシⅠ	「情報活用能力」の中でも「情報活用の実践力」を学習する。特に基本的な情報スキルを学習し、今後の大学におけるレポート作成、レジュメ作成および卒業論文における基礎的な力を習得することを目的とする。		
	情報リテラシⅡ	コンピュータの基本的な構造を理解し、情報の扱い方、ソフトの種類や用途などを自分で判断し、これらを利用して「課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力」の育成を目的とする。		
	基礎英語Ⅰ	This is an introductory integrated skills course, which combines reading and writing skills with listening and speaking. The class is designed to allow students to gain confidence in their use of all four English skills. 本講義は、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能全ての向上を目指す導入的コースである。本講義の目的は、受講学生が自信を持って英語の4技能を使う力を身につけることである。		
	基礎英語Ⅱ	This is a continuation of the integrated skills course, which combines reading and writing skills with listening and speaking. The class is designed to improve students' use of all four English skills. 本講義は、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能全ての向上を目指す導入的コースの上級編である。本講義の目的は、受講学生の英語の4技能のさらなる向上を目指す。		
	基礎英語Ⅲ	This is a high-level integrated skills course, which combines reading and writing skills with listening and speaking. The class is designed to allow students to gain confidence in their use of all four English skills. 本講義は、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能全ての向上を目指す上級コースである。本講義の目的は、受講学生が自信を持って英語の4技能を使う力を身につけることである。		
基礎英語Ⅳ	This is a continuation of the high-level integrated skills course, which combines reading and writing skills with listening and speaking. The class is designed to allow students to gain confidence in their use of all four English skills. 本講義は、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能全ての向上を目指す特級コースである。本講義の目的は、受講学生が自信を持って英語の4技能を使う力を身につけることである。			
共通教養科目 (C2)	総合知	環境と人間	環境を人間が意味づけることは、人為の<起発>点に位置しつつ、人為の全幅にわたらくこだま>することである。詩人オクタビオ・パスが「リズムは拍ではない—それは世界のヴィジョンである」と語るときの<リズム>が、ここでの<起発>と<こだま>に当たる。その意味づけ同時に行為する事態には、自然と人為とのそのつどあらたな調和への試行とも呼べる人間的くり返しが現われている、とも語りうる。本授業では、そのくり返しを、環境思想、文学、生物行動学、諸工学、環境地理学、認知心理学、生活環境制作等においてみていく。	
		現代女性と身体	私たちは与えられた性を生きているが、疑問を抱く者もいることは理解されはじめた。この授業では、自らの身体を通して、社会を再度見つめなおすことを行う。生む可能性・育てる可能性とその選択権をもった女性自身が、自らの性に心を払うことで、自らの生き方を考えることにつながる。同時に、共に生き、共に育てる可能性のある男性のことも理解することで、人として生きる権利の大切さを学ぶ。さらに、人として生きる権利、人権を通して、暴力は差別であり、差別は暴力であることを認識し、暴力のない世界をめざす心のあり方を学ぶ。	隔年

共通 教養 科目 (C2)	総合 知	現代ジェンダー考	ジェンダーということばを耳にする機会は増えているが、その定義は不確かなままである。単に、男女二分法ではないことをふまえて、ジェンダー意識は成長過程の中で植えつけられるものである現実から、ジェンダーとは何を意味するのかについて、さまざまな視点から考察をしていく。とくに、人は支えあって生きるものであるという認識から、人という個の単位を振り返りながら、多様化された現代社会において個が抱えている問題点を探る。	隔年
		ヒロシマ	原爆投下から半世紀以上が経過し、原爆が投下されたという事実と「ヒロシマ」との懸隔は広がりつつある。「ヒロシマ」についての正確な認識し、「ヒロシマ」に関わる未決の諸問題とその影響を理解することは、「ヒロシマ」に還元されない原爆投下の事実を継承するためにも重要な作業となろう。本講義では、広島史の中に「ヒロシマ」を位置づけ、原爆投下の経緯とその影響について幅広く検討する。	
		ボランティア論Ⅰ	1990年代以降、ボランティアへの関心が高まり、ボランティアが日常的な用語として定着してきた。精神的なボランティア論があったとしても、ボランティア現場での具体的な振る舞いや制度設計などについての議論は少ない。本講義では、ボランティアについての概念や具体的なボランティアのあり方について討論形式を取り入れて検討し、ボランティアについて語りボランティアとして活躍できるようになることを目指す。	
		ボランティア論Ⅱ	ボランティア論Ⅰを受けて、ボランティア活動の企画運営について実践的に学ぶ。企画運営力をボランティア・リーダーの資質と位置づけ、具体的なボランティア活動の実施を目指す。	
		キリスト教の時間Ⅰ	本学の建学の精神に関わる独自の教育プログラムとして伝統的に持たれてきた「キリスト教の時間」（毎週火曜日13:00～13:45・前期15回）への出席を通して、平和・人権・女性などに関する課題に触れ、独自の考察を進めることを目的とする。受講者には「キリスト教の時間」への出席とともに、テーマに沿った事前学習（予習）とレポート作成（復習）が求められる。前期のはじめと終わりに、イントロダクションと振り返りの時間を設け、受講者の出席を必須とする。「キリスト教の時間」の各回内容については別途予定表において定める。	
		キリスト教の時間Ⅱ	本学の建学の精神に関わる独自の教育プログラムとして伝統的に持たれてきた「キリスト教の時間」（毎週火曜日13:00～13:45・後期15回）への出席を通して、平和・人権・女性などに関する課題に触れ、独自の考察を進めることを目的とする。受講者には「キリスト教の時間」への出席とともに、テーマに沿った事前学習（予習）とレポート作成（復習）が求められる。後期のはじめと終わりに、イントロダクションと振り返りの時間を設け、受講者の出席を必須とする。「キリスト教の時間」の各回内容については別途予定表において定める。	
		特別講義Ⅰ	教養大学として学生に学んでほしいテーマを設定し、特別講師を招聘し、集中講義の形で話題を提供する。	集中
		特別講義Ⅱ	教養大学として学生に学んでほしいテーマを設定し、特別講師を招聘し、集中講義の形で話題を提供する。	集中
		特別セミナーⅠ	持論的なテーマについて、特別講師を招聘し、少人数のセミナー形式で議論する。	集中
		特別セミナーⅡ	持論的なテーマについて、特別講師を招聘し、少人数のセミナー形式で議論する。	集中
		教育学入門	今日の日本の学校教育が抱えている諸問題に関して、規範学的、歴史的、社会的、比較教育学な観点からアプローチする。このことを通じて自らの教育経験を客観的に捉える眼を養うことを目的とする。	
		心理学入門	これまでに心理学で明らかにされた研究成果を紹介しながら、人間の心とは何かについて考察する。講義では、知覚、学習、記憶、思考・言語、脳と行動を中心にあり、私たちが自分を取りまく環境をどのように認知し、どのように判断し、行動するのかという認知のメカニズムについて考える。また、パーソナリティ形成、社会的行動などを通して、自然環境や社会的環境への適応のメカニズムについても考察する。以上の講義内容を通じて心理学的な人間観に触れながら、自己理解を深めてほしい。	
		哲学入門	現代の私たちが直面している様々な問題（環境問題や生命倫理の問題など）は、技術的な進歩によって解決できるものばかりではなく、その内に価値観の対立を含んでいることがほとんどである。価値観の対立のポイントはどこにあるのか、また、思想的にはどのような考えに分類できるのか、分かりやすい形で取り出し、共に考えることで、解決策を探っていく。本授業の目的は、そうした具体的な問題について考えつつ、「自分とは異なる他者を持つ者（他者）」が存在することを自覚し、自分とは異なる他者との相互理解やコミュニケーションの可能性を考えていくことにある。	
		キリスト教Ⅰ	翻訳は、「WATER」という単語を「水」と訳して済むものではありません。原文に対する解釈を抜きにして翻訳することは、事実上不可能です。また、翻訳にはそれを取りまく文化や時代という背景が反映されます。この授業では、ヘブライ語やギリシャ語という古代語で書かれた聖書本文が、どのように各国語に翻訳されていったのかという歴史を学ぶことや、現代の様々な翻訳の試みに触れることを通じて、「キリスト教文化」というテーマに接近することを試みます。	
		キリスト教Ⅱ	聖書は不思議な書物です。遠い昔に遠い国で著された書物ですが、今・ここを生きる私たちに、人間の生き方や世界について理解するためのカギを与えてくれる書物でもあります。それは聖書が「神」について記すことで、じつは普遍的な「人間の問題」を描いているからではないでしょうか。この授業では、聖書が示す人間観や、聖書が描く人間像を学ぶことを通じて、受講者が自分自身の人間観や世界観を確立する一歩とすることを目指します。	
生命倫理	生命および医療の倫理について、講義前半では、いわゆる「ヒポクラテスの誓い」や、インフォームドコンセントをはじめとした、基本的な事項について説明する。講義の後半では、脳死の問題のような人によって見解が分かれる問題や、安楽死など、実際の医療の現場で判断が迫られるような問題について、実際に生じた事例を参照することで考えてゆく。この際、異なる倫理的アプローチによって、各事例に対して、異なる結論が生じうる場合があることを示しつつ、受講者自身の立場を意識させるようにしたい。			
アメリカの文化と歴史	優しく英語を学びながら、アメリカの文化、社会、歴史について学ぶ。 1. Orientation 2. Coming to America① 3. Coming to America② 4. The American Revolution① 5. The American Revolution② 6. The Constitution① 7. The Constitution② 8. Growth and the Civil War① 9. Growth and the Civil War② 10. Twentieth Century① 11. Twentieth Century② 12. Celebrations① 13. Celebrations② 14. The Legislature① 15. The Legislature②			
イギリスの文化と歴史	イギリスの代表的な文化について、その歴史をたどりながら紹介していく。イギリス文化についての基礎的な知識を身につけることを目的とする。 第一週： イントロダクション イギリスという国/第二週： イギリスとローマ帝国/第三週： イギリスとキリスト教/第四週： イギリスと建築/第五週： イギリスと王室/第六週： イギリスと王室/第七週： イギリスと戦争・外交/第八週： イギリスと戦争・外交/第九週： イギリスの階級/第十週： イギリスの階級/第十一週： イギリスの伝統行事/第十二週： イギリスの伝統行事/第十三週： イギリスの家庭/第十四週： イギリスの食べ物・飲み物/第十五週： その他、まとめ			

共通教養科目(C2)	人文科学知	ヨーロッパと文化	ヨーロッパの形成は中世にその淵源を求めることができるが、その構成要素としてのヘレニズム(ギリシア的なるもの)ヘブライズム(キリスト教)及びゲルマン的精神はいかにして作りあげられ、近代・現代を通じて発展していったのか文化史的視点から考察する。	
		歴史学のみかたⅠ	「歴史」と聞くと即座に「苦手」と答える人は多い。大学入学までの歴史は固有名詞と年号の暗記が中心になりがちである。暗記科目とみなされてしまうのも、苦手意識もそれが原因だろう。一方で、最近では「歴史」なる言葉もある。まずは、苦手意識を除き、歴史を憶えるのではなく、学び、知ることの楽しさを見出すことを目的とする。歴史は物事の見方である。そのため、この国の成り立ちを通時的にたどるのではなく、個別の事象を結びつけ、時代を行き来しながら見てゆく。	
		歴史学のみかたⅡ	日常生活の中で、私たちは漢字を使い、食事の際に茶を飲むが、これらは中国から伝来したものである。アジアでは古くから、地域間において様々な形の関係性(移住、貿易、戦争など)が形成されてきた。言い換えると、アジアの歴史は、「海と陸の交流史」といえる。そこで本講義では、中国を中心とする東アジア地域とインド洋と東シナ海の間に存在し古くから重要な交通路として栄えた東南アジア地域とを対象に、①「帝国」、②「ヒトやモノの交流」、③「西方」からの影響、という3つの視点から、アジアの歴史的特徴を検討する。	
		歴史学のみかたⅢ	西洋史の立場から歴史の見方について考察する。わたくしたちが歴史を学ぶことは、どのような意味があるのか。その前提として歴史学とはいかなる学問としてわたくしたちの前にあるのか、その探究の方法とは、対象とはということについて考えてみたい。	
		色彩情報論	この科目では、講義と講義から得た知識を確認するための実習を合わせて行う。まず、色を情報の一つとして捉えその色のはたらきと色を認識するために光の物理的な性質、目のしくみ、照明、混色について概略を講義する。次に、色の三属性(色相、明度、彩度)を基に、PCCSのヒュートーンシステムを理解する。また、色の心理的効果、視覚効果、知覚的効果を講義と実習により理解する。さらに、配色調和という観点からのファッション、インテリア、環境での配色を通して、色を情報として効果的に利用できる力を獲得する。	講義 2回×90分、13回×45分 実習 13回×45分
		音楽の世界	古今東西の様々な種類の音楽を聴き、音楽の特徴を「耳」から捉えることによって、様々な音楽様式についての感覚を養う。同時に、生きた音楽に親しみつつ、音楽の起源や、音楽が形成され発展していく過程についても学ぶ。実際に、演奏・創作という体験も交え、幅広い観点から音楽を捉える。また、身の回りの「音」にも耳を澄まし、意識して「聴く」という行為を通して、日常の生活環境や文化についても考察する。これらの経験をもとに、現代社会における多様な芸術や文化の意味について根本から問い、探究していく。	
		日本美術史	日本美術の大づかみな流れをたどるとともに、その特質を、前近代においては中国・朝鮮半島の美術との、近代以降においては欧米をはじめ世界の美術との対比においてつかむ。そもそも、高校までに学ぶ美術も、世間で話題となる展覧会で接する機会が多いのも、多くは西洋美術である。しかし、この国には、美しいものを愛する長い伝統がある。その歴史を知り、あわせて日本美術史の底流としての日本人の美意識について見てゆく。	
		西洋美術史	西洋美術史における時代様式の特徴を感覚的に把握し、大きな枠組みと歴史・文化的な背景をひととおり理解できることを目的とする。ヨーロッパとその源流となった地中海諸文明(エジプト、エーゲ海、ギリシア、ローマなど)を扱う。ヨーロッパでは、ギリシア・ローマの古典美術が繰り返し参照されたが、それへの反発である反古典主義の動きもあり、このふたつの大きな流れを中心に美術史を理解することができることを特に強調したい。	
		American Culture and History	The purpose of this course is to acquaint students with the culture, history and diverse inhabitants of the United States through extensive reading. Students will improve their understanding of American history, as well as their abilities in reading, listening, speaking, and critical thinking. 本講義は、多読をとおりアメリカ合衆国の文化、歴史、多民族性の理解を目的とする。受講学生は、アメリカの歴史の理解と同様に、英語のリーディング、リスニング、スピーキングの能力、また批評的考察力を培う。	
		British Culture and History	The purpose of this course is for students to gain a greater understanding of British culture in the modern day, and to see how history has shaped British culture. Themes from major British films will be used to introduce important aspects of culture in Britain. 本講義の目的は、受講学生の現代のイギリス文化への深い理解を養い、いかにイギリスの歴史がその文化を形成しているのか、ということ考察することである。主要なイギリス映画からテーマを選び、イギリスにおける重要な文化的側面を紹介する。	
		European Culture and History	European history began with Ancient Greek and Roman civilizations, which formed the basis of Western Civilization and European culture. This course will follow historical eras from ancient to modern times, and students will make Powerpoint presentations to the class on their selected topics. ヨーロッパ史は、西洋文明やヨーロッパ文化の基礎を形成する、古代ギリシャ、ローマ文明から始まった。本講義は、古代から現代にわたる歴史的背景を探り、受講学生は、自分たちの選択した主題についてのプレゼンテーションを授業中パワーポイントを用いて行う。	
		American literature and Thought	The purpose of this course is to acquaint students with the literature and thought of the United States by reading and discussing works of cultural, historical, and literary significance produced by a wide variety of American writers. 本講義の目的は、多様なアメリカ作家が描いた、文化的、歴史的、文学的意義の高い作品を講読し、さらに議論することで、受講学生がアメリカ合衆国の文学や思想を理解することである。	
Asian and African Literature and Thought	This course will use short stories from Asia and Africa to illuminate general themes and social problems. Students will be expected to read extensively, think critically, and also express their thoughts in well-constructed written reports. 本講義は一般的なテーマや社会問題の解明を試みるため、アジアやアフリカの短編小説を扱う。受講学生は、テキストの徹底的な精読や、批判的思考力を持って、よくまとまったレポートで自身の考えを表現する技術の向上を目指す。			
European Literature and Thought	This is a course in the classic works of European literature and thought. Excerpts from major works will be studied for content, style and theme, from The Bible to contemporary modernism. Students will read extensively, think critically, and also express their thoughts in written reports. 本講義では、ヨーロッパの文学や思想の古典作品を扱う。聖書から現代のモダニズムにわたる主要な作品の抜粋を、内容、形式、主題について学ぶ。受講学生はテキストを精読し、批評的に考え、レポートを提出する必要がある。			

人文科学知	日本文学入門	メジャー選択の目安となる日本文学・日本文化についての基本的な授業である。古典文学を中心とするが、近現代文学作品も視野に入れる。入門に相応しい作品を取り上げ、その作品・作家の特質を考えるとともに、古典文学作品の現代的意味を考える。日本文学を読み、味わうことの習慣化を図りたい。文学作品を読むことは、作家の人生観を知るだけでなく、読み解く中で、自身の生き方をも考えさせられる。読むという行為を通して自身の人生観を培う。	
	アメリカ文学史	現代アメリカ文学(アメリカ自然主義以降)の流れと作家、作品の内容、カテゴリ一別の特徴などを、ビデオを見たり、作品を一部鑑賞したり、調査したり、講義を聞いたりしながら、学ぶ。 1. Orientation 2. 自然主義 3. モダニズムの始まり 3. Lost Generation 5. 危機の文学 6. 南部文学① 7. 南部文学② 8. 1950年代の文学(戦争文学) 9. Beat Generation 10. 黒人文学① 11. 黒人文学② 12. ユダヤ系アメリカ人文学 13. Post Modernism① 14. Post Modernism② 15. 復習とレポートの説明	
	イギリス文学史	イギリスにおける代表的な文学作品を、時代背景や文化と絡めながら歴史的に考察し、イギリスにおける文学・文化の特質を考える。できる限り実際のテキストに触れ、それぞれの特徴を把握する。範囲としては、古英語から現代の文学を扱う。授業計画は以下の通り。 第1回文学史のイデオロギー、第2回古英語の時代、第3回中英語の時代、第4回ルネサンスⅠ、第5回ルネサンスⅡ、第6回17世紀前半、第7回17世紀後半、第8回18世紀前半、第9回18世紀後半、第10回19世紀初期、第11回19世紀中期、第12回19世紀後半、第13回20世紀前半、第14回20世紀後半、第15回 現代	
	日本語学の視点	この授業では、日本語学という学問がどのような学問なのかについての紹介を通して、日本語を学ぶことのおもしろさや社会的意義を伝えることを主たる目的としている。一口に日本語を学ぶ、研究するといっても、どういった時代の日本語を扱うのか、話し言葉か書き言葉か、日本語の音声なのか文法なのか意味なのかなど、学びの視点は多様である。どのような視点から日本語を扱うことができるのかを把握し、常日ごろから様々な角度から日本語に関心を持ってもらえれば幸いである。	
	英語学の視点	この授業は英語学とはどのような学問領域であるかをみなさんに紹介することを目的とします。英語学は英語を対象とした言語学ですが、みなさんは「言語学」と聞いてどんなことを研究する学問だと思いますか？古代文字の解説でしょうか？もちろんそれも言語学の対象ですが、もっと身近な、身の回りで普通に話されている言葉の仕組みを探ることも言語学の重要な目的です。この授業では、みなさんが今までに学習してきた英語の仕組みを、みなさんが普段話している日本語と比べることによって明らかにしていきたいと思っています。	
	比較言語	本科目は、言語学的に日本語と英語を比較することによって対照言語学の方法論を講義形式で解説する。1年次生向けの教養科目という科目の位置づけを考慮して、まずはこれまで文法学習をとおして言語学的な特徴を学んできた英語を取り上げ、その仕組みに目を向けられるようにする。さらに、ふだん文法を意識せず用いている日本語との対応関係に注目し、それぞれの言語の類似点・相差点について疑問をもてるようにする。最終的には、その疑問点を解決することのおもしろさがわかるようになるのが目標である。	
社会科学知	女性学入門	女性自身が自分らしくありたい、自分らしく生きたいと願っても、自分では選ぶことのできない属性である性別によって、自己選択・自己決定を強いられることや可能性に挑戦する機会すら奪われるような事例がある。しかしながら、そのことに気づかないまま、あるいは気づきながらもいたし方のないことと理解し、我慢しながら生活を続けている私たちがいる。身の回りで生じている問題をジェンダーの視点でみつめながら、男女共同参画社会のあり方を考えたい。	
	平和学入門	人はひとりでは生きていけないからこそ、お互いを理解し、お互いを尊敬しながら共に生きることができる社会、共生社会の実現をめざそうとする。私たちが暮らす社会を一人ひとりが自分らしく生きることができる社会へと、自ら主体となって変革する力となることができれば、幸いである。平和な社会とは、戦争や暴力がない状態をさすだけではなく、飢えや貧困、社会的抑圧や差別などの「構造的暴力」が克服された社会ではないだろうか。 私たちは日本社会に生き、国際社会に生きるものとして、今日の日本社会や国際社会の現状と課題についてどれだけのことを知らされているだろうか。あるいは、知ろうとしてきただろうか。開発途上国に暮らす子どもたちや女性に学ぶ視点から、開発途上国の低発展性の背景や要因を探るとともに、日本に暮らす私たちの生き方を問いなおしてみたい。国際平和と人権の確立をめざして、地球的視野で考え地域社会に貢献する社会変革の担い手としての自覚を促したい。	
	社会学入門	社会学と一口に言っても、対象も方法も多岐にわたる。この授業では、ウェーバーやデュルケム、パソンズなどといった基礎的な人物と彼らが論じた基礎概念に絞って概説する。その際、一方的な説明に終始するのではなく、具体的な事例と発問を通して物事の追究を促す。授業の目的として以下の2つが挙げられる。まず、学史に沿った構成にすることで、社会学の基礎概念と問題意識(何を対象とした、どのような学問なのか)の理解を目指す。次に、具体的な事例を通して、自分の価値観や日常生活を相対化する力を身につける。様々な道具立てを用いて「あたり前」に目を向ける作業は、今後の勉学や社会生活でも活かされるだろう。	
	現代社会と人権	この授業は、個々の人間存在にとっては生来かつ固有の権利であり、人類全体にとっては普遍的価値である人権の、(1)基本的概念について学ぶこと、(2)思想的発達の歴史について学ぶこと、(3)人権侵害や差別克服の実例について学ぶこと、(4)現代社会におけるさまざまな人権問題(戦争と暴力、女性差別、性的少数者への差別、子どもと人権、同和問題、外国人差別、情報化社会と人権、病気と差別、経済格差と自己疎外、等)について学ぶこと、を通じて受講者それぞれが人権への関心を深めるとともに高い人権意識を涵養することを目的とする。	
	地理学概論	現代社会は空間の時代であると言っても過言ではない。グローバル化が進展するとされる一方で、地域分権やコミュニティの再生などが喧伝される。これまで知識の学としてみられていた地理学は、改めて現代社会における空間や地域の学として期待されている。本講義では、位置、場所(空間)、スケール、交通、地域などのキーワードを手がかりとして、地理学的な考え方について概説したい。	
	開発と文化	一般的に「開発」はインフラ整備や経済開発と捉えられる傾向にありますが、昨今は、「豊かな」社会の開発・発展においては「文化」的要素も重要であるとの見方が起こっています。本講義では、日本国内だけでなく東アジアや南アジア等において、地域の文化や歴史、暮らしの知恵等が「地域で生きぬく」ための精神的・実践的な支えとなることを再評価している人々の暮らしを事例としてとりあげながら、「開発」とはなにか、「文化」とはなにか、そして「豊かさ」とはなにかというテーマを共に考えていきます。	隔年
民俗学(民族と社会)	本講義では、日本民俗学における代表的な研究者の研究対象と研究方法を紹介し、研究史を概観する。近年の研究動向をも紹介し、現代日本における民俗学の可能性と問題点を明らかにする。具体的なフィールドとして私たちの暮らし「安芸」を取り上げ、生業、信仰、民俗芸能などを周辺地域と比較し、「安芸」の民俗の特徴を明らかにする。その上で、当該地域の人生儀礼、年中行事、民俗芸能から具体的事例を提示し、民俗的理解とその置かれている状況の理解を目指す。		

共通教養科目(C2)

共通教養科目 (C2)	社会科学知	経済学入門	本授業では、経済学をはじめて学ぶ学生を対象に、経済学的な考え方の基本を講義する。この授業は、経済学の基本的概念を理解し、経済学的思考を学び、新聞やテレビの経済ニュースなどが理解できる経済学の考え方を身に付けることを目的とする。授業では、分かりやすい経済学入門書を利用し、マイクロ経済学（個々の家計や企業がどのように意思決定を行ない、それらが相互にどのように関わらるかを研究する学問）やマクロ経済学（個別の経済活動を集計した一国経済全体を扱う学問）の内容を学びつつ、その知識を応用し実社会の経済問題について考察してみることを目指していく。	
		経営学総論	現代社会における企業やビジネス組織の仕組みやマネジメントに関する知識を体系的に学習する。また、働くことの意義や意味について学び、自らの職業観の醸成をめざす。	
		Area Studies 1 (America)	This course is designed to acquaint students with American culture, history, and society through extensive reading of a wide variety of different works. By participating actively in the lessons, students will increase their vocabulary and their familiarity with English idioms and phrasing. 本講義の目的は、多種多様な作品の多読をとおして、アメリカの文化、歴史、社会を理解することである。授業に積極的に参加することによって、受講学生は英語の慣用語や語彙力を増やすことができる。	
		Area Studies 2 (Asia and Africa)	This course will introduce Asia and Africa through films, chosen for particular themes as well as providing visual background information about the various countries. Students will discuss the themes, gain insight into Asian and African countries, and be encouraged to make cross-cultural comparisons. 本講義は、様々な国の背景を視覚的な教材を用いて情報を提供し、また特定のテーマを扱った映画を題材とし、アジアやアフリカを学ぶことを目的とする。受講学生は、各テーマを議論し、アジアやアフリカに関する洞察力を身に付け、異文化間を比較する力を培う。	
		Area Studies 3 (Europe)	This course is designed to acquaint students with European culture, history, geography, and current affairs through presentations. Students in this class will improve their research, presentation, and speaking skills as they research and present on a variety of topics relating to Europe. 本講義の目的は、受講学生のプレゼンテーションをとおして、ヨーロッパの文化、歴史、地理、時事問題を理解することである。学生は本講義において、ヨーロッパに関する様々な主題についてのリサーチ、プレゼンテーションを行うため、リサーチ、プレゼンテーション、スピーキングの技術を向上することができる。	
		金融論	本講義の目的は、金融の基礎知識を学び、現実の経済社会における金融の役割を理解することにある。学期の前半では金融市場のメカニズムおよび銀行などの金融機関の行動について学習する。ここでは、金利機能などの理論的側面と共に、実際の銀行などによる企業金融、プロジェクト・ファイナンスなどについても学習する。また、金融市場で重要な問題となる情報の非対称性や金融制度の問題についても検討し、金融部門に対する健全性規制の在り方について議論する。学期の後半では、貨幣の需要・供給のメカニズムや金融政策について学習する。特に、今日のグローバル化した経済の下での金融・財政政策のあり方について理解を深める。	
		国際金融論	本講義では、為替レート、国際収支、国際金融市場、国際金融制度などの問題を学ぶ。学期の前半では、為替レートや国際収支表などに関する基礎的な知識を学ぶ。為替レートについては、変動相場制や固定相場制のもとで短期的・長期的にどのような要因によって為替が決定されるのかを学習する。次に国際収支表の枠組みを学び、経常収支や資本・金融収支の意味を理解する。これらをもとに開放マクロ経済政策および国際金融政策を議論する。学期の後半では、国際金融市場における金融取引、国際資本移動などについては学び、グローバル化した国際金融における諸問題を検討する。さらにIMF、世界銀行などの国際金融制度についても学習する。	
		経理実務	企業などのビジネス組織の規模や業種、業態を問わず、会社法などの法律やルールに則り、経済取引によってもたらされる資産・負債などの増減を管理し、一定期間内の収益・費用を記録するための貴重方式である帳簿をつけ、財務諸表を作成することは組織として当然のこととされている。この帳簿の意味を理解し、そこに記された数字の意味や流れを理解することは、ビジネスワーカーの基本的能力の一つである。このような経理実務の基本となる簿記の理解と経理業務の全体を把握し、会計学への糸口とする。	
		ビジネス実務演習 I	ビジネス活動とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業などのビジネス組織における積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性、人間関係調整の重要性について考察を深めることを目的とする。また、クリエイティブなビジネス・ワーカーとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」を目標とする。 「ビジネス実務士」「上級ビジネス実務士」の資格取得に向けた必修科目である。	
		プレゼンテーション概論	現代社会における企業などのビジネス組織において、ビジネスワーカーに必要とされる技能の一つにプレゼンテーションがある。単に情報機器を使用したものをプレゼンテーションとする傾向に対して警鐘を鳴らし、本来のプレゼンテーションのあり方、それに関する知識や技法についての理論を体系的に学習することを目的とする。また、実践したプレゼンテーションには必ず評価がついてくることから、PDCAサイクルから評価の意味を考察し、フィードバックの重要性を理解する。 「プレゼンテーション実務士」の称号取得に向けた必修科目である。	
インターンシップ I	ビジネス活動とそこで働く人びとのビジネスワークについて、「インターンシップ（就業体験実習）」を通じて理解を深め、自らの職業意識の形成を図るとともに、職業適性、職業生活設計、職業選択について考える契機とする。事前学習として、ビジネス組織についての理解、ビジネス・コミュニケーションの基本について理解を深め、ビジネス・ワーカーとして求められる実務能力開発やキャリア・プランニングを探索する契機とする。 受講生は、夏期休業中に1～3週間程度の期間で、本学独自の研修先での「インターンシップ」に参加すること、ならびに事後学習としての「研修報告」（研修レポート提出と報告会参加・発表）が義務づけられる。			
Social Anthropology	Culture forms the background to all our behavior as individuals and society. It has diverse forms and expressions. It is inherited and learned. It can be changed or remain permanent. In this discussion course, students will consider aspects of culture that control their lives. 文化とは、我々全ての個人として、集団としての態度の基盤を形成する。文化によって、姿勢や表現は異なる。それは継承され記憶される。それは変化したり、永遠にそのまま残る。本講義では議論をとおして、受講学生が自分たち自身の生活に強くかかわっている文化を理解することを目的とする。			

社会 科学 知	Social Psychology	The purpose of this course is for students to consider aspects of psychology that are relevant to all humans. However, students will think about how different cultures may look at these aspects of social psychology in different ways. Students will learn not only social psychology, but also improve their presentation skills in this course. 本講義の目的は、全人類にかかわる心理学の側面を考察することである。受講学生は、異なった文化が異なった方法でいかに社会的心理学の側面において見受けられるか、ということを検討する。学生は、本講義において社会心理学を学ぶだけでなく、プレゼンテーションの技術を培うことができる。	
	World Economy	The purpose of this course is for students to gain insights into the world economy, and how it affects people in different parts of the globe. The course covers the role of governments, institutions and individuals in the world economy. Students will also improve their presentation skills in English. 本講義の目的は、世界経済に対する洞察力を養い、いかに世界経済が世界のあらゆる場所に影響しているか、ということを理解する。本講義は、世界経済において、政府、慣習、個人の役割を網羅する。学生は、英語によるプレゼンテーションの技術の向上を目指す。	
	日本国憲法	人権保障の砦としての憲法の役割を理解してもらえらる講義としたい。日本国憲法の規定する国民主権の内容、伝統的な基本的人権の種類と内容、新しい人権をめぐる議論について歴史的な経緯を踏まえて講義する。基本的人権の保障に関する主要な判例を取り上げる。日本国憲法の制度化する国家の統治構造（国会・内閣・裁判所）を解説する（その際、国会法、内閣法、裁判所法、国家行政組織法等にも言及する）。地方自治・地方分権に関する現在の我が国の動向について講義する。	
	ビジネス法務	企業などのビジネス組織は、法令などを遵守できる能力のあるビジネスワーカーを求めている。不祥事が発生し、刑事責任や損害賠償などの民事責任、社会からも厳しい批判を受ける事例が跡を絶たない。生産者・消費者・取引先企業など、さまざまな利害関係をもつ人々の立場や利益を無視することは許されず、業務のリスクを察知し、法的にチェックし、問題点を解決に導くコンプライアンス能力が必要とされている。ビジネス活動の基礎となる法律知識と法律的なものの考え方を身につけ、「ビジネス法務検定試験」チャレンジへの手がかりとする。	
	公共性と権力	現代政治の前提となっている主権国家とこれを基礎とする公共空間の編成はヨーロッパで形成された。本講義では歴史的・思想的観点からヨーロッパにおける主権、市民と公共性をはじめとする諸観念の形成を検討するとともに、あわせて今日転換期を迎えている主権国家と公共性のシステムの変容の行く末を展望する。	
	政治学 I	日々伝えられる政治ニュースは、断片的な経過であることが多く、熟考を経ないまま通りすぎてしまいがちである。政治への関心を開花させる第一歩は、多量の情報を読み取る力を身につけることである。そのためには、基礎知識を習得することが欠かせない。授業では、①権力・自由・平等・民主主義といった政治理論を取り上げた後に、②政治制度や政策決定過程といった政治の仕組みを概説し、③現代社会における時論的なテーマを設定して考察する。到達目標は、現実の政治状況を独力で観察できるようになることと、身近な問題が政治を通じて解決される見通しを自分なりに描けるようになること、この二点である。	
	政治学 II (含国際政治学)	国際社会における出来事は、「遠い空の下の話」として、関心の外に置かれてしまうことが多い。しかし、現代に生きる我々の日常は、政治・経済・文化のあらゆる面において、国際的な動きと無関係ではいられなくなっている。同時に、戦後、飛躍的な経済成長を遂げた日本は、国際舞台で様々な貢献を迫られてもいる。授業では、国際政治の基礎概念・歴史・仕組みを幅広く学習し、冷戦後の世界状況を理解することが第一の目標となる。その際、日本の位置確認を意識的におこなうよう留意する。こうして、国際社会の動向を独力で分析し、自分の問題として考察できるようになることが、第二の目標である。	
	国際関係論	この講義は、現代国際関係を成り立たせているものは何か、今まで現代国際関係はどのような変化を遂げて来たのかを、歴史的に解き明かし、受講者たちが国際関係というものの輪郭を捉えるための基礎的な知識を提供することで、国際社会で起きる様々な出来事を受講者自らの手で把握する力を養うことを目的とする授業である。したがって、この講義は、17世紀以降、近代国際関係が成立するまでの歴史的背景を解説し、国際関係における様々な理論を考察することで、受講者の国際社会に関する理解を深めることを試みる。	
	ポストコロニアリズム/ナショナリズム	この授業は国際関係論を受講した人を対象とする。この授業ではまず、「歴史」の生成過程を概観したうえで、「今日」を読み解く一つの材料として「歴史」を捉え、近代国民国家の成立と現在に至るまでの変容を具体的に考察する。近代市民革命の展開とともに、従来の身分制的支配関係が崩れ、商品交換関係を媒介とする自由で平等な近代市民社会をいち早く熟させた近代国民国家は、自国の経済規模に似合う市場を求めて徐々に膨張を開始した。この隊列に新たに参加しようとする新興工業国との間に二度にわたる大戦を経験した「大国」間のパワー・ポリティクスは現在変わったのか。自国だけでは自立した外交政策をとり得ない「小国」の視点から近・現代史を追っていく。	
	グローバル化と地域	今、グローバル化は我々の生活に浸透しています。ゆえに、地域社会を考える際にも、グローバル化の流れに着目することが不可避となっています。グローバル化に収奪される地域（ローカル）ではない、ローカルがローカルとして生きていくことのできるグローバルな社会は可能なのでしょうか。本講義では、“Act Locally, Think Globally” という視点と、主体的に地域がグローバルにつながっていくという意味での “Think Locally, Act Globally” という視点の双方から地域のあり方について考えていきます。	隔年
自然 科学 知	数学入門	本講義では情報科学への応用を考慮しつつ最低限の数学の基礎知識の習得を目指す。内容：複素平面の基本、複素数と平面図形、数列と関数の極限～無限級数、数列と関数の極限～漸化式と数列の極限、数列と関数の極限～関数の基本、数列と関数の極限～関数の極限、行列と一次変換～ベクトルの復習、行列と一次変換～行列の基本、行列と一次変換～行列と一次変換、行列と一次変換～行列のn乗計算、確率分布～条件確率(1)、確率分布～条件確率(2)、確率分布など	
	生活の中の数学	実社会のできごとを数理的に捉える。身の回りには、沢山の数学が潜んでいます。動きの中には解析学が、形の中には幾何学が、規則的なパターンには代数学が、…といった具合です。本授業では、それらの数学の一端を愉しみます。一見すると、数学とあまり関係ないようなことを話題に取り上げていきます。意外な話題から始まり、最後には数学の現実的な価値や有用性を感じ得るのが本授業の目的です。	
	物理学入門	物理学とは自然現象を科学的に探究する学問である。この科目では、物理現象を数式で表現するという科学的な物の見方を理解し、物理現象を法則から予測するために必要な知識を修得する。まず、基礎知識として物理量と単位、有効数字の概念を学ぶ。次に、物理での力の定義を始めとして、つりあいとモーメント、物体の運動（等速、等加速度運動、単振動）をどのように数式で表現するか理解する。さらに、物理での仕事の定義および力学的エネルギーの保存、温度と熱の関係、電気、波動という基礎的な物理現象について講義する。	
	情報科学入門	情報化社会における情報科学について、基礎から学習し情報化社会に生きる社会人としての常識を身に付けることを目的とする。「情報とはなにか」から「情報技術とはなにか」そして、「コンピュータの基礎」から「ネットワークの基礎」までを学習し、情報科社会で生きることについて学習する。	

共通 教養 科目 (C2)	自然 科学 知	統計学入門	「数学入門」を履修済みであることが望ましい。特に数列の知識を必要とする。統計理論に基づくデータ解析は、農学・工学・理学等の理系の分野はもとより、心理学・経済学・社会学等の文科系の分野でも予測、評価、管理等の目的で広く利用されている。本講義はデータ解析の場面で利用される基本的な統計的手法・考え方について学習するための統計入門コースである。講義では、得られた標本データを解析・整理・要約するための記述統計学、その解析結果から母集団における状況を推測するための推測統計学について、その基礎的内容を具体例に基づいて解説する。	
		情報管理論 (含情報処理)	情報社会において、理性的に自立した市民として良い情報発信者となることは必要である。本講義では、情報とはなにか、その概念、価値、深化についてまず明らかにし、情報の意味づけ(情報処理)について考える。さらに、会社、工場、家庭での情報処理システムについて解説する。情報処理の実践では品質という情報管理に用いられるABC分析を実際に行い、情報管理の必要性を理解する。その上で、ハード面の進歩、情報システムの変遷を通して複雑な目的で情報を管理する現代社会の姿について情報システムの立場から概観する。	
		家庭電気・機械	電子レンジ、薄型テレビ、IH調理機器など電化製品は次々と開発され、またガソリン車から電気自動車へと家庭で使われる機械は進化を始めている。この科目では、これらの電気機器や機械を適切に利用し、安全かつ能率的にその機能を発揮させるために必要な電磁気、エネルギー変換、材料、機械の知識を修得する。さらに、電力を利用する際のエネルギー消費について、日本の現状と将来への予測を通して環境負荷や省エネルギーに配慮した生活への意識を深める。また、学習指導案を作成し、技術・家庭及び家庭科の指導が行える力を養う。	講義8回×90分、7回×30分 実験5回×60分 実習2回×60分
		バイオサイエンス入門	近年になり、私たちの生活に密接に関わりを持つようになってきたバイオテクノロジーは、遺伝子の発見とその知識の応用から確立されてきた。「バイオテクノロジー入門」では、遺伝子の働きや個体発生メカニズムに焦点を当て、バイオテクノロジーの基礎となる知識を身に付ける。さらにこうした基礎的知識を応用して行われるクローン技術や遺伝子組換え技術といった近年発展してきたバイオ技術にも目を向け、今後益々発展するバイオテクノロジーを理解するための基礎的知識を身に付ける。	
		自然と環境	自然環境は、多種多様な生物により形作られ、その生物たちにより環境が維持されている。自然環境を理解するためには、個々の生物とともに、より大きな枠組である生態系の営みを理解する必要がある。「自然と環境」では、「1. 地球の歴史と生物の進化」、「2. 多様な生物とその分類」、「3. 生態系の特性」をテーマに、自然環境の成り立ちや自然環境の重要性を考え、自然環境の保護や環境保全に取り組むための基礎的知識を身に付ける。	
		生物学入門	共通教養科目・自然科学分野として、生物学の理解を深めることを目的とする。そもそも、生体とはどのような機能を有しているのかを知るきっかけとする。そのため、人体の構造、機能にかかわる分野を重点的に理解することを目的とする。また、遺伝子操作作物などを含む食糧問題と環境に関する基礎的知識の習得も図る。	
		健康科学 (含栄養学概論)	『食』をめぐる情報が氾濫する現代社会において、『食』について様々な角度から分析し評価を行うことで、『食』を選ぶ力・選食力を養うとともに、望ましい食事のあり方を学ぶ。あわせて食品の安全性に関する問題や地球環境に配慮した『食』の重要性も学習する。	
		衛生と安全	社会における食への関心は年々高まっている。また、その一方で食を取り巻く環境は、食品の多様化、流通の国際化とともに大きな変化を絶えず続けている。本授業は食が備える要件のうちで最も大切な食の安全に関する知識を習得することを主な目的として行う。具体的には、関連する法規や行政および食の安全にかかわる微生物学的、または理化学的な各項目を扱い、加えて衛生とヒトの健康という側面からも学ぶ。	
		Computer Science	Students will improve their understanding of computer science and technology by conducting research and writing reports. They will also become familiar with some of the research methods required to write academic papers. 受講学生は、リサーチを行い、レポートを書くことによって、コンピューター・サイエンスとテクノロジーの理解の向上を目指す。学生はまた、学術論文を書くために必要なリサーチの方法を学ぶことができる。	
		Nature and Environment	The purpose of this course is for students to study the relationship between humans and nature. Especially, students will learn about the impact that humans have on our environment. These are important issues and students will need to look critically in order to understand the problems, and suggest solutions. 本講義の目的は、人間と自然の関係を考察することである。受講学生は特に、人間が環境に与える衝撃を精査する。これらは重要課題であり、学生は問題を理解し、解決策を提示するために洞察力を持って観察する必要がある。	
		Health Science	The purpose of this course is for students to study about relevant issues in modern health science, and to understand that health is very much a global issue of great concern. Students will learn the important skill of how to express their ideas in well-constructed essays. 本講義の目的は、現在の健康科学に関する問題を考察し、健康が、強い関心が寄せられている世界的な課題事項であるということを理解する。受講学生は、よくまとまったエッセイで自分の意見を表現できる重要な技術を習得する。	
		化学	化学物質はどのようにできているのか、どうして化学反応が起こるのか、物質にはどのような状態と性質があるのかなど、生活に関係する化学的な事象について理解し、無機化学、有機化学の知識を習得する。まず、私たちを取り巻く物質を構成している原子・分子についての理解を深め、化学結合、酸塩基反応などの化学反応、物質の状態について知識を習得する。さらに、生体を構成している有機化合物についての基礎的知識を習得したうえで、生活から切り離すことができない油脂、炭水化物、たんぱく質などについて、科学的な目で見える能力を培い、応用へと発展する力を養うことを目的とする。	
科学と技術	自然科学の発展を歴史的にたどりながら、人類が対象としての自然をどのように認識してきたかをさぐる。特に現代科学・技術の源となる近代科学の特徴について、それを成立させた主要な理論、思想について基本的な知識を持つことが目指される。また、社会との関わりの中で科学・技術の営みを捉える視野を養うため、それぞれの時代の文化的背景や、科学活動に影響を与えた経済的、政治的要因なども適宜説明する。世界史および高校生程度の理系科目の理解があることが望ましいが、特に予備知識は問わない。			
都市と環境	人々が集まり、建物が密集する都市。多くの問題を抱えながらも都市は存在する。本講座では、都市に特有の環境を、水や大気、物質、エネルギー、生物などの自然科学的な視点で描きつつ、都市と農村、過去と現在の対比も行うことによって、周辺地域とのつながりの中で存在する都市の特徴を明らかにする。地球環境問題が大きく取り上げられるようになってからは、環境負荷の少ない持続的な都市も模索されている。それらも紹介しながら現代の都市を環境の側面からとらえ直し、これからの都市はどうあるべきか、新しい都市像を描いていきたい。			

自然科学知	生活空間デザイン論	生活する空間を設計する、とはどういうことなのか、そのことを建築家による生活空間設計の実践諸例を通してさまざまな考えていくこと、このことが本講義の目的です。本講義では、設計（conceptの創案→designの諸相の展開）の「根拠」への問いがみなさんに生まれはじめることを目指すとともに、その「根拠」への問いが現代社会を問う問いであるということ、現代思想の根とつよく関係する問いであるということを知るようになることも目指します。		
	感性デザイン論Ⅰ（ポップカルチャー）	ひとは個々の感性によって、ファッション、インテリア、プロダクト・デザイン等、生活にかかわるデザインを制作・選択している。この授業では、生活デザインを創造することや選択すること、ひとの感性との関係に着目し、特に日本の少女文化をたどるなかで、身近な生活デザインが、日本人女性の思考や生き方にもどのように関わってきたのかを学ぶ。	隔年	
	感性デザイン論Ⅱ（ファッション文化史）	現代社会において、過剰なまでに氾濫するモノを選択するうえで、デザインは大きな要素を占めている。現代だけでなくひとつはつねに新しいデザインを求めてきた。インテリア、ファッション等においても、デザインはわたしたち消費者を刺激する強い力といえる。この授業では私たちにとつとも身近なファッションデザインをとりあげ、特に若者の日常生活から発生・流行した「ストリート・ファッション」に注目し、戦後のファッションの歴史と、彼らの価値観の変化、および若者を取り巻く環境の影響について考察する。	隔年	
	生活とファッション	生活の中には様々な「ファッション」が渦巻いている。「ファッション」という言葉に包括される事象を細かく具体的に分類し、生活にどのような影響を与えているか、また、どういった目的で生活に利用しているか、されているかを理解する。特に、昨今マナーについての理解が希薄となっている若者層に「ファッション」という視点を通して、TPOに即した常識力を獲得させることを重視する。	隔年	
	食品加工・商品学	食生活に占める加工食品の割合は年々増加し、加工食品なしに食生活を営むことは、現代では不可能に近い。資源の有効利用や新食品素材の開発と共に、効果的な保存法についても積極的に考える必要がある。この講義では食品の加工原理や加工工程、保存法とその原理、食品の包装、加工食品の規格や表示などについて、農産、水産食品、嗜好品などの例を解説し、さらにさまざまな食品の保存法を紹介、最後に加工食品の商品化とその問題点を検討する。		
	調理学概論（含厨房機器・設備）	調理に必要な基礎知識を食品の調理性と調理操作の面を中心に科学的な裏付けとともに学び、人体に対する栄養、安全面への影響や評価についても理解することを目標とする。また、嗜好を満たしつつ栄養素の適切な摂取が可能な食事を実現していくための食事計画の基礎を学び、心身ともに健康で望ましい食生活の設計が実践できることを目指す。また、調理には非加熱操作と加熱操作があるが、それらの調理操作を理解したのち、調理設備、調理機器や調理に用いるエネルギー源などについて解説する。		
共通教養科目（C2）	言語知	外国語（初級英語Ⅰ）	The purpose of this course is for students to improve their English reading skills while gaining insight into aspects of society around the globe. Students will apply the knowledge gained from reading exercises to a variety of tasks using all four English skills. 本講義の目的は、世界の様々な社会の側面に対する洞察力を養い、英語の読解力の向上を目指すことである。受講学生は、英語の4技能全てを用いながら、読解演習から様々な課題をとらして得た知識の応用力を高める。	
		外国語（初級英語Ⅱ）	The purpose of this course is for students to continue to improve their English reading skills while gaining further insight into aspects of society around the globe. Students will apply the knowledge gained from reading exercises to a variety of tasks using all four English skills. 本講義の目的は、世界の様々な社会の側面に対する深い洞察力を養い、英語の読解力のさらなる向上を目指す。受講学生は、英語の4技能全てを用いながら、読解演習から様々な課題をとらして得た知識の応用力を高める。	
		外国語（初級独語Ⅰ）	ドイツ語の発音・基本的文法を学び、日常会話に必要な表現力、理解力（読む、書く、聴く、話す）を養う。また、単に語学的な面だけではなくドイツ語圏諸国に関することからビデオ、テープ等を使用して紹介してゆく。	
		外国語（初級独語Ⅱ）	ドイツ語の発音・基本的文法を学び、日常会話に必要な表現力、理解力（読む、書く、聴く、話す）を養う。また、単に語学的な面だけではなくドイツ語圏諸国に関することからビデオ、テープ等を使用して紹介してゆく。	
		外国語（初級仏語Ⅰ）	①これまで学んできた英語という外国語に加え、フランス語を学習することで、英語圏以外の国の存在を肌で感じ、世界の複数性を理解する。②フランス語4技能のもっとも初歩的な基礎を確実に学ぶことで、その後の興味に応じて、自分で学習できる力を身につける。③フランス語を学ぶことで、その根底にある文化・社会・芸術・歴史に親しみ、大学で学ぶさまざまな学問への関心の幅を広げると同時に、国際的な知識をより豊かなものにし、専門的研究のなかで上手に役立てる。	
		外国語（初級仏語Ⅱ）	①これまで学んできた英語という外国語に加え、フランス語を学習することで、英語圏以外の国の存在を肌で感じ、世界の複数性を理解する。②フランス語4技能のもっとも初歩的な基礎を確実に学ぶことで、その後の興味に応じて、自分で学習できる力を身につける。③フランス語を学ぶことで、その根底にある文化・社会・芸術・歴史に親しみ、大学で学ぶさまざまな学問への関心の幅を広げると同時に、国際的な知識をより豊かなものにし、専門的研究のなかで上手に役立てる。	
		外国語（初級中国語Ⅰ）	中国語の発音、基礎的な語彙、文法、表現を学び、簡単なコミュニケーション能力を身につけるとともに、言語表現の背景にある中国の文化、社会、生活について理解する。特に実生活に使用できる基礎的な表現の習得に重点を置き、積立式に語彙、文法、表現力を習得できるように、各課においては、既習の内容を取り入れた応用的な会話練習を展開する。視聴覚教材の使用、役割練習などを通じて、会話の行われる場面を再現して、会話習得の効果を上げる。	
		外国語（初級中国語Ⅱ）	中国語の基本的文法と日常会話の初歩を学びながら、読解力表現力の基礎を養う。	
		外国語（初級韓国語Ⅰ）	この授業は初めて韓国語を学ぶ人のための入門クラスで、韓国語の基礎的コミュニケーション能力を獲得することをその目的とする。まず初級Ⅰでは、人工語である韓国語の創出起源を理解し、表音文字である各文字の発音と表記の熟達に努める。とくに、文字の発音に重点を置きながら、基本的な文法と語彙を用いて、簡単な日常会話を行う。主な内容は、動詞・形容詞・存在詞・指定詞（用言＝述語）の区分と語尾の基本的な変化、すなわち、丁寧語・否定文・疑問文・助詞の使い方などである。必要に応じて映画・K-popといったメディアも活用し、学習した言語を早く使ってみる。	
		外国語（初級韓国語Ⅱ）	韓国語初級Ⅱでは、初級Ⅰで学んだ成果をもとに、基礎的な日常会話の能力を獲得する。また、日本語との対照言語学的観点からの理論的な面白さを満喫する一方で、実際に使える実践的な表現能力の養成を目指す。初級Ⅱでは、とくに、基本的な文法と語彙をもとに、読み・書き・聞き・話す四機能をバランスよく伸ばしていく。主な内容は、初級Ⅰで学んだ用言の基本的な活用に加え、過去形、数詞、よく使う言い回しなどである。Ⅰと同様、必要に応じて映画・K-popといったメディアも活用する。	

言語知	外国語（中級英語Ⅰ）	This course is designed to improve reading abilities. Students in this class will improve reading fluency as they tackle texts about a variety of topics, from the Internet to the environment. Students will increase their vocabulary and their familiarity with English idioms and phrasing. 本講義の目的は、読解力の向上である。受講学生は、インターネットや色々な題材から様々な主題を扱ったテキストに取り組みながら、正確な読解力を養う。学生は、英語の語彙を増やし、イディオムや語句を習得することができる。	
	外国語（中級英語Ⅱ）	This course is designed to further improve reading abilities. Students in this class will improve reading fluency through exposure to a variety of written texts, from essays about entertainment to longer works of fiction. 本講義は、さらなる読解力の向上を目指す。受講学生は、娯楽の読み物から中編、長編小説まで、様々なテキストを精読することで、確かな読解力を身につける。	
	外国語（中級中国語Ⅰ）	この授業は、初級を終えた者を対象とし、基本的な文法や単語、会話を復習しながら、次の学習段階へ上がるための基礎固めをする。この授業では、正しい発音ができるように徹底した指導を行なうとともに、基礎文法を学びつつ読解力をつけ、更に、書く、聞く、話すなど、中国語の総合的な能力を高めていく。授業は、選定したテキストを使い、その内容に沿って進めていくが、毎回の内容を確実に身に付け、応用できるようにするために、様々なトレーニングを行なっていく。具体的には、毎回学習した文法や例文のパターンを使って、自分で文章を書いたり、それを口頭で発表したりする練習を行う。	
	外国語（中級中国語Ⅱ）	この授業は、前期よりレベルアップした語彙や文章、文法および表現などを学び、話す、読む、聞く、書くなどの中国語の総合能力をさらに伸ばしていく。授業では、語学だけではなく、その背景にある中国の文化や現代社会を理解し、より生きた中国語を学ぶために、テキストの内容を進めていくと同時に、読みやすい中国語の文章や時事記事を取り入れて、語彙のチェックや音読練習、ならびに要約および文章構成の理解などの練習も行なう。また、中国語の映画、ビデオなど視聴覚教材も使用し、中国語の聞く、読む能力を養成すると同時に、それらの内容を自分でまとめて口頭で発表するという話す能力も鍛えていく。	
	外国語（中級韓国語Ⅰ）	この授業は韓国語初級ⅠⅡの講義を履修した人のためのクラスで、韓国語を総合的に学ぶことをその目的とする。韓国語中級Ⅰでは、初級で学習した発音や基礎文法、語彙をさらに発展させながら、文法（尊敬語・略待上称形・連体形など）、会話などを中心に行う。とくに、単調な反復・暗記になりがちな学習方法を止揚して、いくつかのシチュエーションを想定し、そのシチュエーションに即した文法と語彙、さらに韓国社会の事情などを関連づけて考察していく。また、映画やK-popなどの資料を必要に応じて使うことで、韓国文化への理解をも深めていく。	
	外国語（中級韓国語Ⅱ）	この授業は韓国語中級Ⅰを履修した人、ないしはそれに準ずる言語能力を評価された人のためのクラスである。中級Ⅱでは、中級Ⅰまで学んだ基本的な用言の活用や言い回しに加えて、さらなる語彙や慣用語で構成されたシチュエーション別会話を引き続き行う一方、韓国の新聞記事、コラム、漫画などの読解にも力を入れていく。こうして外国語としての韓国語、外国文化としての韓国文化に接することで、自国文化と自国語、そして自分の社会を見つめ直す機会にしたい。	
	外国語（初級日本語Ⅰ）	本授業では、大学生活をおくるために必要な日本語力を身につけ、大学の様々な場面において、日本語を使用してその場面の目的を達成できるようになることを目的とする。本授業では、特に「話す」技能をとりあげ、先生への依頼、許可願、事務での手続き、友人との約束など大学生活において経験すると予測される場面において、どのように日本語で話すのかを学ぶとともに、母語との違いについても考察し、異文化理解へとつなげることもめざす。また、「話す」練習だけでなく、「読む・聞く・書く」技能も必要に応じてとりあげる。	
	外国語（初級日本語Ⅱ）	本授業では、大学生活をおくるために必要な日本語力を身につけ、大学の様々な場面において、日本語を使用してその場面の目的を達成できるようになることを目的とする。本授業では、特に「書く」技能をとりあげ、レポート、論文、先生や友人へのメール、事務での手続きなど大学生活において経験すると予測される場面において、どのように日本語を使用するのかを学ぶとともに、母語との違いについても考察し、異文化理解へとつなげることもめざす。また、「書く」練習だけでなく、「話す・聞く・書く」技能も必要に応じてとりあげる。	
	外国語（中級日本語Ⅰ）	本授業では、初級日本語ⅠおよびⅡの理解力を確認しながら、大学生活において必要な日本語力の向上をめざす。	
	外国語（中級日本語Ⅱ）	本授業では、中級日本語Ⅰの理解力を確認しながら、レポートや論文の書き方、論の展開の仕方などを取り上げながら、実践的能力の向上をめざす。	
スポーツ科学知	スポーツ科学Ⅰ	スポーツ科学Ⅰでは、スポーツを歴史的、社会的、生理的、心理的な視点から理論的に学習する。その内容として、高校までの学習内容を発展させながら、人間の身体と健康について学ぶ。また、部活やサークルでスポーツを行なう学生が少なくないことから、特にスポーツが心身にもたらす影響と効果的なトレーニングについて学習し、安全にスポーツを行なう方法について学ぶ。さらに、発達段階に応じた身体活動について必要な知識理解を深めていくことで、適切な判断と行動を身につけ、生涯を通じてスポーツによりよく親しめるようになる。	
	スポーツ科学Ⅱ	スポーツ科学Ⅱでは、スポーツ科学Ⅰで学んだ理論を生かし、実践を通して生涯に渡り自立的な運動者となることを目指す。その内容として、バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ニュースポーツ等、各種目のルールや技術獲得の方法を理解し、工夫された練習を通して技術を獲得する。また、技術獲得の過程で、仲間と協力して教えあいや作戦を立てることによりスポーツの楽しさや爽快感を体験する。さらに、自分の体力を知り、体力を高める生活を心がける。	
	スポーツ科学Ⅲ（課外活動等）	スポーツ科学Ⅲでは、豊かな自然環境のなかで、自然を活用しながら、身体や五感を使って体験的に活動することを目的とする。内容として、適切な事前計画を自ら立案し、キャンプ、ハイキング、サイクリング、オリエンテーリングなどの各種の活動を集団で行う。正課外の活動には危険が伴いがちであるため、自然の中で安全に活動するための知識を学ぶと共に、集団の中で責任ある行動を身につける。このような一連の活動を通して、豊かな情操と健全な心身の育成を図ることを目指す。	
	スポーツ科学Ⅳ（スキー・スケート等）	スポーツ科学Ⅳでは、ウィンタースポーツの代表格であるスキー・スケート等について、心構えや身のこなしなどのトレーニングを実施する。またウィンタースポーツの初歩から上達のために本格的にスキーにチャレンジしたい人まで個人のレベルに対応しながら、安全で合理的な実践能力を育てる。さらに、ウィンタースポーツの醍醐味を味わうと共に、お互いが協力し合って集団生活の楽しさを体験しながら生涯スポーツとして楽しむようになることを目指す。	
	スポーツ科学Ⅴ（水泳等）	スポーツ科学Ⅴでは、水遊び、浮く・泳ぐ運動の運動特性および水泳の技術的特性について学習し、水中レクリエーションを通して水中での身体をコントロールする感覚を身につける。それらの実践を通して個々の技能の向上を図りながら、水中における各種運動や4泳法の基礎的な泳ぎ方を学習する。授業ではレベル別に小グループに分け、それぞれのレベルに合わせて各自の泳ぐ能力の向上を目指す。また、水泳の心得や救助法・救急法についても学習し、水泳が生涯楽しめるスポーツとなる機会を提供する。	

共通教養科目（C2）

共通教育科目 (C2)	スポーツ科学	スポーツ科学VI (フィットネス)	スポーツ科学VIでは、身体的、精神的かつ社会的にも総合的に良好な状態であるために必要とされる科学的知識を理解する。また、自分の身体や生活について考え見直す機会とし、生活習慣の改善、健康への配慮を喚起すると共に、正しい運動方法・理論並びに安全管理を学び、今後の活動に役立たせるようにすることを目指す。さらに、運動不足の原因と解消方法について考え、生涯を通じて楽しくスポーツに関わり活動水準を高めるための、対象に応じた応用的なトレーニング方法を学ぶ。	
	専門科目 (C3)	住居・建築系	住居・建築設計実習 I (含製図)	基本的な製図の手法や図面表現を学び、設計製図に進むための基礎を習得することを目的とする。また、建築家の住宅作品の図面を描き写すことにより、その住宅についての設計概念を理解する。授業の計画としては、木造平屋住宅の図面トレース、木造二階建て住宅の図面トレース、鉄筋コンクリート造住宅の図面トレースを予定している。
日本建築史 (含住居史)			日本の古建築の特色を、寺院・神社・住宅・城郭建築の構造や意匠・技術を通して理解し、日本の文化や伝統および先人の知恵を感じ取ること、また建築学の基礎知識を習得することを目的とする。授業の内容としては、日本建築の種類、社寺建築の構造と細部意匠、飛鳥・奈良時代の寺院建築、平安時代の寺院建築、中世の寺院建築、神社本殿の種類と構造、近世の社寺建築と地方色、古代の住居と寝殿造、寝殿造から書院造へ、書院造の構造、城郭建築 (天守) の構造などを予定している。	
西洋建築史			過去のすばらしい建築をみる喜びを体験し、西洋建築の歴史と様式について基本的な理解を得ることをめざす。授業の内容としては、建築と建築家、西洋建築史の枠組み、古代ギリシアの建築、古代ローマの建築、キリスト教建築のはじまり ビザンティンの建築、ロマネスクとゴシックの建築、ルネサンスの建築、バロックの建築、ロココと新古典主義・折衷主義の建築、アールヌーヴォーと近代建築、建築のオーダー、ヨーロッパ以外の西洋建築を予定している。	
住居・建築設計実習 II			インテリア・エクステリア・ランドスケープはそれぞれに関連しあうのであるとともに、デザインされた人口環境はまた人・自然環境との間での有機的な関係を保つべきものである。そのような観点から、住居設計実習とのつながりを考慮しながら、また多様なデザインの中から、ここでは住居を基礎としつつ様々な機能の建築をその環境 (外部空間) との関係・調和に配慮しつつ、特定の場所を想定してデザインの実習を行なう。	
住居・建築設計実習 III			店舗、高齢者ケア等の都市機能を含む複合住居 (集住体) の建築空間をすぐれた事例から学び、オリジナル課題に取り組んで、住居設計のこれまで以上の習熟を目指す。	
建築材料学			建物に使われる建築材料は、建築デザインや構造とは切り離せない密接な関係にある。建築に使われる材料の種類は膨大であり、太古の時代から人間生活の中で地域や環境、建物の目的などによって要求を満たすいろいろな材料が使われてきた。また科学技術の進展と共に人工的な材料が開発、改良され今日に至る。各構造に共通する各部位を構成する材料と、使用目的別に使われる機能材料を学ぶ。内外装の材料ごとの施工、仕上げ計画、方法についての理解も深めたい。	
住環境工学			建築物の中で生活する人間にとって安全性・健康性・利便性・快適性といった必須の要件を獲得するためには、人間を取り巻く環境を適正に制御・調整しなければならない。本講義は、住環境が人間に対して適正な調和をもたらすことを目的として、人体に関する諸要因と周辺環境 (熱・光・空気・音等) に関する諸要因についての基礎知識を習得し、適切な環境計画を模索する応用力を醸成する。	
建築CAD I (実習)			建築、住居、インテリア・デザイン等においてCAD (Computer-Aided Design) 技術は今日重要なものとなっている。この実習では、CADの技術を習得し、またCADの理論を理解することを目的とする。すでに設計実習によって設計行為と手作業による製図を成る程度まで初歩的に体得している者を受講対象者とする実習である。	
建築意匠論 I			建築の形態やその構成理論等に関する研究成果を教示することを目的とする。すなわち、主に建築制作にたずさわる際の多方面の議論や思考の助けとなる知、あるいは知っておくべき理論的フレームを、解説することを目的とする。本授業は建築意匠論全体の前半として「近代の建築」から「戦後日本の建築」までの建築意匠諸思潮を主題的に扱う後半は建築意匠論 II である。	
住居・建築計画学IV (複合建築デザイン他)			住居・建築計画学IIIの学びの上にさらに住空間へ職の空間 (ここではとりわけ商業空間) を近接するための計画手法等を具体的事例から学ぶとともに、前年度の学生各自の設計と比較することを通じて、みずからそうした空間設計を実践しようするための計画学を学んでいくことを目的とする。 また同時に、すぐれた建築家の設計過程をもとに、その建築家がいかに計画学的にゆたかに思索しているかをみていく、という学びも行ない、学生が住居・建築計画についてしだいにすぐれたものの分かる眼を獲得していくことを目指す。	
構造力学 I (静定構造)			構造力学は、デザインされた建築物の梁や柱が建物の重量や外力に対して安全であるように、具体的に梁や柱の寸寸法を決めるために必要となる。建築の空間デザインを考える際の柱や梁の適正な配置を行うための構造知識としても重要である。 構造力学 I では、梁や柱の強度を知るための応力計算を行うために建築の構造形式、モデル化の方法、各種の応力の求め方について勉強する。自らが多くの例題を解くことによって実際の構造設計に対応できるような基礎知識を習得することが目的である。	
建築構造 I (構造計画、木造・RC造・鉄骨造他)			建築を初めて学ぶに際して、まず建築のしくみを知ることが重要である。すなわち、建物の構成と部位、部材の名称を覚えることが必要である。さらに、それらの役割、機能について勉強する。建築の各部名称や用語を出来るだけ多く覚えて建築構造の理解を深めてもらいたい。建築物は木材、鋼、コンクリートなどの材料の長所、特質を生かして造られるので、木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造のそれぞれの構法を図解によって分かりやすく理解していき、設計図の描き方とあわせて勉強する。	
建築構造 II (建築構法、耐震構造)			建築物は木材、コンクリート、鉄などいろいろな材料の長所特質を生かして造られる。本講義では、各種構造物について梁、柱、基礎などの骨組構造とその仕上げに関して、その仕組みと各部名称を詳しく勉強する。更に、建築構造は図によって表現するが、図は平面的に表わされるので、この図から立体を理解できるようにならなければならない。また、日本では地震に対する安全な建築構造でなければならない、それに必要な壁量、耐震壁の配置を勉強する。	
建築CAD II (実習)			建築CAD I (実習) に引き続き、VectorWorksを使用し、2次元による設計図面の作図、および3次元モデルの作成を学ぶ。また、事例や課題を通し、3次元による建築的発想およびプレゼンテーション技法を習得することを目的とする。	
建築設備			建築における設備の考え方およびその役割を学び、加えて住居における、給排水、衛生設備、空調設備の基礎的事項について理解する。 授業内容としては、建築の伝熱、日射と日照、換気設備、空調設備、空気線図の読み方、給水設備、排水、通気設備、衛生器具設備、給湯、ガス設備、建築設備の省エネルギー対策と維持・保全を予定している。	
建築積算	建築の生産活動に携わる技術者として必要となる建築積算の基本的な知識と技術について学習し、工事費の算出やコストと建物の機能・品質等について理解する。 授業内容としては、建築生産プロセスと建築積算の役割、建築数量積算基準と内訳書、建築数量積算、内訳書の作成と工事費の構成、建築積算データの整理と活用、改修工事の積算、設備工事の積算、建築積算の現状と今後を予定している。			
住居・建築設計実習 IV	教育施設等としてのコミュニティセンター、メディアセンター等のすぐれた事例から、都市空間を豊かにする諸施設 (学・舎 (学ぶ場所) ) の空間や機能等を学びつつ、オリジナル課題に取り組んで、建築設計のこれまで以上の習熟を目指す。			

専 門 科 目 ( C 3 )	住 居 ・ 建 築 系	建築意匠論Ⅱ	建築の形態やその構成理論等に関する研究成果を教示することを目的とする。すなわち、主に建築制作にたずさわる際の多面的議論や思考の助けとなる知、あるいは知っておくべき理論的フレームを、解説することを目指す。 建築意匠論全体の後半として、建築の原点などから空間と光のイメージの変遷、近・現代の都市の諸理論、力の流れ、建築デザインの現代的拡大をテーマとする解説を展開する。	
		住居・建築計画学Ⅴ(建築・都市デザイン)	1年次からの住居・建築計画学・設計実習との関連およびそれらの延長、また卒業設計への準備として、人間と環境との関係を、主として建築・都市デザインを素材として設計の方法論を学習する。 指定した主要文献および各自の選択した文献の研究を基礎として、建築・都市デザインの設計方法論を学ぶ。また、現在進行中の内外の建築・都市デザインの具体的な試みについても学習し、学生の研究発表や討論なども交えて、理想的な建築・都市デザインの姿はこれからのようなものであるべきか、またどのように実践すべきかを考える。	
		住居・建築設計実習Ⅴ(含測量)	インテリア・エクステリア・ランドスケープはそれぞれに関連しあうものであるとともに、デザインされた人口環境はまた人・自然環境との間での有機的な関係を保つべきものである。そのような観点からこれまでの実習との関連を考慮しながら、多様なデザインの中から、ここではさまざまな機能の建築・都市施設をその自然・人口環境との美的・科学的関係・調和に配慮しつつ、特定の場所を想定して建築・自然・都市環境デザインの実習を行う。	
		構造力学Ⅱ(不静定構造、断面設計)	建築構造では、デザインされた建築の構造形式を決めて、構造物が外力に対して安全であるように、具体的に柱や梁などの寸法を決めることを行う。構造力学Ⅰでその前半にあたる梁、ラーメン、トラスの応力計算を学んだ。構造力学Ⅱでは、これらの応力計算をもとにした木材、コンクリート、鉄骨のそれぞれの材料について具体的に応力や断面形状の違いなど、断面設計の方法を講義する。さらに圧縮材の座屈、たわみ等の変形計算法も勉強する。	
		建築材料実験	建築構造物の重要な基礎資材であるコンクリートについて、座学における基礎的知識の習得及び実験を通してセメント・骨材・コンクリートの特性を把握し、耐久的な建築構造物の構築上、コンクリートの重要性を学ぶ。 授業の内容としては、ガイダンス・総論、セメント各論、セメント材料実験、骨材材料各論、骨材材料試験、セメント材料実験、フレッシュコンクリート各論、コンクリート試験・配合設計各論などを予定している。	
		建築施工	建築の施工とは、建築に対する建築主の要求、および設計者の意図とを、現地において具現化していくことである。一方、工場における大量生産方式による工業製品などと違い、建築は、特定の場所での一品注文生産であり、そこでの特有な条件への対応を求められるという特殊性をもっている。設計図の意図するところを読み取り、それを施工計画として立案し、実行していくには各種施工技術の理解のみならず、それらをマネジメントする管理技術の習得も必要である。よって、施工の技術・工程の学習や、現場でのモノづくりを学習することによって、建築のライフサイクルにおける施工の位置づけを理解し、設計やデザインの領域にフィードバックできることを最終的な目的とする。	
		建築法規	現実の「住居」や「まち」を計画する場合には、それに関連する法律も計画条件の一つとなる。それは、具体的に技術規定として建築の構造や形態を制約するだけでなく、それに基づく手続きの過程や期間、コストも含めて建築の成立に大きな影響を及ぼしている。 この講義では、現行の建築関連法規のこうした運用面について、できるだけ実証的に解説し、現実の住宅・建築計画に生かせる基礎知識として修得することを目的とする。	
		建築倫理(含建築職能論)	近年、シックハウス、アスベスト、欠陥住宅、耐震偽装など、建築技術、専門技能、職能に関連した社会問題が起きている。これらは、専門技術を遂行し、自分の職能を全うするだけでは解決できない問題が隠されている。本講義では、「倫理」と「職能」をテーマとし、建築が生産されていく過程のなかで社会に対してどのような功罪があるのか、また建築職能者の倫理とはどのようなものであるのかについて学び、その倫理観を共有することを目的とする。	
		建築プレゼンテーション実習	設計した建築を人に伝えるためには、さまざまな手法がある。この授業では、自分で考えたものを言語化し、そのうち空間化するために必要な表現技法を習得する。また、課題制作を通して、人に伝えるためのプレゼンテーション技法を養うことを目的とする。	
		被 服 ・ フ ァ シ ョ ン 系	西洋服装史	日々まわっている服装の意味を考えることを私たちはあまりしない。しかし、実は個人的な嗜好だけでなく、服装から時代の流行や社会の状況などを読み取ることができる。 この授業では、体系的な西洋の服装の歴史を学び、デザインや色彩、構成などの巧妙な組み合わせを知ることで服飾の多角的なものを見方を習得することを目的とする。また、自らの装う意味や他者のファッションが表現のするものを見抜く力も養成する。
日本服装史	日々まわっている服装の意味を考えることを私たちはあまりしない。しかし、実は個人的な嗜好だけでなく、服装から時代の流行や社会の状況などを読み取ることができる。 この授業では、体系的な日本の服装の歴史を学び、デザインや色彩、構成などの巧妙な組み合わせを知ることで服飾の多角的なものを見方を習得することを目的とする。また、自らの装う意味や他者のファッションが表現のするものを見抜く力も養成する。			
被服材料学	まず、繊維の種類と構造、性質の関係について理解を深める。ついで、繊維製品を製造工程順に講義するが、特に化学繊維については、繊維の製造法と繊維の形状(繊維の表面や断面の構造)と性質の関係などを中心に講義し、糸、および被服地については、それぞれの性質に影響を与える因子について講義する。さらに、これらの繊維製品を改質(改良)するための各種の方法、最近の繊維製品とその製造法などについて講義し、繊維製品についての理解を深める。			
被服管理学	日常着用している被服の材料として、多種多様なものが用いられており、特に、最近では新しい繊維製品が次々と登場している。これらを合理的に管理するには、被服管理の基礎理論を十分理解することは勿論のこと、繊維製品の素材や製造方法・加工方法など被服の製造過程を理解することが必要である。 授業では、被服の洗浄を中心に被服管理方法を講義するが、あわせて、最近の繊維製品の性質、加工法などについて講義し、最近の繊維製品の管理について理解を深める。			
ファッションデザイン論	今日の服装は多様化し、着用者の個性が重要視されており、特に若者の日常生活における服装への関心は高い。服をデザインする好意には様々な知識と技術が要求される。発想力、デザイン力のみならず、素材や色彩に関する知識、コーディネート能力、また実際にモードデザイン画として表現する力も要求される。 この授業では、服をデザインするために必要な基礎知識と技術を学び、服装デザインへの理解を深める。		隔年	
被服構成学(含実習)	被服製作のための基礎知識と製図技法を習得する。まず、人体の構造と機能を把握し、採寸のための人体計測法を学ぶ。次に、平面製図法および立体裁断法を用いて、衣服の原型を作成し、体型と原型の関係を理解する。 授業内容としては、人体の構造とプロポーション、人体の機能と衣服原型の関係、人体計測、原型製図—平面製図法、体型と原型—試着補正、基礎縫いを予定している。			

専門科目(C3)	被服・ファッション系	ファッション・デザイン実習Ⅰ	被服の構成に関する基礎的知識と技術を習得することを目的とする。 まず、平面構成法(和服)と立体構成法(洋服)における衣服構造の違いを把握し、人体と衣服構成の関係について理解を深める。次に、基礎縫い、部分縫いを練習し、被服構成に必要な基礎的技術を習得する。実際に被服材料(布)を用いて和服(ゆかた)と洋服(スカート等)を制作し、布地の性質と衣服のシルエットとの関係、および衣服の機能性について理解する。	
		ファッション・ビジネス	社会構造、生活環境、経済状況等の変化により、ファッション業界のあり方は多様化しており、服の作り手側は常に流行、社会、文化、若者意識の変化に対応した製品作りが求められている。 この授業では、アパレルについての基礎知識と、商品企画・開発に必要な分析力と企画力を養うと共に、ファッション・ビジネスの総合的理解を深めることを目的とする。	隔年
		アパレル企画演習	ファッションおよびインテリア等の生活デザインは、あまりに私たちの日常生活にとけ込んでいるため、我々はそれらに特に疑問や問題意識を持つことなく生活をしている。しかし、生活デザインは生活に密着しているからこそ、人間にとって重要な意味を持つのであり、そこから発生する問題点は数多いと考えられる。 この授業では、ファッション、インテリア、プロダクトデザイン等の生活デザインに関する身近な事柄を題材とし、そこから問題点や疑問を探し出し、実態調査や文献調査を通して解決方法を導いていく。	隔年
		アパレル・コーディネート演習	アパレル業界や各種製造メーカー企業において、商品企画の際に必要な発想力、プレゼンテーション能力を養うことを目的とする。 内容としてはファッション雑誌・PRパンフレット制作やブランド企画・提案、プレゼンテーションを予定している。	隔年
		ファッション・デザイン実習Ⅱ	被服に関する基礎的な知識の習得だけでなく、自己表現のためにそれを応用できるようにすることを目的とする。 特に、既製服の氾濫する昨今だからこそ、自分自身の手で制作する喜び、楽しみをこの授業を通して身に付ける。 授業の内容としては手縫いに関する実習、手縫いによる小物製作、ミシン縫いに関する実習、制作に関する用語理解と採寸、デザイン画の書き方、ミシンによる被服製作を予定している。	
		ファッションデザイン演習(カラーコーディネート)	ファッションデザインの分野において、カラーコーディネートは重要な役割をもっている。色のイメージや人に与える効果をふまえた上で、自身でそれを使いこなせるようになることを目的とする。また、これまでファッションデザインの中でカラーコーディネートにはどのようなものがあつたのか、日本の伝統文化に焦点を当て、それを理解する。	
		服飾美学	服飾は時代や地域・文化によって、様々な文化的表現、思想的表現を行い、また、社会的地位を表象している。 服飾に用いられる色彩、素材、技術、組み合わせを分類・分析することで服飾が象徴する思想を客観的に読み解けるようになることを目的とする。 時授業なようとしては、絵画における服飾美学、演劇における服飾美学、祭礼における服飾美学、文学における服飾美学を予定している。	隔年
		被服心理学	人間は、身の回りを包むインテリアやファッションによって自己を表現し、自分の情報を伝達している。個人の嗜好、価値観、ライフスタイル、生活環境、人間関係といったものがデザイン行動を決定しているともいえる。 この授業では、デザイン行動における造形心理要素を取り上げ、人間と社会の要因と関連づけながらデザイン行動に関して考えてゆく。またSD法を用いた官能評価法により、データ収集を行い、因子分析や主成分分析等の多変量解析結果から、造形心理的考察を展開し、人間の感覚とその要因について考えていく。	
		服装社会学	ファッションデザインを通して、その時代の新しい女性たちの生き方・ライフスタイルを提案してきた女性デザイナーに注目し、彼女らのファッション哲学を学ぶ。 また、日本の女性アイドルのファッションから、戦後の女性たちが求められてきた「理想の女性像」「魅力的な服装」「女性たちの価値観の変化」を考察する。 さらに、ファッションの流行が女性たちの身体と精神を害してきた流行の歴史を振り返り、ファッションとは女性にとってどのような意味があるのかを考えるきっかけとする。	
		ファッション・デザイン実習Ⅲ	ファッション・デザイン実習ⅠおよびⅡで修得した被服製作に関する知識と技術を基にし、さらなる高度な被服構成技術を習得する。 この授業では、裏地の付いた衣服としてスーツ(またはジャケット)の制作を行う。また、服のデザイン、布の選定、パターン製作の一連の工程全てを自分で行うことにより、デザイン力と構成力の総合レベルの向上に努めることを目的とする。	
		テキスタイルデザイン実習(手工芸)	被服において、テキスタイルのデザインは生活者に対して大きな影響力を持っている。それをふまえて、自身で作成する経験をする中で、その成り立ちの歴史や、技法の知識、デザイン力を獲得することを目的とする。 授業の内容としては、染色によるテキスタイルデザイン(絞り染め、型染め)、編物によるテキスタイルデザイン(カギ針編み)、織物によるテキスタイルデザイン(平織)、刺繍によるテキスタイルデザイン(洋刺繍、和刺繍)などである。	
		ファッション・プレゼンテーション演習	与えられた課題テーマから様々なアイデアを発想し、デザイン構想を基に実際のファッション作品を形作るまでの過程を繰り返し習熟することで、豊かな発想力と表現力を身につけることを目的とする。授業内容としては、課題を2回程度出し、講評等を行う。	
		ファッション・プレゼンテーション実習	「ファッション・プレゼンテーション演習」において構想したアイデア、モード画から実物のファッション作品(ファッションショーの衣装)を作成する。 衣装だけでなく、アクセサリー、服飾品、小物、ヘアメイク等を含めたトータルコーディネートを行い、モデルが着用するモード作品としてプロデュースした後、ファッションショーの舞台でのパフォーマンスを通してプレゼンテーションを行う。 ファッションショー後に、図書館フリースペースでの衣装展示を企画し、作品展示のプレゼンテーションを行う。	
		生活デザイン系	女性と生活	衣服、住居、インテリア・建築、食生活、家庭、家族、就職、子育て等、女性を取り巻く生活環境の変化と、それに伴う女性たちのライフスタイルや価値観、生活習慣等の変遷を辿る。授業の内容としては、日本女性の美意識、衣生活と女性、住生活と女性、都市と女性、女性のライフスタイルの変遷―就職・恋愛・結婚・育児―などである。
衣生活論(含被服学概論)	被服とは衣服に限らず、アクセサリー・靴・下着など身に付けるもの全てをさす言葉である。この授業では、生活の中で欠かせない被服の起源・機能・素材・管理について学ぶ。 また、それを身に付ける人間によって、被服の選択や着用方法は異なってくることから、被服心理・デザイン・色彩についても学び、将来に向けて衣生活を豊かにする手法を身に付ける。			
住生活論(含住居学概論)	住まいとは生活を空間化したものであり、生活の拠点である。この授業では、住まいはどのように構成されているのかを把握した後、住まいを取り巻く環境や家族形態の変化を踏まえ、今日的な視点で住まいについて考える力を養うことを目的とする。 授業の内容としては、住まいの機能、住まいと風土、住まいの歴史、住まいの構造・構法・材料、住まいの環境調整 熱環境と空気環境、住まいの環境調整 光環境と音環境、住まいの維持管理、住まいの選択、住まいの今日的課題を予定している。			

専門 科目 (C3)	生活 デザ イン 系	生活デザイン論(和の心)	人間の文化的な生活を象徴する芸術品についての基礎的な知識を得ることを目的とする。伝統工芸・デザインの歴史や芸術家について学び、また身近な生活用品やブランドのデザインについても着目し、実用美についても考察し、より広い視野を獲得することを目的とする。	隔年
		生活造形論(工芸とデザイン)	わたしたちの生活は様々なものに囲まれている。これらはこれまでどのような人たちの手により、どのように作られ、人々の生活の中に根付いてきたのだろうか。この授業では、生活造形である工芸の成立条件、成立過程を学ぶ。また、近代のデザイン運動について学び、これからの生活造形、生活のデザインに対する認識を養うことを目的とする。	
		造形実習	わたしたちの生活は様々な形に囲まれている。これらの多くは自然発生的に形成されたものではなく、人の頭の中で考えられ、人の手によって作られたものである。この授業は、デザイン行為の基礎トレーニングと位置づけ、形の構成要素、構成形式、表現方法を学ぶ。また、実際にさまざまな素材を用いて形を造り、形の発見を積み重ねることで、形態、色彩、材質、空間への感覚を養う。	
		画像デザイン演習	私たちが社会や世界に対して情報を発信し、メディアやインターネットを通じて他者とのコミュニケーションをとるために、様々な技術が必要とされる。また、企業のみならず、我々の日常生活においても、明確、迅速、個性的、魅力的なプレゼンテーション能力が要求されるようになってきた。このように情報化・デジタル化は私たちの生活の中に浸透しつつある。この授業では、実習を通して、市販の情報機器やアプリケーションソフトを用いた自己表現のための知識と画像処理技術を習得することを目的とする。	
		インテリアデザイン論	人々の生活の中で最も身近に感じられるのがインテリア空間である。私的な空間から公的な空間まで、わたしたちはインテリア空間において活動をしている。本講義では、インテリア空間の構成要素、社会的背景等を学ぶことを通して、インテリア空間をデザインするための基礎的な概念・技術を習得する。	
		住居・建築計画学Ⅰ(独立住宅デザイン)	住居・建築設計実習との関連もある程度考慮した上で、人間と環境との関係を、主として住居・建築を素材として設計の方法論を学習する。指定した主要文献および各自の選択した文献の研究を基礎として、住居・建築の基礎的設計方法論を学ぶ。また、現在進行中の内外の住居・建築の具体的な試みについても学習し、学生の研究発表や討論なども交えて、理想的な住居・建築の姿はこれからのどのようなものであるべきか、またどのように実践すべきかをともに考えたい。	
		福祉環境計画学	現代社会において、高齢化、少子化が急速に進み、家族が多様化している中で、今後さらにユニバーサルデザインの考え方に通じるケアデザイン社会の構築が重要な課題となる。本講義では、主にこども、高齢者、障がい者にとつての具体的な環境計画を学び、ユニバーサルデザインにもとづく生活空間の統合のあり方を考えていく。	
		造園表現(ガーデニング)技術論	造園の広範多岐にわたる対象の範囲を理解し、造園の概念と意義を理解するとともに、設計課題解決のための造園空間創成手法・技術の理論を修得する。授業内容としては、造園の理念、造園の設計史、造園の設計におけるコンセプト、造園の設計における事例と手法を予定している。	
		造園表現(ガーデニング)設計実習	小規模施設とその造園設計を通じ、施設空間と造園空間の構成、植栽の設計・管理に関する基礎的な技法を習得し、人間の生活環境におけるとりわけ造園空間のあり方を学ぶ。授業内容としては、3回程度課題を出す。	
		住居・建築計画学Ⅱ(生活デザイン他)	住まい・住居とは、そこに住む人たちの生活が空間化されたものである。また住宅の設計とは、住まい手の要求や設計者の思索の結果だけでなく、そこに携わる人々の生活経験、社会経験の試行と積み重ねのなかで豊かになっていくものである。計画はその設計に先立ち、要求、条件、機能、材料、技術などを整理し、住まいを現実につく住宅として空間化していく行為であり、そこには幅広い社会認識が必要とされる。この授業では、人々の生活像、家族像、住要求の捉え方、および住空間の計画・設計のための基礎的な概念、手法を学ぶ。	
	住居・建築計画学Ⅲ(集合住宅デザイン他)	高齢者ケア、店舗、オフィス等の都市機能を含む複合住居(集住体)の建築空間をすぐれた事例から学ぶとともに、みずからそうした空間設計を展開しようための現代都市居住(そこには都市遊牧民とでもいいうる居住層も含む)という点に注目する計画学を(住居・建築計画学Ⅰ、Ⅱの学びの上に)さらに学んでいくことを目的とする。(同セメスターに開講される住居・建築設計実習Ⅲとまず連動するが、他の計画学同様、その後のセメスターの諸実習の基礎科目となる。)		
	住居設計実習(含製図)	この実習を通して住居という建築にすむことの意味、住まい方などを考える契機となることを目指す。設計製図の基本的、基礎的スキルを学ぶことを第一義とするが、同時に、設計(デザイン)の(根拠)への問いが学生たちに生じはじめる、その(根拠)への問いが、現代社会における住まい方を問う問いであるということ、住まい方と自らの関係を問う問いであることを考えることとなる。		
	調理科学実習	調理とは、食品素材の栄養効果を高め、衛生的に安全なものとし、味や香り、口ざわりをよくし、食欲を高めるように外観をよくして、おいしく食べられるように加工することである。そのことによりヒトは栄養を摂取し、命や健康の維持・増進をしている。この実習においては調理に必要な基本的な知識と技術を習得するとともに、実際の食生活への応用力を身につけることを目的とする。さらに、食品の調理性についての理解を深めることを目的とする。 実習を通して、次の項目を学ぶことができる献立を組む。 1 調理の基本 ①調理器具・機械の使用法 ②計量 ③だし・調味について 2 調理操作 ①下処理 ②加熱操作 ③和える、寄せる 3 食品の調理性 ①砂糖 ②調理による食品成分の変化 ③植物性食品 ④動物性食品		
	セ ミ ナ ー	オープンセミナー	私たちの生活において、身のまわりのあらゆるものがデザインされています。人間の生活そのものがデザインする行為であり場所であるといえます。しかしデザイン(外部)と心(内部)とがうまくむすばれているのでしょうか。この授業では、生活空間を構成するファッション、インテリアといった身近なデザインをとりあげ、講義・演習・実習を通して感覚・感情・思索をデザインへと表現する技術の基礎を体得し、私たち自身のなかにあるデザイン力および生活空間設計能力を自覚することを目的とします。	集中
被服心理学演習Ⅰ		自分の身体を美しく見せること、流行のファッションに身を包むこと、自分の印象を思いのままに管理すること、これらの目的のためには、人間(特に若い女性)は自分の命を危険にさらすこともある。私たちはいったいどうしてそこまでファッションに夢中になるのだろうか。この授業では、まず被服に関する研究論文の講読、発表によって、論文読解と表現能力を養う。次に被服心理学に関する演習を通して、人間が服を着ること=着飾ることの意味を考える。また、グラフィックソフトを用いた試料作りやプレゼンテーションについての演習も行う。		
被服心理学演習Ⅱ		研究において、個人が本当に興味・関心を持つテーマを設定し、そのテーマについて問題意識を持つことが重要である。それによって、他の研究論文にはない独自性を備えた研究を行うことが可能になる。この授業では、被服心理における研究データの収集方法とその統計分析手法を習得することを目的とする。また、ファッションデザイン演習を行い、個人に最も適した衣服着環境を得るための選択能力と感性を身につけていく。		

専 門 科 目 (C3)	セ ミ ナ ー	服飾史学・美学演習Ⅰ	これまでの服飾史、服飾美学に関する講義授業の内容をふまえ、現在服飾史学界、服飾美学界が抱える諸問題に対して、調査、分析、論証を行うための研究活動ができるようになることを目的とする。 授業の内容としては、服飾史学論文講読、服飾美学論文講読、研究発表の方法(レジュメ作成法)、服飾史学・服飾美学研究分析(受講生による既存研究論文発表、分析、講評)を予定している。	
		服飾史学・美学演習Ⅱ	これまでの服飾史、服飾美学に関する講義授業の内容をふまえ、自身が疑問に思った諸問題に対して、調査、分析、論証を行うための研究活動ができるようになることを目的とする。 授業の内容としては、服飾史学研究の方法について、服飾美学研究の方法について、服飾史学・服飾美学に関する研究(テーマ設定、文献調査、フィールド調査、調査結果分析)、研究発表の方法(P.P作成法)、服飾史学・服飾美学に関する研究発表を予定している。	
		アパレル・デザイン演習Ⅰ	ファッション(アパレルデザイン)に関する研究を行う上で重要となる、資料の読解力、理解力、分析力を身につけるための演習を行う。 各自で研究テーマを設定し、資料収集とデータ解析を行い、自ら問題点を発見し、その原因を追究し、解決案を導く。授業の計画としては資料(論文)講読、研究課題の設定と調査および反省会を予定している。	
		アパレル・デザイン演習Ⅱ	ファッション(アパレルデザイン)に関する研究を行う上で重要となる、資料の読解力、理解力、分析力を身につけるための演習を行う。 この演習では、実際に卒業研究に繋がる課題テーマを設定し、関連資料を収集し、内容を整理してまとめる作業を行う。さらに、現代社会におけるテーマに関連した問題点を発見し、それを解決するためのよりの確かな研究手法および研究手順についても熟考していく。	
		生活デザイン・建築セミナーⅠ	生活を中心にすえた視点から、生活空間や、これらに関わる人、もの、状況を、研究対象として深めるトレーニングを行う。そのためには、対象への関心、興味を掘り下げ、自分の問題意識を明確化することが必要である。本セミナーでは、テーマ設定した後、調査(文献調査、フィールドワーク等)およびレポート作成を行う。また、作業の経過報告を毎回行い、ゼミ内で問題意識の共有化を図る。	
		生活デザイン・建築セミナーⅡ	生活デザイン・建築セミナーⅠに引き続き、生活空間や、これらに関わる人、もの、状況について、各自研究テーマの設定を行った後、それに基づく文献調査、フィールドワーク等を行い、その過程の中で、自分の設定した課題に対する答えへの道筋を見出し、卒業研究のテーマへ接近していくことを目的とする。また、調査、作業の経過報告を毎回行い、ゼミ内で問題意識の共有化を図る。	
		卒業研究セミナーⅠ	これまで学んできたことの集大成として、各自卒業研究のテーマ設定を行い、卒業論文の執筆および卒業設計等の制作に取り組む。また、毎回各人の途中経過報告および討議を行うことで、生活空間に関わる現状把握を行い、問題意識の共有化を図る。	
		卒業研究セミナーⅡ	卒業研究セミナーⅠをふまえ、卒業論文の執筆および卒業設計等の制作に取り組む。また、毎回各人の途中経過報告および討議を行うことで、生活空間に関わる現状把握を行い、問題意識の共有化を図る。	
		卒業論文等	各ゼミ指導者の下、卒業研究セミナーⅠ・Ⅱによって完成した4年間の学びの集大成である卒業論文、卒業制作、卒業設計を評価する。	
関 連 科 目 (C4)	文 化 ・ 歴 史	アート・ワークショップ実習	一般の参加者や子どもたちを対象にしたアート・ワークショップは、地域交流イベントとしても数多く開催されている。出会いや交流を創造していくアートワークショップは、社会や人と深く関わる芸術表現といえる。この授業ではアート・ワークショップの特徴である共同制作やコミュニケーションといったポイントをふまえて実践的な学習を行う。企画書や進行計画書をつくって、企画提案に必要な基礎知識を学び、実際にワークショップを開催する。	
		アート・マネジメント実習	近年では、アートを一般の人びとに届けるためのマネジメントの重要性がますます大きくなっている。芸術活動にかかわる組織のマネジメントにおいては、芸術の存在意義の確認と、創造プロセスの本質の理解したうえで、芸術が生み出される環境を整え、作品として制作・表現されたものを、社会に紹介し、広い意味で還元していくという考え方が必要である。この実習ではそうした点の理解を徹底したうえで、実際に主として学内施設を利用して展覧会やコンサートを企画実施する。	
		世界遺産学	ユネスコの世界遺産条約が生まれた背景、世界遺産の概要を解説するとともに、アジア・ヨーロッパの事例を取り上げ、世界遺産と文明観・歴史観・地域文化・観光産業などとの関連について考察する。世界遺産条約と世界遺産の概要、日本の世界遺産と文化財保護を確認した後個別事例の検証に入り、厳島神社と原爆ドーム、奈良・紀伊の世界遺産、石見銀山、インドの世界遺産 - 自然と文化、イタリアの世界遺産、ヨーロッパと多国籍の世界遺産を検討する。	
		現代美術論	何故、現代美術という概念が生まれたのか、20世紀に焦点をあててみると理解できる。主に欧米で起きた様々な芸術活動を参考にして分析していくと、現在起こっている現代美術の意味が理解でき、美術を違う視点で観る事ができる。この授業ではまず「アートとは何」を検討した後、「インスタレーション」、「パフォーマンス」、「コンテンポラリーダンス」、「舞踏」、「ビデオアート」、「写真」について概観し、さらに「未来派」、「ロシア構成主義」、「デ・スティール」、「バウハウス」、「ダダ」、「シュールリアリズム」など近代の芸術運動について検討する。	
		日本文化史Ⅰ	世界文化遺産に登録されている厳島神社を文化的な観点から捉えることで、地域の文化を理解する視点を身につけるのみならず、地域と自分との関わりを考えることのできる能力を培うものとする。また、厳島神社の神事・祭礼や文化財を通して、自らの感性の素晴らしさに気付くようにする。『平家物語』、清盛だけではなく、厳島神社の全貌を明らかにする。講義を主体とするが、参考資料としてビデオなどの映像資料をも視聴する。	
		日本文化史Ⅱ	中世から現代にいたる時期の幾つかの文化的事象を取り上げ、日本人である自分の発想や振舞い方の原点について考え分析できる能力を培うものとする。また、日本文化の優れたところや問題点を理解したうえで、外国人に correspond できる習性を身につけることを考える。日本人は明確にものを言わないと批判されることが多いが、その由来を生活習慣・人間関係から考える。講義を主体とするけれども、参考資料としてビデオなどの映像資料をも視聴する。	
		文化プロデュース論	芸術文化は画家や俳優や演奏家など直接の創り手だけでつくられるものではない。作品を受けとめ楽しむ人々がいてはじめて社会の中で意味をもつ。つくる側と受ける側の間に立つ制作者＝プロデューサーの存在も欠かせない。この授業ではさまざまな文化イベントを企画実施してきた講師がプロデュースのあり方の実例を検証し、望ましい姿を提示することによって、今できる活動、いつかしてみたい仕事を受講者がイメージできるようにすることを目指している。	
芸術史研究	芸術には、たとえば親子、師弟など人から人へと受け継がれるものもあるが、時代を超えて共鳴し、憧れを呼び、影響を受けるという伝わり方もある。ここでは、通史を離れ、日本美術における時代を超えた影響や私淑に焦点を当てる。たとえば、俵屋宗達・尾形光琳・酒井抱一と続く琳派の流れ、安田靉彦と良寛と万葉集、正倉院宝物と近世後期から近代の文化財意識などテーマを設け、その関係性を見てゆく。			

関連科目Ⅰ(C4)	文化・歴史	古典日本語基礎文法	この授業では、日本語の古典文法の基礎について学ぶ。高校までに学習してきた日本語の古典文法を、確実に習得させたい。さらに、大学で日本語に関する学びに適応させるべく、発展的に学習させる。日本語古典文法の知識は、日本語の古典語研究は言うまでもないが、古典文学の読解、研究においても、現代日本語の研究においても、日本語古典文法の知識は、必要である。国語教育においても必須である。日本語の古典文法の基礎を身に付けることによって、それらの研究に対応できる能力を身に付けさせたい。	
		女流文学の世界Ⅰ(古典編)	古典の時代、男性中心と云ってよい社会の中で、女性たちは何を考えどう生きたのかを考える。前半は和歌の贈答を取り上げる。贈答歌には大きくは2つの決まり事がある。1つは相手の詞を自歌に取り込む。2つは男性の求愛を切り返し、否定・反論する。その応酬の中で、歌才とともに女心が垣間見える。額田王・和泉式部・小野小町・式子内親王の歌を対象として、歌人は歌に何を託したのかを考える。後半は、『平家物語』の女性たちの愛別離の苦しみを通して、祇王・横笛・巴御前・小宰相・重衡北の方の生き方を考える。	
		日本王朝文化の世界	本講義では、平安時代の貴族社会で重視されていた漢籍の学問や和歌、音楽、舞踊といった様々な教養について、学習内容や方法とともに、それぞれの教養がどのような目的をもって学ばれていたのかを、平安時代の貴族の執筆した漢文日記や物語をはじめとする文字資料や、鎌倉時代以降に成立したとされる絵巻物を始めとする絵画資料を通して学習するとともに、それぞれの教養の発祥と変遷についても学びながら、東アジア全域から見た日本文化の歴史と特徴、位置づけについて理解を深める。	
		日本史	歴史を知ることは、過去を知るだけでなく、現在を知ることでもある。この国がどのように成り立ち、私たちが生きる、今日にいたるのか、その流れを、通時的に大づかみに把握するとともに、政治上の動きだけでなく、社会と文化のうねりにも着目しながら見てゆく。	
		外国史Ⅲ	ヨーロッパの歴史の大綱について、ヨーロッパ以外の地域との関連に注意しながら、基礎的な理解を得ることを目的とする。戦争や王国の興亡などの政治史には最小限ふれるようにし、社会や文化や生活がどうであったかを、なるべく史料の講読や映像の提示によって実感できるようにする。コンブリッチ、ルゴフなど碩学が若い読者に向けて執筆した書物を教科書とする。	
		外国史Ⅳ	今日、唯一の超大国としてアメリカ合衆国が世界の政治・経済を動かしていることは否定できない。特に、「自由と正義」を理念とする民主主義の国として、また、産業社会(大衆消費文化)に世界に先駆けて実現した国として多くの国に影響を与えて続けている。その独立革命以来、世界中から移民が押し寄せた国、国民意識の形成に悩む国でもある。こうした、アメリカの歴史を知ることを通して、これからの世界の行方について考えてみたい。	
		映画史	19世紀に誕生し、20世紀を代表する芸術、文化、産業となった映画の歩みを振り返り、その特質、魅力、多様性などについて考える。まず、物としての映画フィルムと映画のジャンルについて簡単な考察を行った後、順次年代を追って映画史を紹介する。映画誕生、サイレント映画、トーキー革命、戦争と映画、巨匠たちの美学、新しい波、ワールド・シネマ、のタイトルのもとに適時短い映像を示しながら検討する。短い時間では十分鑑賞することはできないが、映画史の構造をおよそ理解することを目標にする。	
		宗教学Ⅱ(仏教・神道・ユダヤ教・イスラム教・新宗教)	「宗教学Ⅰ」において修得した方法論にたつて、諸宗教を理解することを試みる。さまざまな伝統宗教や新宗教の教義・歴史・形態を学ぶことを通して、宗教の起源や本質についての考察を進める。 また、カルトやスピリチュアル・ブームについて、多角的な視点からの理解を試みる。 また、グローバリズムの時代における原理主義の問題について、討議と考察を行う。	
		世界の舞台	舞台芸術(パフォーミング・アーツ)には演劇、音楽、舞踊など実に多岐分野が含まれる。世界の舞台芸術の多様性を見渡すのは困難であるが、同時に多彩な舞台芸術が共有する最小限必要な要素も存在するともいえる。この講義では南アメリカや沖縄の音楽や舞踊をはじめ、世界の各地の舞台芸術をランダムにとりあげてややくわしくこれらの歴史や現状を紹介し、人間にとって表現するとはどういう意味をもつことなのかを、考えてみたい。演劇演技の授業と連動する企画も計画する。	
		舞台衣装	さまざまな舞台芸術(パフォーミング・アーツ)には、それぞれに応じた、さまざまな舞台衣装があり、表現の主体である身体に寄り添って大きな役割を果たしている。この授業では、パフォーミング・アーツにとって重要な要素である衣装を、布あるいはファイバーを用いた立体造形ととらえ、造形活動の基礎的なプラクティスとして、受講者自らが発想し、制作する手ほどきを行う。	
		陶芸論	陶芸では、人間にもっとも親しい土という素材を用いて、人間の手と身体をつかって形をつくっていく。美術のさまざまな分野のなかでも、もっとも根源的な営みのひとつだといえる。この授業では、陶芸についてそうした観点から解説を試み、さらに陶芸を土を用いた立体造形ととらえて、造形活動の基礎的なプラクティスとして、受講者自らが発想し、制作する手ほどきを行う。	
		マンガ・アニメーション研究	今日、マンガやアニメーションは日本文化の中で欠くことのできないファクターとなっているのはもちろん、海外に発信できる日本の文化としても、ますますその重要性を増している。この授業ではそうしたマンガ、アニメーションの歴史と現状を簡略に概観したうえで、いくつかの作品をとりあげ、技法から社会的背景にいたるまでの多くの側面から詳細に分析する。受講生にとっては日頃接しているマンガ、アニメーションであるが、学問的アプローチがどのようにして可能なかを理解する、糸口となることをめざしている。	
		都市と文化財	日本の近世、近代を中心に、現在、文化財として伝わるモノが、どのような場で、どのような需要を受けて生成され、どのように受容され、消費され、今日まで伝わったのかを「都市」というキーワードのもとに見てゆく。都市以外でそうしたモノが生まれなかったかといえ、そうではない。しかし、たとえ、都市以外で生成されたり、受容されたり、伝わっているものでも、人と物資と富の集まる都市と関わりのないものは圧倒的に少ない。あわせて、前近代と近代以降で変わらない部分をもあぶりだすことにする。	
		ビジネス	広島地域ビジネス論	広島地域経済の概況を知るとともに、広島の地域経済を支える産業や、広島県の特産品などについて、ビジネスの第一線にある実務者の方がたから話題を提供していただき、自らも調査・分析を深めることを通して、広島地域ビジネスの現況を理解することをめざす。
			女性労働論	日本における女性雇用労働の現状と課題を探索し、ビジネス社会への女性進出とエンパワメントについて展望する。
市民社会とNGO・NPO	高度情報社会において、今までにない速度で社会が変化している。その一方で、明治近代国家誕生後に形成された既存の社会システムでは、対処できないさまざまな問題が生まれている。とりわけ、政府や自治体においてはこのような多様化した社会の変化に対応できず、公的サービスの提供に限界が見えている。地域社会では、福祉施設の経営、サービスの供給、まちづくりや環境保全、さらには国際協力等を推進する民間非営利組織(NPO: Non-Profit Organization)の活動が活発に展開され、そのような組織を後押しする団体も増え、NPOそのものが身近になっている。こうした背景と組織経営の実態及び課題を理解し、NPOの具体例を取り上げ、住みやすい、豊かな地域社会へ参画していくことを学ぶ。			

開 連 科 目 I ( C 4)	コミュニティとまちづくり	20世紀、日本の家族やコミュニティ、地域の空間・景観は大きな変容をとげた。この流れは、21世紀においてどのようになるのであろうか。また、広島市で暮らす私たちにとって、生活の場としての地域、そしてヒロシマはどのような意味を持つていくのだろうか。コミュニティやまちづくりとその担い手、ヒロシマへのまなざし、空間・景観の変容などの現場を、五感と感性・心を通じて学ぶ努力を重ねながら、生活の場や地域において大切な空間的な取組や事柄、そして課題や可能性を考える。		
	ビジネス実務総論 I	ICT部門が急速な発展を遂げているが、その対応に追われながらも進展するビジネス社会において、ビジネスワーカー自身のあり方も大きく変わってきている。キャリアだけを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性をビジネスワーカーが意識しはじめた。グローバル化された社会において、ビジネスワーカーに必要とされるビジネス実務とは何かを学ぶとともに、変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、自らの職業観を確立することを目的とする。 「ビジネス実務士」の資格取得に向けた必修科目である。		
	ビジネス実務総論 II	複雑化・高速化・高度化する多面的な現代社会において、あらゆる分野で適材適所の人材が求められている。経済が成熟し、モノがあふれている社会では、消費者の求める商品の質は高くなり、商品そのものの魅力だけではなく、消費者の「心」や「気持ち」を動かすようなホスピタリティあふれる販売方法の必要性も高まっている。新しい概念としての「ホスピタリティ・マネジメント」の導入は、医療・福祉・介護・生活文化・地域・金融・教育・旅行・外食・観光等々で大きな成果を挙げている。ホスピタリティを理解し、ビジネスで活かすことを目的とする。		
	ビジネス実務演習 II	意思決定者としての上司の職務が円滑かつ効果的に進むように「補佐」する存在として、秘書職の定義を再考する。また、秘書職を組織論から理解し、職務のあり方を考察し、事例にそって業務内容を分類する。ケーススタディを通して問題解決のための対応や処理の手順、ならびに優先順位のつけ方を考察し、対応能力の向上を図る。さらには、ロールプレイを通して実践において必要な知識と技能を学ぶ。		
	プレゼンテーション演習 I (アサーティブ・コミュニケーション論演習)	現代社会における企業などのビジネス組織において活用されているプレゼンテーションに関する知識や技法のなかでも、基本となるコミュニケーションのあり方を体系的に学習する。とりわけ、欧米社会だけでなく、新興国においてもビジネスのフィールドでは、アサーティブネス論に基づいたコミュニケーションのトレーニングが盛んである。より良い人間関係構築のためのコミュニケーションについて、ロールプレイなどを通して学ぶことを目的とする。 「プレゼンテーション実務士」の資格取得に向けた必修科目である。		
	プレゼンテーション演習 II	プレゼンテーションの理論と実践をより深く、さらに効果的なプレゼンテーションを実践することを目的とする。与えられた課題に対しての個人発表を行なうとともに、グループに与えられた課題を協働作業で企画し、映像で表現するための制作ならびに発表を行う。ビデオカメラなどの機器を使い、素材を集め、編集機器で整える一連の作業を通じて、プロジェクトチームのあり方を学ぶ。 「プレゼンテーション実務士」の資格取得に向けた必修科目である。		
	情報総合プレゼンテーション演習	情報機器の特性を利用し、効果的なプレゼンテーションを行うための方法を理解し、実際のプレゼンテーションができる実践力を養うことを目的とする。個人の技術の向上を当然のこととし、プロジェクトチームを組み替え、作業の展開を繰り返し、最終課題の作品を完成させる。また、状況を判断した対応能力を高めるためのコミュニケーション能力の向上を図る。 「プレゼンテーション実務士」の資格取得に向けた必修科目である。		
	ビジネスデザイン I	ビジネスの基本を習得し、自らがビジネスを企画立案・計画実行(デザイン)する過程において必要な知識・技能と対応能力を養う。ビジネスアイデアについて、情報収集、分析をチームで行い、討議を重ねたうえで、企画書を作成し、発表する。総合的なビジネスデザイン力を身につけることをねらいとする。 15回の講義のうち、3回は企業の方に外部講師として来ていただき、マーケティングなどに関する講義を受ける。その後、実際に起業している方の店舗において、1日研修を受ける。最後に、各自のビジネスデザイン案を発表することで、起業力を理解する。		
	ビジネスデザイン II	地域経済活性化のためには、雇用されることに期待をもつだけでなく、自らが業を起こし、他者を巻き込むことが望まれる。まずは、何かに挑戦したいという意思と意欲をもち、気づきを形にすることが大切である。そのためには、ビジネスプラン(事業計画書)を作成する過程で、現実を理解していく。自らをプロジェクトマネージャーにたとえ、実践していくことを学ぶ。さらには、大学生を対象としたビジネスコンペに出展することをめざす。		
	マーケティング論	市場を創り出す企業活動におけるマーケティングの重要性について理解するとともに、マーケティング・マネジメントの実践について理解する。身近な問題として、小売業におけるマーケティングのあり方やその戦略を理解し、消費者行動に関して考察を重ねていく。さらには、特徴的なマーケティングを行なっている企業などのビジネス組織に焦点を当て、考察する。		
	ビジネス英語	英語を生活言語とする外国人とのビジネスコミュニケーションに関する基礎知識を学ぶ。単に、通じればよいという英語ではなく、相手とのコミュニケーションを図る英語を学び、品性のある英語とは何かを理解する。同時に、身につけておきたい国際ビジネスマナーやプロトコルを理解し、実践することを目的とする。		
	インターンシップ II	ビジネス活動とそこで働く人びとのビジネス・ワークについて、「インターンシップ(就業体験実習)」を通じて理解を深め、自らの専門知識・スキルの向上を図るとともに、職業適性、職業生活設計、職業選択について考える契機とする。事前学習として、専門領域のビジネス組織についての理解を深め、ビジネスワーカーとして求められる実務能力開発やキャリアプランニングを探索する契機とする。受講生は、夏期休業中に2～3週間程度の期間で、本学独自の研修先での「インターンシップ」に参加することが義務づけられる。同様に、事後学習としての「研修報告」(研修レポート提出と報告会参加・発表)が義務づけられる。		
	教 職	教育原理	子どもを育てる行為としての教育について、その教育活動の目的・内容・方法・評価という基本的諸原則について考察することにより、今日の学校教育の望ましいあり方について考えていきたい。	
		教育心理学	今日の学校における教育過程の心理的側面について考える。近年、教育における教材の持つ論理性と子どもの認識の発達の関係に関して研究が深められているが、それらの知見についても紹介しながら、学校の教育実践に近年の成果がどのように生かされているか考えてみたい。	
教育社会学		教育という複合事象を中核の対象におき、その教育事象の社会的機能の側面を考えて行く。具体的には、子どもの社会化は、家族集団、仲間集団、学校集団においてどのようなプロセスを経て行われるのか。学校のカリキュラムと社会要求、授業における教師・生徒のストラテジー等の問題について考察する。		
家庭科教育法 I		家庭科の指導者として必要な家庭科教育観を確立するとともに、ビデオ・DVD映像を通してさまざまな授業実践例を知り、学習指導案の書き方や教材研究の方法など実践的な学習指導のあり方について学ぶ。また、環境教育、福祉教育、消費者教育、食農教育など現代の教育課程と家庭科教育との関係を理論的に整理し、授業づくりに役立てたい。		

関連科目 I (C4)	教職	家庭科教育法Ⅱ	学習指導要領から家庭科の学習方法を理解させるとともに、授業実践例をもとに効果的指導法、教材研究および授業設計の方法を習得させる。また、効果的な学習方法を用いた学習指導案を作成させ、授業実践力を培う。
		家庭科教育法Ⅲ	映像資料や文献から家庭科授業の分析を行い、家庭科の現代的課題を見出すとともに、課題への取り組みとして新しい視点を導入した教材・教具の開発を行う。
		家庭科教育法Ⅳ	持続発展教育 (ESD) の視点を取り入れた家庭科の授業のあり方を理解させるとともに、自らが考えた家庭科の教材・教具を作成することで、家庭科教師に必要な資質能力を育成する。
		教職実践演習 (家庭)	本授業科目は4年後期に開設されていることから、これまで教職課程履修の経過をみて、学生の指導を行うとともに、不足していると認められる知識や技能を補うことを目的とする。また、具体的には、家庭科教諭に必要な実践的な活動 (事例研究、現地調査、模擬授業) を通して、教師としての資質能力、知識を身につけることにより教職生活へのよりよいスタートを図ることをめざす。
		教育史	中世から現代に至る欧米及び近代日本の教育思想、制度、習俗及び教育実践の変化・発展に関して考察するが、それらの歴史的事象を単に学説、制度等の連続、非連続として捉えるのではなく、その時代の社会、経済、政治、文化と係わらせてトータルにまた構造的な視点から考えたい。
		学習心理学	学習に関する基礎的知識を習得し、学習に関わる諸問題を理解することができるようになることを目標とする。そのため、特に学校における学習指導を効果的に行うための基本となる事項については具体例をあげ、体験的実習や演習を採り入れて授業を進めていく。
		教育と法	教育行政のしくみ、主に学校教育制度を法的側面から考察する。具体的な資料 (裁判例や事件記事、統計的数値) の読解を通じて生きた教育の制度を法的実態側面 (教育法令、教育法令の考え方や知識) から理解することとしたい。
		人間関係論Ⅰ (含家庭関係学)	前半で人間関係を社会心理学的観点から解説し、後半で人間関係の1つである家族に焦点をあて講述することで、人間関係に働く心理構造や家族内の人間関係の特徴などを理解させる。
		人間関係論Ⅱ	人間関係を、心理学的観点から検討する。人間関係に影響を与えるもの、生涯発達における人間関係の特徴、人間関係の始まりと展開、職場や社会における人間関係などについて説明し、自分を含めた人と社会との関わりについて考える。
		生活経営学 (含家庭経営学・家庭経済学)	人間生活は、あまりにあたりまえすぎて、これまで必ずしも研究の対象として取り扱われてはこなかった。生活経営学では、個人の生活や家庭生活を研究対象としてとらえる。個人の生活や家庭生活を、生活とはどのようなものであるかという生活構造の視点、および生活が外部環境との相互作用によって成り立っているという視点から理解することを目的とする。生活経営の考え方の基礎、生活の変化についての学習をふまえ、主として生活時間の視点から生活経営を考える。
		関連科目 II (C5)	教職
保育学 (含実習・家庭看護)	保育学という学問領域は、まだ学問として確立しているとはいえない。そのため、教育思想史、発達心理学、福祉と保育に関する法令、保育施策の現状と課題、幼稚園・保育所の保育実践例、小児看護など、総合的にアプローチするという、学際的内容を特徴としている。講義において、教育思想史を概観し、保育の現状を知り、子どもの発達と生活を学ぶ中で、21世紀における保育・育児・子育て支援の課題を探り、教育 (保育) 者として、保護者として、社会人として、子どもとの適切なかかわりを理解する。		
情報メディアの活用	図書館資料を構成する多様なメディアに関する理解を深め、情報メディアを活用するための実務的技術の育成を目指す。デジタルアーカイブという観点から、情報メディアの意義・種類・特質、メディアを扱う上で必要な著作権や情報倫理について学ぶ。またコンピュータやネットワークの基本的操作や情報メディアを管理・運用するための技術を学ぶ。学習メディアセンターとしての役割を認識し、図書館に関わるさまざまな情報提供と学習者の情報メディア活用を支援するための知識と技術を修得する。		
言語とコミュニケーション	本授業では、会話から受ける相手の印象について会話を実証的に分析し、会話・談話の分析の視点、分析力を養うことを目的とする。日常生活では、よく話す人、おとなしい人、うるさい人などと相手に対して主観的な評価を行うことがあるが、そのような評価が生じる背景には、実際の会話においてどのようなやりとりによるコミュニケーションが行われているのか、接触場面と内的 (母語) 場面におけるなど様々な会話例から探る。授業は、講義ならびに受講生とのディスカッションを中心に進める。		
図書館情報技術論	図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するためにコンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説し、必要に応じて演習を行う。まず、コンピュータを使いこなす、自ら情報を収集し、整理し、保存する能力を身に付ける。また、図書館とコンピュータとの関係について深く理解させ、司書の業務にコンピュータを有効に活用する能力を身に付けさせる。学習者の個々に能力に応じて指導し、コンピュータ活用能力の基礎力アップを目指したい。		
情報検索演習	レファレンス・ワーク演習と関連して、文献やデータの検索が自在に行えるようにする。演習問題を文献やweb-siteから検索して回答を導き出す能力をつける。検索のツール、例えば、蔵書検索として、NDL、Webcat、Worldcat、雑誌記事検索として、NDL、NIIなどを利用する方法を学ぶ、さらには、古典籍や漢籍、公文書、政府関係資料、法令関係資料、判例や特許関係の資料の検索ツールについて学ぶ。また、さまざまな情報検索問題を与え、それを解決させることにより、情報検索の技術の向上を図る。		
情報サービス概論	図書館における情報サービスの意義とあり方について、特に近年の電子図書館化による多様な情報ニーズへの対応に主眼をおき、情報サービスの理論と情報検索の実際を解説する。まず、情報サービスの定義について明確にし、情報サービスの歴史と情報サービスの意義、サービス環境、館内インフォメーション、図書館利用者教育、情報リテラシー教育について述べる。また、情報サービスの情報源として、レファレンスコレクションの種類や電子メディアの種類と特徴、レファレンスコレクションの構築について理解させる。		
教職論	教職をめぐる組織・制度・環境等について学び、教師としての資質・能力に何が求められるのかを追究する。具体的には、「教職の要件」、「教職の意義と教員の使命・資質」、「教員の仕事と役割」、「教員の研修と服務規程」、「初等・中等教育と教員」、「教員養成と教職課程」、「求められている教師の資質・能力及び指導力」等を学ぶ。また、特別講義として、教職経験者から現場の実際について講話を聞き、学びを深める。		

教職	教育課程論	教師の実践的力量的の中核となるカリキュラムの開発や教材の活用、教育の方法と技術、児童生徒理解と教育の評価に関する知識と技能について、教育的タクト形成の視点から学ぶことによって、教職能力の基盤を構成している教育課程論の知見を習得する。具体的には、「教育実践と教育方法学」、「学習指導要領の歴史と論理」、「学校教育の構造と教育課程の編成」、「学級で教えることの技術とドラマ」、「児童生徒理解と教育実践の課題」等を学ぶ。	
	教育方法の研究 (情報機器及び教材の活用を含む)	教育において、自ら学び、自ら考え、自ら決断し実行できる力を育成することが最も重要な教育目標となってきた。このような中で、これまで知識の教授に主眼をおいてきた教科指導から、自己学習能力を最大限に発揮させることのできる新しい学習指導への移行が模索されている。この講義では、伝統的な教育方法をふまえた上で、新たな視点から教科指導の方法、教育技術の開発、教育評価の問題について考えていく。	
	生徒指導の研究	生徒指導は、児童・生徒の一人一人の個性の伸長や社会性を育てるうえできわめて重要な役割をもっていることを理解するとともに、積極的な生徒指導及び進路指導の観点から児童・生徒に対応する必要性について研究する。具体的には、「生徒指導の意義と課題」、「生徒指導の原理と理論」、「児童・生徒理解の進め方」、「学級（ホームルーム）経営の進め方」、「生徒指導と道徳教育」、「教科指導と生徒指導」等を学ぶ。	
	特別活動の研究	『小学校・中学校学習指導要領解説〔特別活動〕編』（文部科学省）の内容を周知することで、特別活動の意義を理解し、その内容、計画、実践の方法などについて学習する。具体的には、「特別活動の目標・内容」、「学級活動の事例研究」、「学校行事の事例研究」、「模擬講話（個人発表）を通しての指導講話のあり方・話し方研究」、「学校行事「文化的行事」の実際（DVD）の検討」等を学ぶ。	
	学校カウンセリング	今日、学校教育の現場では、不登校やいじめなどさまざまな問題が見受けられる。中学生・高校生の時期は青年期にあたり、その心理的特徴として、性差や個人差が目立つこと、アンバランスな心身の発達、抽象的な思考の発達により関心が自己の内面に向かうことなどをあげることができる。この講義では、ライフサイクル上、非常に不安定になりやすいこの時期の生徒を、私達はいかに理解し、また、その心理的問題に対して、どのように対応すれば良いかを考えたい。	
	道徳教育の研究	『小学校・中学校学習指導要領解説〔道徳〕編』（文部科学省）の内容を周知することで、道徳教育の意義を理解し、その内容、計画、実践の方法などについて学習する。具体的には、「道徳教育の目標・内容」、「外国の道徳教育の現状」、「道徳の授業づくりと学習指導案の書き方」、「道徳授業（DVD）の参観と授業検討」、「道徳の模擬授業と授業分析」等を学ぶ。	
	介護等体験Ⅰ	小・中学校の教諭の普通免許状を取得希望する場合、特別支援学校（2日間）及び社会福祉施設（5日間）において7日間以上の介護等体験を行う必要がある。介護等体験は、様々な人と出会い、一人一人の生き方の多様性、重みを知るよい機会である。この学びは、教育実習において、子ども達をみる目（理解）に生かされてくることを、十分自覚して取り組む必要がある。（14.松浦正博・21.桐木建始・33.戸田浩暢）	オムニバス
	介護等体験Ⅱ（事前・事後指導）	介護等体験に関して体験の意義や本質について考える。とくに、特別支援学校や社会福祉施設での具体的な指導のあり方について特別支援学校の教師や社会福祉施設の指導員の方々の講話を聞くことにより体験の準備をする。事後指導においては、体験の内容についてグループで話しあうとともに、そのまとめを発表し体験の共有化をはかる。（14.松浦正博／2回）（21.桐木建始／2回）（33.戸田浩暢／2回）（特別講師4名／4回）	オムニバス
	教育実習Ⅰ	出身中学校・高等学校において1～2週間の観察・参加形式の教育実習を行う。教育実習は、大学において学んだ教職や教科に関する専門科目の知識・技術を、実際の教育現場において指導教諭から指導を受けながら生徒たちとの間に展開することである。その実践を通じて、教師としての自らの適性、教育実践の技術的な面を学ぶことをめざす。	
	教育実習Ⅱ	出身中学校・高等学校において2週間の観察・参加形式の教育実習を行う。教育実習は、大学において学んだ教職や教科に関する専門科目の知識・技術を、実際の教育現場において指導教諭から指導を受けながら生徒たちとの間に展開することである。その実践を通じて、教師としての自らの適性、教育実践の技術的な面を学ぶことをめざす。	
教育実習Ⅲ（事前・事後指導）	本実習は教育実習前・後の指導を行う。実習の事前指導としては、実習の意義・目的を学ぶとともに実習中の授業への準備として、模擬授業を行う。また、現場の教師の講話を通して教育現場の実態について学ぶ。事後指導としては、実習を等して学びえたことをアンケート、集団討論、発表、個別面接により自覚的にとらえることとする。		
学芸員	教育学概論（含博物館教育論）	博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。一般的な学びの意義を確認した後、博物館教育の意義と理念として、コミュニケーションとしての博物館教育、博物館教育の意義、博物館教育の方針と評価について検討し、博物館の利用と学びとして、博物館の利用実態と利用者の博物館体験、博物館における学びの特性を解説、博物館教育の実態として、博物館教育活動の手法、博物館教育活動の企画と実施、博物館と学校教育について講義する。	
	生涯学習論Ⅰ	21世紀は生涯学習の時代である。この授業では、生涯学習を要請する現代社会の特質を理解したうえで、新しい学び方およびライフスタイルの構築を試みる。諸外学習をキーワードとして、その概念をはじめとして、職業生活、地域、州境、女性、高齢者、情報技術などとの関連について考察する。	
	博物館概論	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。まず博物館学の目的・方法・構成、博物館学史について簡単に触れた後、博物館の定義（類縁機関との違い、種類（館種、設置者別、法的区分等）、目的、機能について詳述し、さらに博物館の歴史と現状として、我が国及び諸外国の博物館の歴史、我が国及び諸外国の博物館の現状、学芸員の役割（定義、役割、実態）、博物館関係法令を概観する。	
	博物館経営論	博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアム・マネージメント）に関する基礎的能力を養う。まず博物館の経営基盤として、ミュージアム・マネージメントの意義を説き、行財政制度、財務、施設・設備（ユニバーサル化を含む）、組織と職員などについて解説し、博物館の経営として、使命と計画と評価、博物館倫理（行動規範）、博物館の危機管理利用者と関係に関して紹介し、さらに博物館における地域や博物館間の連携にふれる。	
博物館資料論	博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養う。まず博物館における調査研究活動についてその意義と内容を検討した後、博物館資料の概念として、資料の意義、資料の種類、資料化の過程を検討する。また博物館資料の収集・整理・活用として、収集理念と方法、資料の分類・整理、資料公開の理念と方法（アクセス権、特別利用等を含む）について論じる。		

関連科目Ⅱ（C5）

関連科目Ⅱ(C5)	学芸員	博物館情報・メディア論	博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。博物館における情報・メディアの意義を考察した後、博物館情報・メディアの理論として、博物館活動の情報化、資料のドキュメンテーションとデータベース化、デジタルアーカイブの現状と課題、映像理論、博物館メディアの役割と学習活用などを検討し、博物館における情報発信、博物館と知的財産などについても解説する。	
		博物館資料保存論	博物館は「博物館法」に端的に表われているように、いくつもの機能を持っている。そのうち、外部からも見え、わかり易いのは展示だろう。展示は外向きに開かれた部分で、博物館の顔である。逆に、外から最もわかりづらいのが保存である。博物館は収集した資料を保存し、守り伝えてゆく使命を負う。これはいわば、現在のためではなく未来のための仕事である。展示と保存はしばしば相反するが、保存する必要性を知らしめるためにも展示は重要である。博物館における資料保存の意義と理念を学ぶと同時に、資料保存の知識を習得する。	
		博物館展示論	来館者や地域のひとつひとつにとって、博物館の最も身近な機能は展示である。展示のしかた次第で、来館者にとっての博物館資料の認識まで左右しかねない。そのためには、その資料をいかにわかり易く、或いは、見易く、また、よりよく見せるかという技術は博物館学芸員にとって必須のものである。もちろん、博物館と一口にいってもその展示室の限界や可能性はさまざまである。ここでは、そもそも展示するとはどういうことか、その意義と理念を学ぶと同時に、いくつかの具体例をもとに、展示方法に関する技術や知識を習得する。	
		博物館実習Ⅰ	学芸員の業務を理解し、実践的能力を養うことを目的とする実習で、一部市内の博物館見学を行う他は、学内で実施する。展示の基礎的知識・技能、資料の点検と整理保管、各種の絵画、彫刻、工芸品、服飾品などの取り扱い、拓本の取り方、植物資料の維持管理などについて実習を行うほか、学内で展覧会を企画して開催する。あわせて館園実習に関する事前の指導、準備も行う。	
		博物館実習Ⅱ	学芸員の業務を理解し、実践的能力を養うことを目的とする実習で、1週間程度、さまざまな学外館園で実施する。	集中
		博物館実習Ⅲ	学芸員の業務を理解し、実践的能力を養うことを目的とする実習。館務実習の事後指導および、2泊3日の遠隔地での見学研修旅行、その事前事後指導を内容とする。受講生の各種報告書をまとめて、「実習報告」を刊行する。	
		生涯学習概論(司書)	本講義においては、まず、欧米の「生涯学習社会」の成立過程について歴史的にとりあげ、今日、多様な展開を見せている様々な形態について概観する。そして、そのような動向の中で、戦後のわが国の「社会教育」「生涯教育」が「生涯学習」へと直されてきた経緯を明らかにしたい。その上で真の生涯学習社会を構築するために今日の生涯学習の方向性と課題について検討する。とくに、生涯学習の展開に図書館、学校図書館が果たすべき役割・機能についても考えてみたい。(オムニバス形式/全15回) (14. 松浦正博/5回) 欧米の「生涯学習社会」の成立過程について歴史的に跡づけるとともに、今日多様な展開を見せている様々な形態について概観する。 (109. 天野かおり/10回) 今日、わがくに於いて「生涯教育」から「生涯学習」への移行の現状をについてその方向性と課題について検討する。とくに、生涯学習の展開において、図書館、学校図書館が果たすべき役割・意義について考える。	オムニバス
	図書館概論	図書館とは何か、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図る。また、図書館がどのような歴史を持ち、現在どのような種類の図書館があり、各館種の図書館にどのような違いがあるか、その社会的意義、図書館の自由、著作権の知識、さらに、図書館職員が果たすべき役割とそのための資格および専門性の内容、図書館に係わる類似機関について、そして、図書館の現在の課題とこれからの展望など、幅広いテーマの基本を知り、考察することによって、その中で、特にまず、身近にある図書館に興味と関心が持てるよう概説する。		
	図書館経営論	公立図書館の経営に係わる諸問題を概説する。図書館が市民に親しまれ役立つ施設となるために求められる経営のあり方を考える。例えば、図書館評価と統計、図書館サービスの評価、図書館の建設、図書館の施設と設備、図書館の管理運営上の諸問題、危機管理など、さらには図書館職員を取り巻く現状と課題、図書館経営の現状と課題などについて講義する。		
	図書館サービス論	公立図書館のサービス活動の基本的な理念とサービス活動の構造、近年の公立図書館のサービス活動の歩みについて理解を図るとともに、公立図書館のサービス活動の内容として、貸出による資料提供の重要性とカウンターサービスのあり方、資料案内やレファレンスサービスによる資料・情報の案内や提供、課題解決のための援助、予約サービスと図書館間の連携・協力、障害者・高齢者・多文化サービス、著作権への理解等を概説し、さらに現在の課題にもふれることにより、公立図書館への関心と理解を深める。		
	レファレンスサービス演習	レファレンス・サービスを行うための、問題解析、情報源の探索、情報の評価、回答に至る一連のプロセスを演習により習得する。web-siteや図書館の活字資料から自在に情報を求めることが出来るようにする。レファレンスの問題演習を実際に行わせることによって、実践的技術を修得させる。また、レファレンスのインタビューを練習させることによって、質問の受け方の訓練を行う。また、質問内容の調査や回答の実際例を学び、実践的技術を身に付ける。		
	図書館資料論	公立図書館における資料の選択・収集の問題を中心に、図書館資料の特質と種類、新しいメディア、資料の利用、出版流通、蔵書管理と保存等の問題について学ぶ。まず、図書館資料とは何かについて明確にさせ、図書館資料としての図書、雑誌と新聞、地域資料、小冊子、地図、楽譜、外国語資料、AV資料、電子資料、インターネット情報など、さまざまな資料について理解させる。さらには、資料選択、複本購入の問題、資料選択の実際と課題、図書館資料の保存と電子化などの問題について述べる。		
	専門資料論	図書館における資料や情報メディアが多様化している今日、その現状を把握し、図書館が収集・提供する各々の資料について理解を深め、それらを上手に活用する能力が必要となる。本講義ではメディアや内容の異なる図書館資料を取り上げ、それぞれの資料の特徴、収集、提供、利用における留意点などについて論じる。点字資料や電子資料、地域資料、政府刊行物、視聴覚資料、逐次刊行物、地図資料など、さまざまな資料について学ぶ。		
	資料組織概説	資料組織とはなにか、なぜ必要なのかといった内容から、資料が組織化されている現状、そして図書館が扱う資料・情報を組織化していく上で必要となる知識である目録法と分類法について概説する。最終的には資料組織についての理解を深める。資料組織の業務と意義、書誌コントロール、OPAC、記述目録法の実際、主題目録法について学び、分類法の基礎を理解させる。		
	資料組織演習	日本目録規則を理解し、これにより資料の目録が記述できるようになることを目指す。日本十進分類法を理解し、これにより資料に分類記号が与えられるようになることを目指す。国際標準書誌記述とNCRとの関連について理解させる。タイトル関連情報、版表示と関連事項、出版事項、対照事項、注記などについて説明し、個々に日本十進分類法の演習を解かせることにより、資料組織に対する深い理解へと結び付けて行く。		

関連科目Ⅱ（C5）	司書	児童サービス論	公立図書館の児童サービスについて、乳幼児から中学生くらいまでを対象と考えて、児童サービスの意義とその歩み、子どもの読書の現状と読書の役割、絵本や児童文学などの図書館資料についての知識と児童書の選択・収集・保存、資料提供等の基本的なサービスと読み聞かせやストーリーテリングなどの行事・集会活動等のサービス内容、児童サービスに係わる施設・設備のあり方、ヤングアダルト・サービス、学校図書館の状況と公立図書館による学校図書館への援助、それに現在のさまざまな動きと課題等を概説する。特に、児童書の内容を知り、児童サービスの意義について理解を深めることを目的とする。	
		図書及び図書館史	世界と日本の図書および図書館の歴史を概説する。世界における、文字と図書の歴史を概括し、古代の図書館、中世の図書館、近代の図書館についてそれぞれ理解させ、また、各国の図書館の現在を紹介する。日本についても同様に、古代、中世、近世、明治時代、戦後、現代へと、時代を追いながら行使し、時間と場の広がりの中で、日本の図書館の現状を意識させる。	
		図書館特論	「いま図書館は～マスコミに見る図書館」をテーマに、新聞や雑誌などで図書館がどのように報道されているか、その内容を紹介し、報道のあり方を検証するとともに、公立図書館でいま何が問題となっているか、市民は図書館に何を求めているかを考察する。例えば、犯罪報道と図書館、話題の図書館と報道のあり方、図書館民営化報道とその実態などについて講義し、図書館員のあり方を考える。	
	司書教諭	読書と豊かな人間性	子どもの読書状況と読書の意義、子どもの本の内容について概説したうえで、読書を推進する施設としての学校図書館や関連施設の役割および現在とこれからの問題を考察する。絵本や児童文学など、基本的な児童書を紹介することにより、子どもの本に関心を持ち、子どもの読書の現状と問題を幅広い視野で理解させることを図り、読書する子どもたちを育て、魅力的な学校図書館づくりができる能力を身につけることを目的とする。	
		学校経営と学校図書館	1997（平成9）年の学校図書館法の改正により、2003（平成15）年4月から12学級以上の学校に司書教諭が配置されている。1998（平成10）年には、学校図書館経営の中核を担う司書教諭を養成する「学校図書館司書教諭講習規程」が一部改正された。司書教諭の資格を得るための講習で履修すべき5科目の一つである本科目では、学校図書館の教育的意義やその経営・管理、司書教諭の役割などについての理解を図り、学校教育目標の達成を支援する学校図書館のあるべき姿について考察する。	
		学校図書館メディアの構成	学校図書館メディアの役割、内容と特性、選択・収集とその組織化について概説する。特に、資料の選択、受入、分類、目録など、資料組織化の実務を知ることによって、学校図書館が多様なメディアを的確に選択・収集し、組織化することが、児童・生徒の主体的な学習に役立つ図書館になるための基本的な要件であることについて理解を深めるとともに、コンピュータ化やインターネット活用の状況や今後のあり方を解説する。	
		学習指導と学校図書館	学校図書館法の一部が1997（平成9）年に改正され、2003（平成15）年4月以降12学級以上の学校に、半世紀近くも配置が猶予されていた司書教諭の配置が義務づけられた。現在学校教育は、知識を一方的に教え込みがちであった教育から、自ら学び自ら考える教育へと基調の転換が図られている。1998（平成10）年に改正された学校図書館司書教諭講習の5科目の一つである本科目では、学習指導における学校図書館メディア活用の基本的な視点と具体的な活用方法などを取り扱う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間生活学部 管理栄養学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 基礎 科目 (C1)	キリスト教入門Ⅰ	(1)本学の土台であり柱であるキリスト教について、理解を深める。 (2)その「正典」である聖書について、理解を深める。 (3)古代の文書である聖書が、なぜ、どのようにして、現代の私たちの生活に関わりを持つのか、さまざまな読み方を通じて、理解を深める。 (4)イエス・キリストの教えと行いから、「クリティカル・シンキング」を学ぶ。 (5)一方で、人の”いのち”を活かし、尊厳・自由・平等をもたらす宗教が、他方ではなぜ人の”いのち”を奪い、尊厳・自由・平等を脅かすのかを、ともに考える。		
	キリスト教入門Ⅱ	(1)本学の土台であり柱であるキリスト教について、理解を深める。 (2)前期「キリスト教入門Ⅰ」に続いて、古代の文書である聖書が、なぜ、どのようにして、現代の私たちの生活に関わりを持つのか、さまざまな読み方を通じて、理解を深める。 (3)人間の根本にある「宗教性」(霊性・スピリチュアリティ・帰依心)に気づき、「祈り」について学ぶことで、心と感性の豊かさを育てるきっかけとする。 (4)キリスト教的歴史観・世界観における「創造」と「終末」について学び、「いま・ここ」に生きる「意味」を各々が喜びをもって見出すきっかけとする。		
	キャリアプランニング (人間生活)	この授業は、広島女学院大学の一員として大学の建学の精神・歴史・教育理念についての認識を深め、また人間生活学部の教育目標やカリキュラムを十分に理解したうえで、大学においていかに学ぶかを考え、将来のキャリアプランを形成することを目的とする。特に、人間生活学部の教育理念である、「衣・食・住・育」における人間生活の質向上を支援する専門職をめざすために何が必要かを知り、自立した職業人となるための責任感、倫理観、創造性、コミュニケーション力、社会貢献への意思等を形成する基礎を身につける。		
	初年次セミナー	新入生が大学での学びを進めていく上で必要とされる学びの技法、すなわち聴くこと、読むこと、書くこと、整理すること、まとめること、表現すること等を修得することを目的とする。とくに、授業の聴き方・書き方・書くことをはじめとする技法、情報の整理の仕方、まとめ方について学ぶ。その前提としての情報を得る場としての図書館の利用・活用の仕方について実地体験する。		
	日本語表現技法	日本語で教育を受けてきた人々でさえ、日本語の使い方を誤っている場合も多い。漢字を正しく書くことだけでなく、その意味を理解し、熟語や四字熟語、慣用表現などを日常的に使用することに慣れるため、もう一度自分の日本語をみつめなおす。敬語などの基本的な表現を身に付け、手紙やビジネス文書など社会で必要とされている文書の意味を理解し、書く作業を通して、相手の理解を促すことを意識した表現方法を学ぶことを目的とする。		
	情報リテラシⅠ	「情報活用能力」の中でも「情報活用の実践力」を学習する。特に基本的な情報スキルを学習し、今後の大学におけるレポート作成、レジュメ作成および卒業論文における基礎的な力を習得することを目的とする。		
	情報リテラシⅡ	コンピュータの基本的な構造を理解し、情報の扱い方、ソフトの種類や用途などを自分で判断し、これらを利用して「課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力」の育成を目的とする。		
	基礎英語Ⅰ	This is an introductory integrated skills course, which combines reading and writing skills with listening and speaking. The class is designed to allow students to gain confidence in their use of all four English skills. 本講義は、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能全ての向上を目指す導入的コースである。本講義の目的は、受講学生が自信を持って英語の4技能を使う力を身につけることである。		
	基礎英語Ⅱ	This is a continuation of the integrated skills course, which combines reading and writing skills with listening and speaking. The class is designed to improve students' use of all four English skills. 本講義は、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能全ての向上を目指す導入的コースの上級編である。本講義の目的は、受講学生の英語の4技能のさらなる向上を目指す。		
	基礎英語Ⅲ	This is a high-level integrated skills course, which combines reading and writing skills with listening and speaking. The class is designed to allow students to gain confidence in their use of all four English skills. 本講義は、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能全ての向上を目指す上級コースである。本講義の目的は、受講学生が自信を持って英語の4技能を使う力を身につけることである。		
基礎英語Ⅳ	This is a continuation of the high-level integrated skills course, which combines reading and writing skills with listening and speaking. The class is designed to allow students to gain confidence in their use of all four English skills. 本講義は、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能全ての向上を目指す特級コースである。本講義の目的は、受講学生が自信を持って英語の4技能を使う力を身につけることである。			
共通 教養 科目 (C2)	総合 知	環境と人間	環境を人間が意味づけることは、人為の<起発>点に位置しつつ、人為の全幅にわたりに<こだま>することである。詩人オクタビオ・パスが「リズムは拍ではない—それは世界のヴィジョンである」と語るときの<リズム>が、ここでの<起発>と<こだま>に当たる。その意味づけ同時に行わす事態には、自然と人為とのそのつどあらたな調和への試行とも呼べる人間的くり返しが現われている、とも語りうる。本授業では、そのくり返しを、環境思想、文学、生物行動学、諸工学、環境地理学、認知心理学、生活環境制作等においてみていく。	
		現代女性と身体	私たちは与えられた性を生きているが、疑問を抱く者もいることは理解されはじめた。この授業では、自らの身体を通して、社会を再度見つめなおすことを行う。生む可能性・育てる可能性とその選択権をもった女性自身が、自らの性に関心を払うことで、自らの生き方を考えることにつながる。同時に、共に生き、共に育てる可能性のある男性のことも理解することで、人として生きる権利の大切さを学ぶ。さらに、人として生きる権利、人権を通して、暴力は差別であり、差別は暴力であることを認識し、暴力のない世界をめざす心のあり方を学ぶ。	隔年

共通 教養 科目 (C2)	総合 知	現代ジェンダー考	ジェンダーということばを耳にする機会は増えているが、その定義は不確かなままである。単に、男女二分法ではないことをふまえて、ジェンダー意識は成長過程の中で植えつけられるものである現実から、ジェンダーとは何を意味するのかについて、さまざまな視点から考察をしていく。とくに、人は支えあって生きるものであるという認識から、人という個の単位を振り返りながら、多様化された現代社会において個が抱えている問題点を探る。	隔年
		ヒロシマ	原爆投下から半世紀以上が経過し、原爆が投下されたという事実と「ヒロシマ」との懸隔は広がりつつある。「ヒロシマ」についての正確な認識し、「ヒロシマ」に関わる未決の諸問題とその影響を理解することは、「ヒロシマ」に還元されない原爆投下の事実を継承するためにも重要な作業となろう。本講義では、広島史の中に「ヒロシマ」を位置づけ、原爆投下の経緯とその影響について幅広く検討する。	
		ボランティア論Ⅰ	1990年代以降、ボランティアへの関心が高まり、ボランティアが日常的な用語として定着してきた。精神的なボランティア論があったとしても、ボランティア現場での具体的な振る舞いや制度設計などについての議論は少ない。本講義では、ボランティアについての概念や具体的なボランティアのあり方について討論形式を取り入れて検討し、ボランティアについて語りボランティアとして活躍できるようになることを目指す。	
		ボランティア論Ⅱ	ボランティア論Ⅰを受けて、ボランティア活動の企画運営について実践的に学ぶ。企画運営力をボランティア・リーダーの資質と位置づけ、具体的なボランティア活動の実施を目指す。	
		キリスト教の時間Ⅰ	本学の建学の精神に関わる独自の教育プログラムとして伝統的に持たれてきた「キリスト教の時間」（毎週火曜日13:00～13:45・前期15回）への出席を通して、平和・人権・女性などに関する課題に触れ、独自の考察を進めることを目的とする。受講者には「キリスト教の時間」への出席とともに、テーマに沿った事前学習（予習）とレポート作成（復習）が求められる。前期のはじめと終わりに、イントロダクションと振り返りの時間を設け、受講者の出席を必須とする。「キリスト教の時間」の各回内容については別途予定表において定める。	
		キリスト教の時間Ⅱ	本学の建学の精神に関わる独自の教育プログラムとして伝統的に持たれてきた「キリスト教の時間」（毎週火曜日13:00～13:45・後期15回）への出席を通して、平和・人権・女性などに関する課題に触れ、独自の考察を進めることを目的とする。受講者には「キリスト教の時間」への出席とともに、テーマに沿った事前学習（予習）とレポート作成（復習）が求められる。後期のはじめと終わりに、イントロダクションと振り返りの時間を設け、受講者の出席を必須とする。「キリスト教の時間」の各回内容については別途予定表において定める。	
		特別講義Ⅰ	教養大学として学生に学んでほしいテーマを設定し、特別講師を招聘し、集中講義の形で話題を提供する。	集中
		特別講義Ⅱ	教養大学として学生に学んでほしいテーマを設定し、特別講師を招聘し、集中講義の形で話題を提供する。	集中
		特別セミナーⅠ	持論的なテーマについて、特別講師を招聘し、少人数のセミナー形式で議論する。	集中
		特別セミナーⅡ	持論的なテーマについて、特別講師を招聘し、少人数のセミナー形式で議論する。	集中
		教育学入門	今日の日本の学校教育が抱えている諸問題に関して、規範学的、歴史的、社会的、比較教育学な観点からアプローチする。このことを通じて自らの教育経験を客観的に捉える眼を養うことを目的とする。	
		心理学入門	これまでに心理学で明らかにされた研究成果を紹介しながら、人間の心とは何かについて考察する。講義では、知覚、学習、記憶、思考・言語、脳と行動を中心にあり、私たちが自分を取りまく環境をどのように認知し、どのように判断し、行動するのかという認知のメカニズムについて考える。また、パーソナリティ形成、社会的行動などを通して、自然環境や社会的環境への適応のメカニズムについても考察する。以上の講義内容を通じて心理学的な人間観に触れながら、自己理解を深めてほしい。	
		哲学入門	現代の私たちが直面している様々な問題（環境問題や生命倫理の問題など）は、技術的な進歩によって解決できるものばかりではなく、その内に価値観の対立を含んでいることがほとんどである。価値観の対立のポイントはどこにあるのか、また、思想的にはどのような考えに分類できるのか、分かりやすい形で取り出し、共に考えることで、解決策を探っていく。本授業の目的は、そうした具体的な問題について考えつつ、「自分とは異なる他者を持つ者（他者）」が存在することを自覚し、自分とは異なる他者との相互理解やコミュニケーションの可能性を考えていくことにある。	
		キリスト教Ⅰ	翻訳は、「WATER」という単語を「水」と訳して済むものではありません。原文に対する解釈を抜きにして翻訳することは、事実上不可能です。また、翻訳にはそれを取りまく文化や時代という背景が反映されます。この授業では、ヘブライ語やギリシャ語という古代語で書かれた聖書本文が、どのように各国語に翻訳されていったのかという歴史を学ぶことや、現代の様々な翻訳の試みに触れることを通じて、「キリスト教文化」というテーマに接近することを試みます。	
		キリスト教Ⅱ	聖書は不思議な書物です。遠い昔に遠い国で著された書物ですが、今・ここを生きる私たちに、人間の生き方や世界について理解するためのカギを与えてくれる書物でもあります。それは聖書が「神」について記すことで、じつは普遍的な「人間の問題」を描いているからではないでしょうか。この授業では、聖書が示す人間観や、聖書が描く人間像を学ぶことを通じて、受講者が自分自身の人間観や世界観を確立する一歩とすることを目指します。	
生命倫理	生命および医療の倫理について、講義前半では、いわゆる「ヒポクラテスの誓い」や、インフォームドコンセントをはじめとした、基本的な事項について説明する。講義の後半では、脳死の問題のような人によって見解が分かれる問題や、安楽死など、実際の医療の現場で判断が迫られるような問題について、実際に生じた事例を参照することで考えてゆく。この際、異なる倫理的アプローチによって、各事例に対して、異なる結論が生じうる場合があることを示しつつ、受講者自身の立場を意識させるようにしたい。			
アメリカの文化と歴史	優しく英語を学びながら、アメリカの文化、社会、歴史について学ぶ。 1. Orientation 2. Coming to America① 3. Coming to America② 4. The American Revolution① 5. The American Revolution② 6. The Constitution① 7. The Constitution② 8. Growth and the Civil War① 9. Growth and the Civil War② 10. Twentieth Century① 11. Twentieth Century② 12. Celebrations① 13. Celebrations② 14. The Legislature① 15. The Legislature②			
イギリスの文化と歴史	イギリスの代表的な文化について、その歴史をたどりながら紹介していく。イギリス文化についての基礎的な知識を身につけることを目的とする。 第一週： イントロダクション イギリスという国/第二週： イギリスとローマ帝国/第三週： イギリスとキリスト教/第四週： イギリスと建築/第五週： イギリスと王室/第六週： イギリスと王室/第七週： イギリスと戦争・外交/第八週： イギリスと戦争・外交/第九週： イギリスの階級/第十週： イギリスの階級/第十一週： イギリスの伝統行事/第十二週： イギリスの伝統行事/第十三週： イギリスの家庭/第十四週： イギリスの食べ物・飲み物/第十五週： その他、まとめ			

共通教養科目(C2)	人文科学知	ヨーロッパと文化	ヨーロッパの形成は中世にその淵源を求めることができるが、その構成要素としてのヘレニズム(ギリシア的なもの)・ヘブライズム(キリスト教)及びゲルマン的精神はいかにして作りあげられ、近代・現代を通じて発展していったのか文化史的視点から考察する。	
		歴史学のみかたⅠ	「歴史」と聞くと即座に「苦手」と答える人は多い。大学入学までの歴史は固有名詞と年号の暗記が中心になりがちである。暗記科目とみなされてしまうのも、苦手意識もそれが原因だろう。一方で、最近では「歴史」なる言葉もある。まずは、苦手意識を除き、歴史を憶えるのではなく、学び、知ることの楽しさを見出すことを目的とする。歴史は物事の見方である。そのため、この国の成り立ちを通時的にたどるのではなく、個別の事象を結びつけ、時代を行き来しながら見てゆく。	
		歴史学のみかたⅡ	日常生活の中で、私たちは漢字を使い、食事の際に茶を飲むが、これらは中国から伝来したものである。アジアでは古くから、地域間において様々な形の関係性(移住、貿易、戦争など)が形成されてきた。言い換えると、アジアの歴史は、「海と陸の交流史」といえる。そこで本講義では、中国を中心とする東アジア地域とインド洋と東シナ海の間に存在し古くから重要な交通路として栄えた東南アジア地域とを対象に、①「帝国」、②「ヒトやモノの交流」、③「西方」からの影響、という3つの視点から、アジアの歴史的特徴を検討する。	
		歴史学のみかたⅢ	西洋史の立場から歴史の見方について考察する。わたくしたちが歴史を学ぶことは、どのような意味があるのか。その前提として歴史学とはいかなる学問としてわたくしたちの前にあるのか、その探究の方法とは、対象とはということについて考えてみたい。	
		色彩情報論	この科目では、講義と講義から得た知識を確認するための実習を合わせて行う。まず、色を情報の一つとして捉えその色のはたらきと色を認識するために光の物理的な性質、目のしくみ、照明、混色について概略を講義する。次に、色の三属性(色相、明度、彩度)を基に、PCCSのヒュートーンシステムを理解する。また、色の心理的効果、視覚効果、知覚的効果を講義と実習により理解する。さらに、配色調和という観点からのファッション、インテリア、環境での配色を通して、色を情報として効果的に利用できる力を獲得する。	講義2回×90分、13回×45分 実習13回×45分
		音楽の世界	古今東西の様々な種類の音楽を聴き、音楽の特徴を「耳」から捉えることによって、様々な音楽様式についての感覚を養う。同時に、生きた音楽に親しみつつ、音楽の起源や、音楽が形成され発展していく過程についても学ぶ。実際に、演奏・創作という体験も交え、幅広い観点から音楽を捉える。また、身の回りの「音」にも耳を澄まし、意識して「聴く」という行為を通して、日常の生活環境や文化についても考察する。これらの経験をもとに、現代社会における多様な芸術や文化の意味について根本から問い、探究していく。	
		日本美術史	日本美術の大づかみな流れをたどるとともに、その特質を、前近代においては中国・朝鮮半島の美術との、近代以降においては欧米をはじめ世界の美術との対比においてつかむ。そもそも、高校までに学ぶ美術も、世間で話題となる展覧会で接する機会が多いのも、多くは西洋美術である。しかし、この国には、美しいものを愛する長い伝統がある。その歴史を知り、あわせて日本美術史の底流としての日本人の美意識について見てゆく。	
		西洋美術史	西洋美術史における時代様式の特徴を感覚的に把握し、大きな枠組みと歴史・文化的な背景をひととおり理解できることを目的とする。ヨーロッパとその源流となった地中海諸文明(エジプト、エーゲ海、ギリシア、ローマなど)を扱う。ヨーロッパでは、ギリシア・ローマの古典美術が繰り返し参照されたが、それへの反発である反古典主義の動きもあり、このふたつの大きな流れを中心に美術史を理解することができることを特に強調したい。	
		American Culture and History	The purpose of this course is to acquaint students with the culture, history and diverse inhabitants of the United States through extensive reading. Students will improve their understanding of American history, as well as their abilities in reading, listening, speaking, and critical thinking. 本講義は、多読をととしてアメリカ合衆国の文化、歴史、多民族性の理解を目的とする。受講学生は、アメリカの歴史の理解と同様に、英語のリーディング、リスニング、スピーキングの能力、また批評的考察力を培う。	
		British Culture and History	The purpose of this course is for students to gain a greater understanding of British culture in the modern day, and to see how history has shaped British culture. Themes from major British films will be used to introduce important aspects of culture in Britain. 本講義の目的は、受講学生の現代のイギリス文化への深い理解を養い、いかにイギリスの歴史がその文化を形成しているのか、ということ考察することである。主要なイギリス映画からテーマを選び、イギリスにおける重要な文化的側面を紹介する。	
		European Culture and History	European history began with Ancient Greek and Roman civilizations, which formed the basis of Western Civilization and European culture. This course will follow historical eras from ancient to modern times, and students will make Powerpoint presentations to the class on their selected topics. ヨーロッパ史は、西洋文明やヨーロッパ文化の基礎を形成する、古代ギリシャ、ローマ文明から始まった。本講義は、古代から現代にわたる歴史的背景を探り、受講学生は、自分たちの選択した主題についてのプレゼンテーションを授業中パワーポイントを用いて行う。	
		American literature and Thought	The purpose of this course is to acquaint students with the literature and thought of the United States by reading and discussing works of cultural, historical, and literary significance produced by a wide variety of American writers. 本講義の目的は、多様なアメリカ作家が描いた、文化的、歴史的、文学的意義の高い作品を講読し、さらに議論することで、受講学生がアメリカ合衆国の文学や思想を理解することである。	
		Asian and African Literature and Thought	This course will use short stories from Asia and Africa to illuminate general themes and social problems. Students will be expected to read extensively, think critically, and also express their thoughts in well-constructed written reports. 本講義は一般的なテーマや社会問題の解明を試みるため、アジアやアフリカの短編小説を扱う。受講学生は、テキストの徹底的な精読や、批判的思考力を持って、よくまとまったレポートで自身の考えを表現する技術の向上を目指す。	
European Literature and Thought	This is a course in the classic works of European literature and thought. Excerpts from major works will be studied for content, style and theme, from The Bible to contemporary modernism. Students will read extensively, think critically, and also express their thoughts in written reports. 本講義では、ヨーロッパの文学や思想の古典作品を扱う。聖書から現代のモダニズムにわたる主要な作品の抜粋を、内容、形式、主題について学ぶ。受講学生はテキストを精読し、批評的に考え、レポートを提出する必要がある。			

人文科学知	日本文学入門	メジャー選択の目安となる日本文学・日本文化についての基本的な授業である。古典文学を中心とするが、近現代文学作品も視野に入れる。入門に相応しい作品を取り上げ、その作品・作家の特質を考えるとともに、古典文学作品の現代的意味を考える。日本文学を読み、味わうことの習慣化を図りたい。文学作品を読むことは、作家の人生観を知るだけでなく、読み解く中で、自身の生き方をも考えさせられる。読むという行為を通して自身の人生観を培う。	
	アメリカ文学史	現代アメリカ文学(アメリカ自然主義以降)の流れと作家、作品の内容、カテゴリ一別の特徴などを、ビデオを見たり、作品を一部鑑賞したり、調査したり、講義を聞いたりしながら、学ぶ。 1. Orientation 2. 自然主義 3. モダニズムの始まり 3. Lost Generation 5. 危機の文学 6. 南部文学① 7. 南部文学② 8. 1950年代の文学(戦争文学) 9. Beat Generation 10. 黒人文学① 11. 黒人文学② 12. ユダヤ系アメリカ人文学 13. Post Modernism① 14. Post Modernism② 15. 復習とレポートの説明	
	イギリス文学史	イギリスにおける代表的な文学作品を、時代背景や文化と絡めながら歴史的に考察し、イギリスにおける文学・文化の特質を考える。できる限り実際のテキストに触れ、それぞれの特徴を把握する。範囲としては、古英語から現代の文学を扱う。授業計画は以下の通り。 第1回文学史のイデオロギー、第2回古英語の時代、第3回中英語の時代、第4回ルネサンスⅠ、第5回ルネサンスⅡ、第6回17世紀前半、第7回17世紀後半、第8回18世紀前半、第9回18世紀後半、第10回19世紀初期、第11回19世紀中期、第12回19世紀後半、第13回20世紀前半、第14回20世紀後半、第15回 現代	
	日本語学の視点	この授業では、日本語学という学問がどのような学問なのかについての紹介を通して、日本語を学ぶことのおもしろさや社会的意義を伝えることを主たる目的としている。一口に日本語を学ぶ、研究するといっても、どういった時代の日本語を扱うのか、話し言葉か書き言葉か、日本語の音声なのか文法なのか意味なのかなど、学びの視点は多様である。どのような視点から日本語を扱うことができるのかを把握し、常日ごろから様々な角度から日本語に関心を持ってもらえれば幸いである。	
	英語学の視点	この授業は英語学とはどのような学問領域であるかをみなさんに紹介することを目的とします。英語学は英語を対象とした言語学ですが、みなさんは「言語学」と聞いてどんなことを研究する学問だと思いますか？古代文字の解説でしょうか？もちろんそれも言語学の対象ですが、もっと身近な、身の回りで普通に話されている言葉の仕組みを探ることも言語学の重要な目的です。この授業では、みなさんが今までに学習してきた英語の仕組みを、みなさんが普段話している日本語と比べることによって明らかにしていきたいと思っています。	
	比較言語	本科目は、言語学的に日本語と英語を比較することによって対照言語学の方法論を講義形式で解説する。1年次生向けの教養科目という科目の位置づけを考慮して、まずはこれまで文法学習をとおして言語学的な特徴を学んできた英語を取り上げ、その仕組みに目を向けられるようにする。さらに、ふだん文法を意識せず用いている日本語との対応関係に注目し、それぞれの言語の類似点・相差点について疑問をもてるようにする。最終的には、その疑問点を解決することのおもしろさがわかるようになるのが目標である。	
	女性学入門	女性自身が自分らしくありたい、自分らしく生きたいと願っても、自分では選ぶことのできない属性である性別によって、自己選択・自己決定を強いられることや可能性に挑戦する機会すら奪われるような事例がある。しかしながら、そのことに気づかないまま、あるいは気づきながらもいたし方のないことと理解し、我慢しながら生活を続けている私たちがいる。身の回りで生じている問題をジェンダーの視点でみつめながら、男女共同参画社会のあり方を考えたい。	
	平和学入門	人はひとりでは生きていけないからこそ、お互いを理解し、お互いを尊敬しながら共に生きることができる社会、共生社会の実現をめざそうとする。私たちが暮らす社会を一人ひとりが自分らしく生きることができる社会へと、自ら主体となって変革する力となることができれば、幸いである。平和な社会とは、戦争や暴力がない状態をさすだけではなく、飢えや貧困、社会的抑圧や差別などの「構造的暴力」が克服された社会ではないだろうか。 私たちは日本社会に生き、国際社会に生きるものとして、今日の日本社会や国際社会の現状と課題についてどれだけのことを知らされているだろうか。あるいは、知ろうとしてきただろうか。開発途上国に暮らす子どもたちや女性に学ぶ視点から、開発途上国の低発展性の背景や要因を探るとともに、日本に暮らす私たちの生き方を問いなおしてみたい。国際平和と人権の確立をめざして、地球的視野で考え地域社会に貢献する社会変革の担い手としての自覚を促したい。	
	社会学入門	社会学と一口に言っても、対象も方法も多岐にわたる。この授業では、ウェーバーやデュルケム、パソンズなどといった基礎的な人物と彼らが論じた基礎概念に絞って概説する。その際、一方的な説明に終始するのではなく、具体的な事例と発問を通して物事の追究を促す。授業の目的として以下の2つが挙げられる。まず、学史に沿った構成にすることで、社会学の基礎概念と問題意識(何を対象とした、どのような学問なのか)の理解を目指す。次に、具体的な事例を通して、自分の価値観や日常生活を相対化する力を身につける。様々な道具立てを用いて「あたり前」に目を向ける作業は、今後の勉学や社会生活でも活かされるだろう。	
	現代社会と人権	この授業は、個々の人間存在にとっては生来かつ固有の権利であり、人類全体にとっては普遍的価値である人権の、(1)基本的概念について学ぶこと、(2)思想的発達の歴史について学ぶこと、(3)人権侵害や差別克服の実例について学ぶこと、(4)現代社会におけるさまざまな人権問題(戦争と暴力、女性差別、性的少数者への差別、子どもと人権、同和問題、外国人差別、情報化社会と人権、病気と差別、経済格差と自己疎外、等)について学ぶこと、を通じて受講者それぞれが人権への関心を深めるとともに高い人権意識を涵養することを目的とする。	
地理学概論	現代社会は空間の時代であると言っても過言ではない。グローバル化が進展するとされる一方で、地域分権やコミュニティの再生などが喧伝される。これまで知識の学としてみられていた地理学は、改めて現代社会における空間や地域の学として期待されている。本講義では、位置、場所(空間)、スケール、交通、地域などのキーワードを手がかりとして、地理学的な考え方について概説したい。		
開発と文化	一般的に「開発」はインフラ整備や経済開発と捉えられる傾向にありますが、昨今は、「豊かな」社会の開発・発展においては「文化」的要素も重要であるとの見方が起こっています。本講義では、日本国内だけでなく東アジアや南アジア等において、地域の文化や歴史、暮らしの知恵等が「地域で生きぬく」ための精神的・実践的な支えとなることを再評価している人々の暮らしを事例としてとりあげながら、「開発」とはなにか、「文化」とはなにか、そして「豊かさ」とはなにかというテーマを共に考えていきます。	隔年	
民俗学(民族と社会)	本講義では、日本民俗学における代表的な研究者の研究対象と研究方法を紹介し、研究史を概観する。近年の研究動向をも紹介し、現代日本における民俗学の可能性と問題点を明らかにする。具体的なフィールドとして私たちの暮らし「安芸」を取り上げ、生業、信仰、民俗芸能などを周辺地域と比較し、「安芸」の民俗の特徴を明らかにする。その上で、当該地域の人生儀礼、年中行事、民俗芸能から具体的事例を提示し、民俗的理解とその置かれている状況の理解を目指す。		

共通教養科目(C2)

共通 教養 科目 (C2)	社会科学 知	経済学入門	本授業では、経済学をはじめて学ぶ学生を対象に、経済学的な考え方の基本を講義する。この授業は、経済学の基本的概念を理解し、経済学的思考を学び、新聞やテレビの経済ニュースなどが理解できる経済学の考え方を身に付けることを目的とする。授業では、分かりやすい経済学入門書を利用し、マイクロ経済学（個々の家計や企業がどのように意思決定を行ない、それらが相互にどのように関わらるか）やマクロ経済学（個別の経済活動を集計した一国経済全体を扱う学問）の内容を学びつつ、その知識を応用し実社会の経済問題について考察してみることを目指していく。	
		経営学総論	現代社会における企業やビジネス組織の仕組みやマネジメントに関する知識を体系的に学習する。また、働くことの意義や意味について学び、自らの職業観の醸成をめざす。	
		Area Studies 1 (America)	This course is designed to acquaint students with American culture, history, and society through extensive reading of a wide variety of different works. By participating actively in the lessons, students will increase their vocabulary and their familiarity with English idioms and phrasing. 本講義の目的は、多種多様な作品の多読をとおして、アメリカの文化、歴史、社会を理解することである。授業に積極的に参加することによって、受講学生は英語の慣用語や語彙力を増やすことができる。	
		Area Studies 2 (Asia and Africa)	This course will introduce Asia and Africa through films, chosen for particular themes as well as providing visual background information about the various countries. Students will discuss the themes, gain insight into Asian and African countries, and be encouraged to make cross-cultural comparisons. 本講義は、様々な国の背景を視覚的な教材を用いて情報を提供し、また特定のテーマを扱った映画を題材とし、アジアやアフリカを学ぶことを目的とする。受講学生は、各テーマを議論し、アジアやアフリカに関する洞察力を身に付け、異文化間を比較する力を培う。	
		Area Studies 3 (Europe)	This course is designed to acquaint students with European culture, history, geography, and current affairs through presentations. Students in this class will improve their research, presentation, and speaking skills as they research and present on a variety of topics relating to Europe. 本講義の目的は、受講学生のプレゼンテーションをとおして、ヨーロッパの文化、歴史、地理、時事問題を理解することである。学生は本講義において、ヨーロッパに関する様々な主題についてのリサーチ、プレゼンテーションを行うため、リサーチ、プレゼンテーション、スピーキングの技術を向上することができる。	
		金融論	本講義の目的は、金融の基礎知識を学び、現実の経済社会における金融の役割を理解することにある。学期の前半では金融市場のメカニズムおよび銀行などの金融機関の行動について学習する。ここでは、金利機能などの理論的側面と共に、実際の銀行などによる企業金融、プロジェクト・ファイナンスなどについても学習する。また、金融市場で重要な問題となる情報の非対称性や金融制度の問題についても検討し、金融部門に対する健全性規制の在り方について議論する。学期の後半では、貨幣の需要・供給のメカニズムや金融政策について学習する。特に、今日のグローバル化した経済の下での金融・財政政策のあり方について理解を深める。	
		国際金融論	本講義では、為替レート、国際収支、国際金融市場、国際金融制度などの問題を学ぶ。学期の前半では、為替レートや国際収支表などに関する基礎的な知識を学ぶ。為替レートについては、変動相場制や固定相場制のもとで短期的・長期的にどのような要因によって為替が決定されるのかを学習する。次に国際収支表の枠組みを学び、経常収支や資本・金融収支の意味を理解する。これらをもとに開放マクロ経済政策および国際金融政策を議論する。学期の後半では、国際金融市場における金融取引、国際資本移動などについては学び、グローバル化した国際金融における諸問題を検討する。さらにIMF、世界銀行などの国際金融制度についても学習する。	
		経理実務	企業などのビジネス組織の規模や業種、業態を問わず、会社法などの法律やルールに則り、経済取引によってもたらされる資産・負債などの増減を管理し、一定期間内の収益・費用を記録するための貴重方式である帳簿をつけ、財務諸表を作成することは組織として当然のこととされている。この帳簿の意味を理解し、そこに記された数字の意味や流れを理解することは、ビジネスワーカーの基本的能力の一つである。このような経理実務の基本となる簿記の理解と経理業務の全体を把握し、会計学への糸口とする。	
		ビジネス実務演習 I	ビジネス活動とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業などのビジネス組織における積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性、人間関係調整の重要性について考察を深めることを目的とする。また、クリエイティブなビジネス・ワーカーとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」を目標とする。 「ビジネス実務士」「上級ビジネス実務士」の資格取得に向けた必修科目である。	
		プレゼンテーション概論	現代社会における企業などのビジネス組織において、ビジネスワーカーに必要とされる技能の一つにプレゼンテーションがある。単に情報機器を使用したものをプレゼンテーションとする傾向に対して警鐘を鳴らし、本来のプレゼンテーションのあり方、それに関する知識や技法についての理論を体系的に学習することを目的とする。また、実践したプレゼンテーションには必ず評価がついてくることから、PDCAサイクルから評価の意味を考察し、フィードバックの重要性を理解する。 「プレゼンテーション実務士」の称号取得に向けた必修科目である。	
インターンシップ I	ビジネス活動とそこで働く人びとのビジネスワークについて、「インターンシップ（就業体験実習）」を通じて理解を深め、自らの職業意識の形成を図るとともに、職業適性、職業生活設計、職業選択について考える契機とする。事前学習として、ビジネス組織についての理解、ビジネス・コミュニケーションの基本について理解を深め、ビジネス・ワーカーとして求められる実務能力開発やキャリア・プランニングを探索する契機とする。 受講生は、夏期休業中に1～3週間程度の期間で、本学独自の研修先での「インターンシップ」に参加すること、ならびに事後学習としての「研修報告」（研修レポート提出と報告会参加・発表）が義務づけられる。			
Social Anthropology	Culture forms the background to all our behavior as individuals and society. It has diverse forms and expressions. It is inherited and learned. It can be changed or remain permanent. In this discussion course, students will consider aspects of culture that control their lives. 文化とは、我々全ての個人として、集団としての態度の基盤を形成する。文化によって、姿勢や表現は異なる。それは継承され記憶される。それは変化したり、永遠にそのまま残る。本講義では議論をとおして、受講学生が自分たち自身の生活に強くかかわっている文化を理解することを目的とする。			

共通教養科目 (C2)	社会科学知	Social Psychology	The purpose of this course is for students to consider aspects of psychology that are relevant to all humans. However, students will think about how different cultures may look at these aspects of social psychology in different ways. Students will learn not only social psychology, but also improve their presentation skills in this course. 本講義の目的は、全人類にかかわる心理学の側面を考察することである。受講学生は、異なった文化が異なった方法でいかに社会的心理学の側面において見受けられるか、ということを検討する。学生は、本講義において社会心理学を学ぶだけではなく、プレゼンテーションの技術を培うことができる。		
		World Economy	The purpose of this course is for students to gain insights into the world economy, and how it affects people in different parts of the globe. The course covers the role of governments, institutions and individuals in the world economy. Students will also improve their presentation skills in English. 本講義の目的は、世界経済に対する洞察力を養い、いかに世界経済が世界のあらゆる場所に影響しているか、ということを理解する。本講義は、世界経済において、政府、慣習、個人の役割を網羅する。学生は、英語によるプレゼンテーションの技術の向上を目指す。		
		日本国憲法	人権保障の砦としての憲法の役割を理解してもらえらる講義としたい。日本国憲法の規定する国民主権の内容、伝統的な基本的人権の種類と内容、新しい人権をめぐる議論について歴史的な経緯を踏まえて講義する。基本的人権の保障に関する主要な判例を取り上げる。日本国憲法の制度化する国家の統治構造（国会・内閣・裁判所）を解説する（その際、国会法、内閣法、裁判所法、国家行政組織法等にも言及する）。地方自治・地方分権に関する現在の我が国の動向について講義する。		
		ビジネス法務	企業などのビジネス組織は、法令などを遵守できる能力のあるビジネスワーカーを求めている。不祥事が発生し、刑事責任や損害賠償などの民事責任、社会からも厳しい批判を受ける事例が跡を絶たない。生産者・消費者・取引先企業など、さまざまな利害関係をもつ人々の立場や利益を無視することは許されず、業務のリスクを察知し、法的にチェックし、問題点を解決に導くコンプライアンス能力が必要とされている。ビジネス活動の基礎となる法律知識と法律的なものの考え方を身につけ、「ビジネス法務検定試験」チャレンジへの手がかりとする。		
		公共性と権力	現代政治の前提となっている主権国家とこれを基礎とする公共空間の編成はヨーロッパで形成された。本講義では歴史的・思想的観点からヨーロッパにおける主権、市民と公共性をはじめとする諸観念の形成を検討するとともに、あわせて今日転換期を迎えている主権国家と公共性のシステムの変容の行く末を展望する。		
		政治学 I	日々伝えられる政治ニュースは、断片的な経過であることが多く、熟考を経ないまま通りすぎてしまいがちである。政治への関心を開花させる第一歩は、多量の情報を読み取る力を身につけることである。そのためには、基礎知識を習得することが欠かせない。授業では、①権力・自由・平等・民主主義といった政治理論を取り上げた後に、②政治制度や政策決定過程といった政治の仕組みを概説し、③現代社会における時論的なテーマを設定して考察する。到達目標は、現実の政治状況を独力で観察できるようになることと、身近な問題が政治を通じて解決される見通しを自分なりに描けるようになること、この二点である。	隔年	
		政治学 II (含国際政治学)	国際社会における出来事は、「遠い空の下の話」として、関心の外に置かれてしまうことが多い。しかし、現代に生きる我々の日常は、政治・経済・文化のあらゆる面において、国際的な動きと無関係ではいられなくなっている。同時に、戦後、飛躍的な経済成長を遂げた日本は、国際舞台で様々な貢献を迫られてもいる。授業では、国際政治の基礎概念・歴史・仕組みを幅広く学習し、冷戦後の世界状況を理解することが第一の目標となる。その際、日本の位置確認を意識的におこなうよう留意する。こうして、国際社会の動向を独力で分析し、自分の問題として考察できるようになることが、第二の目標である。	隔年	
		国際関係論	この講義は、現代国際関係を成り立たせているものは何か、今まで現代国際関係はどのような変化を遂げて来たのかを、歴史的に解き明かし、受講者たちが国際関係というものの輪郭を捉えるための基礎的な知識を提供することで、国際社会で起きる様々な出来事を受講者自らの手で把握する力を養うことを目的とする授業である。したがって、この講義は、17世紀以降、近代国際関係が成立するまでの歴史的背景を解説し、国際関係における様々な理論を考察することで、受講者の国際社会に関する理解を深めることを試みる。	隔年	
		ポストコロニアリズム/ナショナリズム	この授業は国際関係論を受講した人を対象とする。この授業ではまず、「歴史」の生成過程を概観したうえで、「今日」を読み解く一つの材料として「歴史」を捉え、近代国民国家の成立と現在に至るまでの変容を具体的に考察する。近代市民革命の展開とともに、従来の身分制的支配関係が崩れ、商品交換関係を媒介とする自由で平等な近代市民社会をいち早く熟させた近代国民国家は、自国の経済規模に似合う市場を求めて徐々に膨張を開始した。この隊列に新たに参加しようとする新興工業国との間に二度にわたる大戦を経験した「大国」間のパワー・ポリティクスは現在変わったのか。自国だけでは自立した外交政策をとり得ない「小国」の視点から近・現代史を追っていく。	隔年	
		グローバル化と地域	今、グローバル化は我々の生活に浸透しています。ゆえに、地域社会を考える際にも、グローバル化の流れに着目することが不可避となっています。グローバル化に収奪される地域（ローカル）ではない、ローカルがローカルとして生きていくことのできるグローバルな社会は可能なのでしょうか。本講義では、“Act Locally, Think Globally”という視点と、主体的に地域がグローバルにつながっていくという意味での“Think Locally, Act Globally”という視点の双方から地域のあり方について考えていきます。	隔年	
		自然科学知	数学入門	本講義では情報科学への応用を考慮しつつ最低限の数学の基礎知識の習得を目指す。内容：複素平面の基本、複素数と平面図形、数列と関数の極限～無限級数、数列と関数の極限～漸化式と数列の極限、数列と関数の極限～関数の基本、数列と関数の極限～関数の極限、行列と一次変換～ベクトルの復習、行列と一次変換～行列の基本、行列と一次変換～行列と一次変換、行列と一次変換～行列のn乗計算、確率分布～条件確率(1)、確率分布～条件確率(2)、確率分布など	
			生活の中の数学	実社会のできごとを数理的に捉える。身の回りには、沢山の数学が潜んでいます。動きの中には解析学が、形の中には幾何学が、規則的なパターンには代数学が、…といった具合です。本授業では、それらの数学の一端を愉しみます。一見すると、数学とあまり関係ないようなことを話題に取り上げていきます。意外な話題から始まり、最後には数学の現実的な価値や有用性を感じ得るのが本授業の目的です。	
			物理学入門	物理学とは自然現象を科学的に探究する学問である。この科目では、物理現象を数式で表現するという科学的な物の見方を理解し、物理現象を法則から予測するために必要な知識を修得する。まず、基礎知識として物理量と単位、有効数字の概念を学ぶ。次に、物理での力の定義を始めとして、つりあいとモーメント、物体の運動（等速、等加速度運動、単振動）をどのように数式で表現するか理解する。さらに、物理での仕事の定義および力学的エネルギーの保存、温度と熱の関係、電気、波動という基礎的な物理現象について講義する。	
			情報科学入門	情報化社会における情報科学について、基礎から学習し情報化社会に生きる社会人としての常識を身に付けることを目的とする。「情報とはなにか」から「情報技術とはなにか」そして、「コンピュータの基礎」から「ネットワークの基礎」までを学習し、情報科社会で生きることについて学習する。	

共通 教養 科目 (C2)	自然 科学 知	統計学入門	「数学入門」を履修済みであることが望ましい。特に数列の知識を必要とする。統計理論に基づくデータ解析は、農学・工学・理学等の理系の分野はもとより、心理学・経済学・社会学等の文科系の分野でも予測、評価、管理等の目的で広く利用されている。本講義はデータ解析の場面で利用される基本的な統計的手法・考え方について学習するための統計入門コースである。講義では、得られた標本データを解析・整理・要約するための記述統計学、その解析結果から母集団における状況を推測するための推測統計学について、その基礎的内容を具体例に基づいて解説する。	
		情報管理論 (含情報処理)	情報社会において、理性的に自立した市民として良い情報発信者となることは必要である。本講義では、情報とはなにか、その概念、価値、深化についてまず明らかにし、情報の意味づけ(情報処理)について考える。さらに、会社、工場、家庭での情報処理システムについて解説する。情報処理の実践では品質という情報管理に用いられるABC分析を実際に行い、情報管理の必要性を理解する。その上で、ハード面の進歩、情報システムの変遷を通して複雑な目的で情報を管理する現代社会の姿について情報システムの立場から概観する。	
		家庭電気・機械	電子レンジ、薄型テレビ、IH調理機器など電化製品は次々と開発され、またガソリン車から電気自動車へと家庭で使われる機械は進化を始めている。この科目では、これらの電気機器や機械を適切に利用し、安全かつ能率的にその機能を発揮させるために必要な電磁気、エネルギー変換、材料、機械の知識を修得する。さらに、電力を利用する際のエネルギー消費について、日本の現状と将来への予測を通して環境負荷や省エネルギーに配慮した生活への意識を深める。また、学習指導案を作成し、技術・家庭及び家庭科の指導が行える力を養う。	講義8回×90分、7回×30分 実験5回×60分 実習2回×60分
		バイオサイエンス入門	近年になり、私たちの生活に密接に関わりを持つようになってきたバイオテクノロジーは、遺伝子の発見とその知識の応用から確立されてきた。「バイオテクノロジー入門」では、遺伝子の働きや個体発生メカニズムに焦点を当て、バイオテクノロジーの基礎となる知識を身に付ける。さらにこうした基礎的知識を応用して行われるクローン技術や遺伝子組換え技術といった近年発展してきたバイオ技術にも目を向け、今後益々発展するバイオテクノロジーを理解するための基礎的知識を身に付ける。	
		自然と環境	自然環境は、多種多様な生物により形作られ、その生物たちにより環境が維持されている。自然環境を理解するためには、個々の生物とともに、より大きな枠組である生態系の営みを理解する必要がある。「自然と環境」では、「1. 地球の歴史と生物の進化」、「2. 多様な生物とその分類」、「3. 生態系の特性」をテーマに、自然環境の成り立ちや自然環境の重要性を考え、自然環境の保護や環境保全に取り組むための基礎的知識を身に付ける。	
		生物学入門	共通教養科目・自然科学分野として、生物学の理解を深めることを目的とする。そもそも、生体とはどのような機能を有しているのかを知るきっかけとする。そのため、人体の構造、機能にかかわる分野を重点的に理解することを目的とする。また、遺伝子操作作物などを含む食糧問題と環境に関する基礎的知識の習得も図る。	
		健康科学 (含栄養学概論)	『食』をめぐる情報が氾濫する現代社会において、『食』について様々な角度から分析し評価を行うことで、『食』を選ぶ力・選食力を養うとともに、望ましい食事のあり方を学ぶ。あわせて食品の安全性に関する問題や地球環境に配慮した『食』の重要性も学習する。	
		衛生と安全	社会における食への関心は年々高まっている。また、その一方で食を取り巻く環境は、食品の多様化、流通の国際化とともに大きな変化を絶えず続けている。本授業は食が備える要件のうちで最も大切な食の安全に関する知識を習得することを主な目的として行う。具体的には、関連する法規や行政および食の安全にかかわる微生物学的、または理化学的な各項目を扱い、加えて衛生とヒトの健康という側面からも学ぶ。	
		Computer Science	Students will improve their understanding of computer science and technology by conducting research and writing reports. They will also become familiar with some of the research methods required to write academic papers. 受講学生は、リサーチを行い、レポートを書くことによって、コンピューター・サイエンスとテクノロジーの理解の向上を目指す。学生はまた、学術論文を書くために必要なリサーチの方法を学ぶことができる。	
		Nature and Environment	The purpose of this course is for students to study the relationship between humans and nature. Especially, students will learn about the impact that humans have on our environment. These are important issues and students will need to look critically in order to understand the problems, and suggest solutions. 本講義の目的は、人間と自然の関係を考察することである。受講学生は特に、人間が環境に与える衝撃を精査する。これらは重要課題であり、学生は問題を理解し、解決策を提示するために洞察力を持って観察する必要がある。	
		Health Science	The purpose of this course is for students to study about relevant issues in modern health science, and to understand that health is very much a global issue of great concern. Students will learn the important skill of how to express their ideas in well-constructed essays. 本講義の目的は、現在の健康科学に関する問題を考察し、健康が、強い関心が寄せられている世界的な課題事項であるということを理解する。受講学生は、よくまとまったエッセイで自分の意見を表現できる重要な技術を習得する。	
		化学	化学物質はどのようにできているのか、どうして化学反応が起こるのか、物質にはどのような状態と性質があるのかなど、生活に関係する化学的な事象について理解し、無機化学、有機化学の知識を習得する。まず、私たちを取り巻く物質を構成している原子・分子についての理解を深め、化学結合、酸塩基反応などの化学反応、物質の状態について知識を習得する。さらに、生体を構成している有機化合物についての基礎的知識を習得したうえで、生活から切り離すことができない油脂、炭水化物、たんぱく質などについて、科学的な目で見える能力を培い、応用へと発展する力を養うことを目的とする。	
		科学と技術	自然科学の発展を歴史的にたどりながら、人類が対象としての自然をどのように認識してきたかをさぐる。特に現代科学・技術の源となる近代科学の特徴について、それを成立させた主要な理論、思想について基本的な知識を持つことが目指される。また、社会との関わりの中で科学・技術の営みを捉える視野を養うため、それぞれの時代の文化的背景や、科学活動に影響を与えた経済的、政治的要因なども適宜説明する。世界史および高校生程度の理系科目の理解があることが望ましいが、特に予備知識は問わない。	
都市と環境	人々が集まり、建物が密集する都市。多くの問題を抱えながらも都市は存在する。本講座では、都市に特有の環境を、水や大気、物質、エネルギー、生物などの自然科学的な視点で描きつつ、都市と農村、過去と現在などの対比も行うことによって、周辺地域とのつながりの中で存在する都市の特徴を明らかにする。地球環境問題が大きく取り上げられるようになってからは、環境負荷の少ない持続的な都市も模索されている。それらも紹介しながら現代の都市を環境の側面からとらえ直し、これからの都市はどうあるべきか、新しい都市像を描いていきたい。			

共通教養科目 (C2)	自然科学知	生活空間デザイン論	生活する空間を設計する、とはどういうことなのか、そのことを建築家による生活空間設計の実践諸例を通してさまざまに考えていくこと、このことが本講義の目的です。本講義では、設計 (conceptの創案→designの諸相の展開) の「根拠」への問いがみなさんに生まれはじめることを目指すとともに、その「根拠」への問いが現代社会を問う問いであるということ、現代思想の根とつよく関係する問いであるということを知ることになることも目指します。	
		感性デザイン論Ⅰ (ポップカルチャー)	ひとは個々の感性によって、ファッション、インテリア、プロダクト・デザイン等、生活にかかわるデザインを制作・選択している。この授業では、生活デザインを創造することや選択すること、ひとの感性との関係に着目し、特に日本の少女文化をたどるなかで、身近な生活デザインが、日本人女性の思考や生き方にもどのように関わってきたのかを学ぶ。	隔年
		感性デザイン論Ⅱ (ファッション文化史)	現代社会において、過剰なまでに氾濫するモノを選択するうえで、デザインは大きな要素を占めている。現代だけでなくひとはつねに新しいデザインを求めてきた。インテリア、ファッション等においても、デザインはわたしたち消費者を刺激する強い力といえる。この授業では私たちにとつともっとも身近なファッションデザインをとりあげ、特に若者の日常生活から発生・流行した「ストリート・ファッション」に注目し、戦後のファッションの歴史と、彼らの価値観の変化、および若者を取り巻く環境の影響について考察する。	隔年
		生活とファッション	生活の中には様々な「ファッション」が渦巻いている。「ファッション」という言葉に包括される事象を細かく具体的に分類し、生活にどのような影響を与えているか、また、どういった目的で生活に利用しているか、されているかを理解する。特に、昨今マナーについての理解が希薄となっている若者層に「ファッション」という視点を通して、TPOに即した常識力を獲得させることを重視する。	隔年
		食品加工・商品学	食生活に占める加工食品の割合は年々増加し、加工食品なしに食生活を営むことは、現代では不可能に近い。資源の有効利用や新食品素材の開発と共に、効果的な保存法についても積極的に考える必要がある。この講義では食品の加工原理や加工工程、保存法とその原理、食品の包装、加工食品の規格や表示などについて、農産、水産食品、嗜好品などの例を解説し、さらにさまざまな食品の保存法を紹介、最後に加工食品の商品化とその問題点を検討する。	
		調理学概論 (含厨房機器・設備)	調理に必要な基礎知識を食品の調理性と調理操作の面を中心に科学的な裏付けとともに学び、人体に対する栄養、安全面への影響や評価についても理解することを目標とする。また、嗜好を満たしつつ栄養素の適切な摂取が可能な食事を実現していくための食事計画の基礎を学び、心身ともに健康で望ましい食生活の設計が実践できることを目指す。また、調理には非加熱操作と加熱操作があるが、それらの調理操作を理解したのち、調理設備、調理機器や調理に用いるエネルギー源などについて解説する。	
		食品学Ⅰ	人間と食べ物の関わりについて、食品の歴史の変遷と食物連鎖の両面から理解する。さらに、食品に含まれる栄養成分や嗜好成分について詳述し、加工・貯蔵中にこれらの成分がどのように変化するかを学ぶ。食品学は食品衛生学や食品加工学にも深い関わりがあることから、食品の安全性の重要性を認識し、衛生管理の方法を理解する。また、食品の物性と嗜好性との関係についても解説する。	
		食品学Ⅱ (含食品加工学)	食品の性状と機能を理解するため、主に食品の栄養特性、新規食品・食品成分が健康に与える影響とそれらの疾病予防に対する役割を理解する。また、「食品加工学」の内容を組み込み、栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める食品の加工方法、貯蔵方法のほか、加工食品の規格や表示制度などについても学ぶ。	
		調理科学Ⅰ	調理は特別の知識がなくてもできるという人があるかもしれないが、基礎的・系統的な知識があつて行う技術と、方法のみを知って行う技術ではおのずから異なる。また調理には文化遺産ともいえる調理文化の歴史があり、その技術は長く受け継がれている。そこで本講では、調理プロセス上の現象を科学的にとらえ、おいしさに視点をあて、実践的な調理理論を学ぶ。	
		基礎栄養学	「栄養学」の基礎となる栄養素は、様々な方法により吸収され代謝される。現代の栄養学では、これらの機構を詳細に理解することが求められている。授業では、栄養の定義と栄養学の歴史について理解を深め、各栄養素の吸収・代謝の機構と生理的役割を理解する。また、エネルギー代謝、栄養素の分子生物学的役割、栄養状態の判定方法などを学習することにより、栄養素が生体で利用される過程を理解し、栄養と健康との関わりについての理解力を養う。	
		ライフステージ別栄養学Ⅰ	身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解する。また、妊娠や発育、加齢による人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態について十分に理解し、栄養状態の評価・判定 (栄養アセスメント) の基礎的な考え方を修得する。	
		健康管理概論	社会や環境・生態系と健康のかかわりについて理解し、健康増進や疾病予防の考え方やその取り組みについて学ぶ。具体的には、健康の概念や健康の現状、健康増進活動および健康管理の方法についての概要を理解する。	
		社会福祉概論	社会福祉の歴史的系譜をたどりながら、現代の保健・医療・福祉・介護の制度の現状や課題について学ぶ。具体的には、社会保障制度と社会福祉制度の概要、医療制度、高齢者福祉と介護保険などについて理解し、現代の生活障害の姿とそれに対応する施策・取り組みについて地域での生活を見極めながら考える。	
		言語知	外国語 (初級英語Ⅰ)	The purpose of this course is for students to improve their English reading skills while gaining insight into aspects of society around the globe. Students will apply the knowledge gained from reading exercises to a variety of tasks using all four English skills. 本講義の目的は、世界の様々な社会の側面に対する洞察力を養い、英語の読解力の向上を目指すことである。受講学生は、英語の4技能全てを用いながら、読解演習から様々な課題をとおして得た知識の応用力を高める。
外国語 (初級英語Ⅱ)	The purpose of this course is for students to continue to improve their English reading skills while gaining further insight into aspects of society around the globe. Students will apply the knowledge gained from reading exercises to a variety of tasks using all four English skills. 本講義の目的は、世界の様々な社会の側面に対する深い洞察力を養い、英語の読解力のさらなる向上を目指す。受講学生は、英語の4技能全てを用いながら、読解演習から様々な課題をとおして得た知識の応用力を高める。			
外国語 (初級独語Ⅰ)	ドイツ語の発音・基本的文法を学び、日常会話に必要な表現力、理解力 (読む、書く、聴く、話す) を養う。また、単に語学的な面だけではなくドイツ語圏諸国に関することがらをビデオ、テープ等を使用して紹介してゆく。			
外国語 (初級独語Ⅱ)	ドイツ語の発音・基本的文法を学び、日常会話に必要な表現力、理解力 (読む、書く、聴く、話す) を養う。また、単に語学的な面だけではなくドイツ語圏諸国に関することがらをビデオ、テープ等を使用して紹介してゆく。			

共通教養科目(C2)	言語知	外国語(初級仏語Ⅰ)	①これまで学んできた英語という外国語に加え、フランス語を学習することで、英語圏以外の国の存在を肌で感じ、世界の複数性を理解する。②フランス語4技能のもっとも初歩的な基礎を確実に学ぶことで、その後の興味に応じて、自分で学習できる力を身につける。③フランス語を学ぶことで、その根底にある文化・社会・芸術・歴史に親しみ、大学で学ぶさまざまな学問への関心の幅を広げると同時に、国際的な知識をより豊かなものにし、専門的研究のなかで上手に役立てる。
		外国語(初級仏語Ⅱ)	①これまで学んできた英語という外国語に加え、フランス語を学習することで、英語圏以外の国の存在を肌で感じ、世界の複数性を理解する。②フランス語4技能のもっとも初歩的な基礎を確実に学ぶことで、その後の興味に応じて、自分で学習できる力を身につける。③フランス語を学ぶことで、その根底にある文化・社会・芸術・歴史に親しみ、大学で学ぶさまざまな学問への関心の幅を広げると同時に、国際的な知識をより豊かなものにし、専門的研究のなかで上手に役立てる。
		外国語(初級中国語Ⅰ)	中国語の発音、基礎的な語彙、文法、表現を学び、簡単なコミュニケーション能力を身につけるとともに、言語表現の背景にある中国の文化、社会、生活について理解する。特に実生活に使用できる基礎的な表現の習得に重点を置き、積立式に語彙、文法、表現力を習得できるように、各課においては、既習の内容を取り入れた応用的な会話練習を展開する。視聴覚教材の使用、役割練習などを通じて、会話の行われる場面を再現して、会話習得の効果を上げる。
		外国語(初級中国語Ⅱ)	中国語の基本的文法と日常会話の初歩を学びながら、読解力表現力の基礎を養う。
		外国語(初級韓国語Ⅰ)	この授業は初めて韓国語を学ぶ人のための入門クラスで、韓国語の基礎的コミュニケーション能力を獲得することをその目的とする。まず初級Ⅰでは、人工語である韓国語の創出起源を理解し、表音文字である各文字の発音と表記の熟達に努める。とくに、文字の発音に重点を置きながら、基本的な文法と語彙を用いて、簡単な日常会話を行う。主な内容は、動詞・形容詞・存在詞・指定詞(用言=述語)の区分と語尾の基本的な変化、すなわち、丁寧語・否定文・疑問文・助詞の使い方などである。必要に応じて映画・K-popといったメディアも活用し、学習した言語を早く使ってみる。
		外国語(初級韓国語Ⅱ)	韓国語初級Ⅱでは、初級Ⅰで学んだ成果をもとに、基礎的な日常会話の能力を獲得する。また、日本語との対照言語学的な観点からの理論的な面白さを満喫する一方で、実際に使える実践的な表現能力の養成を目指す。初級Ⅱでは、とくに、基本的な文法と語彙をもとに、読み・書き・聞き・話す四機能をバランスよく伸ばしていく。主な内容は、初級Ⅰで学んだ用言の基本的な活用に加え、過去形、数詞、よく使う言い回しなどである。Ⅰと同様、必要に応じて映画・K-popといったメディアも活用する。
		外国語(中級英語Ⅰ)	This course is designed to improve reading abilities. Students in this class will improve reading fluency as they tackle texts about a variety of topics, from the Internet to the environment. Students will increase their vocabulary and their familiarity with English idioms and phrasing. 本講義の目的は、読解力の向上である。受講学生は、インターネットや色々な題材から様々な主題を扱ったテキストに取り組みながら、正確な読解力を養う。学生は、英語の語彙を増やし、イディオムや語句を習得することができる。
		外国語(中級英語Ⅱ)	This course is designed to further improve reading abilities. Students in this class will improve reading fluency through exposure to a variety of written texts, from essays about entertainment to longer works of fiction. 本講義は、さらなる読解力の向上を目指す。受講学生は、娯楽の読み物から中編、長編小説まで、様々なテキストを精読することで、確かな読解力を身につける。
		外国語(中級中国語Ⅰ)	この授業は、初級を終えた者を対象とし、基本的な文法や単語、会話を復習しながら、次の学習段階へ上がるための基礎固めをする。この授業では、正しい発音が出るように徹底した指導を行なうとともに、基礎文法を学びつつ読解力をつけ、更に、書く、聞く、話すなど、中国語の総合的な能力を高めていく。授業は、選定したテキストを使い、その内容に沿って進めていくが、毎回の内容を確実に身に付け、応用できるようにするために、様々なトレーニングを行なっていく。具体的には、毎回学習した文法や例文のパターンを使って、自分で文章を書いたり、それを口頭で発表したりする練習を行う。
		外国語(中級中国語Ⅱ)	この授業は、前期よりレベルアップした語彙や文章、文法および表現などを学び、話す、読む、聞く、書くなどの中国語の総合能力をさらに伸ばしていく。授業では、語学だけではなく、その背景にある中国の文化や現代社会を理解し、より生きた中国語を学ぶために、テキストの内容を進めていくと同時に、読みやすい中国語の文章や時事記事を取り入れて、語彙のチェックや音読練習、ならびに要約および文章構成の理解などの練習も行なう。また、中国語の映画、ビデオなど視聴覚教材も使用し、中国語の聞く、読む能力を養成すると同時に、それらの内容を自分でまとめて口頭で発表するという話す能力も鍛えていく。
		外国語(中級韓国語Ⅰ)	この授業は韓国語初級ⅠⅡの講義を履修した人のためのクラスで、韓国語を総合的に学ぶことをその目的とする。韓国語中級Ⅰでは、初級で学習した発音や基礎文法、語彙をさらに発展させながら、文法(尊敬語・略称上称形・連体形など)、会話などを中心に行う。とくに、単調な反復・暗記になりがちな学習方法を止揚して、いくつかのシチュエーションを想定し、そのシチュエーションに即した文法と語彙、さらに韓国社会の事情などを関連づけて考察していく。また、映画やK-popなどの資料を必要に応じて使うことで、韓国文化への理解をも深めていく。
		外国語(中級韓国語Ⅱ)	この授業は韓国語中級Ⅰを履修した人、ないしはそれに準ずる言語能力を評価された人のためのクラスである。中級Ⅱでは、中級Ⅰまで学んだ基本的な用言の活用や言い回しに加えて、さらなる語彙や慣用句で構成されたシチュエーション別会話を引き続き行う一方、韓国の新聞記事、コラム、漫画などの読解にも力を入れていく。こうして外国語としての韓国語、外国文化としての韓国文化に接することで、自国文化と自国語、そして自分の社会を見つめ直す機会にしたい。
		外国語(初級日本語Ⅰ)	本授業では、大学生活をおくるために必要な日本語力を身につけ、大学の様々な場面において、日本語を使用してその場面の目的を達成できるようにすることを目的とする。本授業では、特に「話す」技能をとりあげ、先生への依頼、許可願、事務での手続き、友人との約束など大学生活において経験すると予測される場面において、どのように日本語で話すのかを学ぶとともに、母語との違いについても考察し、異文化理解へとつなげることもめざす。また、「話す」練習だけでなく、「読む・聞く・書く」技能も必要に応じてとりあげる。
		外国語(初級日本語Ⅱ)	本授業では、大学生活をおくるために必要な日本語力を身につけ、大学の様々な場面において、日本語を使用してその場面の目的を達成できるようにすることを目的とする。本授業では、特に「書く」技能をとりあげ、レポート、論文、先生や友人へのメール、事務での手続きなど大学生活において経験すると予測される場面において、どのように日本語を使用するのかを学ぶとともに、母語との違いについても考察し、異文化理解へとつなげることもめざす。また、「書く」練習だけでなく、「話す・聞く・書く」技能も必要に応じてとりあげる。
外国語(中級日本語Ⅰ)	本授業では、初級日本語ⅠおよびⅡの理解力を確認しながら、大学生活において必要な日本語力の向上をめざす。		
外国語(中級日本語Ⅱ)	本授業では、中級日本語Ⅰの理解力を確認しながら、レポートや論文の書き方、論の展開の仕方などを取り上げながら、実践的能力の向上をめざす。		

共通教養科目 (C2)	スポーツ科学知	スポーツ科学 I	スポーツ科学 I では、スポーツを歴史的、社会的、生理的、心理的な視点から理論的に学習する。その内容として、高校までの学習内容を発展させながら、人間の身体と健康について学ぶ。また、部活やサークルでスポーツを行なう学生が少なくないことから、特にスポーツが心身にもたらす影響と効果的なトレーニングについて学習し、安全にスポーツを行なう方法について学ぶ。さらに、発達段階に応じた身体活動について必要な知識理解を深めていくことで、適切な判断と行動を身につけ、生涯を通じてスポーツによりよく親しめるようになる。	
		スポーツ科学 II	スポーツ科学 II では、スポーツ科学 I で学んだ理論を生かし、実践を通して生涯に渡り自立的な運動者となることを目指す。その内容として、バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ニュースポーツ等、各種目のルールや技術獲得の方法を理解し、工夫された練習を通して技術を獲得する。また、技術獲得の過程で、仲間と協力して教えあいや作戦を立てることによりスポーツの楽しさや爽快感を経験する。さらに、自分の体力を知り、体力を高める生活を心がける。	
		スポーツ科学 III (課外活動等)	スポーツ科学 III では、豊かな自然環境のなかで、自然を活用しながら、身体や五感を使って体験的に活動することを目的とする。内容として、適切な事前計画を自ら立案し、キャンプ、ハイキング、サイクリング、オリエンテーリングなどの各種の活動を集団で行う。正課外の活動には危険が伴いがちであるため、自然の中で安全に活動するための知識を学ぶと共に、集団の中で責任ある行動を身につける。このような一連の活動を通して、豊かな情操と健全な心身の育成を図ることを目指す。	
		スポーツ科学 IV (スキー・スケート等)	スポーツ科学 IV では、ウィンタースポーツの代表格であるスキー・スケート等について、心構えや身のこなしなどのトレーニングを実施する。またウィンタースポーツの初歩から上達のために本格的にスキーにチャレンジしたい人まで個人のレベルに対応しながら、安全で合理的な実践能力を育てる。さらに、ウィンタースポーツの醍醐味を味わうと共に、お互いが協力し合って集団生活の楽しさを体験しながら生涯スポーツとして楽しめるようになることを目指す。	
		スポーツ科学 V (水泳等)	スポーツ科学 V では、水遊び、浮く・泳ぐ運動の運動特性および水泳の技術的特性について学習し、水中レクリエーションを通して水中での身体をコントロールする感覚を身につける。それらの実践を通して個々の技能の向上を図りながら、水中における各種運動や4泳法の基礎的な泳ぎ方を学習する。授業ではレベル別に小グループに分け、それぞれのレベルに合わせて各自の泳ぐ能力の向上を目指す。また、水泳の心得や救助法・救急法についても学習し、水泳が生涯楽しめるスポーツとなる機会を提供する。	
		スポーツ科学 VI (フィットネス)	スポーツ科学 VI では、身体的、精神的かつ社会的にも総合的に良好な状態であるために必要とされる科学的知識を理解する。また、自分の身体や生活について考え見つけ直す機会とし、生活習慣の改善、健康への配慮を喚起すると共に、正しい運動方法・理論並びに安全管理を学び、今後の活動に役立たせるようにすることを目指す。さらに、運動不足の原因と解消方法について考え、生涯を通じて楽しくスポーツに関わり活動水準を高めるための、対象に応じた応用的なトレーニング方法を学ぶ。	
専門科目 (C3)	食品・衛生	微生物学	本授業では微生物学の基本となる知識・考え方を習得するとともに、病原微生物、応用微生物についても広く学び、栄養士や管理栄養士の仕事と微生物とのかかわりについて理解することを目的とする。	
		食品衛生学	人類が長い歴史の中で生命・健康の維持に安全で有益なものを識別して引き継いできたものが食品であり、この食品を食物の形で摂取する日常行為が食生活である。健全な食生活は栄養価の損失や成分の変質の少ない良質な食品を過不足なく、安全に摂取することにある。食品衛生学は食品、食品添加物、器具および容器包装を対象として、飲食に起因する衛生上の危害の発生防止を目的とした学問である。本講義では、食品衛生学全般に関する解説とともに、食品衛生監視員、食品衛生管理者として必須の基礎知識の教育を行う。	
		調理科学実験	調理のコツを科学的に理解することは、一般的な調理だけでなく、給食施設での大量調理や治療食・介護食などの応用調理の基礎となる。調理科学実験では、調理操作における食材の栄養特性や物性の変化を科学的に検証し、実際の調理と結びつけながら、美味しく安全な食事を効率よく提供できる技術や理解力、洞察力を養う。	
		食品衛生学実験	「食品衛生学」の講義で得た知識を応用し実践力を養う。実験は食品衛生対策を中心とする内容で、基本的な衛生管理の考え方、スキルの修得を目指し、食品衛生検査の手技、食品衛生法で規定されている衛生管理を学ぶ。また、HACCPに関する演習により総合的な食品衛生管理のセンスを身につける。	
		食品学実験 I	食品学を真に理解するためには、実験・実習を通して各自が実際に体験・観察することが重要である。この実験では、食品を化学的および物理的(特に、レオロジー的)に評価するための基礎実験を行う。	
		調理科学 II	本講では、調理科学 I を基礎として、実際の食品の各論における調理性について学ぶ。第一に調理操作による組織・物性の変化について、第二に調理操作による嗜好性及び栄養成分の変化について、第三に調理操作による栄養学的・機能的利点について理解することを目的とする。	
		調理科学実習 I	調理科学実験で学んだ調理の科学的な理解をもとに、調理技術の基礎を修得する。また、日本の伝統的な料理や世界各地の様々な料理を実習することで、食材の種類や特性、料理が生まれた背景、食文化への理解を深め、幅広い視野で食の提案ができる力を養う。また、安全な食事を提供するための作業手順や設備・機器管理の方法を身につける。	
		公衆衛生学	国民の保健衛生の向上や疾病予防を担うために必要な公衆衛生に関する知識の修得を目指す。具体的には、健康と疾病、人口・疾病の各種保健統計、疫学概念とその方法および解釈、疾病予防と健康管理などの保健衛生の各論、衛生行政と衛生法規について解説を行う。さらに、保健という視点から関連法規および社会制度を解説し、健康科学の担い手である自覚を一層高めることを目指す。	
		食品学実験 II (含食品加工学実験)	主に、食品の品質を化学的および物理的(特に、レオロジー的)に評価するために必要な応用実験の技術の修得と、食品加工技術の修得を目指す。具体的には、食品に含まれる栄養素の定量化や物性の測定のほか食品加工操作過程で起こる色、味、形態、香りおよび硬さなどの理化学的变化を確認し、その要因となる食品成分の変化、成分間反応、物性変化などについて学ぶ。	
		調理科学実習 II	「調理科学実習 I」を基礎として、さらに調理技術の向上を図るため応用調理を行う。風土、文化が異なる世界の代表的な調理様式を系統的に把握するため、西洋料理、中国料理、日本料理のそれぞれを専門とするプロの料理人による指導を行う。様式別調理技術と知識を的確に修得することによって、ストーリー性のある食卓構成が展開できる能力を身につける。(オムニバス方式/15回) (162. 市川知美/15回) 調理の基礎技術実習、および西洋料理、中国料理、日本料理について、統括を行う。 (215. 代 元三/5回) 中華料理の調理実演および指導を行う。 (231. 黒越 勇/5回) 西洋料理の調理実演および指導を行う。 (260. 下原一晃/5回) 日本料理の調理実演および指導を行う。	オムニバス
生体	生化学 I	この授業では、体の中で起こっている生命現象について、物質を中心に理論を学ぶ。体の構成成分である蛋白質や脂質の構造と機能、さらにエネルギー源としての糖質の役割と代謝経路を学習する。また、体の構成単位である細胞の構造や生体情報伝達の仕組みを概観し、生体防御機構として、私たちがウイルスや病原微生物に簡単には感染しない仕組みを理解する。		

専 門 科 目 (C3)	解剖生理学 I	人体の基本的構成要素である細胞の性質を理解し、その集合体である各器官の機能を理解する。前期は主に人間の活動を裏方として維持している植物性の機能を担っている器官の勉強をする。	
	解剖生理学 II	体機能の内、植物機能の残り人間らしい活動を齎している神経系の働きを中心に授業を進める。	
	生化学 II	この授業では、前期の「生化学 I」に引き続き、体の中で起こっている生命現象について、物質を中心に理論を学ぶ。体の構成成分である蛋白質や脂質の構造と機能、さらにエネルギー源としての糖質の役割と代謝経路を学習する。また、体の構成単位である細胞の構造や生体情報伝達の仕組みを概説し、生体防御機構として、私たちがウイルスや病原微生物に簡単には感染しない仕組みを理解する。	
	生化学実験	生物体は、タンパク質、核酸、糖質、脂質などの高分子により構築され、それらの構成分子は互いに秩序と相互作用を保ちながら、各組織内で機能している。生物体は外界から栄養を摂取し、また内部では物質を酵素反応で変換することによって得られるエネルギーを利用して、生命を維持している。生化学実験では、生化学の講義で学んだ、生物体の各構成分子の構造及び反応をより深く理解するため、実際に生体高分子を自らの手で触れ、分析・観察を行う。さらに得られた実験結果を考察し、正しい結論に導く能力を身につけることを目的とする。	
	解剖生理学実験 I	解剖生理学で学んだ人体の構造と機能に関する知識は、生体を利用した実験によって得られ確認されたものである。この実験では、1年次の人体解剖観察見学を基にして、各種器官の組織細胞の違いを理解し、その機能について観察をする。また、実際の身体機能を理解するために、各自の肺機能、心臓機能、運動能力等のデータを取り、その解析、整理、考察を行う。この実験を通して、テキストだけでは理解できない人体の構造と機能について学習をする。	
	基礎栄養学実験	生体における代謝調節や栄養素の機能を理解するために、基礎的な糖代謝に関する実験を行う。栄養素の摂取状態の違いにおける血液成分の変化から、生体内の栄養素代謝の変化を理解するとともに、生体における栄養素の利用状況の認識を深めることを目的とする。また、栄養素の消化特性を理解するために、胃の消化酵素（ペプシン）を用い、タンパク質の消化過程をSDS電気泳動とイムノブロットにより解析する。	
	解剖生理学実験 II	解剖生理学実験 I で学んだ身体機能の基礎となる筋肉や神経細胞の機能について学習をする。また、体内の調節機構と恒常性を理解するために、細胞内外のイオンの変化、緩衝作用、排泄機構について実験を行い、複雑な人体機能を理解する一助とする。さらに、各自の感覚機能を測定することにより、感覚器官の理解を深める。実験目的、方法、得たデータの解析、整理、考察、結論を導く等、研究過程を学習するのは、前期に順ずる。	
	スポーツ栄養学	現代社会では、人間の本来もっている身体活動を阻害し、多くの健康問題を引き起こしていることから、運動のもつ生理的意義を学ぶことを目的とする。一方、摂取すべき栄養素量（食事摂取基準）は個人の性別、年齢、身体状況、生活様式、生活環境など様々な要因によって異なっており、とくにスポーツ時の栄養についての知識の修得も目的とする。また、「運動生理学」、「生化学」の要素も取り入れて応用力を培うことも目的とする。（オムニバス方式/全15回） (154. 瀬山一正 / 10回) 運動生理および生化学の視点から講義を行う。すなわち運動による生体の反応、変化について理解することを目的とする。 (161. 下岡里英 / 5回) スポーツ栄養の視点から、運動時における栄養の摂取方法について、五大栄養素別に運動による必要量の考え方を理解することを目的とする。	オムニバス
	病態生理学 I	我々の体を構成している各臓器・組織が病的状態において形態、機能、代謝的どのように変化しているかを明らかにすることによって病気の本態を究明する学問である。そして、病気の予防・診断・治療に関わる臨床医学の基礎的学問としても重要な位置を占める。総論として病変のカテゴリごとに病気の成り立ちを理解する。	
	病態生理学 II	各論としてそれぞれの臓器・組織別に「病態生理学 I」で学んだカテゴリーの疾病を学ぶ。とくに管理栄養士として熟知しておくべき重要な疾患をとりあげ、詳しく学習する。	
健 康 増 進	栄養教育論 I	これまでの日本における栄養教育の歴史、現在の問題点とその対応への方針、組織について学ぶ。また、個人や集団に対し栄養教育をするための基本である、plan-do-seeを以下の点から具体的に理解する。つまり、マネージメントサイクルの方法論をもとに、ライフステージ、ライフスタイル別の健康状態・栄養状態、食行動、生活環境などを把握・分析し、栄養教育プログラムの作成・実施・評価を行なう総合的マネジメントについて対象別により深く理解する事を目的とする。	
	給食経営管理論 I	給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。マーケティングの原理や応用を理解するとともに組織管理などのマネジメントの基本的な考え方を修得する。新しい給食経営管理の概念は、食事サービスを介して栄養介入をする栄養食事管理と生産管理を中心とした経営管理の2つをマネジメントする能力を身につける。	
	ライフステージ別栄養学 II	「ライフステージ別栄養学 I」に引き続きライフステージ別および加齢による人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態について理解し、栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）の基礎的な考え方を修得する。また、ストレスや特殊環境下における栄養と代謝についても学習する。	
	ライフステージ別栄養学実習	健康の保持・増進、疾病予防を目的とした栄養管理を行うため、生体内の栄養素代謝の変化を理解するとともに、生体における栄養素の利用状況の認識を深めたいうで、成長・発達、加齢に伴う生理的变化などライフステージに合わせた生理的特徴を理解する。さらに、これらの知識をもとに、健康への影響に関するリスク管理について学び、各ライフステージにあわせた食事の供給、栄養アセスメントを行い、栄養管理を行う能力を養うことを目的とする。	
	栄養教育論 II	「栄養教育論 I」で学んだ、ライフステージ別の対象者の実態・問題点を明らかにする手段を理解し、対象者に対する支援のあり方を追求するために、対象者の行動変容を起こさせるためのプログラムの作成、カウンセリング、行動変容理論などの方法論について対象をイメージしながら学習する。さらに、対象者の栄養状態、栄養教育法における総合的評価方法について学ぶ。また、効果的な栄養教育を行うための環境づくりを理解するとともに国際的な栄養教育について知ることを目的とする。	
	栄養指導実習	これまでに学習した基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論等の知識をもとに、各ステージの栄養指導案を作成し、指導対象に適合したリーフレット、パンフレット等指導媒体を利用しながら集団指導の練習を行う。学生相互の指導評価と反省により栄養指導の実際にふれる。（オムニバス方式/全15回） (161. 下岡里英 / 10回) 栄養教育論の講義を元に、PDCAサイクルに基づき、ライフステージ及びライフスタイル別対象者に対する具体的な教育方法について実習を通して学ぶことを目的とする。 (162. 市川知美 / 5回) 公衆栄養の視点を意識しながら、PDCAサイクルに基づく栄養教育の実際について実習を通して学ぶことを目的とする。	オムニバス

専門科目(C3)	健康増進	公衆栄養学Ⅰ	公衆栄養学は、集団における健康・栄養問題について様々な角度からその要因を分析・評価し、疾病予防や健康増進を図るためにはどのような公衆栄養活動を行っていけばよいかを学ぶものである。 公衆栄養学Ⅰでは、公衆栄養学の概要を理解するとともに、日本の健康・栄養問題の歴史を踏まえ、現代の食生活環境と人々の健康実態を把握し今後の取り組みについて学習していく。また、地域で公衆栄養プログラムを計画・実行・評価するために必要な食事摂取基準についても学ぶ。	
		給食経営管理論Ⅱ	給食の運営は健康増進法制定の趣旨に沿って、食事の提供を通じて健康づくりや疾病予防のための保健活動の役割を果たすことが義務付けられている。又、生活習慣病の増大をまねいている国民の食生活を改善することが管理栄養士の使命として課されている。特定給食はその内容が見本的食事として国民の食生活改善に大変重要な位置をしめていることから、新しい時代の栄養士、管理栄養士が行う給食管理業務の理論を学ぶと共に実践面の技術についても修得することを目的とする。	
		栄養マネジメント実習	栄養マネジメントの基礎となる考え方を理解し、個人や集団、ライフステージ別など対象者に合わせた栄養マネジメントを実施できる能力を養う。具体的には、対象者に関する栄養アセスメントに基づいて短期、中期、長期目標を設定し、それに沿った計画の立案および計画実施後の評価を行える技術を身に付ける。	
		栄養統計演習	様々な健康・栄養情報について、科学的根拠に基づく情報収集や理解の上にたった情報提供を実践する能力を養うことを目的とする。具体的には、パソコンを用いたデータ処理、表計算や作図、検定や推定という情報処理の一連の実際を学ぶ。	
		臨床栄養学Ⅰ	各病態を把握すると同時に栄養管理の重要性を理解し、疾患の予防と治療に必要な知識を習得することを旨とする。管理栄養士は、有病者の栄養状態を正確に把握・評価し、適切な栄養管理を行う必要がある。また、健康人に対する健康増進のための栄養指導、教育も合わせて学習する。	
		臨床栄養学実習Ⅰ	各疾患の治療は、内科的・外科的な治療だけでなく、食事療法も重要な一つである。そこで、臨床栄養学、調理科学実習で学んだ理論をもとに、各疾患の治療効果がある食品選択、献立作成、調理の工夫などを、実習を通して学ぶ。	
		公衆栄養学Ⅱ	地域における保健、医療、福祉、介護システムを総合的に理解し、あらゆる対象者に対して適切なプログラムをマネジメントできる能力を養うことを目標に、実際に行われている公衆栄養活動の理解とそれに必要な栄養疫学、各種食事調査法、食事摂取基準の活用などの実践的な知識・技術を学ぶ。	
		公衆栄養学実習	これまでに学習した知識・技術を活用し、対象者の特性に合わせたプログラムを学生自らが計画・実施し、評価を行うことで、より効果的な公衆栄養活動を行うための創意・工夫やマネジメントの必要性に気づき、知識のより深い理解と実践現場に対応できる柔軟な応用力とコミュニケーション能力を身に付ける。	
		給食経営管理実習Ⅰ	管理栄養士に必要な給食経営管理論をはじめとする専門科目で学習した基礎知識や技術を活用して、給食経営管理実習を自主的に計画・実践・評価することにより、給食経営の考え方や給食運営に関する技術・方法などの給食経営管理能力を養うことを目的とする。(オムニバス方式/15回) (155.伊藤榮子/15回)対象別大量調理実習と献立作成およびコンピュータによる栄養管理、食数管理等の実際を学ぶ。 (160.渡部佳美/15回)対象別大量調理実習の実際を学ぶ。	オムニバス (同時に複数教員が担当)
		カウンセリング演習	カウンセリングなどの栄養教育技法、評価についてグループワークを行いその実際を学ぶ。これによって、栄養教育論、給食経営管理論、臨床栄養学等の知識を基に、対象者の栄養状態の把握、評価、適切な栄養管理・教育のあり方を体得する事を目的とする。	
		臨床栄養学Ⅱ	臨床栄養学Ⅰに引き続き、各病態を把握すると同時に栄養管理の重要性を理解し、疾患の予防と治療に必要な知識を習得することを旨とする。管理栄養士は、有病者の栄養状態を正確に把握・評価し、適切な栄養管理を行う必要がある。また、健康人に対する健康増進のための栄養指導、教育も合わせて学習する。	
		臨床栄養管理学	臨床栄養学ⅠおよびⅡに引き続き、各病態を把握すると同時に栄養管理の重要性を理解し、疾患の予防と治療に必要な知識を習得することを旨とする。管理栄養士は、有病者の栄養状態を正確に把握・評価し、適切な栄養管理を行う必要がある。また、健康人に対する健康増進のための栄養指導、教育も合わせて学習する。	
		臨床栄養活動論	医療現場では、医者や看護師、薬剤師等の各医療スタッフと連携するチーム医療として総合的に治療に取り組むことが求められ、高度な専門知識と技術が必要である。最前線で活動する管理栄養士から現場の声を直接聞くことで、臨床栄養学を総合的にみていく。	
		臨床栄養学実習Ⅱ	対象者の栄養状態の評価は、食事摂取量および摂取栄養素量の確認だけでは不十分であり、同時に、身体状態、尿・血液生化学検査成績等からの検討も必要である。この実習では、これまでに学習した臨床栄養学や生化学等の知識をもとに、実習を通して栄養評価を考察する力を養うことを目的とする。	
		給食経営管理実習Ⅱ	「給食経営管理実習Ⅰ」をさらに展開し、特定給食対象者の大量調理実習と個人の栄養アセスメントによる適切な食事の提供を行う。また、その食事を媒体とした栄養教育を実践する。さらに、対象者に安全な食事(衛生教育を含む)と満足度の高い食事を提供して、日常の食生活の改善や疾病の改善に寄与する給食経営管理のノウハウを学生が自主的に計画・実施・評価する実習システムで身に付ける。(オムニバス方式/15回) (155.伊藤榮子/15回)対象別大量調理実習と献立作成およびコンピュータによる栄養管理、食数管理等の実際を学ぶ。 (160.渡部佳美/15回)対象別大量調理実習の実際を学ぶ。	オムニバス (同時に複数教員が担当)
総合演習Ⅰ	実践的な場面を想定した演習やグループ討議を通して、これまで修得した知識・技術の統合を図り、生活習慣病の一次予防のための健康教育活動に必要な栄養管理能力を養う。具体的には、対象者や地域の実情に合わせた効果的な健康教育活動を実現させるための企画力や応用力、判断力、分析力等のレベルアップを目指す。(オムニバス方式/15回) (161.下岡里英/5回)各種ライフステージ・ライフスタイルに対する栄養教育的視点からの栄養管理能力を養う。 (162.市川知美/5回)各種ライフステージ・ライフスタイルに対する公衆栄養学的視点からの栄養管理能力を養う。 (163.妻木陽子/5回)各種ライフステージ・ライフスタイルに対する応用栄養学的視点からの栄養管理能力を養う。	オムニバス		
総合演習Ⅱ	実践的な場面を想定した症例検討や栄養管理演習を通して、これまで修得した知識・技術の統合を図り、疾病の治療に必要な栄養管理能力を養う。具体的には、患者の栄養アセスメントやそれにもとづく栄養食事計画の作成、食事指導を行い、様々な疾病に対して幅広い視点から対象者の状況に合わせた効果的な栄養管理法を導く能力を養う。(オムニバス方式/15回) (155.伊藤榮子/5回)各疾患別に栄養アセスメントやそれにもとづく栄養食事計画の作成等の活動に対し、給食経営管理および臨床栄養学の視点から、その実際を学ぶ。 (159.石長孝二郎/5回)各疾患別に栄養アセスメントやそれにもとづく栄養食事計画の作成等の活動に対し、臨床栄養学の視点から、その実際を学ぶ。 (160.渡部佳美/5回)各疾患別に栄養アセスメントやそれにもとづく栄養食事計画の作成等の活動に対し、給食経営管理および臨床栄養学の視点から、その実際を学ぶ。	オムニバス		

専 門 科 目 （ C 3 ）	セ ミ ナ ー	実践栄養学演習Ⅰ	主に、社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学について、演習および解説を中心に行い、管理栄養士に必要な知識の統合を図る。（オムニバス方式／全15回） （156. 三浦芳助／2回）食べ物と健康分野を中心に講義を行う （154. 瀬山一正／1回）人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを中心に講義を行う （157. 村上和保／2回）社会・環境と健康、食べ物と健康を中心に講義を行う （158. 坂井堅太郎／2回）人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、基礎栄養学を中心に講義を行う （155. 伊藤榮子／2回）給食経営管理論を中心に講義を行う （159. 石長孝二郎／2回）臨床栄養学を中心に講義を行う （161. 下岡里英／1回）栄養教育論を中心に講義を行う （160. 渡部佳美／1回）食べ物と健康を中心に講義を行う （162. 市川知美／1回）公衆栄養学を中心に講義を行う （163. 妻木陽子／1回）応用栄養学を中心に講義を行う	オムニバス
		実践栄養学演習Ⅱ	主に、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、演習および解説を中心に行い、管理栄養士に必要な知識の統合を図る。（オムニバス方式／全15回） （156. 三浦芳助／2回）食べ物と健康分野を中心に講義を行う （154. 瀬山一正／1回）人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを中心に講義を行う （157. 村上和保／2回）社会・環境と健康、食べ物と健康を中心に講義を行う （158. 坂井堅太郎／2回）人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、基礎栄養学を中心に講義を行う （155. 伊藤榮子／2回）給食経営管理論を中心に講義を行う （159. 石長孝二郎／2回）臨床栄養学を中心に講義を行う （161. 下岡里英／1回）栄養教育論を中心に講義を行う （160. 渡部佳美／1回）食べ物と健康を中心に講義を行う （162. 市川知美／1回）公衆栄養学を中心に講義を行う （163. 妻木陽子／1回）応用栄養学を中心に講義を行う	オムニバス
		卒業研究セミナーⅠ	食・健康・ヒトに関わる各専門領域での研究を行うにあたり、3年までの知識と技術を元に、問題発見、調査分析方法の検討・立案、調査分析の実際について習得する。	
		卒業研究セミナーⅡ	卒業研究セミナーⅠで得たデータをもとに、様々な角度からのデータ解析を行い、かつ、学術論文を引用して、理論的に研究目標に対する結論を導き出す力を養うことを目的とする。	
		卒業論文	卒業研究セミナーⅠ・Ⅱで得られた情報・データを用いて、論文を作成する力を養う。	
開 連 科 目 Ⅰ （ C 4 ）	教 職	教育原理	子どもを育てる行為としての教育について、その教育活動の目的・内容・方法・評価という基本的諸原則について考察することにより、今日の学校教育の望ましいあり方について考えていきたい。	
		教育心理学	今日の学校における教育過程の心理的側面について考える。近年、教育における教材の持つ論理性と子どもの認識の発達の関係に関して研究が深められているが、それらの知見についても紹介しながら、学校の教育実践に近年の成果がどのように生かされているか考えてみたい。	
		教育社会学	教育という複合事象を中核的対象におき、その教育事象の社会的機能の側面を考えて行く。具体的には、子どもの社会化は、家族集団、仲間集団、学校集団においてどのようなプロセスを経て行われるのか。学校のカリキュラムと社会要求、授業における教師・生徒のストラテジー等の問題について考察する。	
		家庭科教育法Ⅰ	家庭科の指導者として必要な家庭科教育観を確立するとともに、ビデオ・DVD映像を通してさまざまな授業実践例を知り、学習指導案の書き方や教材研究の方法など実際の学習指導のあり方について学ぶ。また、環境教育、福祉教育、消費者教育、食農教育など現代の教育課程と家庭科教育との関係を理論的に整理し、授業づくりに役立てたい。	
		家庭科教育法Ⅱ	学習指導要領から家庭科の学習方法を理解させるとともに、授業実践例をもとに効果的指導法、教材研究および授業設計の方法を習得させる。また、効果的な学習方法を用いた学習指導案を作成させ、授業実践力を培う。	
		教職実践演習（家庭）	本授業科目は4年後期に開設されていることから、これまで教職課程履修の経過をみて、学生の指導を行うとともに、不足していると認められる知識や技能を補うことを目的とする。また、具体的には、家庭科教諭に必要とされる実践的な活動（事例研究、現地調査、模擬授業）を通して、教師としての資質能力、知識を身につけることにより教職生活へのよりよいスタートを図ることをめざす。	
		教育史	中世から現代に至る欧米及び近代日本の教育思想、制度、習俗及び教育実践の変化・発展に関して考察するが、それらの歴史的事象を単に学説、制度等の連続、非連続として捉えるのではなく、その時代の社会、経済、政治、文化と保わらせてトータルにまた構造的な視点から考えたい。	
		学習心理学	学習に関する基礎的知識を習得し、学習に関わる諸問題を理解することができるようになることを目標とする。そのため、特に学校における学習指導を効果的に行うための基本となる事項については具体例をあげ、体験的実習や演習を採り入れて授業を進めていく。	
		教育と法	教育行政のしくみ、主に学校教育制度を法的側面から考察する。具体的な資料（裁判例や事件記事、統計的数値）の読解を通じて生きた教育の制度を法的実態側面（教育法規、教育法令の考え方や知識）から理解することとしたい。	
		衣生活論（含被服学概論）	被服とは衣服に限らず、アクセサリー・靴・下着など身に付けるもの全てをさす言葉である。この授業では、生活の中で欠かせない被服の起源・機能・素材・管理について学ぶ。また、それを身に付ける人間によって、被服の選択や着用方法は異なってくることから、被服心理・デザイン・色彩についても学び、将来に向けて衣生活を豊かにする手法を身に付ける。	
		住生活論（含住居学概論）	住まいとは生活を空間化したものであり、生活の拠点である。この授業では、住まいはどのように構成されているのかを把握した後、住まいを取り巻く環境や家族形態の変化を踏まえ、今日的な視点で住まいについて考える力を養うことを目的とする。授業の内容としては、住まいの機能、住まいと風土、住まいの歴史、住まいの構造・構法・材料、住まいの環境調整 熱環境と空気環境、住まいの環境調整 光環境と音環境、住まいの維持管理、住まいの選択、住まいの今日的課題を予定している。	
		被服材料学	まず、繊維の種類と構造、性質の関係について理解を深める。ついで、繊維製品を製造工程順に講義するが、特に化学繊維については、繊維の製造法と繊維の形状（繊維の表面や断面の構造）と性質の関係などを中心に講義し、糸、および被服地については、それぞれの性質に影響を与える因子について講義する。さらに、これらの繊維製品を改良（改良）するための各種の方法、最近の繊維製品とその製造法などについて講義し、繊維製品についての理解を深める。	
		被服管理学	日常着用している被服の材料として、多種多様なものを用いられており、特に、最近新しい繊維製品が次々と登場しているので、これらを合理的に管理するには、被服管理の基礎理論を十分理解することは勿論のこと、繊維製品の素材や製造方法・加工方法など被服の製造過程を理解することが必要である。授業では、被服の洗浄を中心に被服管理方法を講義するが、あわせて、最近の繊維製品の性質、加工法などについて講義し、最近の繊維製品の管理について理解を深める。	

関連科目Ⅰ(C4)	教職	人間関係論Ⅰ(含家族関係学)	前半で人間関係を社会心理学的観点から解説し、後半で人間関係の1つである家族に焦点をあて講述することで、人間関係に働く心理構造や家族内の人間関係の特徴などを理解させる。
		人間関係論Ⅱ	人間関係を、心理学的観点から検討する。人間関係に影響を与えるもの、生涯発達における人間関係の特徴、人間関係の始まりと展開、職場や社会における人間関係などについて説明し、自分を含めた人と社会との関わりについて考える。
		生活経営学(含家庭経営学・家庭経済学)	人間生活は、あまりにあたりまえすぎて、これまで必ずしも研究の対象として取り扱われてはこなかった。生活経営学では、個人の生活や家庭生活を研究対象としてとらえる。個人の生活や家庭生活を、生活とはどのようなものであるかという生活構造の視点、および生活が外部環境との相互作用によって成り立っているという視点から理解することを目的とする。生活経営の考え方の基礎、生活の変化についての学習をふまえ、主として生活時間の視点から生活経営を考える。
		家庭科教育法Ⅲ	映像資料や文献から家庭科授業の分析を行い、家庭科の現代的課題を見出すとともに、課題への取り組みとして新しい視点を導入した教材・教具の開発を行う。
		家庭科教育法Ⅳ	持続発展教育(ESD)の視点を取り入れた家庭科の授業のあり方を理解させるとともに、自らが考えた家庭科の教材・教具を作成することで、家庭科教師に必要な資質能力を育成する。
		ファッション・デザイン実習Ⅰ	被服の構成に関する基礎的知識と技術を習得することを目的とする。 まず、平面構成法(和服)と立体構成法(洋服)における衣服構造の違いを把握し、人体と衣服構成の関係について理解を深める。次に、基礎縫い、部分縫いを練習し、被服構成に必要な基礎的技術を習得する。実際に被服材料(布)を用いて和服(ゆかた)と洋服(スカート等)を制作し、布地の性質と衣服のシルエットとの関係、および衣服の機能性について理解する。
		ファッション・デザイン実習Ⅱ	被服に関する基礎的な知識の習得だけでなく、自己表現のためにそれを応用できるようにすることを目的とする。特に、既製服の氾濫する昨今だからこそ、自分自身の手で制作する喜び、楽しさをこの授業を通して身に付ける。 授業の内容としては手縫いに関する実習、手縫いによる小物製作、ミシン縫いに関する実習、制作に関する用語理解と探求、デザイン画の書き方、ミシンによる被服製作を予定している。
		住居設計実習(含製図)	この実習を通して住居という建築にすむことの意味、住まい方などを考える契機となることを目指す。設計製図の基本的、基礎的スキルを学ぶことを第一義とするが、同時に、設計(デザイン)の(根拠)への問いが学生たちに生じはじめ、その(根拠)への問いが、現代社会における住まい方を問う問いであるということ、住まい方と自らの関係を問う問いであることを考えることとなる。
	ビジネス	保育学(含実習・家庭看護)	保育学という学問領域は、まだ学問として確立しているとはいえない。そのため、教育思想史、発達心理学、福祉と保育に関する法令、保育施策の現状と課題、幼稚園・保育所の保育実践例、小児看護など、総合的にアプローチするという、学際的内容を特徴としている。講義において、教育思想史を概観し、保育の現状を知り、子どもの発達と生活を学ぶ中で、21世紀における保育・育児・子育て支援の課題を探り、教育(保育)者として、保護者として、社会人として、子どもとの適切ななかかわりを理解する。
		教職実践演習(栄養教諭)	本授業科目は4年後期に開設されていることから、これまで教職課程履修の経過をみて、学生の指導を行うとともに、不足していると認められる知識や技能を補うことを目的とする。また、具体的には、栄養教諭に必要な実践的な活動(事例調査、模擬授業)を通して、教師としての資質能力、知識を身につけることにより教職生活へのよりよいスタートを図ることをめざす。
		医療秘書概論	病院医療の専門領域細分化により、専門職周辺に発生する事務的ならびに秘書的業務について、その内容を理解し、関連する専門職としての知識だけでなく、互いの業務が効率よく発揮できるように援助と連絡調整を行うことを主とする医療秘書について学ぶ。医療事務の主な仕事である「診療報酬請求事務」については簡単な説明にとどめるが、医療秘書としての基本知識を高めるために、病院組織とその機能、さらには医療知識などを学ぶ。
		医療秘書演習	医療秘書概論において理論化された医療秘書業務を理解したうえで、医療秘書業務に必要とされる接遇対応や文書実務に関する基本を学ぶ。ケーススタディを通して、窓口業務や対応などの接遇の意味を理解するとともに、より良い人間関係づくりのためのコミュニケーションのあり方を学び、その実践的なトレーニングにより身につけることを目標とする。医療事務論を先に履修すると、現場の仕事をよく理解でき、より深くトレーニングを受けることも可能となる。
		医療事務論	明治維新以後、欧米を規範に医療制度が整えられ、病院が誕生するとともに医療保険も整備されてきた。医療機関の現場では、患者の診療に付随して発生してくるさまざまな事務処理があり、保険診療に関する知識や各種の専門知識が必要である。ここでは、医療費の計算、診療報酬明細書作成のための知識を習得し、診療報酬点数表の基本的構成を理解し、点数算定方法を学ぶ。さらに、医療外来で作成された簡単な診療録(カルテ)から診療料を計算できるように学習する。
		医療事務演習Ⅰ	医療事務論で学んだ簡単な医療費の計算、診療報酬明細書作成のための知識を習得するためのトレーニングを行う。
医療事務演習Ⅱ	医療事務論で理論を理解し、医療事務演習Ⅰで簡単な医療費の計算、診療報酬明細書作成のための知識を習得したことから、さらに、診療報酬点数表の基本的構成を理解し、点数算定方法を深く学ぶ。外来の簡単な診療録から入院の診療報酬を計算できるように学習しながら、診療報酬明細書を書けるようにトレーニングし、診療報酬明細書の点検のトレーニングもする。		
医療関係法規	国民の安心した生活を基本とすることをめざした国の医療は、さまざまな法律によって厳しく規制されており、ここ数年の間に制度もめまぐるしく変化している。したがって、医療施設ならびに医療従事者に関する法制度について理解しなければならない。高齢社会においては、窓口業務における対応が重要になることから、法制度を理解するとともに、医療保障制度などの習得することめざす。		
医療情報処理Ⅰ	医療事務論 医療事務演習Ⅰ・Ⅱで学んだ診療報酬の算定方法を確認しながら、診療録を見ながら医療コンピュータに入力するためのトレーニングをする。この医療情報処理Ⅰでは、入力に慣れること、入力スピードをあげることを目標とする。		
医療情報処理Ⅱ	医療情報処理Ⅰでは、医療事務論 医療事務演習Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を医事コンピュータ練習ソフト『医事NAVIⅢ』に入力するトレーニングをしたが、医療情報処理Ⅱでは、『電子カルテシステム』にて病院での全体像、IT化の流れと診療録の電子化の要件、電子カルテの定義と関連知識を学ぶ。電子カルテソフトの操作方法と電子カルテの位置づけの理解をめざす。		
ビジネス実務総論Ⅰ	ICT部門が急速な発展を遂げているが、その対応に追われながらも進展するビジネス社会にあって、ビジネスワーカー自身のあり方も大きく変わってきている。キャリアだけを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性をビジネスワーカーが意識しはじめた。グローバル化された社会において、ビジネスワーカーに必要なビジネス実務とは何かを学ぶとともに、変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、自らの職業観を確立することを目的とする。 「ビジネス実務士」の資格取得に向けた必修科目である。		

関連科目Ⅰ (C4)	ビジネス	ビジネス実務総論Ⅱ	複雑化・高速化・高度化する多面的な現代社会において、あらゆる分野で適材適所の人材が求められている。経済が成熟し、モノがあふれている社会では、消費者の求める商品の質は高くなり、商品そのものの魅力だけではなく、消費者の「心」や「気持ち」を動かすようなホスピタリティあふれる販売方法の必要性も高まっている。新しい概念としての「ホスピタリティ・マネジメント」の導入は、医療・福祉・介護・生活文化・地域・金融・教育・旅行・外食・観光等々で大きな成果を挙げている。ホスピタリティを理解し、ビジネスで活かすことを目的とする。	
		ビジネス実務演習Ⅱ	意思決定者としての上司の職務が円滑かつ効果的に進むように「補佐」する存在として、秘書職の定義を再考する。また、秘書職を組織論から理解し、職務のあり方を考察し、事例にそって業務内容を分類する。ケーススタディを通して問題解決のための対応や処理の手順、ならびに優先順位のつけ方を考察し、対応能力の向上を図る。さらには、ロールプレイを通して実践において必要な知識と技能を学ぶ。	
		プレゼンテーション演習Ⅰ (アサーティブ・コミュニケーション論演習)	現代社会における企業などのビジネス組織において活用されているプレゼンテーションに関する知識や技法のなかでも、基本となるコミュニケーションのあり方を体系的に学習する。とりわけ、欧米社会だけでなく、新興国においてもビジネスのフィールドでは、アサーティブネス論に基づいたコミュニケーションのトレーニングが盛んである。より良い人間関係構築のためのコミュニケーションについて、ロールプレイなどを通して学ぶことを目的とする。 「プレゼンテーション実務士」の資格取得に向けた必修科目である。	
		プレゼンテーション演習Ⅱ	プレゼンテーションの理論と実践をより深め、さらに効果的なプレゼンテーションを実践することを目的とする。与えられた課題に対しての個人発表を行なうとともに、グループに与えられた課題を協働作業で企画し、映像で表現するための制作ならびに発表を行う。ビデオカメラなどの機器を使い、素材を集め、編集機器で整える一連の作業を通じて、プロジェクトチームのあり方を学ぶ。 「プレゼンテーション実務士」の資格取得に向けた必修科目である。	
		情報総合プレゼンテーション演習	情報機器の特性を利用し、効果的なプレゼンテーションを行うための方法を理解し、実際のプレゼンテーションができる実践力を養うことを目的とする。個人の技術の向上を当然のこととし、プロジェクトチームを組み替え、作業の展開を繰り返し、最終課題の作品を完成させる。また、状況を判断した対応能力を高めるためのコミュニケーション能力の向上を図る。 「プレゼンテーション実務士」の資格取得に向けた必修科目である。	
		ビジネスデザインⅠ	ビジネスの基本を習得し、自らがビジネスを企画立案・計画実行(デザイン)する過程において必要な知識・技能と対応能力を養う。ビジネスアイデアについて、情報収集、分析をチームで行い、討議を重ねたうえで、企画書を作成し、発表する。総合的なビジネスデザイン力を身につけることをねらいとする。 15回の講義のうち、3回は企業の方に外部講師として来ていただき、マーケティングなどに関する講義を受ける。その後、実際に起業している方の店舗において、1日研修を受ける。最後に、各自のビジネスデザイン案を発表することで、起業力を理解する。	
		ビジネスデザインⅡ	地域経済活性化のためには、雇用されることに期待をもつだけでなく、自らが業を起こし、他者を巻き込むことが望まれる。まずは、何かに挑戦したいという意思と意欲をもち、気づきを形にすることが大切である。そのためには、ビジネスプラン(事業計画書)を作成する過程で、現実を理解していく。自らをプロジェクトマネージャーにたとえ、実践していくことを学ぶ。さらには、大学生を対象としたビジネスコンペに出展することをめざす。	
		マーケティング論	市場を創り出す企業活動におけるマーケティングの重要性について理解するとともに、マーケティング・マネジメントの実践について理解する。身近な問題として、小売業におけるマーケティングのあり方やその戦略を理解し、消費者行動に関して考察を重ねていく。さらには、特徴的なマーケティングを行なっている企業などのビジネス組織に焦点を当て、考察する。	
		ビジネス英語	英語を生活言語とする外国人とのビジネスコミュニケーションに関する基礎知識を学ぶ。単に、通じればよいという英語ではなく、相手とのコミュニケーションを図る英語を学び、品性のある英語とは何かを理解する。同時に、身につけておきたい国際ビジネスマナーやプロトコルを理解し、実践することを目的とする。	
		広島地域ビジネス論	広島地域経済の概況を知るとともに、広島地域経済を支える産業や、広島県の特産品などについて、ビジネスの第一線にある実務者の方がたから話題を提供していただき、自らが調査・分析を深めることを通して、広島地域ビジネスの現況を理解することをめざす。	
生活	インターンシップⅡ	ビジネス活動とそこで働く人びとのビジネス・ワークについて、「インターンシップ(就業体験実習)」を通じて理解を深め、自らの専門知識・スキルの向上を図るとともに、職業適性、職業生活設計、職業選択について考える契機とする。事前学習として、専門領域のビジネス組織についての理解を深め、ビジネスワーカーとして求められる実務能力開発やキャリアプランニングを探索する契機とする。受講生は、夏期休業中に2～3週間程度の期間で、本学独自の研修先での「インターンシップ」に参加することが義務づけられる。同様に、事後学習としての「研修報告」(研修レポート提出と報告会参加・発表)が義務づけられる。		
	女性と生活	衣服、住居、インテリア・建築、食生活、家庭、家族、就職、子育て等、女性を取り巻く生活環境の変化と、それに伴う女性たちのライフスタイルや価値観、生活習慣等の変遷を辿る。授業の内容としては、日本女性の美意識、衣生活と女性、住生活と女性、都市と女性、女性のライフスタイルの変遷 一就職・恋愛・結婚・育児一などである。	隔年	
	被服心理学	人間は、身の回りを包むインテリアやファッションによって自己を表現し、自分の情報を伝達している。個人の嗜好、価値観、ライフスタイル、生活環境、人間関係といったものがデザイン行動を決定しているともいえる。 この授業では、デザイン行動における造形心理要素を取り上げ、人間と社会の要因と関連づけながらデザイン行動に関して考えてゆく。またSD法を用いた官能評価法により、データ収集を行い、因子分析や主成分分析等の多変量解析結果から、造形心理的考察を展開し、人間の感覚とその要因について考えていく。		
	コミュニティとまちづくり	20世紀、日本の家族やコミュニティ、地域の空間・景観は大きな変容をとげた。この流れは、21世紀においてどのようなようになるのだろうか。また、広島市で暮らす私たちにとって、生活の場としての地域、そしてヒロシマはどのような意味を持つていくのだろうか。コミュニティやまちづくりとその担い手、ヒロシマへのまなざし、空間・景観の変容などの現場を、五感と感性・心を通じて学ぶ努力を重ねながら、生活の場や地域において大切な空間的な取組や事柄、そして課題や可能性を考える。		
食品学概論	少子・高齢社会を迎え食生活の多様化している現代において、食品の分類と食品の成分について習熟することは、健康の維持・増進ならびに生活習慣病予防の観点からも大切なことである。健全な食生活を営むために必要な食品成分の性状と機能を総論的に把握することを目的とし、食品と栄養、食品成分とその変化、食品の物性などについて理解を図る。さらに、植物性食品および動物性食品について、各食品の栄養的特徴ならびにそれらの加工特性について各論的観点から理解を深める。			

管理栄養	調理科学実習Ⅲ	各疾患に適切な栄養管理を行うためには、栄養指導・患者教育とともに、食事療法も重要な位置づけである。しかし、それは継続、実践可能なものでなければならない。病態に即した調理方法の工夫・応用や治療用特殊食品の適宜使用により、美味しく、食べやすい治療食について学習する。合わせて、新調理システムについても学ぶ。 (オムニバス方式/15回) (155. 伊藤榮子/10回) クックチル、真空調理システムの実際を学ぶ。また、福祉施設の入所者をイメージしたおやつ作りを行う。 (283. 北島幸枝/5回) 常食、軟食、非固形食など形態の違う調理法を理解する。また、主要栄養素におけるコントロール食の実際を学ぶ。	オムニバス
	給食経営管理臨地実習Ⅰ	この実習は、給食運営の実際を実習することにより、管理栄養士・栄養士として必要な知識、および技能全般を体得することを目的とする。そこで、給食管理の理論に基づき、これまでに学習した各分野の理論が、実際に現場ではどのように応用されているかを学ぶと同時に、管理栄養士・栄養士としての業務が実行できる能力を身につけるため、事業所・小学校・保育園・高齢者福祉施設等で実習を行う。また、実習前のガイダンスを行うとともに、実習終了後の実習報告書作成、実習報告会を行い、実習期間中における自己評価、グループ評価を行う。 (オムニバス方式/臨地で40時間相当実習するため担当教員は前後指導を担当する) (155. 伊藤榮子/4回) 事前ガイダンスおよび実習前課題学習(高齢者施設中心に担当)、実習報告会を行う。 (160. 渡部佳美/4回) 事前ガイダンスおよび実習前課題学習(児童福祉施設、学校給食中心に担当)、実習報告会を行う。	オムニバス
	給食経営管理臨地実習Ⅱ	臨地実習は、給食経営管理の実際を実習することにより、管理栄養士として必要な知識、および技能全般を体得することを目的としている。そこで、給食経営管理の理論に基づき、これまでに学習した各分野の理論が、実際に現場ではどのように応用されているかを学ぶと同時に、管理栄養士としての業務が実行できる能力を身につけるため、特定給食施設で実習を行う。また、実習前のガイダンスを行うとともに、実習終了後の実習報告書作成、実習報告会を行い、実習期間中における自己評価、グループ評価を行う。	
	公衆栄養学臨地実習	保健所・市町村保健センターにおける臨地実習である。これまでに修得した専門的知識・技術を活用しながら実際の公衆栄養活動における課題発見・問題解決を通して適切なマネジメントを行う力を養う。実際の業務を体験することで、保健所・市町村保健センターにおける管理栄養士の社会的役割や多職種との連携の大切さを学び、保健・医療・福祉・介護システムの中でいかに有効な活動が行えるかを考える力を習得する。また、実習前のガイダンスを行うとともに、実習終了後の実習報告書作成、実習報告会を行い、実習期間中における自己評価、グループ評価を行う。	
	臨床栄養学臨地実習	病院等の医療施設で実習を行う。臨地実習を通し、学内で学んだ臨床栄養学、栄養教育論、給食経営管理論などが実際に現場ではどのように応用されているかを学ぶと同時に、管理栄養士としての業務が実行できる能力を身につける。さらに、他職種との連携およびコミュニケーション能力を習得する。また、実習前ガイダンスによる事前学習および実習終了後の実習報告書作成、実習報告会の実施による期間中の自己評価、グループ評価を行う。	
教職	教職論	教職をめぐる組織・制度・環境等について学び、教師としての資質・能力に何が求められるのかを追究する。具体的には、「教職の要件」、「教職の意義と教員の使命・資質」、「教員の仕事と役割」、「教員の研修と服務規程」、「初等・中等教育と教員」、「教員養成と教職課程」、「求められている教師の資質・能力及び指導力」等を学ぶ。また、特別講義として、教職経験者から現場の実際について講話を聞き、学びを深める。	
	教育課程論	教師の実践的力量的の中核となるカリキュラムの開発や教材の活用、教育の方法と技術、児童生徒理解と教育の評価に関する知識と技能について、教育的タクト形成の視点から学ぶことによって、教職能力の基盤を構成している教育課程論の知見を習得する。具体的には、「教育実践と教育方法学」、「学習指導要領の歴史と論理」、「学校教育の構造と教育課程の編成」、「学級で教えることの技術とドラマ」、「児童生徒理解と教育実践の課題」等を学ぶ。	
	教育方法の研究(情報機器及び教材の活用を含む)	教育において、自ら学び、自ら考え、自ら決断し実行できる力を育成することが最も重要な教育目標となってきた。このような中で、これまで知識の教授に主眼をおいてきた教科指導から、自己学習能力を最大限に発揮させることのできる新しい学習指導への移行が模索されている。この講義では、伝統的な教育方法をふまえた上で、新たな視点から教科指導の方法、教育技術の開発、教育評価の問題について考えていく。	
	生徒指導の研究	生徒指導は、児童・生徒の一人一人の個性の伸長や社会性を育てるうえで極めて重要な役割をもっていることを理解するとともに、積極的な生徒指導及び進路指導の観点から児童・生徒に対応する必要性について研究する。具体的には、「生徒指導の意義と課題」、「生徒指導の原理と理論」、「児童・生徒理解の進め方」、「学級(ホームルーム)経営の進め方」、「生徒指導と道徳教育」、「教科指導と生徒指導」等を学ぶ。	
	特別活動の研究	『小学校・中学校学習指導要領解説〔特別活動〕編』(文部科学省)の内容を周知することで、特別活動の意義を理解し、その内容、計画、実践の方法などについて学習する。具体的には、「特別活動の目標・内容」、「学級活動の事例研究」、「学校行事の事例研究」、「模擬講話(個人発表)を通しての指導講話のあり方・話し方研究」、「学校行事「文化的行事」の実際(DVD)の検討」等を学ぶ。	
	学校カウンセリング	今日、学校教育の現場では、不登校やいじめなどさまざまな問題が見受けられる。中学生・高校生の時期は青年期にあたり、その心理的特徴として、性差や個人差が目立つこと、アンバランスな心身の発達、抽象的な思考の発達により関心が自己の内面に向かうことなどをあげることができる。この講義では、ライフサイクル上、非常に不安定になりやすいこの時期の生徒を、私達はいかに理解し、また、その心理的問題に対して、どのように対応すれば良いかを考えたい。	
	道徳教育の研究	『小学校・中学校学習指導要領解説〔道徳〕編』(文部科学省)の内容を周知することで、道徳教育の意義を理解し、その内容、計画、実践の方法などについて学習する。具体的には、「道徳教育の目標・内容」、「外国の道徳教育の現状」、「道徳の授業づくりと学習指導案の書き方」、「道徳授業(DVD)の参観と授業検討」、「道徳の模擬授業と授業分析」等を学ぶ。	
	介護等体験Ⅰ	小・中学校の教諭の普通免許状を取得希望する場合、特別支援学校(2日間)及び社会福祉施設(5日間)において7日間以上の介護等体験を行う必要がある。介護等体験は、様々な人と出会い、一人一人の生き方の多様性、重みを知るよい機会である。ここで学ぶのは、教育実習において、子ども達をみる目(理解)に生かされてくることを、十分自覚して取り組む必要がある。(168. 松浦正博・176. 桐木建始・188. 戸田浩暢)	オムニバス
	介護等体験Ⅱ(事前・事後指導)	介護等体験に関して体験の意義や本質について考える。とくに、特別支援学校や社会福祉施設での具体的な指導のあり方について特別支援学校の教師や社会福祉施設の指導員の方々の講話を聞くことにより体験の準備をする。事後指導においては、体験の内容についてグループで話しあうとともに、そのまとめを発表し体験の共有化をはかる。 (168. 松浦正博/2回) (176. 桐木建始/2回) (188. 戸田浩暢/2回) (特別講師4名/4回)	オムニバス

開連科目Ⅱ(C5)

関連科目Ⅱ（C5）	教職	教育実習Ⅰ	出身中学校・高等学校において1～2週間の観察・参加形式の教育実習を行う。教育実習は、大学において学んだ教職や教科に関する専門科目の知識・技術を、実際の教育現場において指導教諭から指導を受けながら生徒たちとの間に展開することである。その実践を通じて、教師としての自らの適性、教育実践の技術的な面を学ぶことをめざす。	
		教育実習Ⅱ	出身中学校・高等学校において2週間の観察・参加形式の教育実習を行う。教育実習は、大学において学んだ教職や教科に関する専門科目の知識・技術を、実際の教育現場において指導教諭から指導を受けながら生徒たちとの間に展開することである。その実践を通じて、教師としての自らの適性、教育実践の技術的な面を学ぶことをめざす。	
		教育実習Ⅲ（事前・事後指導）	本実習は教育実習前・後の指導を行う。実習の事前指導としては、実習の意義・目的を学ぶとともに実習中の授業への準備として、模擬授業を行う。また、現場の教師の講話を通して教育現場の実際について学ぶ。事後指導としては、実習を等して学びえたことをアンケート、集団討論、発表、個別面接により自覚的にとらえることとする。	
		栄養教諭概論	国民の健康増進を推し進めることが今日の重要な課題となっている。そのためには個々に健全な食生活を形成していくことが必要であるが、これは幼少の頃から培われた習慣が大きく影響し、栄養教諭はここで大きな役割を担うものとなる。そこで、この授業では食を取り巻く社会環境や食に関わる文化・歴史を理解し、食教育の必要性を考えるとともに、栄養教諭の役割を認識することを目的とする。（オムニバス方式/全15回） （160.渡部佳美/5回）栄養教諭の役割、学校給食の意義等栄養教諭を取り巻く環境やその必要性について学ぶ （220.泉谷昌子/10回）学校活動の中での様々な場面における栄養教諭活動のあり方について学ぶ	オムニバス
		栄養教諭活動論	栄養教諭としての重要性・役割を認識した上で、学校における各場面にあわせた食教育の特徴、方向性を理解する。また、他の教員との連携の中で食育の実際を習得することを目的とする。	
		教育課程及び方法論（含情報機器・教材活用）	教育方法に関する近年の教授法－学習理論をふまえ、授業方法や指導技術に関する知見を深めるとともに、教師に必要とされる実践的知識や技能を習得する。あわせて、教師の実践的力の中核となる教材の開発に関する知見を学び、教育課程を構成する知識と技能を習得する。	
		道徳及び特別活動の研究	学校において、児童生徒に一定の行動様式や生活上の態度を身につけさせ、意識的に一定の価値を志向し、理想を自覚させていく道徳教育のあり方について考察する。 あわせて、児童生徒たちが自主的に行動することの意義、また集団の成員としての協調性、協同性を獲得していく活動過程とはどのようなものかについて考えていく。	
		生徒指導論	生徒指導は、児童生徒の一人一人の個性の伸張や社会性を育てる上で極めて重要な役割を持っている。特に、近年、不登校やいじめ、学級崩壊など、学校生活における児童生徒の問題行動が急増しており、生徒指導の重要性がいっそう高まってきている。 本授業では、このような問題の解決のための基礎的・具体的な事項について考察する。	
		栄養教育実習Ⅰ	教育実習は教職教養の中でも、大学で学んださまざまな教養を実習の場面で総合的に生かし、児童生徒の人格形成と自己の望ましい教師像を形成する重要な過程である。つまり単に指導技術の習得にとどまらるのではなく、これまで学んだ事柄を学校現場で実践し、省察することが目的である。教育実習目標やその内容を十分理解し、学校給食を生きた教材として活用しながら、心身共に発達段階にある児童生徒のより望ましい人格形成を目指していかなくてはならない。	
		栄養教育実習Ⅱ（事前・事後指導）	教育実習は現場の教師として果たさなければならない職能の経験や訓練の機会である。そのため、この授業では、実習の事前指導により、実習の意義・目的を十分理解し、実習の進め方を確認する。また、事後指導においては、実習によって経験したことをまとめ、評価・反省し、問題点を確認することにより栄養教諭の意義・役割についてさらに理解することを目標とする。本実習は、教育実習の事前・事後指導として設定されている。	

授 業 科 目 の 概 要					
(人間生活学部 幼児教育心理学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通 基礎 科目 (C1)	キリスト教学入門Ⅰ	(1)本学の土台であり柱であるキリスト教について、理解を深める。 (2)その「正典」である聖書について、理解を深める。 (3)古代の文書である聖書が、なぜ、どのようにして、現代の私たちの生活に関わりを持つのか、さまざまな読み方を通じて、理解を深める。 (4)イエス・キリストの教えと行いから、「クリティカル・シンキング」を学ぶ。 (5)一方で、人の「いのち」を活かし、尊敬・自由・平等をもたらす宗教が、他方ではなぜ人の「いのち」を奪い、尊敬・自由・平等を脅かすのかを、ともに考える。			
	キリスト教学入門Ⅱ	(1)本学の土台であり柱であるキリスト教について、理解を深める。 (2)前期「キリスト教学入門Ⅰ」に続いて、古代の文書である聖書が、なぜ、どのようにして、現代の私たちの生活に関わりを持つのか、さまざまな読み方を通じて、理解を深める。 (3)人間の根本にある「宗教性」(霊性・スピリチュアリティ・帰依心)に気付き、「祈り」について学ぶことで、心と感性の豊かさを育てるきっかけとする。 (4)キリスト教的歴史観・世界観における「創造」と「終末」について学び、「いま・ここ」に生きる「意味」を各々が喜びをもって見出すきっかけとする。			
	キャリアアプランニング (人間生活)	この授業は、広島女学院大学の一員として大学の建学の精神・歴史・教育理念についての認識を深め、また人間生活学部の教育目標やカリキュラムを十分に理解したうえで、大学においていかに学ぶかを考え、将来のキャリアプランを形成することを目的とする。特に、人間生活学部の教育理念である、(衣・食・住・育)における人間生活の質向上を支援する専門職をめざすために何が必要かを知り、自立した職業人となるための責任感、倫理観、創造性、コミュニケーション力、社会貢献への意思等を形成する基礎を身につける。			
	初年次セミナー	新入生が大学での学びを進めていく上で必要とされる学びの技法、すなわち聴くこと、読むこと、書くこと、整理すること、まとめること、表現すること等を修得することを目的とする。とくに、授業の聴き方・書き方・書くことをはじめとする技法、情報の整理のし方、まとめ方について学ぶ。その前提としての情報を得る場としての図書館の利用・活用のし方について実地体験する。			
	日本語表現技法	日本語で教育を受けてきた人々でさえ、日本語の使い方を誤っている場合も多い。漢字を正しく書くことだけでなく、その意味を理解し、熟語や四字熟語、慣用表現などを日常的に使用することに慣れるため、もう一度自分の日本語をみつめなおす。敬語などの基本的な表現を身に付け、手紙やビジネス文書など社会で必要とされている文書の意味を理解し、書く作業を通して、相手の理解を促すことを意識した表現方法を学ぶことを目的とする。			
	情報リテラシⅠ	「情報活用能力」の中でも「情報活用の実践力」を学習する。特に基本的な情報スキルを学習し、今後の大学におけるレポート作成、レジュメ作成および卒業論文における基礎的な力を習得することを目的とする。			
	情報リテラシⅡ	コンピュータの基本的な構造を理解し、情報の扱い方、ソフトの種類や用途などを自分で判断し、これらを利用して「課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力」の育成を目的とする。			
	基礎英語Ⅰ	This is an introductory integrated skills course, which combines reading and writing skills with listening and speaking. The class is designed to allow students to gain confidence in their use of all four English skills. 本講義は、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能全ての向上を目指す導入的コースである。本講義の目的は、受講学生が自信を持って英語の4技能を使う力を身につけることである。			
	基礎英語Ⅱ	This is a continuation of the integrated skills course, which combines reading and writing skills with listening and speaking. The class is designed to improve students' use of all four English skills. 本講義は、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能全ての向上を目指す導入的コースの上級編である。本講義の目的は、受講学生の英語の4技能のさらなる向上を目指す。			
	基礎英語Ⅲ	This is a high-level integrated skills course, which combines reading and writing skills with listening and speaking. The class is designed to allow students to gain confidence in their use of all four English skills. 本講義は、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能全ての向上を目指す上級コースである。本講義の目的は、受講学生が自信を持って英語の4技能を使う力を身につけることである。			
	基礎英語Ⅳ	This is a continuation of the high-level integrated skills course, which combines reading and writing skills with listening and speaking. The class is designed to allow students to gain confidence in their use of all four English skills. 本講義は、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能全ての向上を目指す特級コースである。本講義の目的は、受講学生が自信を持って英語の4技能を使う力を身につけることである。			
	共通 教養 科目 (C2)	総合知	環境と人間	環境を人間が意味づけることは、人為の<起発>点に位置しつつ、人為の全幅にわたり<こだま>することである。詩人オクタビオ・パスが「リズムは拍ではない—それは世界のヴィジョンである」と語るときの<リズム>が、ここでの<起発>と<こだま>に当たる。その意味づけ同時に行うする事態には、自然と人為とのそのつどあらたな調和への試行とも呼べる人間的くり返しが現われている、とも語りうる。本授業では、そのくり返しを、環境思想、文学、生物行動学、諸工学、環境地理学、認知心理学、生活環境制作等においてみていく。	
			現代女性と身体	私たちは与えられた性を生きているが、疑問を抱く者もいることは理解されはじめた。この授業では、自らの身体を通して、社会を再度見つめなおすことを行う。生む可能性・育てる可能性とその選択権をもった女性自身が、自らの性に関心を払うことで、自らの生き方を考えることにつながる。同時に、共に生き、共に育てる可能性のある男性のこの生も理解することで、人として生きる権利の大切さを学ぶ。さらに、人として生きる権利、人権を通して、暴力は差別であり、差別は暴力であることを認識し、暴力のない世界をめざす心のあり方を学ぶ。	隔年

共通 教養 科目 (C2)	総合 知	現代ジェンダー考	ジェンダーということばを耳にする機会が増えてはいるが、その定義は不確かなままである。単に、男女二分法ではないことをふまえて、ジェンダー意識は成長過程の中で植えつけられるものである現実から、ジェンダーとは何を意味するのかについて、さまざまな視点から考察をしていく。とくに、人は支えあって生きるものであるという認識から、人という個の単位を振り返りながら、多様化された現代社会において個が抱えている問題点を探る。	隔年
		ヒロシマ	原爆投下から半世紀以上が経過し、原爆が投下されたという事実と「ヒロシマ」との懸隔は広がりつつある。「ヒロシマ」についての正確な認識し、「ヒロシマ」に関わる未決の諸問題とその影響を理解することは、「ヒロシマ」に還元されない原爆投下の事実を継承するためにも重要な作業となろう。本講義では、広島史の中に「ヒロシマ」を位置づけ、原爆投下の経緯とその影響について幅広く検討する。	
		ボランティア論Ⅰ	1990年代以降、ボランティアへの関心が高まり、ボランティアが日常的な用語として定着してきた。精神的なボランティア論があったとしても、ボランティア現場での具体的な振舞いや制度設計などについての議論は少ない。本講義では、ボランティアについての概念や具体的なボランティアのあり方について討論形式を取り入れて検討し、ボランティアについて語りボランティアとして活躍できるようになることを目指す。	
		ボランティア論Ⅱ	ボランティア論Ⅰを受けて、ボランティア活動の企画運営について実践的に学ぶ。企画運営力をボランティア・リーダーの資質と位置づけ、具体的なボランティア活動の実施を目指す。	
		キリスト教の時間Ⅰ	本学の建学の精神に関わる独自の教育プログラムとして伝統的に持たれてきた「キリスト教の時間」（毎週火曜日13:00～13:45・前期15回）への出席を通して、平和・人権・女性などに関する課題に触れ、独自の考察を進めることを目的とする。受講者には「キリスト教の時間」への出席とともに、テーマに沿った事前学習（予習）とレポート作成（復習）が求められる。前期のはじめと終わりに、イントロダクションと振り返りの時間を設け、受講者の出席を必須とする。「キリスト教の時間」の各回内容については別途予定表において定める。	
		キリスト教の時間Ⅱ	本学の建学の精神に関わる独自の教育プログラムとして伝統的に持たれてきた「キリスト教の時間」（毎週火曜日13:00～13:45・後期15回）への出席を通して、平和・人権・女性などに関する課題に触れ、独自の考察を進めることを目的とする。受講者には「キリスト教の時間」への出席とともに、テーマに沿った事前学習（予習）とレポート作成（復習）が求められる。後期のはじめと終わりに、イントロダクションと振り返りの時間を設け、受講者の出席を必須とする。「キリスト教の時間」の各回内容については別途予定表において定める。	
		特別講義Ⅰ	教養大学として学生に学んでほしいテーマを設定し、特別講師を招聘し、集中講義の形で話題を提供する。	集中
		特別講義Ⅱ	教養大学として学生に学んでほしいテーマを設定し、特別講師を招聘し、集中講義の形で話題を提供する。	集中
		特別セミナーⅠ	持論的なテーマについて、特別講師を招聘し、少人数のセミナー形式で議論する。	集中
		特別セミナーⅡ	持論的なテーマについて、特別講師を招聘し、少人数のセミナー形式で議論する。	集中
	人文 科学 知	教育学入門	今日の日本の学校教育が抱えている諸問題に関して、規範学的、歴史的、社会的、比較教育学な観点からアプローチする。このことを通じて自らの教育経験を客観的に捉える眼を養うことを目的とする。	
		心理学入門	これまでに心理学で明らかにされた研究成果を紹介しながら、人間の心とは何かについて考察する。講義では、知覚、学習、記憶、思考・言語、脳と行動を中心にあり、私たちが自分を取りまく環境をどのように認知し、どのように判断し、行動するのかという認知のメカニズムについて考える。また、パーソナリティ形成、社会的行動などを通して、自然環境や社会的環境への適応のメカニズムについても考察する。以上の講義内容を通じて心理学的な人間観に触れながら、自己理解を深めてほしい。	
		哲学入門	現代の私たちが直面している様々な問題（環境問題や生命倫理の問題など）は、技術的な進歩によって解決できるものばかりではなく、その内に価値観の対立を含んでいることがほとんどである。価値観の対立のポイントはどこにあるのか、また、思想的にはどのような考えに分類できるのか、分かりやすい形で取り出し、共に考えることで、解決策を探っていく。本授業の目的は、そうした具体的な問題について考えつつ、「自分とは異なる考えを持つ者（他者）」が存在することを自覚し、自分とは異なる他者との相互理解やコミュニケーションの可能性を考えていくことにある。	
		キリスト教Ⅰ	翻訳は、「WATER」という単語を「水」と訳して済むものではありません。原文に対する解釈を抜きにして翻訳することは、事実上不可能です。また、翻訳にはそれとなく文化や時代という背景が反映されます。この授業では、ヘブライ語やギリシア語という古代語で書かれた聖書本文が、どのように各国語に翻訳されていったのかという歴史を学ぶことや、現代の様々な翻訳の試みに触れることを通じて、「キリスト教文化」というテーマに接近することを試みます。	
		キリスト教Ⅱ	聖書は不思議な書物です。遠い昔に遠い国で著された書物ですが、今・ここを生きる私たちに、人間の生き方や世界について理解するためのカギを与えてくれる書物でもあります。それは聖書が「神」について記すことで、じつは普遍的な「人間の問題」を描いているからではないでしょうか。この授業では、聖書が示す人間観や、聖書が描く人間像を学ぶことを通じて、受講者が自分自身の人間観や世界観を確立する一歩とすることを目指します。	
生命倫理		生命および医療の倫理について、講義前半では、いわゆる「ヒポクラテスの誓い」や、インフォームドコンセントをはじめとした、基本的な事項について説明する。講義の後半では、脳死の問題のような人によって見解が分かれる問題や、安楽死など、実際の医療現場で判断が迫られるような問題について、実際に生じた事例を参照することで考えていく。この際、異なる倫理的アプローチによって、各事例に対して、異なる結論が生じうる場合があることを示しつつ、受講者自身の立ち場を意識させるようにしたい。		
アメリカの文化と歴史		優しく英語を学びながら、アメリカの文化、社会、歴史について学ぶ。 1. Orientation 2. Coming to America① 3. Coming to America② 4. The American Revolution① 5. The American Revolution② 6. The Constitution① 7. The Constitution② 8. Growth and the Civil War① 9. Growth and the Civil War② 10. Twentieth Century① 11. Twentieth Century② 12. Celebrations① 13. Celebrations② 14. The Legislature① 15. The Legislature②		
イギリスの文化と歴史		イギリスの代表的な文化について、その歴史をたどりながら紹介していく。イギリス文化についての基礎的な知識を身につけることを目的とする。 第一週：イントロダクション、イギリスという国/第二週：イギリスとローマ帝国/第三週：イギリスとキリスト教/第四週：イギリスと建築/第五週：イギリスと王室/第六週：イギリスと王室/第七週：イギリスと戦争・外交/第八週：イギリスと戦争・外交/第九週：イギリスの階級/第十週：イギリスの階級/第十一週：イギリスの伝統行事/第十二週：イギリスの伝統行事/第十三週：イギリスの家庭/第十四週：イギリスの食べ物・飲み物/第十五週：その他、まとめ		
ヨーロッパと文化		ヨーロッパの形成は中世にその淵源を求められることができるが、その構成要素としてのヘレニズム（ギリシア的なもの）ヘブライズム（キリスト教）及びゲルマン的精神はいかにして作りあげられ、近代・現代を通じて発展していったのか文化的視点から考察する。		

共通教養科目（C2）	人文科学知	歴史学のみかたⅠ	「歴史」と聞くと即座に「苦手」と答える人は多い。大学入学までの歴史は固有名詞と年号の暗記が中心になりがちである。暗記科目とみなされてしまうのも、苦手意識もそれが原因だろう。一方で、最近では「歴女」なる言葉もある。まずは、苦手意識を除き、歴史を憶えるのではなく、学び、知ることの楽しさを見出すことを目的とする。歴史は物事の見方である。そのため、この国の成り立ちを通時的にたどるのではなく、個別の事象を結びつけ、時代を行き来しながら見てゆく。	
		歴史学のみかたⅡ	日常生活の中で、私たちは漢字を使い、食事の際に茶を飲むが、これらは中国から伝えたものである。アジアでは古くから、地域間において様々な形の関係性（移住、貿易、戦争など）が形成されてきた。言い換えると、アジアの歴史は、「海と陸の交流史」といえる。そこで本講義では、中国を中心とする東アジア地域とインド洋と東シナ海の間に存在し古くから重要な交通路として栄えた東南アジア地域とを対象に、①「帝国」、②ヒトやモノの交流、③「西方」からの影響、という3つの視点から、アジアの歴史的特徴を検討する。	
		歴史学のみかたⅢ	西洋史の立場から歴史の見方について考察する。わたくしたちが歴史を学ぶことは、どのような意味があるのか。その前提として歴史学とはいかなる学問としてわたくしたちの前にあるのか、その探究の方法とは、対象とはということについて考えてみたい。	
		色彩情報論	この科目では、講義と講義から得た知識を確認するための実習を合わせて行う。まず、色を情報の一つとして捉えその色のはたらきと色を認識するために光の物理的な性質、目のしくみ、照明、混色について概略を講義する。次に、色の三属性（色相、明度、彩度）を基に、PCCSのヒュートーンシステムを理解する。また、色の心理的効果、視覚効果、知覚的効果を講義と実習により理解する。さらに、配色調和という観点からのファッション、インテリア、環境での配色を通して、色を情報として効果的に利用できる力を獲得する。	講義2回×90分、13回×45分 実習13回×45分
		音楽の世界	古今東西の様々な種類の音楽を聴き、音楽の特徴を「耳」から捉えることによって、様々な音楽様式についての感覚を養う。同時に、生きた音楽に親しみつつ、音楽の起源や、音楽が形成され発展していく過程についても学ぶ。実際に、演奏・創作という体験も交え、幅広い観点から音楽を捉える。また、身の回りの「音」にも耳を澄まし、意識して「聴く」という行為を通して、日常の生活環境や文化についても考察する。これらの経験をもとに、現代社会における多様な芸術や文化の意味について根本から問い、探究していく。	
		日本美術史	日本美術の大づかみな流れをたどるとともに、その特質を、前近代においては中国・朝鮮半島の美術との、近代以降においては欧米をはじめ世界の美術との対比においてつかむ。そもそも、高校までに学ぶ美術も、世間で話題となる展覧会で接する機会が多いのも、多くは西洋美術である。しかし、この国には、美しいものを愛でる長い伝統がある。その歴史を知り、あわせて日本美術史の底流としての日本人の美意識について見てゆく。	
		西洋美術史	西洋美術史における時代様式の特徴を感覚的に把握し、大きな枠組みと歴史・文化的な背景をひととおり理解できることを目的とする。ヨーロッパとその源流となった地中海諸文明（エジプト、エーゲ海、ギリシア、ローマなど）を扱う。ヨーロッパでは、ギリシア・ローマの古典美術が繰り返し参照されたが、それへの反発である反古典主義の動きもあり、このふたつの大きな流れを中心に美術史を理解することができることを特に強調したい。	
		American Culture and History	The purpose of this course is to acquaint students with the culture, history and diverse inhabitants of the United States through extensive reading. Students will improve their understanding of American history, as well as their abilities in reading, listening, speaking, and critical thinking. 本講義は、多読をとおしてアメリカ合衆国の文化、歴史、多民族性の理解を目的とする。受講学生は、アメリカの歴史の理解と同様に、英語のリーディング、リスニング、スピーキングの能力、また批評的考察力を培う。	
		British Culture and History	The purpose of this course is for students to gain a greater understanding of British culture in the modern day, and to see how history has shaped British culture. Themes from major British films will be used to introduce important aspects of culture in Britain. 本講義の目的は、受講学生の現代のイギリス文化への深い理解を養い、いかにイギリスの歴史がその文化を形成しているのか、ということ考察することである。主要なイギリス映画からテーマを選び、イギリスにおける重要な文化的側面を紹介する。	
		European Culture and History	European history began with Ancient Greek and Roman civilizations, which formed the basis of Western Civilization and European culture. This course will follow historical eras from ancient to modern times, and students will make Powerpoint presentations to the class on their selected topics. ヨーロッパ史は、西洋文明やヨーロッパ文化の基礎を形成する、古代ギリシャ、ローマ文明から始まった。本講義は、古代から現代にわたる歴史的背景を探り、受講学生は、自分たちの選択した主題についてのプレゼンテーションを授業中パワーポイントを用いて行う。	
		American literature and Thought	The purpose of this course is to acquaint students with the literature and thought of the United States by reading and discussing works of cultural, historical, and literary significance produced by a wide variety of American writers. 本講義の目的は、多種のアメリカ作家が描いた、文化的、歴史的、文学的意義の高い作品を講読し、さらに議論することで、受講学生がアメリカ合衆国の文学や思想を理解することである。	
		Asian and African Literature and Thought	This course will use short stories from Asia and Africa to illuminate general themes and social problems. Students will be expected to read extensively, think critically, and also express their thoughts in well-constructed written reports. 本講義は一般的なテーマや社会問題の解明を試みるため、アジアやアフリカの短編小説を扱う。受講学生は、テキストの徹底的な精読や、批判的思考力を持って、よくまとまったレポートで自身の考えを表現する技術の向上を目指す。	
		European Literature and Thought	This is a course in the classic works of European literature and thought. Excerpts from major works will be studied for content, style and theme, from The Bible to contemporary modernism. Students will read extensively, think critically, and also express their thoughts in written reports. 本講義では、ヨーロッパの文学や思想の古典作品を扱う。聖書から現代のモダニズムにわたる主要な作品の抜粋を、内容、形式、主題について学ぶ。受講学生はテキストを精読し、批評的に考え、レポートを提出する必要がある。	
日本文学入門	メジャー選択の目安となる日本文学・日本文化についての基本的な授業である。古典文学を中心とするが、近現代文学作品も視野に入れる。入門に相応しい作品を取り上げ、その作品・作家の特質を考えるとともに、古典文学作品の現代的意味を考える。日本文学を読み、味わうことの習慣化を図りたい。文学作品を読むことは、作家の人生観を知るだけでなく、読み解く中で、自身の生き方をも考えさせられる。読むという行為を通して自身の人生観を培う。			

人文科学知	アメリカ文学史	現代アメリカ文学(アメリカ自然主義以降)の流れと作家、作品の内容、カテゴリー別の特徴などを、ビデオを見たり、作品の一部鑑賞したり、調査したり、講義を聞いたりしながら、学ぶ。 1. Orientation 2. 自然主義 3. モダニズムの始まり 3. Lost Generation 5. 危機の文学 6. 南部文学① 7. 南部文学② 8. 1950年代の文学(戦争文学) 9. Beat Generation 10. 黒人文学① 11. 黒人文学② 12. ユダヤ系アメリカ人文学 13. Post Modernism① 14. Post Modernism② 15. 復習とレポートの説明	
	イギリス文学史	イギリスにおける代表的な文学作品を、時代背景や文化と絡めながら歴史的に考察し、イギリスにおける文学・文化の特徴を考える。できる限り実際のテキストに触れ、それぞれの特徴を把握する。範囲としては、古英語から現代の文学を扱う。授業計画は以下の通り。 第1回文学史のイデオロギー、第2回古英語の時代、第3回中英語の時代、第4回ルネサンスⅠ、第5回ルネサンスⅡ、第6回17世紀前半、第7回17世紀後半、第8回18世紀前半、第9回18世紀後半、第10回19世紀初期、第11回19世紀中期、第12回19世紀後半、第13回20世紀前半、第14回20世紀後半、第15回 現代	
	日本語学の視点	この授業では、日本語学という学問がどのような学問なのかについての紹介を通して、日本語を学ぶことおもしろさや社会的意義を伝えることを主たる目的としている。一口に日本語を学ぶ、研究するといっても、どういった時代の日本語を扱うのか、話し言葉か書き言葉か、日本語の音声なのか文法なのか意味なのかなど、学びの視点は多様である。このような視点から日本語を扱うことができるのかを把握し、常日ごろから様々な角度から日本語に関心を持ってもらえれば幸いである。	
	英語学の視点	この授業は英語学とはどのような学問領域であるかをみなさんに紹介することを目的とします。英語学は英語を対象とした言語学ですが、みなさんは「言語学」と聞いてどんなことを研究する学問だと思いますか? 古代文学の解説でしょうか? もちろんそれも言語学の対象ですが、もっと身近な、身の回りで普通に話されている言葉の仕組みを探ることも言語学の重要な目的です。この授業では、みなさんが今までに学習してきた英語の仕組みを、みなさんが普段話している日本語と比べることによって明らかにしていきたいと思います。	
	比較言語	本科目は、言語学的に日本語と英語を比較することによって対照言語学の方法論を講義形式で解説する。1年次生向けの教養科目という科目の位置づけを考慮して、まずはこれまで文法学習とおして言語学的な特徴を学んできた英語を取り上げ、その仕組みに目を向けられるようにする。さらに、ふだん文法を意識せず用いている日本語との対応関係に注目し、それぞれの言語の類似点・相類似点について疑問をもてるようにする。最終的には、その疑問点を解決することのおもしろさやわかるようになるのが目標である。	
	心理学基礎論	心理学は人間の心と行動のあらゆる側面を解明しようとする学問である。そのため、心理学が扱う領域はきわめて広い範囲に及んでいる。そこで本講義では、これまでに心理学が目指してきたものは何か、心理学は人間をどのようにとらえているのか、心理学の研究はどのように行われるのかについて解説し、これをふまえて各領域の内容を紹介する。これから心理学をさらに深く理解していくための基礎的な知識を身につけるとともに、心理学を保育・教育の場に生かしていくための方向性について考えていくことにする。	
	教育原理Ⅰ	教育とは何か。その営みの本質と制度化の過程を考える。まず、子どもとその子育て・教育は、昔の人々の生活のなかでどのように行われてきたのか、大人と子どもの関係はどうであったのか。さらに、学校というものはどのように現れてきたのか。教育行為の実際とその背後にある子ども観・教育観を検討する。つぎに、今日の社会における教育行為と制度の基本的な知識を学ぶとともに、現代の教育が抱えている課題と改革の方向性について考える。	
	音楽Ⅰ	子どもの音楽表現活動に関わる音楽の基礎的な知識、技能を身につけることを目的とする。音楽Ⅰでは、子どものうた、またそれに伴うピアノ伴奏法、弾き歌いを中心にこなす。単に技術を高めるだけでなく、子どもの発達などを考慮し、子どもの豊かな音楽表現を援助できる力を身につけることをねらいとした学習を行なう。	
	心理学概論	心理学の様々な分野において、明らかになっていることを学び、心理学への興味・関心を高め、心理学の基礎的な知識を習得する。授業では、簡単なワークを取り入れて、受講生が自分自身を見つめるきっかけにしたい。	
	図画工作Ⅰ	子どもの造形表現に関する基礎的な知識や技能を身につけ、それらに関する様々な活動を通して、造形表現における表現の楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを言語表現などへと展開するために必要な図画工作の基礎・基本的な知識や技能を習得させることを目標とする。	
体育Ⅰ	幼児期に必要な運動遊びとその基本的な運動動作の獲得や身体・言語表現に必要な知識と技能を身につけることを目的とする。また、模擬保育を通して、指導法や安全指導への配慮、加えて子どもの発達過程を踏まえた教材や保育のねらいについて学習する。		
社会科学知	女性学入門	女性自身が自分らしくありたい、自分らしく生きたいと願っても、自分では選ぶことのできない属性である性別によって、自己選択・自己決定を強いられることや可能性に挑戦する機会すら奪われるような事例がある。しかしながら、そのことに気づかないまま、あるいは気づきながらもいたし方のないことと理解し、我慢しながら生活を続けている私たちがいる。身の回りで生じている問題をジェンダーの視点でみつめながら、男女共同参画社会のあり方を考えたい。	
	平和学入門	人はひとりでは生きていけないからこそ、お互いを理解し、お互いを尊敬しながら共に生きることができる社会、共生社会の実現をめざそうとする。私たちが暮らす社会を一人ひとりが自分らしく生きることができる社会へと、自ら主体となって変革する力となることができれば、幸いである。平和な社会とは、戦争や暴力がない状態をさすだけではなく、飢えや貧困、社会的抑圧や差別などの「構造的暴力」が克服された社会ではないだろうか。 私たちは日本社会に生き、国際社会に生きるものとして、今日の日本社会や国際社会の現状と課題についてどれだけのことを知らされているだろうか。あるいは、知ろうとしてきただろうか。開発途上国に暮らす子どもたちや女性に学ぶ視点から、開発途上国の低発展性の背景や要因を探るとともに、日本に暮らす私たちの生き方を問いなおしてみたい。国際平和と人権の確立をめざして、地球的視野で考え地域社会に貢献する社会変革の担い手としての自覚を促したい。	
	社会学入門	社会学と一口に言っても、対象も方法も多岐にわたる。この授業では、ウェーバーやデュルケム、パーソンズなどといった基礎的な人物と彼らが論じた基礎概念に絞って概説する。その際、一方的な説明に終始するのではなく、具体的な事例と発問を通して物事の追究を促す。授業の目的として以下の2つが挙げられる。まず、学史に沿った構成にすることで、社会学の基礎概念と問題意識(何を対象とした、どのような学問なのか)の理解を目指す。次に、具体的な事例を通して、自分の価値観や日常生活を相対化する力を身につける。様々な道具立てを用いて「あたり前」に目を向ける作業は、今後の勉学や社会生活でも活かされるだろう。	

共通 教養 科目 (C2)	社会科学 知	現代社会と人権	この授業は、個々の人間存在にとっては生来かつ固有の権利であり、人類全体にとっては普遍的価値である人権の、(1)基本的概念について学ぶこと、(2)思想的発達の歴史について学ぶこと、(3)人権侵害や差別克服の実例について学ぶこと、(4)現代社会におけるさまざまな人権問題(戦争と暴力、女性差別、性的少数者への差別、子どもと人権、同和問題、外国人差別、情報化社会と人権、病気と差別、経済格差と自己疎外、等)について学ぶこと、を通じて受講者それぞれが人権への関心を深めるとともに高い人権意識を涵養することを目的とする。	
		地理学概論	現代社会は空間の時代であると言っても過言ではない。グローバル化が進展するとされる一方で、地域分権やコミュニティの再生などが喧伝される。これまで知識の学としてみられていた地理学は、改めて現代社会における空間や地域の学として期待されている。本講義では、位置、場所(空間)、スケール、交通、地域などのキーワードを手がかりとして、地理学的な考え方について概説したい。	
		開発と文化	一般的に「開発」はインフラ整備や経済開発と捉えられる傾向にありますが、昨今は、「豊かな」社会の開発・発展においては「文化」的要素も重要であるとの見方が起こっています。本講義では、日本国内だけでなく東アジアや南アジア等において、地域の文化や歴史、暮らしの知恵等が「地域で生きぬく」ための精神的・実践的な支えとなることを再評価している人々の暮らしを事例としてとりあげながら、「開発」とはなにか、「文化」とはなにか、そして「豊かさ」とはなにかというテーマを共に考えていきます。	隔年
		民俗学(民族と社会)	本講義では、日本民俗学における代表的な研究者の研究対象と研究方法を紹介し、研究史を概観する。近年の研究動向をも紹介し、現代日本における民俗学の可能性と問題点を明らかにする。具体的なフィールドとして私たちの暮らし「安芸」を取り上げ、生業、信仰、民俗芸能などを周辺地域と比較し、「安芸」の民俗の特徴を明らかにする。その上で、当該地域の人生儀礼、年中行事、民俗芸能から具体的事例を提示し、民俗的理解とその置かれている状況の理解を目指す。	
		経済学入門	本授業では、経済学をはじめ学ぶ学生を対象に、経済学的な考え方の基本を講義する。この授業は、経済学の基本的概念を理解し、経済学的思考を学び、新聞やテレビの経済ニュースなどが理解できる経済学の考え方を身に付けることを目的とする。授業では、分かりやすい経済学入門書を利用し、ミクロ経済学(個々の家計や企業がどのように意思決定を行ない、それらが相互にどのように関わり合うかを研究する学問)やマクロ経済学(個別の経済活動を集計した一国経済全体を扱う学問)の内容を学びつつ、その知識を応用し実社会の経済問題について考察してみることを目指していく。	
		経営学総論	現代社会における企業やビジネス組織の仕組みやマネジメントに関する知識を体系的に学習する。また、働くことの意義や意味について学び、自らの職業観の醸成をめざす。	
		Area Studies 1 (America)	This course is designed to acquaint students with American culture, history, and society through extensive reading of a wide variety of different works. By participating actively in the lessons, students will increase their vocabulary and their familiarity with English idioms and phrasing. 本講義の目的は、多種多様な作品の多読をとおして、アメリカの文化、歴史、社会を理解することである。授業に積極的に参加することによって、受講学生は英語の慣用語や語彙力を増やすことができる。	
		Area Studies 2 (Asia and Africa)	This course will introduce Asia and Africa through films, chosen for particular themes as well as providing visual background information about the various countries. Students will discuss the themes, gain insight into Asian and African countries, and be encouraged to make cross-cultural comparisons. 本講義は、様々な国の背景を視覚的な教材を用いて情報を提供し、また特定のテーマを扱った映画を題材とし、アジアやアフリカを学ぶことを目的とする。受講学生は、各テーマを議論し、アジアやアフリカに関する洞察力を身につけ、異文化間を比較する力を培う。	
		Area Studies 3 (Europe)	This course is designed to acquaint students with European culture, history, geography, and current affairs through presentations. Students in this class will improve their research, presentation, and speaking skills as they research and present on a variety of topics relating to Europe. 本講義の目的は、受講学生のプレゼンテーションをとおして、ヨーロッパの文化、歴史、地理、時事問題を理解することである。学生は本講義において、ヨーロッパに関する様々な主題についてのリサーチ、プレゼンテーションを行うため、リサーチ、プレゼンテーション、スピーキングの技術を向上することができる。	
		金融論	本講義の目的は、金融の基礎知識を学び、現実の経済社会における金融の役割を理解することにある。学期の前半では金融市場のメカニズムおよび銀行などの金融機関の行動について学習する。ここでは、金利機能などの理論的側面と共に、実際の銀行などによる企業金融、プロジェクト・ファイナンスなどについても学習する。また、金融市場で重要な問題となる情報の非対称性や金融制度の問題についても検討し、金融部門に対する健全性規制の在り方について議論する。学期の後半では、貨幣の需要・供給のメカニズムや金融政策について学習する。特に、今日のグローバル化した経済の下での金融・財政政策のあり方について理解を深める。	
		国際金融論	本講義では、為替レート、国際収支、国際金融市場、国際金融制度などの問題を学ぶ。学期の前半では、為替レートや国際収支表などに関する基礎的な知識を学ぶ。為替レートについては、変動相場制や固定相場制のもとで短期的・長期的にどのような要因によって為替が決定されるのかを学習する。次に国際収支表の枠組みを学び、経常収支や資本・金融収支の意味を理解する。これらをもとに開放マクロ経済政策および国際金融政策を議論する。学期の後半では、国際金融市場における金融取引、国際資本移動などについては学び、グローバル化した国際金融における諸問題を検討する。さらにIMF、世界銀行などの国際金融制度についても学習する。	
		経理実務	企業などのビジネス組織の規模や業種、業態を問わず、会社法などの法律やルールに則り、経済取引によってもたらされる資産・負債などの増減を管理し、一定期間内の収益・費用を記録するための貴重方式である帳簿をつけ、財務諸表を作成することは組織として当然のこととされている。この帳簿の意味を理解し、そこに記された数字の意味や流れを理解することは、ビジネスワーカーの基本的能力の一つである。このような経理実務の基本となる簿記の理解と経理業務の全体を把握し、会計学への糸口とする。	
		ビジネス実務演習 I	ビジネス活動とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業などのビジネス組織における積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性、人間関係調整の重要性について考察を深めることを目的とする。また、クリエイティブなビジネス・ワーカーとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」を目標とする。「ビジネス実務士」「上級ビジネス実務士」の資格取得に向けた必修科目である。	
プレゼンテーション概論	現代社会における企業などのビジネス組織において、ビジネスワーカーに必要とされる技能の一つにプレゼンテーションがある。単に情報機器を使用したものをプレゼンテーションとする傾向に対して警鐘を鳴らし、本来のプレゼンテーションのあり方、それに関する知識や技法についての理論を体系的に学習することを目的とする。また、実践したプレゼンテーションには必ず評価がついてくることから、PDCAサイクルから評価の意味を考察し、フィードバックの重要性を理解する。「プレゼンテーション実務士」の称号取得に向けた必修科目である。			

共通教養科目 (C2)	社会科学知	インターンシップ I	ビジネス活動とそこで働く人びとのビジネスワークについて、「インターンシップ (就業体験実習)」を通じて理解を深め、自らの職業意識の形成を図るとともに、職業適性、職業生活設計、職業選択について考える契機とする。事前学習として、ビジネス組織についての理解、ビジネス・コミュニケーションの基本について理解を深め、ビジネス・ワーカーとして求められる実務能力開発やキャリア・プランニングを探究する契機とする。 受講生は、夏期休業中に1~3週間程度の期間で、本学独自の研修先での「インターンシップ」に参加すること、ならびに事後学習としての「研修報告」(研修レポート提出と報告会参加・発表)が義務づけられる。	
		Social Anthropology	Culture forms the background to all our behavior as individuals and society. It has diverse forms and expressions. It is inherited and learned. It can be changed or remain permanent. In this discussion course, students will consider aspects of culture that control their lives. 文化とは、我々全ての個人として、集団としての態度の基盤を形成する。文化によって、姿勢や表現は異なる。それは継承され記憶される。それは変化したり、永遠にそのまま残る。本講義では議論をおとして、受講生が自分たち自身の生活に強くかかわっている文化を理解することを目的とする。	
		Social Psychology	The purpose of this course is for students to consider aspects of psychology that are relevant to all humans. However, students will think about how different cultures may look at these aspects of social psychology in different ways. Students will learn not only social psychology, but also improve their presentation skills in this course. 本講義の目的は、全人類にかかわる心理学の側面を考察することである。受講生は、異なった文化が異なった方法でいかに社会的心理学の側面において見受けられるか、ということを検討する。学生は、本講義において社会心理学を学ぶだけではなく、プレゼンテーションの技術を培うことができる。	
		World Economy	The purpose of this course is for students to gain insights into the world economy, and how it affects people in different parts of the globe. The course covers the role of governments, institutions and individuals in the world economy. Students will also improve their presentation skills in English. 本講義の目的は、世界経済に対する洞察力を養い、いかに世界経済が世界のあらゆる場所に影響しているか、ということを理解する。本講義は、世界経済において、政府、慣習、個人の役割を網羅する。学生は、英語によるプレゼンテーションの技術の向上を目指す。	
		日本国憲法	人権保障の誓としての憲法の役割を理解してもらえらる講義としたい。日本国憲法の規定する国民主権の内容、伝統的な基本的人権の種類と内容、新しい人権をめぐる議論について歴史的な経緯を踏まえて講義する。基本的人権の保障に関する主要な判例を取り上げる。日本国憲法の制度化する国家の統治構造(国会・内閣・裁判所)を解説する(その際、国会法、内閣法、裁判所法、国家行政組織法等にも言及する)。地方自治・地方分権に関する現在の我が国の動向について講義する。	
		ビジネス法務	企業などのビジネス組織は、法令などを遵守できる能力のあるビジネスワーカーを求めている。不祥事が発生し、刑事責任や損害賠償などの民事責任、社会からも厳しい批判を受ける事例が絶たない。生産者・消費者・取引先企業など、さまざまな利害関係をもつ人々の立場や利益を無視することは許されず、業務のリスクを察知し、法的にチェックし、問題点を解決に導くコンプライアンス能力が必要とされている。ビジネス活動の基礎となる法律知識と法的なものの考え方を身につけ、「ビジネス法務検定試験」チャレンジへの手がかりとする。	
		公共性と権力	現代政治の前提となっている主権国家とこれを基礎とする公共空間の編成はヨーロッパで形成された。本講義では歴史的・思想的観点からヨーロッパにおける主権、市民と公共性をはじめとする諸観念の形成を検討するとともに、あわせて今日転換期を迎えている主権国家と公共性のシステムの変容の行く末を展望する。	
		政治学 I	日々伝えられる政治ニュースは、断片的な経過であることが多く、熟考を経ないまま通りすぎてしまいがちである。政治への関心を開花させる第一歩は、多量の情報を読み取る力を身につけることである。そのためには、基礎知識を習得することが欠かせない。授業では、①権力・自由・平等・民主主義といった政治理論を取り上げた後に、②政治制度や政策決定過程といった政治の仕組みを概説し、③現代社会における時論的なテーマを設定して考察する。到達目標は、現実の政治状況を独力で観察できるようになることと、身近な問題が政治を通じて解決される見通しを自分なりに描けるようになること、この二点である。	隔年
		政治学 II (含国際政治学)	国際社会における出来事は、「遠い空の下の話」として、関心の外に置かれてしまうことが多い。しかし、現代に生きる我々の日常は、政治・経済・文化のあらゆる面において、国際的な動きと無関係ではいられなくなっている。同時に、戦後、飛躍的な経済成長を遂げた日本は、国際舞台で様々な貢献を迫られてもいる。授業では、国際政治の基礎概念・歴史・仕組みを幅広く学習し、冷戦後の世界状況を理解することが第一の目標となる。その際、日本の位置確認を意識的におこなうよう留意する。こうして、国際社会の動向を独力で分析し、自分の問題として考察できるようになることが、第二の目標である。	隔年
		国際関係論	この講義は、現代国際関係を成り立たせているものは何か、今まで現代国際関係はどのような変化を遂げて来たのかを、歴史的に解き明かし、受講者たちが国際関係というものの輪郭を捉えるための基礎的な知識を提供することで、国際社会で起る様々な出来事を受講者自らの手で把握する力を養うことを目的とする授業である。したがって、この講義は、17世紀以降、近代国際関係が成立するまでの歴史的背景を解説し、国際関係における様々な理論を考察することで、受講者の国際社会に関する理解を深めることを試みる。	隔年
		ポストコロニアリズム/ナショナリズム	この授業は国際関係論を受講した人を対象とする。この授業ではまず、「歴史」の生成過程を概観したうえで、「今日」を読み解く一つの材料として「歴史」を捉え、近代国民国家の成立と現在に至るまでの変容を具体的に考察する。近代市民革命の展開とともに、従来の身分制的支配関係が崩れ、商品交換関係を媒介とする自由で平等な近代市民社会をいち早く熟させた近代国民国家は、自国の経済規模に似合う市場を求めて徐々に膨張を開始した。この隊列に新たに参加しようとする新興工業国との間に二度にわたる大戦を経験した「大国」間のパワー・ポリティクスは現在変わったのか。自国だけでは自立した外交政策をとり得ない「小国」の視点から近・現代史を追っていく。	隔年
		グローバル化と地域	今、グローバル化は我々の生活に浸透しています。ゆえに、地域社会を考える際にも、グローバル化の流れに着目することが不可避となっています。グローバル化に収奪される地域(ローカル)ではない、ローカルがローカルとして生きていくことのできるグローバルな社会は可能なのでしょうか。本講義では、「Act Locally, Think Globally」という視点と、主体的に地域がグローバルにつながっていくという意味での「Think Locally, Act Globally」という視点の双方から地域のあり方について考えていきます。	隔年
		子どもと遊び I	乳幼児期の子どもの遊びと発達について、子どもとの実際的関わりを通じて子どもの理解を深めるとともに、子どもを取り巻く環境について調べ、調べたことをまとめ、発表する力を養う。また、保育者として必要な知識・態度を身につける。	
子どもと遊び II	手遊び、造形遊び、絵本の読み聞かせ、ペープサートの演じ方など、幼児教育者としての基礎的な保育技能を習得する。また、子どもの日々の活動において、教育のねらいがどのように計画され、達成されるかについて、検討する。			

社会科学知	子どもと遊びⅢ	子どもと遊び(例えば、自然の遊び、音楽遊び、造形遊び、伝承遊びなど)について取り上げ、子どもの遊び行動を促進させる環境設定を計画し、模擬保育を行う。模擬保育を観察・記録し、それをもとにグループで討論し、問題点を明らかにする。さらに、修正案を立て、実践を試みることで、子どもの発達に即した活動計画の立案ができるようにする。また、保育所保育指針について学習し、子どもの健やかな発達を促す保育のあり方について検討する。	
	保育原理	乳幼児期の子どもたちへの働きかけ＝保育のあり方について、その考え方、制度的展開について跡づけるとともに、今日のわが国の保育の実態と課題について明らかにする。また、これからのわが国の保育のあるべき方向性について考察する。	
	保育内容総論	本授業では、「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」に示された健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域について、その内容を解説するとともに、保育所において、取り上げられている養護的なものについても理解したい。幼稚園・保育所における教育、保育の内容を実践に則して個別にはなく総合的にとらえる視点を養いたい。	
自然科学知	数学入門	本講義では情報科学への応用を考慮しつつ最低限の数学の基礎知識の習得を目指す。内容：複素平面の基本、複素数と平面図形、数列と関数の極限～無限級数、数列と関数の極限～漸化式と数列の極限、数列と関数の極限～関数の基本、数列と関数の極限～関数の極限、行列と一次変換～ベクトルの復習、行列と一次変換～行列の基本、行列と一次変換～行列と一次変換、行列と一次変換～行列のn乗計算、確率分布～条件確率(1)、確率分布～条件確率(2)、確率分布など	
	生活の中の数学	実社会のでできごとを数理的に捉える。身の回りには、沢山の数学が潜んでいます。動きの中には解析学が、形の中には幾何学が、規則的なパターンには代数学が、…といった具合です。本授業では、それらの数学の一端を愉しみます。一見すると、数学とあまり関係ないようなことを話題に取り上げていきます。意外な話題から始まり、最後には数学の現実的な価値や有用性を感じ得るのが本授業の目的です。	
	物理学入門	物理学とは自然現象を科学的に探究する学問である。この科目では、物理現象を数式で表現するという科学的な物の見方を理解し、物理現象を法則から予測するために必要な知識を修得する。まず、基礎知識として物理量と単位、有効数字の概念を学ぶ。次に、物理での力の定義を始めとして、つりあいとモーメント、物体の運動(等速、等加速度運動、単振動)をどのように数式で表現するか理解する。さらに、物理での仕事の定義および力学的エネルギーの保存、温度と熱の関係、電気、波動という基礎的な物理現象について講義する。	
	情報科学入門	情報化社会における情報科学について、基礎から学習し情報化社会に生きる社会人としての常識を身に付けることを目的とする。「情報とはなにか」から「情報技術とはなにか」そして、「コンピュータの基礎」から「ネットワークの基礎」までを学習し、情報科社会で生きることについて学習する。	
	統計学入門	「数学入門」を履修済みであることが望ましい。特に数列の知識を必要とする。統計理論に基づくデータ解析は、農学・工学・理学等の理系の分野はもとより、心理学・経済学・社会学等の文科系の分野でも予測、評価、管理等の目的で広く利用されている。本講義はデータ解析の場面で利用される基本的な統計的手法・考え方について学習するための統計入門コースである。講義では、得られた標本データを解析・整理・要約するための記述統計学、その解析結果から母集団における状況を推測するための推測統計学について、その基礎的内容を具体例に基づいて解説する。	
	情報管理論(含情報処理)	情報社会において、理性的に自立した市民として良い情報発信者となることは必要である。本講義では、情報とはなにか、その概念、価値、深化についてまず明らかにし、情報の意味づけ(情報処理)について考える。さらに、会社、工場、家庭での情報処理システムについて解説する。情報処理の実践では品質という情報管理に用いられるABC分析を実際に行い、情報管理の必要性を理解する。その上で、ハード面の進歩、情報システムの変遷を通して複雑な目的で情報を管理する現代社会の姿について情報システムの立場から概観する。	
	家庭電気・機械	電子レンジ、薄型テレビ、IH調理機器など電化製品は次々と開発され、またガソリン車から電気自動車へと家庭で使われる機械は進化を始めている。この科目では、これらの電気機器や機械を適切に利用し、安全かつ能率的にその機能を発揮させるために必要な電磁気、エネルギー変換、材料、機械の知識を修得する。さらに、電力を利用する際のエネルギー消費について、日本の現状と将来への予測を通して環境負荷や省エネルギーに配慮した生活への意識を深める。また、学習指導案を作成し、技術・家庭及び家庭科の指導が行える力を養う。	講義8回×90分、7回×30分 実験5回×60分 実習2回×60分
	バイオサイエンス入門	近年になり、私たちの生活に密接に関わりを持つようになってきたバイオテクノロジーは、遺伝子の発見とその知識の応用から確立されてきた。「バイオテクノロジー入門」では、遺伝子の働きや個体発生メカニズムに焦点を当て、バイオテクノロジーの基礎となる知識を身に付ける。さらにこうした基礎知識を応用して行われるクローン技術や遺伝子組換え技術といった近年発展してきたバイオ技術にも目を向け、今後益々発展するバイオテクノロジーを理解するための基礎知識を身に付ける。	
	自然と環境	自然環境は、多種多様な生物により形作られ、その生物たちにより環境が維持されている。自然環境を理解するためには、個々の生物とともに、より大きな枠組である生態系の営みを理解する必要がある。「自然と環境」では、「1. 地球の歴史と生物の進化」、「2. 多様な生物とその分類」、「3. 生態系の特性」をテーマに、自然環境の成り立ちや自然環境の重要性を考え、自然環境の保護や環境保全に取り組むための基礎知識を身に付ける。	
	生物学入門	共通教養科目・自然科学分野として、生物学の理解を深めることを目的とする。そもそも、生体とはどのような機能を有しているのかを知るきっかけとする。そのため、人体の構造、機能にかかわる分野を重点的に理解することを目的とする。また、遺伝子操作作物などを含む食糧問題と環境に関する基礎知識の習得も図る。	
	健康科学(含栄養学概論)	『食』をめぐる情報が氾濫する現代社会において、『食』について様々な角度から分析し評価を行うことで、『食』を選ぶ力・選食力を養うとともに、望ましい食事のあり方を学ぶ。あわせて食品の安全性に関する問題や地球環境に配慮した『食』の重要性も学習する。	
	衛生と安全	社会における食への関心は年々高まっている。また、その一方で食を取り巻く環境は、食品の多様化、流通の国際化とともに大きな変化を絶えず続けている。本授業は食が備える要件のうちで最も大切な食の安全に関する知識を習得することを主な目的として行う。具体的には、関連する法規や行政および食の安全にかかわる微生物学的、または理化学的な各項目を扱い、加えて衛生とヒトの健康という側面からも学ぶ。	
Computer Science	Students will improve their understanding of computer science and technology by conducting research and writing reports. They will also become familiar with some of the research methods required to write academic papers. 受講学生は、リサーチを行い、レポートを書くことによって、コンピューター・サイエンスとテクノロジーの理解の向上を目指す。学生はまた、学術論文を書くために必要リサーチの方法を学ぶことができる。		

共通教養科目(C2)

共通教養科目 (C2)	自然科学知	Nature and Environment	The purpose of this course is for students to study the relationship between humans and nature. Especially, students will learn about the impact that humans have on our environment. These are important issues and students will need to look critically in order to understand the problems, and suggest solutions. 本講義の目的は、人間と自然の関係を考察することである。受講学生は特に、人間が環境に与える衝撃を精査する。これらは重要課題であり、学生は問題を理解し、解決策を提示するために洞察力を持って観察する必要がある。	
		Health Science	The purpose of this course is for students to study about relevant issues in modern health science, and to understand that health is very much a global issue of great concern. Students will learn the important skill of how to express their ideas in well-constructed essays. 本講義の目的は、現在の健康科学に関する問題を考察し、健康が、強い関心が寄せられている世界的な課題事項であるということを理解する。受講学生は、よくまとまったエッセイで自分の意見を表現できる重要な技術を習得する。	
		化学	化学物質はどのようにできているのか、どうして化学反応が起こるのか、物質にはどのような状態と性質があるのかなど、生活に関係する化学的な事象について理解し、無機化学、有機化学の知識を習得する。まず、私たちを取り巻く物質を構成している原子・分子についての理解を深め、化学結合、酸塩基反応などの化学反応、物質の状態について知識を習得する。さらに、生体を構成している有機化合物についての基礎的知識を習得したうえで、生活から切り離すことができない油脂、炭水化物、たんぱく質などについて、科学的な目で見える能力を培い、応用へと発展する力を養うことを目的とする。	
		科学と技術	自然科学の発展を歴史的にたどりながら、人類が対象としての自然をどのように認識してきたかをさぐる。特に現代科学・技術の源となる近代科学の特徴について、それを成立させた主要な理論、思想について基本的な知識を持つことが目指される。また、社会との関わりの中で科学・技術の営みを捉える視野を養うため、それぞれの時代の文化的背景や、科学活動に影響を与えた経済的、政治的要因なども適宜説明する。世界史および高校生程度の理系科目の理解があることが望ましいが、特に予備知識は問わない。	
		都市と環境	人々が集まり、建物が密集する都市。多くの問題を抱えながらも都市は存在する。本講義では、都市に特有の環境を、水や大気、物質、エネルギー、生物などの自然科学的な視点で描きつつ、都市と農村、過去と現在などの対比も行うことによって、周辺地域との関わりの中で存在する都市の特徴を明らかにする。地球環境問題が大きく取り上げられるようになってからは、環境負荷の少ない持続的な都市も模索されている。それらも紹介しながら現代の都市を環境の側面からとらえ直し、これからの都市はどうあるべきか、新しい都市像を描いていきたい。	
		生活空間デザイン論	生活する空間を設計する、とはどういうことなのか、そのことを建築家による生活空間設計の実践諸例を通してさまざまに考えていくこと、このことが本講義の目的です。本講義では、設計 (conceptの創案→designの諸相の展開) の「根拠」への問いがみなさんに生まれはじめることを目指すとともに、その「根拠」への問いが現代社会を問う問いであるということ、現代思想の根とつよく関係する問いであるということを知るようになることも目指します。	
		感性デザイン論Ⅰ (ポップカルチャー)	ひとは個々の感性によって、ファッション、インテリア、プロダクト・デザイン等、生活にかかわるデザインを制作・選択している。 この授業では、生活デザインを創造することや選択すること、ひとの感性との関係に着目し、特に日本の少女文化をたどるなかで、身近な生活デザインが、日本人女性の思考や生き方にどのように関わってきたのかを学ぶ。	隔年
		感性デザイン論Ⅱ (ファッション文化史)	現代社会において、過剰なまでに氾濫するモノを選択するうえで、デザインは大きな要素を占めている。現代だけでなくひとはつねに新しいデザインを求めてきた。インテリア、ファッション等においても、デザインはわたしたち消費者を刺激する強い力といえる。 この授業では私たちにとってのもっとも身近なファッションデザインをとりあげ、特に若者の日常生活から発生・流行した「ストリート・ファッション」に注目し、戦後のファッションの歴史と、彼らの価値観の変化、および若者を取り巻く環境の影響について考察する。	隔年
		生活とファッション	生活の中には様々な「ファッション」が渦巻いている。「ファッション」という言葉に包括される事象を細かく具体的に分類し、生活にどのような影響を与えているか、また、どういった目的で生活に利用しているか、されているかを理解する。特に、昨今マナーについての理解が希薄となっている若者層に「ファッション」という視点を通して、TPOに即した常識力を獲得させることを重視する。	隔年
		食品加工・商品学	食生活に占める加工食品の割合は年々増加し、加工食品なしに食生活を営むことは、現代では不可能に近い。資源の有効利用や新食品素材の開発と共に、効果的な保存法についても積極的に考える必要がある。この講義では食品の加工原理や加工工程、保存法とその原理、食品の包装、加工食品の規格や表示などについて、農産、水産食品、嗜好品などの例を解説し、さらにさまざまな食品の保存法を紹介、最後に加工食品の商品化とその問題点を検討する。	
言語知	調理学概論 (含厨房機器・設備)	調理に必要な基礎知識を食品の調理性と調理操作の面を中心に科学的な裏付けとともに学び、人体に対する栄養、安全面への影響や評価についても理解することを目標とする。また、嗜好を満たしつつ栄養素の適切な摂取が可能な食事を実現していくための食事計画の基礎を学び、心身ともに健康で望ましい食生活の設計が実践できることを目指す。また、調理には非加熱操作と加熱操作があるが、それらの調理操作を理解したのち、調理設備、調理機器や調理に用いるエネルギー源などについて解説する。		
	外国語 (初級英語Ⅰ)	The purpose of this course is for students to improve their English reading skills while gaining insight into aspects of society around the globe. Students will apply the knowledge gained from reading exercises to a variety of tasks using all four English skills. 本講義の目的は、世界の様々な社会の側面に対する洞察力を養い、英語の読解力の向上を目指すことである。受講学生は、英語の4技能全てを用いながら、読解演習から様々な課題をとおして得た知識の応用力を高める。		
	外国語 (初級英語Ⅱ)	The purpose of this course is for students to continue to improve their English reading skills while gaining further insight into aspects of society around the globe. Students will apply the knowledge gained from reading exercises to a variety of tasks using all four English skills. 本講義の目的は、世界の様々な社会の側面に対する深い洞察力を養い、英語の読解力のさらなる向上を目指す。受講学生は、英語の4技能全てを用いながら、読解演習から様々な課題をとおして得た知識の応用力を高める。		
	外国語 (初級独語Ⅰ)	ドイツ語の発音・基本的文法を学び、日常会話に必要な表現力、理解力 (読む、書く、聴く、話す) を養う。また、単に語学的な面だけではなくドイツ語圏諸国に関することながらビデオ、テープ等を使用して紹介してゆく。		
	外国語 (初級独語Ⅱ)	ドイツ語の発音・基本的文法を学び、日常会話に必要な表現力、理解力 (読む、書く、聴く、話す) を養う。また、単に語学的な面だけではなくドイツ語圏諸国に関することながらビデオ、テープ等を使用して紹介してゆく。		

共通教養科目 (C2)	言語知	外国語 (初級仏語Ⅰ)	①これまで学んできた英語という外国語に加え、フランス語を学習することで、英語圏以外の国の存在を感じ、世界の複数性を理解する。②フランス語4技能のもっとも初歩的な基礎を確実に学ぶことで、その後の興味に応じて、自分で学習できる力を身につける。③フランス語を学ぶことで、その根底にある文化・社会・芸術・歴史に親しみ、大学で学ぶさまざまな学問への関心の幅を広げると同時に、国際的な知識をより豊かなものにし、専門的研究のなかで上手に役立てる。
		外国語 (初級仏語Ⅱ)	①これまで学んできた英語という外国語に加え、フランス語を学習することで、英語圏以外の国の存在を感じ、世界の複数性を理解する。②フランス語4技能のもっとも初歩的な基礎を確実に学ぶことで、その後の興味に応じて、自分で学習できる力を身につける。③フランス語を学ぶことで、その根底にある文化・社会・芸術・歴史に親しみ、大学で学ぶさまざまな学問への関心の幅を広げると同時に、国際的な知識をより豊かなものにし、専門的研究のなかで上手に役立てる。
		外国語 (初級中国語Ⅰ)	中国語の発音、基礎的な語彙、文法、表現を学び、簡単なコミュニケーション能力を身につけるとともに、言語表現の背景にある中国の文化、社会、生活について理解する。特に実生活に使用できる基礎的な表現の習得に重点を置き、積立式に語彙、文法、表現力を習得できるように、各課においては、既習の内容を取り入れた応用的な会話練習を展開する。視聴覚教材の使用、役割練習などを通じて、会話の行われる場面を再現して、会話習得の効果を上げる。
		外国語 (初級中国語Ⅱ)	中国語の基本的文法と日常会話の初歩を学びながら、読解力表現力の基礎を養う。
		外国語 (初級韓国語Ⅰ)	この授業は初めて韓国語を学ぶ人のための入門クラスで、韓国語の基礎的コミュニケーション能力を獲得することをその目的とする。まず初級Ⅰでは、人工語である韓国語の創出起源を理解し、表音文字である各文字の発音と表記の熟達に努める。とくに、文字の発音に重点を置きながら、基本的な文法と語彙を用いて、簡単な日常会話を行う。主な内容は、動詞・形容詞・存在詞・指定詞(用言+述語)の区分と語尾の基本的な変化、すなわち、丁寧語・否定文・疑問文・助詞の使い方などである。必要に応じて映画・K-popといったメディアも活用し、学習した言語を早く使ってみる。
		外国語 (初級韓国語Ⅱ)	韓国語初級Ⅱでは、初級Ⅰで学んだ成果をもとに、基礎的な日常会話の能力を獲得する。また、日本語との対照言語学的な観点からの理論的な面白さを満喫する一方で、実際に使える実践的な表現能力の養成を目指す。初級Ⅱでは、とくに、基本的な文法と語彙をもとに、読み・書き・聞き・話す四機能をバランスよく伸ばしていく。主な内容は、初級Ⅰで学んだ用言の基本的な活用に加え、過去形、数詞、よく使う言い回しなどである。Ⅰと同様、必要に応じて映画・K-popといったメディアも活用する。
		外国語 (中級英語Ⅰ)	This course is designed to improve reading abilities. Students in this class will improve reading fluency as they tackle texts about a variety of topics, from the Internet to the environment. Students will increase their vocabulary and their familiarity with English idioms and phrasing. 本講義の目的は、読解力の向上である。受講学生は、インターネットや色々な題材から様々な主題を扱ったテキストに取り組みながら、正確な読解力を養う。学生は、英語の語彙を増やし、イディオムや語句を習得することができる。
		外国語 (中級英語Ⅱ)	This course is designed to further improve reading abilities. Students in this class will improve reading fluency through exposure to a variety of written texts, from essays about entertainment to longer works of fiction. 本講義は、さらなる読解力の向上を目指す。受講学生は、娯楽の読み物から中編、長編小説まで、様々なテキストを精読することで、確かな読解力を身につける。
		外国語 (中級中国語Ⅰ)	この授業は、初級を終えた者を対象とし、基本的な文法や単語、会話を復習しながら、次の学習段階へ上がるための基礎固めをする。この授業では、正しい発音が出来るように徹底した指導を行なうとともに、基礎文法を学びつつ読解力をつけ、更に、書く、聞く、話すなど、中国語の総合的な能力を高めていく。授業は、選定したテキストを使い、その内容に沿って進めていくが、毎回の内容を確実に身に付け、応用できるようにするために、様々なトレーニングを行なっていく。具体的には、毎回学習した文法や例文のパターンを使って、自分で文章を書いたり、それを口頭で発表したりする練習を行う。
		外国語 (中級中国語Ⅱ)	この授業は、前期よりレベルアップした語彙や文章、文法および表現などを学び、話す、読む、聞く、書くなどの中国語の総合能力をさらに伸ばしていく。授業では、語学だけではなく、その背景にある中国の文化や現代社会を理解し、より生きた中国語を学ぶために、テキストの内容を進めていくと同時に、読みやすい中国語の文章や時事記事を取り入れて、語彙のチェックや音読練習、ならびに要約および文章構成の理解などの練習も行なう。また、中国語の映画、ビデオなど視聴覚教材も使用し、中国語の聞く、読む能力を養成すると同時に、それらの内容を自分でまとめて口頭で発表するという話す能力も鍛えていく。
		外国語 (中級韓国語Ⅰ)	この授業は韓国語初級ⅠⅡの講義を履修した人のためのクラスで、韓国語を総合的に学ぶことをその目的とする。韓国語中級Ⅰでは、初級で学習した発音や基礎文法、語彙をさらに発展させながら、文法(尊敬語・略待上称形・連体形など)、会話などを中心に行う。とくに、単調な反復・暗記になりがちな学習方法を止揚して、いくつかのシチュエーションを想定し、そのシチュエーションに即した文法と語彙、さらに韓国社会の実情などを関連づけて考察していく。また、映画やK-popなどの資料を必要に応じて使うことで、韓国文化への理解をも深めていく。
		外国語 (中級韓国語Ⅱ)	この授業は韓国語中級Ⅰを履修した人、ないしはそれに準ずる言語能力を評価された人のためのクラスである。中級Ⅱでは、中級Ⅰまで学んだ基本的な用言の活用や言い回しに加え、さらなる語彙や慣用語で構成されたシチュエーション別会話を引き続き行う一方、韓国の新聞記事、コラム、漫画などの読解にも力を入れていく。こうして外国語としての韓国語、外国文化としての韓国文化に接することで、自国文化と自国語、そして自分の社会を見つめ直す機会にしたい。
		外国語 (初級日本語Ⅰ)	本授業では、大学生活をおくるために必要な日本語力を身につけ、大学の様々な場面において、日本語を使用してその場面の目的を達成できるようになることを目的とする。本授業では、特に「話す」技能をとりあげ、先生への依頼、許可願、事務での手続き、友人との約束など大学生活において経験すると予測される場面において、どのように日本語で話すのかを学ぶとともに、母語との違いについても考察し、異文化理解へとつなげることもめざす。また、「話す」練習だけでなく、「読む・聞く・書く」技能も必要に応じてとりあげる。
		外国語 (初級日本語Ⅱ)	本授業では、大学生活をおくるために必要な日本語力を身につけ、大学の様々な場面において、日本語を使用してその場面の目的を達成できるようになることを目的とする。本授業では、特に「書く」技能をとりあげ、レポート、論文、先生や友人へのメール、事務での手続きなど大学生活において経験すると予測される場面において、どのように日本語を使用するのかを学ぶとともに、母語との違いについても考察し、異文化理解へとつなげることもめざす。また、「書く」練習だけでなく、「話す・聞く・書く」技能も必要に応じてとりあげる。
		外国語 (中級日本語Ⅰ)	本授業では、初級日本語ⅠおよびⅡの理解力を確認しながら、大学生活において必要な日本語力の向上をめざす。
		外国語 (中級日本語Ⅱ)	本授業では、中級日本語Ⅰの理解力を確認しながら、レポートや論文の書き方、論の展開の仕方などを取り上げながら、実践的能力の向上をめざす。

共通教養科目 (C2)	スポーツ科学知	スポーツ科学Ⅰ	スポーツ科学Ⅰでは、スポーツを歴史的、社会的、生理的、心理的な視点から理論的に学習する。その内容として、高校までの学習内容を発展させながら、人間の身体と健康について学ぶ。また、部活やサークルでスポーツを行なう学生が少なくないことから、特にスポーツが心身にもたらす影響と効果的なトレーニングについて学習し、安全にスポーツを行なう方法について学ぶ。さらに、発達段階に応じた身体活動について必要な知識理解を深めていくことで、適切な判断と行動を身につけ、生涯を通じてスポーツによりよく親しめるようになる。
		スポーツ科学Ⅱ	スポーツ科学Ⅱでは、スポーツ科学Ⅰで学んだ理論を生かし、実践を通して生涯に渡り自立的な運動者となることを目指す。その内容として、バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ニュースポーツ等、各種目のルールや技術獲得の方法を理解し、工夫された練習を通して技術を獲得する。また、技術獲得の過程で、仲間と協力して教えあいや作戦を立てることによりスポーツの楽しさや爽快感を経験する。さらに、自分の体力を知り、体力を高める生活を心がける。
		スポーツ科学Ⅲ (課外活動等)	スポーツ科学Ⅲでは、豊かな自然環境のなかで、自然を活用しながら、身体や五感を使って体験的に活動することを目的とする。内容として、適切な事前計画を自ら立案し、キャンプ、ハイキング、サイクリング、オリエンテーリングなどの各種の活動を集団で行う。正課外の活動には危険が伴いがちであるため、自然の中で安全に活動するための知識を学ぶと共に、集団の中で責任ある行動を身につける。このような一連の活動を通して、豊かな情操と健全な心身の育成を図ることを目指す。
		スポーツ科学Ⅳ (スキー・スケート等)	スポーツ科学Ⅳでは、ウィンタースポーツの代表格であるスキー・スケート等について、心構えや身のこなしなどのトレーニングを実施する。またウィンタースポーツの初歩から上達のために本格的にスキーにチャレンジしたい人まで個人のレベルに対応しながら、安全で合理的な実践能力を育てる。さらに、ウィンタースポーツの醍醐味を味わうと共に、お互いが協力し合っけて集団生活の楽しさを体験しながら生涯スポーツとして楽しめるようになることを目指す。
		スポーツ科学Ⅴ (水泳等)	スポーツ科学Ⅴでは、水遊び、深く・泳ぐ運動の運動特性および水泳の技術的特性について学習し、水中レクリエーションを通して水中での身体をコントロールする感覚を身につける。それらの実践を通して個々の技能の向上を図りながら、水中における各種運動や4泳法の基礎的な泳ぎ方を学習する。授業ではレベル別に小グループに分け、それぞれのレベルに合わせて各自の泳ぐ能力の向上を目指す。また、水泳の心得や救助法・救急法についても学習し、水泳が生涯楽しめるスポーツとなる機会を提供する。
		スポーツ科学Ⅵ (フィットネス)	スポーツ科学Ⅵでは、身体的、精神的かつ社会的にも総合的に良好な状態であるために必要とされる科学的知識を理解する。また、自分の身体や生活について考え見つけ直す機会とし、生活習慣の改善、健康への配慮を喚起すると共に、正しい運動方法・理論並びに安全管理を学び、今後の活動に役立たせるようにすることを目指す。さらに、運動不足の原因と解消方法について考え、生涯を通じて楽しくスポーツに関わり活動水準を高めるための、対象に応じた応用的なトレーニング方法を学ぶ。
専門科目 (C3)	幼児教育	教育社会学	教育には、家庭教育、学校教育、社会教育など、様々なタイプの教育がある。特に近年は生涯学習の必要性が叫ばれ、誕生から死に至るまで人間は何らかの形で教育を行い、また教育を受け続けている。21世紀を迎えた現在、社会は予想もつかないスピードで動いており、教育も運動して変化せざるを得ない。まさに教育観そのものが問われ始めているのが、「今」なのである。この講義では、そうした揺れ動く社会の中で教育がどのように変わろうとしているのか、社会学的観点から鋭く検証してみたい。
		初等国語科教育法	21世紀を生きるたくましい人材育成のために、小学校教育における国語科の担う役割の理解と、その実践的指導技術の習得を目指す。未来の小学校教師として学びながら、時には小学生にもどって授業を楽しみ、理論と技能の両面を身に付けてください。
		初等社会科教育法	この授業はよりよい社会科授業の開発に必要な基礎的知識・態度・能力を培うことを目標とし、社会科の授業を設計・実践・改善していく能力の基礎を培う。
		初等算数科教育法	小学校「算数科」の授業づくりについて理解を深め、算数科学習指導案作成や算数科授業分析及び模擬授業などを通して、算数科の実践的な授業づくりを学ぶ。
		初等理科教育法	小学校における理科教育の目的・内容・方法・評価・授業構成などについて理論と実践の両面から概説し、小学校理科の授業を構成し実践していくための基礎的知識や能力などを育成する。
		初等生活科教育法	小学校における生活科教育の目標・内容・方法について解説するとともに授業構成や学習指導の理論と実践について考察し、生活科の教育実践に必要な基礎的資質を育成する。
		初等音楽科教育法	小学校音楽科教育の目標および内容を理解し、それに必要となる基礎的な知識、また音楽科の授業を展開する上で必要となる音楽理論、技能を身につけることを目的とする。
		初等家庭科教育法	小学校の家庭科指導にあたって必要な基礎的事項について理論と実践を融合させながら解説する事を通して、家庭科の授業を構成し、実践する能力を育てる。
		初等図画工作科教育法	小学校における図画工作科の目標、学習内容、指導法、さらには図画工作科教育の歴史の変遷、造形表現の発達段階における変化・発達、学習指導の原理と指導案の作成、評価方法など授業の構成などを知ることにより初等図画工作科教育法に関する基礎的理解と教育実践力を身に付けさせることを目的とする。
		初等体育科教育法	小学校における体育科教育に関わった制度や運動領域、教育課程、指導案、評価などについての専門知識と実践力を身につける。
		初等英語科教育法	小学校における英語教育の目標、学習内容、指導法について、理解し、小学校「英語科」の学習指導案作成、授業分析、模擬授業を通して、実践的な授業づくりを習得する。
		音楽Ⅱ	音楽Ⅰで培った子どもの音楽表現活動に関わる基礎的な知識、技能を発展させ、応用できる力を身につけることを目的とする。また、合唱、連弾、器楽合奏、グループによる音楽創作活動など、さまざまな演奏形態を体験し、他者と音楽活動する喜びを味わうとともに、アンサンブル能力を養う。
		保育内容演習 (環境)	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の内容に即して、幼児の発達における環境の意義や役割について学ぶ。幼児が周囲の様々な環境にかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うために、自分なりに考えることを大切に保育のあり方について学ぶ。
		保育内容演習 (人間関係)	子どもは、身近にいる人を慕い、愛し、信頼してこそ未知の世界に出かけていくことができる。そこで子どもは、環境にかかわりながらいろいろな力を試し、生きる力を身につけていく。また、信頼を寄せる人を手本として人間らしい振舞いや思い、考え方を身につけることができる。本講は、子どもと深く関わる大人(親や教師)として、子どもと関わる時に心得ておかなければならないことについて学ぶことを目的とする。
		保育内容演習 (健康)	乳幼児期の発達における健康の意義や、乳幼児が健やかな心と体を培っていきけるような豊かな経験を積み重ねていくためには、保育者が園内外の環境をどう構成し、どのような役割を果たしていけばよいのかについて理解することを目的とする。
		保育内容演習 (言葉)	言葉は、身近な人とのかかわりの中で獲得されるものである。言葉によって自分の「主体性」を表現し、言葉によって相手の「主体性」を受け止める関係が成立していくと考えられる。「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」に掲げられている領域「言葉」のねらいや内容などを理解した上で、言葉の発達やそれにかかわるさまざまな要因を学び、特に保育者としてどのようにかかわっていくかを議論する。また、幼児教育の中で行われている絵本読みやペープサートなどを実際に体験しながら、保育場面において言葉がもっている多様な意味と魅力を実践的に理解していく。

専門科目（C3）	幼児教育	図画工作Ⅱ	子どもの造形表現に関する基礎から展開的な知識や技能を身につけ、それらに関する様々な活動を通して、造形表現における表現の楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを言語表現などへと展開するために必要な図画工作の応用的な知識や技能を習得させることを目標とする。
		体育Ⅱ	小学校体育における領域の位置づけ、目標設定や教材化について、実践を通して学習し、理解を深めることを目的とする。特に、小学校中学年・高学年の領域を対象とし、実技を通して基本的技能を身につけるとともに、指導法や安全指導等について学習する。
		保育内容演習（表現Ⅰ）	子どもの発達を「表現」の観点から捉え、子どもの豊かな感性や表現力、創造性を受容し、援助するために必要な知識、技能を習得することを目的とする。表現Ⅰでは、主に音・音楽を媒体とした子どもの表現について、保育現場の観察、実習を含め、実践的な学習をしていく。
		保育内容演習（表現Ⅱ）	子どもの豊かな感性や心を、幼児の手と頭を通して育てる造形活動を指導していくために必要な造形教育の指導目標と指導方法を理解し、子どもの造形能力の変化や発達について深めさせる。表現Ⅱでは、美術館の作品鑑賞や実習現場での子どもたちとのコミュニケーションに則した実際の具体的な題材作りを通して実技能力を高めさせていくことを目的とする。
		保育内容演習（表現Ⅲ）	子どもの豊かな感性や表現は育むためには、保育者自身が豊かな感性、表現力を持っていないといけない。表現Ⅲの授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針における「表現」の意味を理解した上で、学習者自身の豊かな感性、表現を向上させるためのスキルを、リズムを基礎とした方法により習得することを目的とする。
		社会的養護	さまざまな理由で家族とともに、家庭生活を送れない子どもたちがいる。適切な支援の提供には、一人ひとりの子どもたちが何を必要としているのか、何を解決していけば（課題）その子どもがよりよき状態に落ち着けるのかを素早く見抜くことが必要とされる。本講義では養護の原理、原則とともに、養護実践のために必要とされる知識、技術、諸機関との連携の在り方について学ぶ。
		社会福祉	社会福祉とは、人と人とのふれあいの中で誰もが、安心して暮らせる社会を目指し、『ゆりかごから墓場まで』といわれるように新生児から、高齢者に至るまでのすべての人々の望ましい暮らしを支援するための具体的なサービスである。社会福祉の理論として、価値、哲学、援助観、人間観などの福祉思想と、福祉問題、援助資源、援助技術を社会福祉の概念と理念、社会福祉の対象と主体、現代社会の特徴と社会福祉ニーズ等のさまざまな角度から学習していく。
		相談援助	保育実践は子どもとその保護者を対象とした、一人ひとりのWell-Beingを追求する社会福祉実践の一領域である。本講では、保育者として必要とされる社会福祉援助技術の理論と具体的な実践方法を演習を通して学ぶ。また、対人援助専門職の倫理（人権尊重、守秘義務、自己決定と自立支援等）についても、事例やロールプレイを通じながら学んでいく。
		児童家庭福祉	講義の目的は、諸君が将来、保育士として、地域で仕事を進めていく上で、児童福祉についての学びと理解、また援助の技術が、なぜ不可欠となるのかを学び取ってもらうことにある。特に児童にかかわる援助は、さまざまなサービス提供機関の連携によってなされるだけに、児童福祉の体系、関連専門機関の種別と機能、活用できる社会資源についての知識と理解が援助を構成する基礎にならなければならない。保育実践は児童福祉実践の重要な部分を担っているという自覚のもとに、本講義での学びを進めてほしい。
		子どもの食と栄養	小児期の栄養と食生活は、生涯にわたる健康と生活の基礎となる。小児栄養では、小児期から成人にいたるまでの食生活の意義について理解することを目的とする。また、保育者として、小児に適切な食事を提供することができ、食生活が心の健康や生活全般と密接な関係をもつことについて理解する。実習では、衛生管理に留意し、離乳期から幼児期までの食事形態について学習する。
		保育相談支援	保育相談支援の意義と原則について理解し、保護者支援の基本を習得する。保育所や児童養護施設などにおける保護者支援の実践を学び、適切な支援のあり方について検討を加える。
		教育原理Ⅱ	教育は、その行われる場により家庭教育、学校教育、社会教育に大別される。ここでは、学校教育、時に初等教育に焦点をあて、その教育目的、内容、方法、評価といった視角から教育活動の基本的諸原則について考察することにより、教育活動の今日的課題についてともに考えて行きたい。
		家庭支援論	多くの事例を通して、子どもたちの周りで起きている色々な家庭の課題を認識する。それと共に、その課題に対してどのような視点、援助技術を用いて対応していくのかを理解し、実際の現場に積極的に関わっていこうという思いを育む。
		社会的養護内容	社会的養護内容は演習形式で進められる。本講の目的は、居住型の児童福祉施設を利用している児童など、各施設や機関を利用する利用者の立場に立って、またプログラムの作成と実施展開を体験し、児童の生活がどのように進んでいき、援助がその中でどのように提供されるのかを学ぶ。さらに児童の保育支援に必要な知識や技術を習得する。
		国語	小学校の国語は、生徒が国語力を総合的に身につけることができるようになるための授業が展開されているが、この授業では文学的文章の鑑賞能力を養うことを目的とする。教員としての素養や、副教材として活用できることを視野に入れて作品を選ぶ。小学校教員となるのであるから、学生自らが教材研究する授業とする。
		算数	小学校「算数科」の歴史や小学校学習指導要領の変遷の概要、小学校学習指導要領に基づいた指導目標・内容・方法・評価等について理解し、算数科授業（DVD）を参観したり、学習指導案を検討したりすることを通して、算数指導の実践的な基礎力を養う。
		理科	初等理科で扱う内容に関連する基礎的内容・基本知識を、講義・実習・実験を通して理解することを目的とする。
		社会	小学校「社会」の目標、各学年の目標及び内容について理解を深める。また、地理的分野では「地域」を中心的に取り上げ、歴史的分野では人物学習についての学習の在り方を学ぶ。
		生活	小学校「生活」の目標、各学年の目標及び内容について理解を深める。
		家庭	家庭において私たちが営んでいる「食べる」「着る」「住む」等の行為は、人間が成長するために必要不可欠なことである。よりよい家庭生活を過ごすためには、衣・食・住を通して、生活を工夫し、また家族構成員の1人として自覚し、様々な問題を解決する能力が必要とされる。小学校では、「家庭」を学習することで、児童がこれらの能力を養うことが求められる。この授業では、衣生活、食生活、住生活などに関する実践的・体験的な内容を通して、小学校で家庭科を指導する際の基礎的な知識と技能を習得する。
初等英語	小学校「英語科」の指導目標、学習内容について、理解を深める。英語科授業（DVD）を参観したり、学習指導案を検討する。		
幼児教育相談	1. 乳児期から幼児期、学童期へと発達していく子どもについての理解と保育者となる自分自身についての理解を、私たちが生きている時代や環境と関連させて、実践事例や文学作品などを通して深める。2. いじめや登壇拒否、言葉のつまずき、虐待、母子分離不安、在日外国人の子どもたちの保育の実践事例を通して、「わたし」という存在を創り出し・創り変える過程とカウンセリングマインドについて学ぶ。3. 他者の気持ちを想像する力を培う。		

専門科目 (C3)	幼児教育	子どもの保健 I	健康な子供が成長・発達していく過程について学び、子供たちの健康を守り高めるための様々な制度や取り組みを知ることで、保育者が担う社会的役割に関する認識と理解を深める。また、小児科領域の疾患に関する講義を通じて、保育の現場では様々な疾患を抱えた子供たちと家族にも向き合うようになることを理解し、積極的に関わっていく心構えを養う。	
		子どもの保健 II	子どもの成長発達に応じた養護及び主な症状や病気などへの対応や起こりうる事故の予防、処置について実践できる知識技術態度を身につける。	
		比較子育て文化論	今日、わが国における家族像・形態等の変化により、「子育て」をめぐる議論が盛んに行われている。本講義では、江戸時代及び明治以降のわが国における子育て文化の変容を見るとともに、今日のわが国と欧米社会における子育て観、子育てのあり方、仕組み(制度)を比較し、これからの「子育て」の課題をともに考えてみたい。	
		教育と共生	ひとは一人では生きて行けない。私たちは対立・争い・排除・孤独・とじこもり等、様々なストレスを感じる日常生活に生きている。それらの緊張関係の中にあっても、できることなら少しでも心地よい共生社会のなかで過ごしたいと願うもの。共生は自己・他者という人間関係だけでなく、環境・食物・文化・教育・南北問題・貧困等々の多様な社会システム等と深く関係している。「教育」というフィルターを通して「共生」とは何か・どうあるべきかを様々な角度から繰り返し学ぶ。その一連の学習の中で自分なりの「共生」にたどり着ける事をめざす。	
		子育て創造設計	今日ほど「子どもの問題」が問われている時代はかつてない。少子化や家族や地域社会の変容、科学技術の進歩がもたらした情報化や日常生活の過剰な利便化は、子どもの健やかな発達を阻害し、子育てに悩む親を生み出すと考えられている。子どもと関わる親、保育者、教師、地域社会の人々には、こうした現代の子どもの問題にも向き合い、その本質を捉えて、子どもたちの心と体の成長や発達を支援することが求められている。これからのわが国の社会の中で「子育て」やそれへの支援はどうあるべきかについて、保育所等における「子育て支援」の実践例の提示をとおして考える。	
		幼児と環境	乳幼児教育に必要な重要な意味を持つ環境教育の理論と実践を学ぶ。	
		児童文化	子どもを取り巻く環境を考え、子どもの生活をより豊かにして、本来持っている感性や心を育てていくことができる活動は何か?各自の幼児期にふれた玩具・絵本や音楽・遊びを振り返りながら児童文化観を考えていく。また、色々な「児童文化財」を通し、子どもの文化に関わる興味・関心を広げ、児童文化の認識を高めさせることを目的とする。	
		保育・教職実践演習(小学校・幼稚園)	人類に共通する課題や我が国社会全体のかかわる課題を分析・検討・発表を通して、それらの課題と向き合う。現代日本社会における子育ての実態をとらえ、保育・教育の課題について考える。近年、わが国における子どもめぐる環境の変化には着しいものがある。いわく、核家族化現象、少子化、子育て支援の必要性等々。これらの課題について、ともに考えていきたい。本演習では、特に受講生の現代社会における保育の諸問題を明確にし、それらの問題について調べ、理解できたことを発表し、議論することにより上記の問題について意識を深めていきたい。	
		乳児保育	人間形成の基礎を培う乳幼児期の保育に携わる保育士として、乳児期の基礎知識・保育技術を学び、乳児保育を担当する保育者としての役割を知る。月齢差、個人差の大きい乳児期に大切にしたい育ちを学び、ぬくもりのある保育観・子ども観をもつ大人の役割を理解する。集団の中で育つ子どもの姿の実際を洞察・傾聴し、人との関係が大切な乳児期の育ちへの視点を理解する。そのうえで、乳児一人一人の「個」を大切にしたい保育の方法を探る。	
		障害児保育	障害児保育とは何かを学び、通常児保育との統合の中で、障害のある子どもの保育における支援のあり方を、具体的な保育実践例を学ぶ中で深く理解し、保育現場に出た折に配慮すべきことを具体的に学ぶ。併せて、障害のある子どもをもつ保護者支援の観点についても学ぶ。	
		カウンセリング概論 I	カウンセリングの本質は、「受容」にある。カウンセリングは、自分も人も受け入れ・大切に、自分に対しても素直になり、聞き上手になって、人のいいたいことや気持ちを受け止め、理解しようとするをめざしている。この授業では、さまざまな相談事例や、教育実践例を使いながら、カウンセリングについての基本的理解を持ち、「傾聴・受容力」や「あたたかい集団を育てる力」(そのために必要な「自己開示力」や「発表力」)など、日常の対人関係に役立つ力を伸ばすことをめざす。	
		保育の心理学 I	1. 保育実践と子どもの発達に関する心理学の基礎的知識を学ぶ。2. 子どもが人と相互のかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。3. 生涯発達の観点から発達過程について理解し、保育との関連を考える。4. 乳幼児期の発達過程と発達課題について、『幼稚園教育要領』及び『保育所保育指針』の理解を深める。5. 障害のある幼児・児童の発達と学びについて理解を深める。	
		保育の心理学 II	1. 乳幼児のコミュニケーションと自我の発達について学ぶ。2. 発達心理学の研究手法について学ぶ。	
		心理学	学校教育においては子どもの内面を深く理解し、一人ひとりの子どもが必要としている適切な支援を行うことが大切である。そのためには心理学の基礎を身につけ、心理学的な人間のとなえ方、支援のあり方について学ぶことが有意義である。本講義では、これまで心理学において研究されてきた発達・学習・人間関係・評価についての成果をふまえて、幼児・児童の教育にどのように生かしていくかを考える。また、教育的な支援を必要とする子どもへの理解を深め、その支援のあり方についても考えることにする。	
心理学実験演習	心理学の研究で用いられてきた実験的方法を中心に6テーマを選び、実験の準備、実施、分析、考察を行いレポートを作成する。これらの演習を通じて、心理学実験の方法、実験実施上の留意点、論文作成の手順などについて理解し、実践的な知識と技能を身につけることを目的とする。			
心理学研究法	この講義では、心理学における研究法の歴史の変遷を概観し、現在の研究で主として用いられる実験・調査の理論および実際について概説する。実験研究法では、実験の定義、実験計画法の種類と意義、要因計画の考え方、被験者の配分方法、カウンターバランスについて解説し、研究目的にあった実験計画のたて方について理解を深める。また、調査研究法では、調査の意義と目的、調査票の作成方法、標本抽出法、統計的分析の考え方について解説する。			
心理データ解析法	心理学研究では、実験・調査によってデータを収集し、それらを分析することで人間の心のメカニズム、心理・社会的意識などの解明が行われている。データは統計的に解析することによって、一般的な結論を導くことができる。したがって、心理学の論文を作成するためには、統計的方法を熟知し、正しく適用できる力が求められているのである。これから心理学の研究を進めていく上で必要とされるデータ解析法の基礎を理解するとともに、コンピュータを用いた実践的な処理方法について習得することを目的とする。			
臨床心理学	臨床心理学の基礎的知識を習得することを目的とする。フロイト、ユングを中心に、いくつかの代表的なパーソナリティ理論について概観し、臨床心理学的な人間理解の方法を学習する。また、児童期・青年期を中心に、パーソナリティの発達と病理について学び、臨床心理学や精神医学領域における、精神病理に対する理解と対応について検討する。			
心理検査法 I	各種の心理検査の理論と施行法、結果の整理と分析・解釈の仕方について学習する。心理検査として、知能検査、描画法検査、質問紙法検査、作業検査を取り上げ、学生が相互に被験者と検査者を体験し、実際のデータをもとに、結果の整理、分析・解釈を試みる。			

専門科目 (C3)	学習心理学	学習に関する基礎的知識を習得し、学習に関わる様々な問題を理解することができるようになることを、本講義の目標とする。そのため特に学校における学習指導を効果的に行うための基本となる事項については、具体的事例をあげ、体験的実習や演習もまじえながら授業を進めていく。そして、通常の児童生徒の学習に関する知識ばかりでなく、認知の障害も含め、障害のある児童生徒の学習に関する知識に基づき、こどもの学習面でのさまざまな問題を理解し、解決するための援助ができる実践的指導力の育成をはかる。	
	カウンセリング概論Ⅱ	カウンセリングの対象となる心理的障害や問題を概観し、人間の心理的現象と心のメカニズムについて理解を深めるとともに、家庭、学校、地域において、メンタルヘルスのためにどのような心理学的援助が適切であるかを検討することを目標とする。	
	心理学史	心理学の歴史は比較的浅いが、近代心理学が成立する以前には哲学において長らく人間の心が研究されてきた。本講義では、ギリシャ哲学に始まる心理学の源流をたずねながら心理学の成立過程をたどり、科学的心理学が確立され発展していく中で模索された研究パラダイムの諸相、および理論上の立場の変遷について考えていく。また、心理学の発展に寄与した人物像をたどりながら、人間研究の本質とは何かを考えていくことにする。	
	人格形成論	生涯発達の見点から、現代日本の社会・文化のなかで人々がどのように生きるかたちをつくりだしているのかについて理解する。	
	心理学特殊実験演習	心理学の研究で用いられてきた実験的方法による研究テーマを設けて、実験の準備、実施、分析、考察を行いレポートを作成する。この演習を通じて、心理学実験の方法、実験実施上の留意点、論文作成の手順などについて理解し、実践的な知識と技能を身につけることを目的とする。	
	認知心理学	認知心理学では、人間の心の仕組みと働きを解明すべく多方面からの研究が進められている。この講義では、これまでに認知心理学で明らかにされた研究成果を紹介しながら、人間の心のメカニズムについて考察するとともに、認知心理学の研究手法について理解を深める。内容は主として、知覚、学習、記憶、思考・言語、脳と行動をテーマとして取りあげ、私たちが自分を取り巻く環境をどのように認知し、どのように判断し、行動するのかという認知のメカニズムについて考える。また、以上の講義内容を通じて現代の心理学における人間観に触れながら、今後の展望について考える。	
	臨床心理学演習	いくつかの代表的な心理療法について、その理論的背景を概観し、基本的な技法を習得する。応答訓練やロール・プレイを体験しながら、心理学的アセスメントや初回面接のあり方、ケース理解の仕方、心理療法の過程で出会う様々な問題についても検討する。	
	心理検査法Ⅱ	各種の心理検査の理論と施行法、結果の整理と分析・解釈の仕方について学習する。心理検査として、ロールシャッパ・テスト、TATを取り上げ、学生が相互に被験者と検査者を体験し、実際のデータをもとに、結果の整理、分析・解釈を試みる。	
	生理心理学	知覚、注意、記憶、言語、感情などの心の働きを支える生理学的仕組みを、特に中枢神経系の役割を中心に説明する。また、それらの知識がどのような方法で獲得されてきたのかについても解説する。	
	社会心理学	社会的動物と言われるわれわれ人間は、知らず知らずのうちにまわりの他者の影響を受け、また同時に他者に影響を与えてもいる。に他者に影響を与えてもいる。この授業では、①自分という存在、②他者に対する認知・態度、③社会行動を、他者からの影響・他者への影響という観点から見つめ直す。このことによって、自分自身の思考や行動に対する理解を深めるだけでなく、他者の思考や行動を理解・予測できるようになることを目的とする。	
	産業心理学	産業社会の高度化・複雑化、生活様式の多様化等により、私たちの生活は大きく変化し、産業心理学で扱う研究領域も、多面的な広がりをもっている。この授業では、産業心理学の発展の歴史を理解し、続いて、個人と作業・職務との関わり、マン・マシン・インターフェイス、職場環境の快適性、事故の背景と対策、情報化社会における産業、消費者行動の問題について概説する。	
	発達心理学	1. 日常生活における子どもたちの姿をもとに、遊びのなかで泣いたり、笑ったり、怒ったり、悲しんだり、驚いたり、怖がったりする多様な基本的感情の耕し体験とその発達の意味について考える。2. 遊びの保育実践記録から、遊び心、つまり遊びのおもしろさを膨らませる保育の方法・内容について考える。	
	人間関係論Ⅰ (含家族関係学)	前半で人間関係を社会心理学的観点から解説し、後半で人間関係の1つである家族に焦点をあて講述することで、人間関係に働く心理構造や家族内の人間関係の特徴などを理解させる。	
	人間関係論Ⅱ	人間関係を、心理学的観点から検討する。人間関係に影響を与えるもの、生涯発達における人間関係の特徴、人間関係の始まりと展開、職場や社会における人間関係などについて説明し、自分を含めた人と社会との関わりについて考える。	
	セミナー	卒業研究プレセミナーⅠ	卒業研究に向けて、学生自身が興味・関心のあるテーマを選択し、そのテーマに関する先行研究について文献を調査し、概観を行う。
卒業研究プレセミナーⅡ		卒業研究に向けて、学生自身が興味・関心のあるテーマを選択し、そのテーマに関する先行研究について文献を調査し、概観を行う。さらに、先行研究における問題点を取り出し、卒業研究の目的を決定する。	
卒業研究セミナーⅠ		学生各自が決定した題目にしたがって、卒業研究を行う。研究の目的を明確化し、研究方法を検討する。さらに、計画に従い、実験・調査を実施し、得られた結果を分析し、考察を行う。研究の問題、目的、方法、結果、考察について、論文執筆する。	
卒業研究セミナーⅡ		学生各自が決定した題目にしたがって、卒業研究を行う。研究の目的を明確化し、研究方法を検討する。さらに、計画に従い、実験・調査を実施し、得られた結果を分析し、考察を行う。研究の問題、目的、方法、結果、考察について、論文執筆する。論文の完成後に、論文の要約を作成し、口頭試問に備える。	
卒業論文		卒業研究プレセミナーⅠ・Ⅱ、卒業研究セミナーⅠ・Ⅱをまとめ、卒業論文を提出する。提出した卒業論文について、口頭試問を受ける。	
関連科目Ⅰ (C4)	司書・司書教諭	情報メディアの活用	図書館資料を構成する多様なメディアに関する理解を深め、情報メディアを活用するための実務的技術の育成を目指す。デジタルアーカイブという観点から、情報メディアの意義・種類・特質、メディアを扱う上で必要な著作権や情報倫理について学ぶ。またコンピュータやネットワークの基本的操作や情報メディアを管理・運用するための技術を学ぶ。学習メディアセンターとしての役割を認識し、図書館に関わるさまざまな情報提供と学習者の情報メディア活用を支援するための知識と技術を修得する。
		言語とコミュニケーション	本授業では、会話から受ける相手の印象について会話を実証的に分析し、会話・談話の分析の視点、分析力を養うことを目的とする。日常生活では、よく話す人、おとなしい人、うるさい人などと相手に対して主観的な評価を行うことがあるが、そのような評価が生じる背景には、実際の会話においてどのようなやりとりによるコミュニケーションが行われているのか、接触場面と内的(母語)場面におけるなど様々な会話例から探る。授業は、講義ならびに受講生とのディスカッションを中心に進める。
		図書館情報技術論	図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するためにコンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説し、必要に応じて演習を行う。まず、コンピュータを使いこなし、自ら情報を収集し、整理し、保存する能力を身に付ける。また、図書館とコンピュータとの関係について深く理解させ、司書の業務にコンピュータを有効に活用する能力を身に付けさせる。学習者の個々に能力に応じて指導し、コンピュータ活用能力の基礎力アップを目指したい。

司書・司書教諭	情報検索演習	レファレンス・ワーク演習と関連して、文献やデータの検索が自在に行えるようにする。演習問題を文献やweb-siteから検索して回答を導き出す能力をつける。検索のツール、例えば、蔵書検索として、NDL、Webcat、Worldcat、雑誌記事検索として、NDL、NIIなどを利用する方法を学ぶ、さらには、古典籍や漢籍、公文書、政府関係資料、法令関係資料、判例や特許関係の資料の検索ツールについて学ぶ。また、さまざまな情報検索問題を与え、それを解決させることにより、情報検索の技術の向上を図る。	
	情報サービス概論	図書館における情報サービスの意義とあり方について、特に近年の電子図書館化による多様な情報ニーズへの対応に主眼をおき、情報サービスの理論と情報検索の実際を解説する。まず、情報サービスの定義について明確にし、情報サービスの歴史と情報サービスの意義、サービス環境、館内インフォメーション、図書館利用者教育、情報リテラシー教育について述べる。また、情報サービスの情報源として、レファレンスコレクションの種類や電子メディアの種類と特徴、レファレンスコレクションの構築について理解させる。	
学芸員	世界遺産学	ユネスコの世界遺産条約が生まれた背景、世界遺産の概要を解説するとともに、アジア・ヨーロッパの事例を取り上げ、世界遺産と文明観・歴史観・地域文化・観光産業などとの関連について考察する。世界遺産条約と世界遺産の概要、日本の世界遺産と文化財保護を確認した後個別事例の検証に入り、厳島神社と原爆ドーム、奈良・紀伊の世界遺産、石見銀山、インドの世界遺産 - 自然と文化、イタリアの世界遺産、ヨーロッパと多国籍の世界遺産を検討する。	
	現代美術論	何故、現代美術という概念が生まれたのか、20世紀に焦点をあててみると理解できる。主に欧米で起きた様々な芸術活動を参考にして分析していくと、現在起こっている現代美術の意味が理解でき、美術を違う視点で観る事ができる。この授業ではまず「アートとは何」を検討した後、「インスタレーション」、「パフォーマンス」、「コンテンポラリーダンス」、「舞踏」「ビデオアート」「写真」について概観し、さらに「未来派」、「ロシア構成主義」、「ダ・スタイル」、「バウハウス」、「ダダ」、「シュルレアリスム」など近現代の芸術運動について検討する。	
	日本文化史Ⅰ	世界文化遺産に登録されている厳島神社を文化的な観点から捉えることで、地域の文化を理解する視点を身につけるのみならず、地域と自分との関わりを考えることのできる能力を培うものとする。また、厳島神社の神事・祭礼や文化財を通して、自らの感性の素晴らしさに気付くようにする。講義を主体とするが、参考資料としてビデオなどの映像資料をも視聴する。	
	日本文化史Ⅱ	中世から現代にいたる時期の幾つかの文化的事象を取り上げ、日本人である自分の発想や振舞い方の原点について考え分析できる能力を培うものとする。また、日本文化の優れたところや問題点を理解したうえで、外国人に correspond できる習性を身につけることとする。講義を主体とするけれども、参考資料としてビデオなどの映像資料をも視聴する。	
	文化プロデュース論	芸術文化は画家や俳優や演奏家など直接の創り手だけでつくられるものではない。作品を受けとめ楽しむ人々がいてはじめて社会の中で意味をもつ。つくる側と受ける側の間に立つ制作者＝プロデューサーの存在も欠かせない。この授業ではさまざまな文化イベントを企画実施してきた講師がプロデュースのあり方の実例を検証し、望ましい姿を提示することによって、今できる活動、いつかしてみたい仕事を受講者がイメージできるようにすることを目指している。	
	芸術史研究	芸術には、たとえば親子、師弟など人から人へと受け継がれるものもあるが、時代を超えて共鳴し、憧れを呼び、影響を受けるという伝わり方もある。ここでは、通史を離れ、日本美術における時代を超えた影響や私淑に焦点を当てる。たとえば、俵屋宗達・尾形光琳・酒井抱一と続く琳派の流れ、安田靉彦と良寛と万葉集、正倉院宝物と近世後期から近代の文化財意識などテーマを設け、その関係性を見てゆく。	
	アート・ワークショップ実習	一般の参加者や子どもたちを対象にしたアート・ワークショップは、地域交流イベントとしても数多く開催されている。出会いや交流を創造していくアートワークショップは、社会や人と深く関わる芸術表現といえる。この授業ではアート・ワークショップの特徴である共同制作やコミュニケーションといったポイントをふまえて実践的な学習を行う。企画書や進行計画書をつくって、企画提案に必要な基礎知識を学び、実際にワークショップを開催する。	
	アート・マネージメント実習	近年では、アートを一般の人びとに届けるためのマネージメントの重要性がますます大きくなっている。芸術活動にかかわる組織のマネージメントにおいては、芸術の存在意義の確認と、創造プロセスの本質の理解したうえで、芸術が生み出される環境を整え、作品として制作・表現されたものを、社会に紹介し、広い意味で還元していくという考え方が必要である。この実習ではそうした点の理解を徹底したうえで、実際に主として学内施設を利用して展覧会やコンサートを企画実施する。	
	社会教育演習Ⅰ	生涯学習と地域、ボランティアの関わりを中心として、専門的な理論および知見を踏まえた実践的な能力の開発を図る。特に、社会教育の対象者としての「学習者」という観点から、学習要求の把握と個別事業計画、学習プログラムの企画立案、事業実施、事業評価などの演習を実施する。	
社会教育主事	社会教育演習Ⅱ	「社会教育演習Ⅰ」の内容を受け、事業実施の準備と事業の現場実施研修、改善企画案の立案、新企画案についてのプレゼンテーションなどを行う。	
	環境教育概論	環境問題に対する取組みは、行政や企業だけの取組みのみでは十分ではなく、一人ひとりの知識や行動が必要不可欠である。「環境教育概論」では、行政や企業、NPOの行う市民参加型の環境教育に関する様々な事例を通して、環境問題に対する知識をどのように普及・啓蒙していくべきかを考える。また、自然学校やエコツーリズム等の環境教育活動を行う現場での実践的な事例を通して、エコツーリズムを有効に利用し、また企画するために知識を身に付ける。	
	社会教育課題研究Ⅰ	社会教育施設および他大学と連携しつつ、野外活動に必要な知識や技術について研修し、指導者としての実践力を身に付ける。	
	社会教育課題研究Ⅱ	「社会教育課題研究Ⅱ」を受けて、小学生もしくは青少年を対象とした企画事業を、立案、準備、実施、ふりかえりというプロセスで遂行する。	
	社会教育計画Ⅰ	社会教育計画の理論・方法について概説する。特に、社会教育の法的規定、ノンフォーマル・エデュケーション、自己教育、生涯学習、地域教育などのキーワードについて整理し、社会教育職員の役割と社会教育主事との関係について検討する。以上を踏まえて、具体的な社会教育計画の作成、学習プログラムの作成、社会教育施設の管理運営、などについて学ぶ。	
	社会教育計画Ⅱ	「社会教育計画Ⅱ」を受けて、社会計画に必要な調査活動、学習プログラム、学習相談、候補活動・公聴会の事例を紹介し、社会教育施設の管理運営について検討する。	
	生涯学習論Ⅱ	この授業では、以下の3点を目的に設定している。(1)生涯学習が提唱され、世界に普及をみた経緯と背景を理解する。(2)生涯学習社会を実現するための方策を、学校教育と社会教育の2側面から検討する。(3)21世紀を生き抜くための学び方を習得する。特に、生涯学習社会という観点から、その学びの内容、その具体的な方策について検討する。	

関連科目Ⅰ(C4)

関連科目Ⅱ（C5）	幼児教育	教職論	小学校をめぐる教育・組織・制度・環境などについて多角的な視点から学ぶことによって、小学校教育の一端を理解し、教師としての資質・能力に求められるものを追究する。	
		保育者論	近年、孤立した子育て、育児不安や虐待、いじめや不登校、格差社会への不安など家庭や学校は様々な問題を抱えている。一方、変化の激しい時代の中で、保育者・教育者に対しては地球や人類のあり方を自ら考え行動する能力、問題解決能力やコミュニケーション能力、実践的指導力などが求められている。本講義では保育者という職業を選択することについて、学生自らが熟考する機会を提供すること、および保育者養成に対する現代的課題を踏まえ、保育者としての使命感を育むことを目的とし、保育者という職業に必要な基本的事項について学習する。また、現代の保育現場や家庭が抱える諸問題を取り上げながら、保育者に求められる資質や役割について探求する。	
		教育課程論	教師の実践的力量的の中核となるカリキュラムの開発や教材の活用、教育の方法と技術、児童生徒理解と教育の評価に関する知識と技能について、教育的タクト形成の視点から学ぶことによって、教職能力の基盤を構成している教育課程論の知見を習得する。	
		道徳教育の研究	道徳教育の意義を理解し、実際の道徳授業（DVD）の参観などをもとに、道徳授業のあり方（内容、計画、実践）について学習し、実際に道徳の模擬授業を行い、授業分析を行う。	
		特別活動の研究	特別活動の意義を理解し、その内容、計画、実践の方法などについて学習した後、1人1人が模擬講話をすることを通して、児童・生徒への望ましい指導講話のあり方・話しなどを実践研究する。	
		初等教育方法の研究（情報機器及び教材の活用を含む）	学習指導要領では、主体的に学び、判断し、よりよく問題を解決する能力を育てることが求められている。そのために、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とそれらを活用する力を育てること、学習意欲の向上や学習習慣を身につけさせることなどが重要だとされている。この講義では、学習心理学や認知心理学を手がかりとして、学習指導要領に掲げられた目標を達成する手立てとなる教育方法や技術について考える。	
		生徒指導の研究（進路指導の理論及び方法を含む）	生徒指導は、児童・生徒の一人一人の個性の伸長や社会性を育てるうえできわめて重要な役割をもっていることを理解するとともに、積極的な生徒指導及び進路指導の観点から児童・生徒に対応する必要性について研究する。	
		初等教育実習Ⅰ	キリスト教系等の幼稚園において2週間の教育実習を行う。教育実習は、大学において学んだ教職、各専門科目の知識・技術を、実際の幼稚園現場において幼児たちに試みる良い機会である。その実践を通じて、幼稚園教諭としての自らの適性、教育実践の技術的な面等を学ぶことを目的とする。	
		初等教育実習Ⅱ	自らの出身幼稚園・小学校等において2週間の教育実習を行う。教育実習は、大学において学んだ教職、各専門科目の知識・技術を、実際の幼稚園・小学校現場において指導教諭からの指導を仰ぎつつ、幼児・児童たちと実際に係わる良い機会である。その実践を通じて、教師としての自らの適性、教育実践の技術的な面等を学ぶことができる。	
		初等教育実習Ⅲ	各自の出身小学校等において2週間の教育実習を行う。教育実習は、大学において学んだ教職、各専門科目の知識・技術を、実際の小学校現場において指導教諭からの指導を仰ぎつつ、児童たちと実際に係わる良い機会である。その実践を通じて、教師としての自らの適性、教育実践の技術的な面等を学ぶことができる。	
	初等教育実習Ⅳ	幼稚園教諭の免許を取得するためには学外での教育実習が義務づけられている。実習では、幼稚園の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼稚園教育の意義、及び幼稚園教諭の責任を認識することを目的とする。2年生の9月5日～17日の2週間の実習に関する事前、事後の学びをする。		
	教育相談	今日、学校教育の現場では、不登校やいじめなどさまざまな問題が見受けられ、校内・校外支援体制が検討されている。特に、特別支援教育や発達障害について、その理解と望ましい支援のあり方が要求されている。この授業は、小学校教員を目指す人を対象としており、クラス担任教員として、子どもやその保護者をどのように理解し、支援すればよいかを検討することを目的とする。		
	介護等体験Ⅰ	小・中学校の教諭の普通免許状を取得希望する場合、特別支援学校（2日間）及び社会福祉施設（5日間）において7日間以上の介護等体験を行う必要がある。介護等体験は、様々な人と出会い、一人一人の生き方の多様性、重みを知るよい機会である。ここで学ぶのは、教育実習において、子ども達をみる目（理解）に生かされてくることを、十分自覚して取り組む必要がある。（293.松浦正博／296.桐木建始／301.戸田浩暢）	オムニバス	
	介護等体験Ⅱ（事前・事後指導）	介護等体験に関わる事前・事後指導は、体験の意味や本質について考え、その上で介護の現場としての特別支援学校における指導の実際や課題、各学校における日常の生活や教師の活動について、また社会福祉施設における施設利用者の実状などについて学び、介護等体験への準備をすることを目的としている。また、事後指導においては、体験した内容を省察するとともに体験者間で共有することを目指すこととする。（293.松浦正博／2回）（296.桐木建始／2回）（301.戸田浩暢／2回）（特別講師4名／4回）	オムニバス	
	保育実習Ⅰ	1. 児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解する。2. 大学で学んだ教員全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。3. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。		
	保育実習Ⅱ	1. 保育所の保育を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。2. 大学で学んだ教員全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。3. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭の福祉ニーズに対する理解力・判断力と子育て支援に必要な能力を養う。		
	保育実習Ⅲ	1. 児童福祉施設（保育所以外）で養護を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。2. 大学で学んだ教員全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。3. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭の福祉ニーズに対する理解力・判断力と子育て支援に必要な能力を養う。		
	保育実習指導Ⅰ	保育実習Ⅰを円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深める。		
	保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅱを円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深める。		
	保育実習指導Ⅲ	保育実習Ⅲを円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深める。		
保育課程論	この授業は、幼児一人一人が充実した楽しい園生活を送るよう、指導計画の作成と環境の構成、活動の展開と保育者の援助の在り方など、幼児の実態に即した教育課程の意義及び編成の方法について学ぶことを目的とする。講義や実践事例（ビデオ教材）などを通して、（1）教育課程や指導計画の編成について理解するとともに、（2）観察記録をとる力、（3）指導計画をたてる力を身につけることを到達目標とする。			
心理学	学校カウンセリング	今日、学校教育の現場では、不登校やいじめなどさまざまな問題が見受けられる。中学生・高校生の時期は青年期にあたり、その心理的特徴として、性差や個人差が目立つこと、アンバランスな心身の発達、抽象的な思考の発達により関心が自己の内面に向かうことなどをあげることができる。この講義では、ライフサイクル上、非常に不安定になりやすいこの時期の生徒を、私達はいかに理解し、また、その心理的問題に対して、どのように対応すればよいかを考えたい。		

関連科目Ⅱ (C5)	心理学	カウンセリング演習Ⅰ	カウンセリング技法を中心として、ロールプレイなどの実習を通して、適切な応答の仕方を学習する。遊戯療法や、芸術療法、行動療法などについても取り上げ、様々な臨床心理学的援助方法について、理論を概観し、その実施方法について、実践を通して学習する。また、それぞれの心理臨床実践例である事例を取り上げ、事例研究を行うことで、必要とされる基本的な技能を習得することを目標とする。	
		カウンセリング演習Ⅱ	この演習のテーマは「グループ・カウンセリング」である。講義や実習を通じて、受講者の「集団を見る目」や「ファシリテーターシップ」(率直で受容的な集団を育てる力)の発展をめざす。それは、1対1のカウンセリングやグループ・カウンセリングのカウンセラーにも必要な基本的能力であり、家庭や学校や職場など、日常のさまざまな集団に参加する際にも役立つ力となる。そのような態度・能力のパワーアップをめざしたい。また、グループ・カウンセリングの代表的なもの1つとして「エンカウンター・グループ」を、主として取り上げる。	
		カウンセリング実習	大学生学生相談室の相談活動や幼稚園での実習を通して、カウンセリング・マインドやカウンセリング技能の向上を実践的に学習することを目標とする。	
	司書	生涯学習概論(司書)	本講義においては、まず、欧米の「生涯学習社会」の成立過程について歴史的にとりあげ、今日、多様な展開を見せている様々な形態について概観する。そして、そのような動向の中で、戦後のわが国の「社会教育」「生涯教育」が「生涯学習」へととらえ直されて行った経緯を明らかにしたい。その上で真の生涯学習社会を構築するために今日の生涯学習の方向性と課題について検討する。とくに、生涯学習の展開に図書館、学校図書館が果たすべき役割・機能についても考えてみたい。(オムニバス形式/全15回) (293.松浦正博/5回) 欧米の「生涯学習社会」の成立過程について歴史的に跡づけるとともに、今日多様な展開を見せている様々な形態について概観する。 (400.天野かおり/10回) 今日、わがくににおいて「生涯教育」から「生涯学習」への移行の現状をについてその方向性と課題について検討する。とくに、生涯学習の展開において、図書館、学校図書館が果たす役割・意義について考える。	オムニバス
		図書館概論	図書館とは何か、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図る。また、図書館がどのような歴史を持ち、現在どのような種類の図書館があり、各館種の図書館にどのような違いがあるか、その社会的意義、図書館の自由、著作権の知識、さらに、図書館職員が果たすべき役割とそのための資格および専門性の内容、図書館に係わる関係機関について、そして、図書館の現在の課題とこれからの展望など、幅広いテーマの基本を知り、考察することによって、その中で、特にまず、身近にある図書館に興味と関心が持てるよう概説する。	
		図書館経営論	公立図書館の経営に係わる諸問題を概説する。図書館が市民に親しまれ役立つ施設となるために求められる経営のあり方を考える。例えば、図書館評価と統計、図書館サービスの評価、図書館の建設、図書館の施設と設備、図書館の管理運営上の諸問題、危機管理など、さらには図書館職員を取り巻く現状と課題、図書館経営の現状と課題などについて講義する。	
		図書館サービス論	公立図書館のサービス活動の内容を中心に、それを支える理念および近年の公立図書館のサービス活動の歩みと現在の課題を概説し、公立図書館への関心と理解を深める。公立図書館のサービス活動の歩みについて概説し、図書館サービスの概要、貸出の意義や登録・貸出方法・貸出の規程、予約サービス、相互協力、図書館サービスと著作権、行事・集会活動、AVサービス、利用に障害のある人々へのサービス、全域サービスと図書館システムについて述べ、最終的には図書館の自由とは何かということについて理解させる。	
		レファレンスサービス演習	レファレンス・サービスを行うための、問題解析、情報源の探索、情報の評価、回答に至る一連のプロセスを演習により習得する。web-siteや図書館の活字資料から自在に情報を求めることが出来るようにする。レファレンスの問題演習を実際に行わせることによって、実践的技術を修得させる。また、レファレンスのインタビューを練習させることによって、質問の受け方の訓練を行う。また、質問内容の調査や回答の実例を学び、実践的技術を身に付ける。	
		レファレンスサービス演習	図書館利用者の様々な情報の要求に対し、的確で多様なレファレンス・サービスを行うためには、それを支援する各種のレファレンス・ツール(活字メディア情報、インターネットメディア等)の整備と利用者が要求する内容の把握と分析、およびレファレンス・ツールの適宜・適切に使いこなす情報リテラシーが不可欠である。Ⅱでは各種情報メディアの特質(情報の信頼性、速報性、メタデータの保存性等)を知り、活字情報とネット情報の相互補完等の様々な方法を使い、検索すべき情報のテーマ、キーワード、情報へのアクセス、検索、プレビュー、マッチング、評価、回答に至る一連のプロセス実行により情報リテラシーの向上を図る。	
		図書館資料論	公立図書館における資料の選択・収集の問題を中心に、図書館資料の特質と種類、新しいメディア、資料の利用、出版流通、蔵書管理と保存等の問題について学ぶ。まず、図書館資料とは何かについて明確にさせ、図書館資料としての図書、雑誌と新聞、地域資料、小冊子、地図、楽譜、外国語資料、AV資料、電子資料、インターネット情報など、さまざまな資料について理解させる。さらには、資料選択、複本購入の問題、資料選択の実際と課題、図書館資料の保存と電子化などの問題について述べる。	
		専門資料論	図書館における資料や情報メディアが多様化している今日、その現状を把握し、図書館が収集・提供する各々の資料について理解を深め、それらを上手に活用する能力が必要となる。本講義ではメディアや内容の異なる図書館資料を取り上げ、それぞれの資料の特徴、収集、提供、利用における留意点などについて論じる。点字資料や電子資料、地域資料、政府刊行物、視聴覚資料、逐次刊行物、地図資料など、さまざまな資料について学ぶ。	
		資料組織概説	資料組織とはなにか、なぜ必要なのかといった内容から、資料が組織化されている現状、そして図書館が扱う資料・情報を組織化していく上で必要となる知識である目録法と分類法について概説する。最終的には資料組織についての理解を深める。資料組織の業務と意義、書誌コントロール、OPAC、記述目録法の実際、主題目録法について学び、分類法の基礎を理解させる。	
資料組織演習	日本目録規則を理解し、これにより資料の目録が記述できるようになることを目指す。日本十進分類法を理解し、これにより資料に分類記号が与えられるようになることを目指す。国際標準書誌記述とNCRとの関連について理解させる。タイトル関連情報、版表示と関連事項、出版事項、対照事項、注記などについて説明し、個々に日本十進分類法の演習を解かせることにより、資料組織に対する深い理解へと結び付けて行く。			
児童サービス論	公立図書館の児童サービスについて、乳幼児から中学生くらいまでを対象と考えて、児童サービスの意義とその歩み、子どもの読書の現状と読書の役割、絵本と児童文学などの図書館資料についての知識と児童書の選択・収集・保存、資料提供等の基本的なサービスと読み聞かせやストーリーテリングなどの行事・集会活動等のサービス内容、児童サービスに係わる施設・設備のあり方、ヤングアダルト・サービス、学校図書館の状況と公立図書館による学校図書館への援助、それに現在のさまざまな動きと課題等を概説する。特に、児童書の内容を知り、児童サービスの意義について理解を深めることを目的とする。			

司書	図書及び図書館史	世界と日本の図書および図書館の歴史を概説する。世界における、文字と図書の歴史を概説し、古代の図書館、中世の図書館、近代の図書館についてそれぞれ理解させ、また、各国の図書館の現在を紹介する。日本についても同様に、古代、中世、近世、明治時代、戦後、現代へと、時代を追いながら行使し、時間と場の広がりの中で、日本の図書館の現状を意識させる。	
	図書館特論	「いま図書館は～マスコミに見る図書館」をテーマに、新聞や雑誌などで図書館がどのように報道されているか、その内容を紹介し、報道のあり方を検証するとともに、公立図書館でいま何が問題となっているか、市民は図書館に何を求めているかを考察する。例えば、犯罪報道と図書館、話題の図書館と報道のあり方、図書館民営化報道とその実態などについて講義し、図書館員のあり方を考える。	
司書教諭	読書と豊かな人間性	子どもの読書状況と読書の意義、子どもの本の内容について概説したうえで、読書を推進する施設としての学校図書館や関連施設の役割および現在とこれからの問題を考察する。絵本や児童文学など、基本的な児童書を紹介することにより、子どもの本に関心を持ち、子どもの読書の現状と問題を幅広い視野で理解させることを図り、読書する子どもたちを育て、魅力的な学校図書館づくりができる能力を身につけることを目的とする。	
	学校経営と学校図書館	1997(平成9)年の学校図書館法の改正により、2003(平成15)年4月から12学級以上の学校に司書教諭が配置されている。1998(平成10)年には、学校図書館経営の中核を担う司書教諭を養成する「学校図書館司書教諭講習規程」が一部改正された。司書教諭の資格を得るための講習で履修すべき5科目の一つである本科目では、学校図書館の教育的意義やその経営・管理、司書教諭の役割などについての理解を図り、学校教育目標の達成を支援する学校図書館のあるべき姿について考察する。	
	学校図書館メディアの構成	学校図書館メディアの役割、内容と特性、選択・収集とその組織化について概説する。特に、資料の選択、受入、分類、目録など、資料組織化の実務を知ることによって、学校図書館が多様なメディアを的確に選択・収集し、組織化することが、児童・生徒の主体的な学習に役立つ図書館になるための基本的な要件であることについて理解を深めるとともに、コンピュータ化やインターネット活用の状況や今後のあり方を解説する。	
	学習指導と学校図書館	学校図書館法の一部が1997(平成9)年に改正され、2003(平成15)年4月以降12学級以上の学校に、半世紀近くも配置が猶予されていた司書教諭の配置が義務づけられた。現在学校教育は、知識を一方向的に教え込みがちであった教育から、自ら学び自ら考える教育へと基調の転換が図られている。1998(平成10)年に改正された学校図書館司書教諭講習の5科目の一つである本科目では、学習指導における学校図書館メディア活用の基本的な視点と具体的な活用方法などを取り扱う。	
学芸員	教育学概論(含博物館教育論)	博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。一般的な学びの意義を確認した後、博物館教育の意義と理念として、コミュニケーションとしての博物館教育、博物館教育の意義、博物館教育の方針と評価について検討し、博物館の利用と学びとして、博物館の利用実態と利用者の博物館体験、博物館における学びの特性を解説し、博物館教育の実践として、博物館教育活動の手法、博物館教育活動の企画と実施、博物館と学校教育について講義する。	
	生涯学習論Ⅰ	21世紀は生涯学習の時代である。この授業では、生涯学習を要請する現代社会の特質を理解したうえで、新しい学び方およびライフスタイルの構築を試みる。諸外国をキーワードとして、その概念をはじめとして、職業生活、地域、州境、女性、高齢者、情報技術などとの関連について考察する。	
	博物館概論	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。まず博物館学の目的・方法・構成、博物館学史について簡単に触れた後、博物館の定義(類縁機関との違い、種類(館種、設置者別、法的区分等)、目的、機能について詳述し、さらに博物館の歴史と現状として、我が国及び諸外国の博物館の歴史、我が国及び諸外国の博物館の現状、学芸員の役割(定義、役割、実態)、博物館関係法令を概観する。	
	博物館経営論	博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営(ミュージアム・マネージメント)に関する基礎的能力を養う。まず博物館の経営基盤として、ミュージアムマネージメントの意義を説き、行財政制度、財務、施設・設備(ユニバーサル化を含む)、組織と職員などについて解説し、博物館の経営として、使命と計画と評価、博物館倫理(行動規範)、博物館の危機管理利用者との関係に関して紹介し、さらに博物館における地域や博物館間の連携にふれる。	
	博物館資料論	博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養う。まず博物館における調査研究活動についてその意義と内容を検討した後、博物館資料の概念として、資料の意義、資料の種類、資料化の過程を検討する。また博物館資料の収集・整理・活用として、収集理念と方法、資料の分類・整理、資料公開の理念と方法(アクセス権、特別利用等を含む)について論じる。	
	博物館情報・メディア論	博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。博物館における情報・メディアの意義を考察した後、博物館情報・メディアの理論として、博物館活動の情報化、資料のドキュメンテーションとデータベース化、デジタルアーカイブの現状と課題、映像理論、博物館メディアの役割と学習活用などを検討し、博物館における情報発信、博物館と知的財産などについても解説する。	
	博物館資料保存論	博物館は「博物館法」に端的に表われているように、いくつもの機能を持っている。そのうち、外部からも見え、わかり易いのは展示だろう。展示は外向きに開かれた部分で、博物館の顔である。逆に、外から最もわかりづらいのが保存である。博物館は収集した資料を保存し、守り伝えてゆく使命を負う。これはいわば、現在のためではなく未来のための仕事である。展示と保存はしばしば相反するが、保存する必要性を知らしめるためにも展示は重要である。博物館における資料保存の意義と理念を学ぶと同時に、資料保存の知識を習得する。	
	博物館展示論	来館者や地域のひとつひとつにとって、博物館の最も身近な機能は展示である。展示のしかた次第で、来館者にとっての博物館資料の認識まで左右しかねない。そのためには、その資料をいかにわかり易く、或いは、見易く、また、よりよく見せるかという技術は博物館学芸員にとって必須のものである。もちろん、博物館と一口にいってもその展示室の限界や可能性はさまざまである。ここでは、そもそも展示するとはどういうことか、その意義と理念を学ぶと同時に、いくつかの具体例をもとに、展示方法に関する技術や知識を習得する。	
	博物館実習Ⅰ	学芸員の業務を理解し、実践的能力を養うことを目的とする実習で、一部市内の博物館見学を行う他は、学内で実施する。展示の基礎的知識・技能、資料の点検と整理保管、各種の絵画、彫刻、工芸品、服飾品などの取り扱い、拓本の取り方、植物資料の維持管理などについて実習を行うほか、学内で展覧会を企画して開催する。あわせて館内実習に関する事前の指導、準備も行う。	
	博物館実習Ⅱ	学芸員の業務を理解し、実践的能力を養うことを目的とする実習で、1週間程度、さまざまな学外館園で実施する。	集中
博物館実習Ⅲ	学芸員の業務を理解し、実践的能力を養うことを目的とする実習。館務実習の事後指導および、2泊3日の遠隔地での見学研修旅行、その事前事後指導を内容とする。受講生の各種報告書をまとめて、「実習報告」を刊行する。		